車需工場等――の蓄積を數へてゐないのは不充分だが)。況んや爾他の年には、これより一層少く、例へば景氣の最低なりし昭和七年の如き僅に二億圓弱なるを知るのである。吾々は前出の個所に於て對滿投資に關し次の如く云つた。

『對滿資本輸出は何時迄續くか、……その限度は全く日本の景氣如何に依存する。……日本は近年漸く資本が擴充され、毎年巨額の資本が蓄積されてゆく。その額は藤原銀次郎氏によれば年三十億圓と想像され、吾々にはこの額はやゝ大にすぎると考へられる』(前揭、同所)と述べておいた。吾々は上記の計算によつて前輯の見方の正しかつた事を知る。日本の蓄積がかほど迄に小さいとすれば、滿洲經營は日本經濟にとつては大きい負擔でなければならない。去る十年一月議會に於て高橋藏相が、對滿投資が我國際貸借を惡化せしめる恐れがあるから、對滿投資を制限しなければならぬと述べた事は當然と思ふ。(この言明は一方に關東軍を憤らせ、他方に爲替相場を軟弱ならしめた。而して結局藏相の訂正的言明により軍部を滿足せしめ、爲替相場を恢復させたが)。

### 四、銀行勘定の傾向變らず

以上述べた低利金の繼續、起債市場の活況の原因は、申す迄もなく政府の財政インフレに、その根源を發してゐるのであるが、その金融事情に影響する經路は、先づ以て預金の增大となつて現はれる。上表によるに、九年十二月末の各種預金の現在高は、百七十四億一千一百萬圓で、上表に見る限りでの最低額たる七年三月の一百四十四億六千八百萬圓に比較すると、實に二十九億四千三百萬圓の激增である。國民所得總額中の幾何かゞ貯蓄されるのは無論常に見られる現象と言つてよいが、特に近年斯く貯蓄額の多くなつたのは政府の財政支出が民間に支拂はれそれが流通界に止らずして、銀行等に預金された爲めと見られる。いづれにせよ、之は、刻下低金利の重要な一原因である。尤も、その極く最近の傾向を見ると、增加の率は幾分低下傾向にあるが、然しこれは表によつても知る如く、季節的のものでもあり、今後政府財政支出の續くに從つて、未だ增加の筋合にあると見られる。

(5)　各種預金現在高　(百萬圓)

| 年昭 | 月末和 | 特銀預金 | 普銀預金 | 貯銀預金 | 預金部貯預金 | 金錢信託 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6. | 12 | 897 | 8,174 | 1.636 | 2,971 | 1,217 | 14,895 |
| 7. | 3 | 890 | 7,723 | 1,602 | 3,049 | 1,204 | 14,468 |
| | 6 | 954 | 7.759 | 1.601 | 3,232 | 1,197 | 14.743 |
| | 9 | 952 | 7,641 | 1,645 | 3,251 | 1,201 | 14.690 |
| | 12 | 1,075 | 8,131 | 1,687 | 3,093 | 1,220 | 15,206 |
| 8. | 3 | 991 | 8,097 | 1,710 | 3,130 | 1,238 | 15,166 |
| | 6 | 1,053 | 8,614 | 1,766 | 3,163 | 1,262 | 15,858 |
| | 9 | 1,024 | 8,394 | 1,808 | 3,327 | 1,326 | 15,879 |
| | 12 | 1,076 | 8,727 | 1,825 | 3,323 | 1,387 | 16,338 |
| 9. | 3 | 1,076 | 8,758 | 1,849 | 3,544 | 1,447 | 16,674 |
| | 6 | 1,078 | 9,144 | 1,843 | 3,567 | 1,497 | 17,129 |
| | 9 | 1,060 | 8,944 | 1,859 | 3,623 | 1,549 | 17,006 |
| | 12 | 1,072 | 9,354 | 1,881 | 3,529 | 1,575 | 17,411 |

(備考)　特銀預金は日銀政府預金日銀預金を除く。

然らば、これに對する貸出の狀態は如何と言ふに上の如く、銀行及信託會社の貸出は、預金の增加とは反對に、漸減の一途を辿るのみである。例へば、十二月末のそれは九十八億五千三百萬圓で、假りに預金の場合と同じく七年三月に比較して見ると、十億五千四百萬圓の激減である。而してその極く最近の分のみをとつても見ても、又銀行信託會社別にとつて見ても、何れも減少を見るのみである。これは、景氣の回復にも拘らず、貸出警戒の態度が尙ほかなり强く現はれてをり、借り手の側に餘裕を生ずれば、先づ借金返濟に充てると云ふ狀況にある事を證するものである。

斯くて預金貸出の關係から見ても、また政府財政の狀況等から見ても、金融は依然緩慢を持續するものと考へられる。

(6)　各種銀行貸出金（百萬圓）

| 年昭 | 月末和 | 特別銀行 | 普通銀行 | 貯蓄銀行 | 信託會社 | 合計 | 銀ルコール普 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6. | 12 | 3,060 | 6,549 | 467 | 883 | 10,958 | 155 |
| 7. | 3 | 3,101 | 6,481 | 446 | 879 | 10,907 | 148 |
| | 6 | 3,193 | 6,306 | 431 | 872 | 10,802 | 218 |
| | 9 | 3,148 | 6,180 | 410 | 880 | 10,618 | 317 |
| | 12 | 3,082 | 6,175 | 405 | 877 | 10,539 | 318 |
| 8. | 3 | 3,055 | 6,029 | 385 | 890 | 10,359 | 300 |
| | 6 | 2,995 | 6,130 | 359 | 868 | 10,352 | 293 |
| | 9 | 2,923 | 5,983 | 349 | 909 | 10,164 | 310 |
| | 12 | 2,853 | 5,932 | 349 | 928 | 10,062 | 311 |
| 9. | 3 | 2,817 | 5,910 | 335 | 919 | 9,981 | 478 |
| | 6 | 2,793 | 5,816 | 310 | 861 | 9,780 | 453 |
| | 9 | 2,751 | 5,744 | 317 | 906 | 0,718 | 359 |
| | 12 | 2,737 | 5,872 | 335 | 899 | 9,853 | 367 |

（備考）　特銀普銀共コール除外特銀は日銀貸出除外

## 第四節　十年度豫算案の分析

軍事費が增大し始めた昭和七年度以來、豫算の編成難は毎年その度を加へる許りで、所謂『豫算分捕』の爭は熾烈を極めて來たが、昭和十年度豫算案の編成も勿論此の例に洩れない。そしてその結果軍事費の全歲出中に占める割合の增大、之に對する行政的諸經費の減少も亦、十年度豫算案に於て益々その傾向を明白ならしめてゐる。所謂建全財政の名稱を以て呼ばれた藤井藏相の赤字公債漸減策は表面に現はれた公債發行額に關する限りその目的を達したかの如く見えるが、實質的には殆んど九年度の事態と異る處なく、軍事費の增大傾向には何等施す術もなかつたのである。

たゞ『建全財政』の唯一の名殘りをとゞめるものは臨時利得稅の新なる賦課であるが、これによつて得らるべき實質は、分配の公平と云ふ正義感を殆んど出でてゐない。それが國庫に齎す歲入增加の見積りは尨大な赤字公債發行額に比較すれば九牛の一毛に止まつてゐる。而も議會に於て明かにされた處によれば、これは一般的な增稅への前提を意味するものでなく、當分の間課してをくものに過ぎない。軍事費の不減と赤字財政解消難の確定——これが、十年度豫算から我々が要約し得る結論と云は

ねばならない。

## 一、災害追加豫算と『爆彈動議』

(1)　災害追加豫算省別内譯(千圓)

| | 9年度追加 | 10年度分 | 11年度以降 | 總計 |
|---|---|---|---|---|
| 内務省 | 38,950 | 31,946 | 50,816 | 121,712 |
| 大藏省 | 983 | 1,554 | 70 | 2,607 |
| 陸軍省 | 3,500 | 2,000 | — | 5,500 |
| 海軍省 | 555 | — | — | 555 |
| 司法省 | 262 | 118 | — | 380 |
| 文部省 | 2,068 | 4,725 | 9,795 | 16,589 |
| 農林省 | 24,024 | 25,650 | 18,599 | 68,272 |
| 商工省 | 252 | 98 | — | 350 |
| 遞信省 | 97 | 14 | — | 111 |
| 計 | 70,691 | 66,105 | 79,280 | 216,076 |

勿論かうは云つても、地方的救濟費が全然加へられなかつたわけではない。殊に關西地方に突發した未曾有の風水害と、凶作に基く東北の農村恐慌激化とは、岡田内閣をして遂に追加豫算の提出を行はしめるに至つた。九年十一月二十七日より開會せられた第六十六臨時議會に於て通過した追加豫算額は、大要第一表所載の如くであつて、その總額は二億一千六百餘萬圓、うち九年度に於て支出さるべき分七千六十九萬圓、十年度分六千六百十萬圓を數へてゐる。此のうちには外務省所管の日蘭通商會議委員派遣費十八萬七千圓、大藏省所管の對滿事務局新設費六萬圓等、災害復舊乃至東北農村振興費と見て大過ない。

無關係の分も含まれてゐるが、大部分は災害復舊乃至東北農村振興費と見て大過ない。

けれども、後述の如く、かゝる追加歳出を加へても尚ほ軍事費の增加、その他の歳出の減少傾向は之を殆んど緩和し得なかつた。而して此の地方救濟的歳出の不足は驅て政友會所屬議員東武氏をして大要次の如き『爆彈動議』の發動を促すに至つた。

『政府は國防産業兩全の趣意に鑑み、災害對策、匡救事業善後策及地方自治體窮乏打開の爲め、現に審議中の昭和九年度追加豫算案の外、昭和九年度及十年度を通じ、少くも一億八千萬圓見當の歳出を追加計上し、第六十七議會の劈頭に之を提案すべきものと認む。右に對し、政府の明確なる言明ある迄、本委員會の審議を休憩すべし。』

豫算委員會に於ける右の動議は政友會の開散回避氣運によつて結局何等具體的結果を生まずに終つたが、併し驅て第六十七通常議會に提案されんとする十年度豫算に對し、少くとも一部に抱かれてゐた軍事費增大への不滿をこのうちに聞くことが出來る。

## 二、十年度歳出豫算案の全貌

十年度豫算案が閣議に於て決定を見たのは九年十一月二十四日で、十二月に入つて漸く決定した九年度のそれに比すると、豫算案編成の困難は幾分緩和されたかの如く思はしめる。併し乍ら、これは臨時議會の開會を目前に控えてゐた結果に外ならず、軍部と大藏省側との衝突は、鐵道特別會計より鐵相が千四百五十萬圓の新財源を提供するまで、殆んど解決の途を見出し得ない狀態に陷つてゐたと

新聞紙は報告してゐる。

かくして漸く編成を終つた十年度豫算案の大要は第二表の如く、歳入歳出共二十一億九千三百四十一萬圓の巨額に上つてゐる。之を九年度のそれに比較するときは、二千十二萬圓の減少を示してゐるが、九年度豫算中には前述した追加豫算の計數を含んでをり之を除外した數字に就て見れば、十年度は依然五千五十七萬圓の增加に當つてゐる。本豫算としてはその尨大さに於て再び新記錄を劃したものである。

のみならず、我々の注意を促すのは經常歳出の激增であつて、九年度豫算に比し十年度のそれは約四千五百萬圓の增加に相當する。而して此の增加は、外務省、文部省及び拓務省を除く他の總てに於て見られる現象であるが、特に增加の最も甚だしいのは海軍省所管の千六百餘萬圓增、及び陸軍省の千百餘萬圓增で、此等

(2)　昭和十年度歳入歳出豫算額及前年度豫算額比較(千円)

| | 昭和十年度 | 昭和九年度 | | 增減 |
|---|---|---|---|---|
| 歳入經常部 | 1,335,588 | 1,248,544 | (+) | 87,044 |
| 臨時部 | 857,826 | 964,987 | (−) | 107,161 |
| 普通歳入 | 101,175 | 64,451 | (+) | 36,724 |
| 公債金 | 749,652 | 881,108 | (−) | 131,457 |
| 前年度剰餘金 | 7,000 | 19,428 | (−) | 12,428 |
| 合計 | 2,193,414 | 2,213,531 | (−) | 20,116 |
| 歳出經常部 | 1,293,083 | 1,247,667 | (+) | 45,416 |
| 臨時部 | 900,331 | 965,864 | (−) | 65,533 |
| 合計 | 2,193,414 | 2,213,531 | (−) | 20,116 |

(備考)　九年度豫算額中，十年度豫算額と對照上組替揭記したるものあり。九年度豫算額中には第六十六回帝國議會に於て成立したる追加豫算額を含む。千圓以下四捨五入。以下諸表皆同じ。

(3)　十年度省別歳出比較(千圓)

| | | 10年度 | | | 9年度 | | | 比較 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 經常部 | 臨時部 | 計 | 經常部 | 臨時部 | 計 | |
| 皇室費 | | 4,500 | — | 4,500 | 4,500 | — | 4,500 | — |
| 外務省 | | 16,830 | 12,822 | 29,652 | 16,945 | 11,103 | 28,048 | (+) 1,604 |
| 內務省 | | 50,743 | 110,642 | 161,385 | 49,652 | 166,419 | 216,071 | (−)54,686 |
| 大藏省 | | 444,870 | 28,514 | 473 384 | 435,719 | 36,985 | 472,704 | (+) 680 |
| 陸軍省 | | 179,804 | 313,155 | 492,959 | 168,656 | 284,569 | 456,225 | (+)39,734 |
| 海軍省 | | 215,918 | 313,766 | 529,683 | 199,337 | 289,172 | 488,509 | (+)41,174 |
| 司法省 | | 35,885 | 2,296 | 38,181 | 33,345 | 2,578 | 35,923 | (+) 2,258 |
| 文部省 | | 129,588 | 18,631 | 148,219 | 129,640 | 25,555 | 155,195 | (−) 6,976 |
| 農林省 | | 30,593 | 60,919 | 91.513 | 29,735 | 102,824 | 132 559 | (−)41,046 |
| 商工省 | | 5,488 | 7,968 | 13,456 | 5,346 | 8,473 | 13,819 | (−) 363 |
| 遞信省 | | 176,896 | 12,988 | 189,884 | 172,820 | 17,105 | 189,925 | (−) 41 |
| 拓務省 | | 1,968 | 18,632 | 20,600 | 1,972 | 21,082 | 23,054 | (−) 2,454 |
| 計 | | 1,293,083 | 900,331 | 2,193,14 | 1,247,667 | 965,864 | 2,213,531 | (−)20,117 |

軍部兩省の增加合計は二千七百七十餘萬圓に上り、經常部歳出總增加額四千五百四十餘萬圓の六割一分餘を占めてゐる。後に示す如く、此の陸海軍兩省の經常部歳出の增加は主として既定及び新規の兵備改善費の增額（陸軍は七百九十五萬三千圓、海軍千四十四萬六千圓）に依り、他は其の他の既定の經費增加（例へば海軍の既定計畫に基く新艦船の維持費四百二十八萬七千圓の如き）に基くものである。軍備充實の結果は、斯くて單に軍部兩省の臨時的支出增を來すのみならず、その增加をして漸次恒久化せしめつゝあることが知られる。

陸海軍省に次で、十年度經常部歳出豫算に增加を來したのは大藏省、遞信省、司法省、內務省、農林省、及び商工省の順序である。併し此等の歳出增に於ては、特に新規の事業の計畫の爲め膨脹したと認められるものは無い。蓋し膨脹の內容を一瞥するに、大藏省に於ては國債整理基金特別會計への繰入增加（卽ち國債元

利拂の增加）二千二百五十七萬圓、遞信省に於ては恩給の增加三百九十二萬九千圓、司法省に於ては刑務所收容費の增加二百四十三萬一千圓等がその主なる理由をなしてゐるに過ぎぬからである。

而も臨時部歲出にあつても、前述の如き災害追加豫算の關係によつて十年度は總額としては九年度豫算よりも六千五百五十餘萬圓を減じてゐるが、その由來を省別の數字に依つて窺ふに、其の減少は決して各省悉くに起つたものではない。（第三表參照）玆に於ても、經常部歲出に於けると等しく、陸海兩省の歲出は著しく膨れ、前者二千八百五十八萬餘圓、後者二千四百五十九萬餘圓、合せて五千三百十七萬九千圓の增加を現した。而して他の省では外務省に百七十餘萬圓の微增があるに止まる。從つて臨時部歲出總額の減六千五百りでなく、其等の諸省は亦陸海及び外務三省の歲出の減少に因るばかり百萬圓をも負擔して、之を彼等の歲出減に依つて賄ふと云ふのが十年度臨時部歲出の實相である。

我々はこゝで以上の如き陸海軍省費增嵩の原因を今少しく分析してをかう。云ふ迄もなくその原因は大體滿洲事件費及び兵備改善費の兩者に歸着する。而して陸軍省費に於ては前者に、海軍省費にあつては後者に負ふ處が多い。第四表に明かなる如く、十年度の滿洲事件費は一億八千六十三萬圓と九年度より再び二千百三十萬圓の增嵩に轉じたが、就中陸軍省のそれは一億六千二百三十六萬圓に達し、昭和七年度の一億八千三百萬圓に逆戻りしつゝある有樣だ。而して此の增嵩の中心をなしてゐるのは航空防空兵力緊急充備費二千五百四十七萬圓である。

兵備改善費に於ける膨脹も亦極めて急である。卽ち十年度の同費費目は九年度のそれに比して更に三千四百九十八萬圓を增して三億六千六百三十七萬圓に及んでゐる。八年度に比較するならば增加額は一億二千六百三十九萬圓を數へる。而してその大部分は海軍省所管經費が占め、十年度のそれは二億四千六百三十四萬圓、卽ち九年度より四千三十萬圓、八年度よりは實に一億二千百萬圓方の激增に當つてゐる。

（4）昭和十年度及九年度滿洲事件費各省所管別比較（千円）

| | 十年度 | 九年度 | 增減 | |
|---|---|---|---|---|
| 外務省 | 3,656 | 3,854 | (−) | 197 |
| 大藏省（第一豫備金） | 5,000 | 10,000 | (−) | 5,000 |
| 陸軍省 | 162,359 | 133,835 | (+) | 28,525 |
| 海軍省 | 9,612 | 11,638 | (−) | 2,026 |
| 計 | 180,628 | 159,326 | (+) | 21,302 |

（備考）滿洲事件費は總て各省臨時部歲出に計上せられ．經常部歲出に計上せられるものはない。

（5）昭和十年度及九年度兵備改善費各省所管別（千円）

| | | 十年度 | 九年度 | 增減 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 大藏省 | 臨時部 | 205 | 164 | (+) | 40 |
| 陸軍省 | 常時部 | 119,818 | 125,178 | (−) | 5,360 |
| | 臨時部 | 23,551 | 15,597 | (+) | 7,953 |
| | 經常部 | 96,267 | 109,581 | (−) | 13,314 |
| 海軍省 | 常時部 | 246,343 | 206,044 | (+) | 40,300 |
| | 臨時部 | 37,003 | 26,557 | (+) | 10,446 |
| | 經常部 | 209,340 | 179,486 | (+) | 29,853 |
| 合計 | 常時部 | 366,366 | 331,386 | (+) | 34,980 |
| | 臨時部 | 60,554 | 42,155 | (+) | 18,399 |
| | 經常部 | 305,812 | 289,232 | (+) | 16,580 |

（備考）本表數字は既定額及び新規增加額の合計である。

かくして十年度歳出總豫算中陸海軍省費は遂に十億二千二百六十四萬圓、卽ち四六%六を占むるに至つた。比率の點より云つても、大正十年に於ける八八艦隊建造當時の四九%に次ぐものであり、絶對額に於ては未曾有の計數である。その反面行政費その他が大削減を餘儀なくされたこと前揭第三表所揭の如く、十年度の軍事外歳出は九年度のそれより一億百萬圓の收縮を來してゐる。前述せる所謂爆彈動議が必ずしも政略のみに出でたものでない事は自ら明白であらう。

(6)　昭和十年度及九年度經常部歳入豫算比較(千円)

| | 十年度 | 九年度 | 増加 |
|---|---|---|---|
| 租稅 | 828,742 | 775,263 | (+) 53,479 |
| 印紙收入 | 82,205 | 73,608 | (+) 8,597 |
| 有官收入及官業財産收入 | 276,410 | 254,924 | (+) 21,486 |
| 通信事業特別會計納付金 | 78,000 | 78,000 | 0 |
| 日本銀行納付金 | 25,365 | 25,299 | (+) 66 |
| 雜收入 | 38,635 | 33,405 | (+) 5,229 |
| 教育改善及農村振興基金特別會計繰入 | 6,232 | 8,045 | (−) 1,812 |
| 合計 | 1,335,588 | 1,248,545 | (+) 87,044 |

## 三、普通歳入の狀態

軍事費の増加が依然熄まず、十年度歳出豫算案をして相變らず膨脹の外なからしめた事情は大略右の如くであるが、かうした歳出増は、他方に於て、爲替相場の低位置持續と相俟つて、跛行的乍ら我が産業界の好轉に著しく寄與しつゝある。そして此の産業界に於ける好調は、その結果として、疑ひもなく普通歳入の増加を齎しつゝある。大藏省の見積りによれば、十年度の經常部歳入竝に臨時部普通歳入の合計は十四億三千六百七十六萬圓を示し、九年度に比し一億二千三百七十七萬圓を増加してゐる。後述する如く、臨時部普通歳入中には臨時利得稅の新たな賦課に基く増收約三千四十萬圓を含んでゐるが、之を差し引いても十年度の増收見積り額は尙ほ九千三百三十七萬圓を數へてゐる。(前揭第二表參照)

(7)　昭和十年度及九年度租稅豫算比較(千円)

| | 十年度 | 九年度 | 増減 |
|---|---|---|---|
| 所得稅 | 195,888 | 165,077 | (+) 30,812 |
| 地租 | 57,922 | 58,265 | (−) 343 |
| 營業收益稅 | 50,500 | 44,225 | (+) 6,275 |
| 資本利子稅 | 14,904 | 14,443 | (+) 460 |
| 相續稅 | 28,984 | 28,782 | (+) 202 |
| 鑛業稅 | 3,903 | 3,297 | (+) 606 |
| 酒稅 | 212,562 | 218,572 | (−) 6,010 |
| 清涼飲料稅 | 3,587 | 3,409 | (+) 178 |
| 砂糖消費稅 | 78,029 | 74,429 | (+) 3,600 |
| 織物消費稅 | 33,468 | 30,670 | (+) 2,798 |
| 取引所稅 | 16,526 | 17,492 | (−) 966 |
| 關稅 | 129,956 | 114,273 | (+) 15,683 |
| 噸稅 | 2,512 | 2,329 | (+) 183 |
| 合計 | 828,742 | 775,263 | (+) 53,479 |

(8)　昭和十年度及九年度官業及官有財産收入豫算比較(千円)

| | 十年度 | 九年度 | 増加 |
|---|---|---|---|
| 森林收入 | 41,075 | 35,127 | 5,948 |
| 專賣局益金 | 195,711 | 188,155 | 7,556 |
| 配當金收入 | 26,540 | 21,662 | 4,878 |
| 刑務所收入 | 8,849 | 5,771 | 3,078 |
| 其他 | 4,235 | 4,209 | 26 |
| 合計 | 276,410 | 254,924 | 21,486 |

いま斯る増收見積りが何によつて齎らされるかを明かにする爲め、先づ普通歳入の中心たる經常部の歳入計數に就て見やう。

茲に於ては通信事業特別會計納付金が、九年度及び十年度とも七千八百萬圓で變化なく、教育改善及農村振興基金特別會計よりの繰

入が百八十餘萬圓を減ぜる外、他は總て增加した。殊に其の增加金額は租稅に於て斷然多く、五千三百五十萬圓弱を示し、之に次では官業及官有財產收入の增二千一百五十萬圓弱及び印紙收入の增八百六十萬圓弱の順序である。

殊に租稅に於ける所得稅の三千八十一萬圓、關稅の千五百六十八萬圓、營業收益稅の六百二十七萬圓、砂糖消費稅の約三百六十萬圓、織物消費稅の約二百八十萬圓等の增加が著しく、又官業及官有財產收入に於ては、專賣局益金の增加七百五十五萬圓を筆頭として、森林收入は約六百萬圓、配當金收入は約五百萬圓、刑務所收入は約三百萬圓の增加が計上せられた。何れも經濟界の景氣好化を表示するものに外ならない。たゞ斯く殆ど總ての稅及び官業及官有財產收入に增加の計上せられた中に於て、地租は少しく減じてゐるが、蓋し風水冷害等に依る田畑地租の減免に主として因るもの

(9)　昭和十年度及九年度臨時部普通歲入豫算比較(千円)

| | 十年度 | 九年度 | 增減 | |
|---|---|---|---|---|
| 官有物拂下代 | 10,600 | 5,779 | (+) | 4,821 |
| 雜收入 | 22,076 | 21,003 | (+) | 1,072 |
| 公共團體工事費納付金 | 5,263 | 6,299 | (−) | 1,037 |
| 公共團體工事費分擔金 | 8,497 | 8,035 | (+) | 462 |
| 學術奬勵金受入 | 30 | 147 | (−) | 117 |
| 特別會計より繰入 | 10,124 | 9,771 | (+) | 353 |
| 保險會社納付金 | 3,521 | 3,521 | | 0 |
| 輸出補償收入 | 796 | 796 | | 0 |
| 滿洲國國防費分擔金受入 | 9,873 | 0 | (+) | 9,873 |
| 臨時利得稅 | 30,396 | 0 | (+) | 30,396 |
| 特別會計殘金繰入 | 0 | 9,100 | (−) | 9,100 |
| 合計 | 101,175 | 64,451 | (+) | 36,724 |

なるべく、酒稅の稍や大きく六百萬圓の減收が豫算せられたは、前年に於ける造石高激增の反動が考慮せられた結果に外ならない。

臨時部普通歲入にあつては、必ずしも經常部歲入の如く事情は簡單でなく、こゝには赤字公債を多少でも縮減しやうとする政策、換言すれば財源漁りの跡が可なりはつきり窺はれる。第九表に就てその內容を九年度と比較するに、かうした政策が働いたものと先づ察せられるのは滿洲國々防費分擔金受入(滿洲國側で負擔する分)九百八十七萬圓の新たなる計上である。官有物拂下げ代に於ける四百八十二萬圓の增加にもまた斯る方針によつて招來された分が少くないであらうし、雜收入中には震災貸付償還金の强制取立の結果殖やされた分の存することも新聞紙上に於て度々報道された處である。が兎も角、斯樣にして臨時部普通歲入に於てもまた三千六百七十二萬圓の增收を示し、うち新に賦課さるべき臨時利得稅收入を差し引くも、十年度の九年度に對する增收は六百三十三萬圓に近い。

### 四、臨時利得稅とその意味

以上の如き見積り歲入の漸增が赤字公債の發行を何處まで喰ひ止め得たか、而してその見透し如何と云ふ點が、次に我々に與へられるべき問題でなければならない。併し此の問題に觸れる前に、十年

度豫算に現はれた最も重要な變化とも稱すべき臨時利得稅に關して少しく說明の必要を感じる。政府から提出された同法案の骨子を明かにすると大要次の如くである。

臨時利得稅法

第一條　本法施行地に住所を有し又は一年以上居所を有する者は本法により臨時利得稅を納むる義務あるものとす

第三條　臨時利得稅は左の利得に付これを賦課す

一　法人の利得　二　營業收益稅法第二條に揭ぐる營業（鑛業又は砂鑛業を含む）による個人の利得

第四條　法人の現事業年度の利益が既往事業年度の平均利益を超過する場合においてその超過額中年二千圓を控除したる金額を以て法人の利得金額とす

前項利得金額計算の場合において左記各號に該當するときは各々その定むる所により既往事業年度の平均利益を計算す

一　何れの既往事業年度においても利益なきとき又は既往事業年度の平均利益が既往事業年度の平均資本金額に對し年百分ノ七未滿なるときは既往事業年度の利益の計算は命令の定むる所により前營業者の平均利益をその平均利益と看做す

營業の期間が一年未滿なる場合における平均利益の計算は命令の定むる所による

利得金額計算の場合において昭和六年以前二年の平均利益三千圓未滿なるとき又はその平均利益なきときは三千圓を以て平均利益とす

第十條　個人の利益は前年中の總收入金額より必要の經費を控除したる金額による　但し保險會社に在りては各事業年度の利益金又は剩余金による

第六條　法人の各事業年度の資本金額は各月末における拂込株式金額出資金額又は基金及び積立金額の月割平均を以てこれを計算す

前項において積立金額と稱するは積立金その他名義の何たるを問はず法人の利益中その留保したる金額を謂ふ

第九條　個人の利益が昭和六年以前二年の平均利益を超過する場合においてその超過額中二千圓を控除したる金額を以て個人の利得金額とす

營業を繼續し又は營業繼續と認むべき事實あるときは

## 第四節　十年度豫算案の分析

此の臨時利得税は次の三つの點に於て特色を持つてゐる。第一には、それは社會的正義感、卽ち軍事費を中心として起こされた富の分配の不公平を矯正して一般に抱かれてゐる不滿を緩和せしめる役割を持つてゐること、第二には、財政の收支を適合せしめる爲の根本的な增税とは自ら異り、又それへの前提をなすものでもないこと、第三にはその當然の結果として此の税によつて齎らさるべき收入額は前記の如く三千餘萬圓の小額に止つてゐることである。臨時利得税の持つかうした意味を、一月三十日の議會に於て高橋藏相がなした次の如き答辯から、可なりハツキリと汲み取ることが出來る。

何分にも此の軍需工業と云ふものは莫大な利益を得てゐる。人の美望の的となつてゐる。斯う云ふものに税を課けぬのは何う云ふ譯かと云ふ說が起つて居つたのです。…一方には非常にまだ景氣回復に浴せない部類が多くあるのであります。そこに又改めて災害が起つて國民中苦む者、困難を感ずる者が益々殖えて來た。そこへ一方には著しく目立つて工業の或部分は非常な利益を擧げてゐる。而もそれは何かと云ふと、國が赤字公債を出しこれを元として事業を起す。其事業を起す方に其資本が向いて行く。さう云ふ部類に當つた者は非常に利益を擧げて行く。さう云ふものに向つて此際臨時の利得税を課すると云ふことが、正に此の時勢に適した方法ではないか。

で此の事は一般の税制整理と取離して御考へ願ひ度いのであります。…凡そ此國費の將來に付て見透しが付かなければ、税制の整理は一般的に爲さんと欲しても出來ないことであります。又十分に國民に諒解されると云ふ爲には、凡そ今日最も多く豫算の上に現れて居る所の國防豫算の事も先づ今後此位と云ふ見透しが付かぬといかないのであります。…だから此の（臨時利得税）問題を以て直ちに此の税制整理を將來如何にするのかとか、何時するかとか御質問になりましても…見透しは付かない。…政府の考は、決して是は他日行はんとする税制整理の前提として設けたものでもないのであります。（中村繼男氏に對する藏相の答辯）

(10)　歲出豫算財源公債（千圓）

| | 9年度 | 10年度 | 比較 |
|---|---|---|---|
| 震災善後公債 | 12,307 | 7,454 | (−) 4,853 |
| 道路公債 | 7,225 | 5,575 | (−) 1,650 |
| 滿洲事件公債 | 159,326 | 170,755 | (+) 11,429 |
| 歲入補塡公債 | 702,190 | 565,868 | (−)136,322 |
| 計 | 881,108 | 749,652 | (−)141,456 |

（備考）　特別會計所屬分乃至交付公債は含まず。

## 五、赤字公債は何時消えるか

さて、赤字公債は何うなるかの問題に立ち歸らう。前項に於て明かにされた臨時利得税の持つ特色からして推論し得る處は、結局それが赤字公債の減少に寄與し得ること極めて少く、又近き將來之が徹底策としての一般的增税もあり得ないと云ふことである。この事は右の如き小規模の增税さへも株式市場に大きな衝動を與へ、議會に於ける論難となつて現はれた事實によつても亦略理解される。從つて歸する處、歲入の自然增收が何處まで行くかゞ赤字公債の行方を決する鍵と云はねばならない。そして此の問題に對する答はいまのところ否定的ならざるを得ない。前記第三項に見た如く、十年度の普通歲入は九年度に比して約一億二千三百七十七萬圓の增加であり、爲に十年度の公

債發行額は第十表に示す如く九年度のそれより一億四千百四十六萬圓近い減少を來す計算となつた。けれども、尙ほ赤字公債の發行額は七億四千九百六十五萬圓の多額を算してをり、自然增收が同樣の勢ひで進むとしてもそれが消滅までにはまだ七、八年の歲月を必要とする。

(11) 十年歲出新規要求額及査定額（千圓）

| | 新規要求 | 第一次査定額 | 閣議決定額 |
|---|---|---|---|
| 省 | 49,450 | 10,700 | 12,558 |
| 省 | 181,600 | 38,400 | 48,393 |
| 省 | 132,711 | 90,000 | 91,904 |
| 省 | 246,000 | 166,000 | 207,116 |
| 省 | 300,000 | 95,000 | 130,225 |
| 省 | 5,000 | 3,700 | 4,042 |
| 省 | 29,700 | 11,200 | 10,417 |
| 省 | 113,000 | 13,000 | 16,488 |
| 省 | 12,500 | 5,100 | 5,752 |
| 省 | 18,000 | 8,700 | 9,524 |
| 省 | 16,000 | 6,200 | 6,631 |
| 計 | 1,103,961 | 450,500 | 543,057 |

務務藏軍軍法部林工信務計
外內大陸海司文農商遞拓

のみならず、他方に於て年々激增し來つた軍事費は、まだ殖えても減る見込は付かないのである。海相は此議會に於て既に大膽に斯る意向を洩してゐるし、陸相はまた『我國の資材の整備を或る程度完全にやらうと考へると尙ほこゝに（十一年度以降に）二億圓を要する』と述べてゐる。かうした軍部の國防費要求が今後何處まで豫算に具體化されるかは素より豫想の限りではないが、我々はその要求が何れ位大きいものであるかを明かにする指標として、十年度豫算編成に際し明かにされた軍部兩省の新規要求額を第十一表に揭げてをかう。

蛇足を加へるまでもなく、赤字財政が何時解消するかに就ての答へは、以上によつて明白であらう。

# 第五節　外國貿易及び國際收支の狀態

## 一、順調なりし昭和九年の外國貿易及國際收支

昭和九年に於ける我が貿易及び國際收支の狀態は、周知の如く、概觀して頗る順調裡に終つた。この事實は本稿の筆を執るに當り、先づ何よりも記憶されねばならぬ點である。それは何も、本年報の見透しが正しかつたからと云ふわけではない。九年度の貿易順調が特に强調せられねばならぬのは、蓋し次の二つの點に於てゞある。卽ち第一に、日本商品が海外諸國の異常なる通商障壁を難なく突破し、以て新興日本產業の世界的優越性を充分に發揮するに至つたことと、第二にはかゝる日本產業の偉力を自ら過小評價して我が貿易の前途を極端に悲觀し、從つてまた所謂惡性インフレの不可避性を豫言した一部の見解が美事に裏切られ、今日我が經濟界は依然として好景氣の過程を步みつゝあることだ。

昭和九年に於ける內地及樺太の貿易額は、輸出廿一億七千百九十二萬五千圓、輸入廿二億八千二百五十三萬一千圓、差引一億一千六十萬六千圓の入超を示した。之を昭和八年度に比すれば、輸出三億

一千八十七萬九千圓、一割六分八厘、輸入三億六千五百卅一萬二千圓、一割九分五厘の各増加に當りその入超額もまた前年の五千六百十七萬四千圓に比して略々倍増を遂げた。之に朝鮮、臺灣、南洋の貿易額を含めた帝國總貿易額は、輸出廿二億五千八百八萬一千圓、輸入廿四億四十二萬四千圓、差引一億四千二百卅四萬三千圓の入超を示した。前年度に比し輸出三億二千六百一萬二千圓、一割六分九厘、輸入三億八千二百九十一萬圓、一割九分の各増加に當り、輸入超過額は前年の八千五百四十三萬五千圓に比し五千六百九十萬九千圓の増加となつた。貿易バランスこそ多少惡化したれ、とに角輸出入總額に於て七億圓以上の激増を來したことは、昭和九年の我が景氣狀態を支持せる最も有力な支柱の一であつたと云へよう。またこの程度の貿易バランスの惡化は、一方貿易の活況に伴ふ海運、保險料、其他貿易外收入の増加でカバー出來るから、昭和九年の貿易は極めて順調裡に經過したと評し得る。同樣に同年の國際貸借もまた先づ順調であつたと云へよう。兒玉正金頭取の推計に依れば、昭和九年の貿易外收支は四千三百二十萬圓の支拂超過であつたから、これに前記帝國總貿易の入超額一億四千二百萬圓に加へると支拂超過總額は一億八千五百萬圓の多きに上るけれども、事實果してかような入超であつたかどうかと云ふと非常に疑問である。何となれば、從來の例から推すと、輸出の過小評價のため入超が過高に計上される結果となるし、また同年は特に密輸出が甚しかつた點から考へても、實際の收支狀態は大體バランスしてゐたのではないかと考へられる。正貨の現送を行はず、また外國證券、外貨預金、及び外貨貸付等を大して減らすことなくして、なほ且つ昨年の爲替相場が大勢安定し得たのは、畢竟するに國際收支の實質が略々バランスしてゐたゝめと考へられる。卽ち、昨年の金及地金輸出額は僅か六十萬圓にすぎず、また外國證券類も昭和八年十月當時と殆んど變化ないことが判る。

外國證券及外貨資金在高（千圓）

| 內國證券<br>所有高 | 昭和*<br>8年10月1日 | 昭和××<br>9年10月末 | 比較<br>增減 |
|---|---|---|---|
| 內地所在の分 | | | |
| 國債 | 12.618 | 11.773 | (−) 845 |
| 地方債 | 239 | —— | (−) 239 |
| 社債 | 1.527 | 151 | (−) 1.376 |
| 株式 | 38.780 | 36.172 | (−) 2.608 |
| 合計 | 53.164 | 48.096 | (−) 5.068 |
| 海外所在の分 | | | |
| 國債 | 227.828 | 194.117 | (−) 33.711 |
| 地方債 | 13.052 | 25.728 | (+) 12.676 |
| 社債 | 24.946 | 26.067 | (+) 1.121 |
| 株式 | 39.984 | 56.436 | (+) 16.452 |
| 合計 | 305.810 | 302.348 | (−) 3.462 |
| 合計 | | | |
| 國債 | 240.446 | 205.890 | (−) 34.556 |
| 地方債 | 13.291 | 25.728 | (+) 12.437 |
| 社債 | 26.473 | 26.218 | (−) 255 |
| 株式 | 78.764 | 92.608 | (+) 13.844 |
| 合計 | 358.974 | 350.444 | (−) 8.530 |
| 外貨資金 | 242.853 | 222.557 | (−) 20.296 |
| 外貨貸付金 | 142.105 | 136.840 | (−) 5.265 |
| 合計 | 743.932 | 709.841 | (−) 34.091 |

（備考）* 昭和9年2月2日下院豫算總會にて發表。* 昭和10年1月31日大藏省發表。換算は純分比價による。

上表の如く昭和九年十月末現在の外國證券、外貨預金、外貨貸付金は合計七億九百八十萬圓の巨額に上り八年十月一日現在に比して僅か六千四百萬圓を減じたにすぎない。また九年十月末の外貨邦債の邦人所有高は七億三千八百八十六萬五

千圓で、八年十月一日に比し三千五百七十九萬五千圓を增加してをる。云迄もなく電力債其他の外貨邦債を買入れたゝめであり、從つて手持外貨邦債を賣却し外貨資金を造出したと云ふことはない筈だ以上の諸點よりみるならば、昨年の國際貸借は可成り順調であつたと云へるわけだ。猶ほ同年の貿易外收支が、二億三千七百萬圓に及ぶ巨額の資本流出超過となつたに不拘、四千三百二十萬圓の支拂超過で濟んだことも、特記に値する點だ。また前記の如く、九年十月末現在對外支拂に充當しうべき外貨資金が純分比價換算にて七億圓以上(內、四億圓見當は正金の在外資金と傳へらるゝ)に上ることは我が國際貸借の前途を一應樂觀せしむべき材料と云へよう。

なほ九年度貿易及貿易外收支の內容には幾多の興味ある變化が窺はれるが、その分析は紙數の關係上他日に讓ることにしたい。

## 二、日蘭會商の中絕と中南米を繞る日米の對立

かように昭和九年の我が貿易及び國際收支の狀態は、一部の極端なる悲觀論を裏切り、豫て我々の主張せる如く極めて良好であつたが、扨て十年度は如何であらうか。この問題こそ、今や岐路に立つ所謂インフレ景氣の動向を決定する最大條件の一であり、高橋藏相もまた本年の景氣を論ずるに當り『景氣の最大要素は矢張り貿易の狀態であらねばならない』と特にこの點を重視してをる。(一〇・一一時事)而て貿易の前途に關しては本年も依然として悲觀的見解が濃厚なようだ。その根據は種々あらうが、最も有力なモメントとして指摘せらるゝのは、云迄もなく世界的な貿易政策の强化傾向である我々はこの種の傾向が、我が貿易の前途を全體として悲觀せしむる程の支配的な勢力を有するものとは考へないが、然しとも角貿易の將來を考察する上に於て一應問題にせねばならぬ點と考へる。

世界的な生產過剩に起因する國際市場爭奪戰の激化が、各國の貿易政策を如何に强化せしめ、また關稅引上、差別關稅、輸入割當、輸入制限、コンペンセーション・システム等々如何に新なる通商障害の累積を來したかに就ては、既に本年報第十七輯に於て取扱つた問題である。爾來、各四半期毎に、刻々變化するこうした各國貿易政策の發展狀況を報告して置いたが、本輯に於てもまた一九三四年第四四半期より一九三五年初頭にかけての變化を指摘して置こう。

個々の變化は暫く別として、先づこの期間に於ける最も特徵的な傾向を求むれば、第一に日蘭會商が遂に中絕の止むなきに至つたこと、第二には中南米市場に於ける日米利益の對立が漸く尖銳化して來たことである。

日蘭會商の經過に就ては既に前輯でも大體報告して置いた。卽ち昭和九年六月六日の開會以來、同

十一月廿二日の輸出分科委員會開催に至るまでの約半歳の長きに亘る交渉は、全く會議の本筋に觸れることなく、徒に派生的な問題の考究にのみ日を送つた。殊に會議の性質上相互の妥協か最も望ましいのにも不拘、この間蘭印側は陶磁器輸入制限令、海運問題提議、麥酒、サロン、セメント等各制限令の更改等の如き挑戰的態度に出で、之に對し日本側も陶磁器積止め、サロン賣止め、等の手段により應戰した。こうした波瀾曲折の末、漸く十一月廿二日に至り輸出分科委員會の開催にまで漕付けたのはよいが、其後の經過は依然として捗々しからず、遂に同年末一應會商打切りと云ふ甚だ呆氣ない結果に終つた。決裂の直接原因は砂糖の輸入に關し彼我の主張に重大な相違を來したからである。即ち蘭印側は三ケ年間に九十萬噸の買付方を要望し、且つ再輸出を十萬噸以內に制限すべし、と要求したのに對して、日本側は三ケ年間に五十萬噸丈けを輸入し、且つ再輸出は無制限とすることを主張したからである。要するに、日蘭利害の對立は、綿織物、人絹織物、雜貨類等日本の主要輸出産業に於て決定的なものがある許りでなく、更に砂糖の如き蘭印の主要輸出産業に於ても同樣決定的なものがあるのだから、兩者の利害調節が云ふべくして容易に行ひ難きは明白である。會商中絕以來、彼我の關係は俄然急迫せるもの、如く、蘭印側は豫ての決裂對策通り、向後半ケ年間に約六十種の制限令を發布することを主張し、一月廿二日一九三三年度を基準として窓ガラス、ガラスコツプ、ポンド罎、ランプホヤ、エナメル製品大型物、同小型上物、臺所用品、自轉車、同部分品の各商品に亘り、新たに輸入制限令を公布した。かゝる情勢より推せば會商の再開も蓋し容易なことではあるまい。一方、海運問題は日本側の主張により一般問題より分離し、神戸にて討議を重ねることになつたが、これ亦劈頭より用語問題で紛糾を來し、前途の多難を思はせてをる。日蘭制害の對立は最初から純然たる通商問題として其の調整が考究されつゝあるので、到底日支、日ソ間の如き尖銳味はみられない。けれども、日蘭の利害調整が愈々不可能と決まれば政治的な對立抗爭の漸次濃化するのは蓋し當然の成行きといへよう。而て日蘭の對立は政治的にもまた經濟的にも日英の對立を意味するものであり、所謂『一九三五、六年の危機』の經濟的根據の一をこの點に發見することが出來よう。

第二の注目すべき傾向は、日本の新市場として近年飛躍的な發展を遂げ、就中英領植民地に於ける割當制の實施を契機としてそれが一層猛烈と化した中南米諸國の貿易政策が近來著しく求償的色彩を帶びて來たことがそれで、從來の關稅引上、差別關稅輸入制限、輸入禁止、爲替管理等に代る新たな傾向として特記に値する。かゝる求償協定取極めの必要から、先づペルーは十月十五日、コロンビアは十月卅日、キューバは一月四日、夫々最惠國條項を骨子とする對日通商條約の廢棄を通告し、其他、サルバドル、グワテマラ等の諸國は極端

な差別關稅を設定した。この結果、中南米諸國に對して孰れも極端な出超勘定を示す日本として、その輸出を著しく抑壓せらるゝ惧れのあることは云迄もない。然し元來中南米諸國は農業國であるから日本品の輸入によつて彼我の利害に對立を來す懸念はないわけだし、寧ろ良質廉價な日本品の輸入は彼等にとつて歡迎すべき事柄であるに相違ない筈だ。けれども、事實は次の二つの原因により日本品の輸入抑壓を不可避的ならしむる事情にある。その一つは、過般同方面の調査を終へて歸朝せる首藤商務官の報告にも明な如く、これらの諸國が孰れも多額の外債を背負つてをるが、深刻なる農業恐慌の打擊を蒙りその元利拂ひが困難であるため已むを得ず輸入制限の擧に出たものである。が、第二により注目すべき原因として指摘せねばならぬのは、近來米國の中南米市場確保に對する要求が益々熾烈と化し、互惠協定の締結により頻りに同方面に手を差し伸べて來たことだ。卽ち昨年米國が、日本品の中南米進出對策及び米國自體の景氣恢復工作として、大統領に對し關稅獨裁權を付與して以來、積極的に中南米諸國と互惠通商協定を開始し、八月廿日先づキューバとの條約締結に成功し、また去る二月三日ブラジルとの求償協定締結を實現した。この外、目下協定進行中のものも多數あるから、勢ひ日本に對する貿易上の壓迫も必然的に强められることにならう。之に對し我が政府當局に於ても、過般同方面の調査を終へて歸朝せる首藤商務官の報告を基礎として、各國と求償協定の締結に應ずべく着々準備中であると報ぜられる。またその準備工作として、中南米輸出の統制を計るため、アルゼンチンに對しては東西アルゼンチン輸出組合、其他の諸國に對しては中南米輸出組合を中心として輸出査證料を徵收し、以て輸入促進のための基金に充當せんと計畫中である。過般ブラジルに對し親善使節を派遣することになつたのも、またかゝる市場確保の意圖に出たるものと云へよう。

從來、日米兩國はその貿易關係に於て最も密接不可分の關係にあり、利害の對立する處が比較的尠く、經濟的に日米親善の可能性が極めて濃厚なものがあつた。昭和九年六月、日米貿易の調整促進を目的として日米通商評議會が組織せられたのもこの間の事情をよく反映するものと云へよう。けれども、今や中南米市場の爭奪戰を繞つて、日米利害の對立は漸く尖銳化せんとしてをる。ヴアルガも、かゝる日本商品の激しい成功的な競爭は、疑ひもなく日米對立を尖銳化させる新たなモメントであると論じてをる。『一九三五、六年の危機』の經濟的根據はこゝにもまた發見される。

以上の外、世界各國の新に實施せる關稅引上、輸入制限、輸入禁止等も尠くないが、紙數の關係上こゝでは省略する。

### 三、輸出統制の進捗と貿易組合法制定の必要

斯の如き國際通商戰の一對策として、玆兩三年來廣い意味での貿易統制が漸次進展しつゝあることは屢報の如くだ。貿易統制の代表的な一つの形態は、輸出組合による輸出統制であり、前輯には九年九月一日現在の統制狀況を記して置いたら、本輯に於ては其後の變化を報告する。

卽ち商工省貿易局調査によれば、昭和九年九月以降最近に至る迄、新たに輸出統制を開始せるものは次の如くである。

一、毛布(日本毛布織布輸出組合)大正十五年八月同組合の設立以來各方面に輸出貿易の振興を計りつゝあつたが、最近廉賣の弊顯著なるものあるに鑑み、之が對策として輸出數量の制限を實施することに決定、昭和九年九月八日より統制實施の運びとなつた、

二、電球(對英電球輸出組合)昭和九年五月日英電球協定成立の結果、同年七月右組合の設立をみたが、同九月十五日より輸出數量の割當取締及輸出價格の自治的統制を實施することに決定。

三、ゴム靴(日本ゴム製品輸出組合)本邦產ゴム靴は海外進出の最も代表的なものであり、之がため世界各地に於て輸入防遏に會つたゝめこの對策として昭和九年八月右組合の結成をみ、之を中心として、昭和九年十二月一日以降輸出數量及輸出價格の制限を實施することになつた。

四、メリヤス(日本メリヤス輸出組合)比律賓に對しては昭和六年六月日本比律賓メリヤス輸出組合設立され、同七年四月以降統制を開始し、其後漸次統制の範圍を順次擴大しつゝあつたが、一方比律賓以外に於ても輸入防遏運動が旺盛と化したゝめ、この對策として昭和九年六月右組合の成立をみ、差當り南洋及印度に對して輸出數量及價格の制限を行ふことゝなり、昭和九年十一月一日より之を實施することになつた。

五、絲染サロン(日本絲染綿サロン輸出組合)昭和九年二月十三日蘭印政府が非常時織物輸入制限令を發布しこれに對して我が當業者は日本絲染サロン輸出同盟會を組織し、綿工聯と共に統制開始することになり賣止めを實施するに至つた。が、法的拘束力がないので同年十一月右輸出組合を結成した。同年十二月廿四日制限令の繼續が發表されたが、その內容は從前に比し稍々緩和されたものであるので、我が當業者は賣止めを撤廢し、之に代つて輸出統制を實施することになつた。かくて昭和十年一月廿八日蘭印向輸出統制規定の認可を得、二月一日以降實施の豫定である。

以上の外、目下統制計劃中のものは極めて多數に上つてをる。かように『貿易統制』は今日、一種の流行物でもあるかのように、一見如何にも華やかに行はれてをるが、然しこゝで考へなければならぬのは、その內容に幾多の矛盾と缺陷を包含してをるため、容易に統制の實を擧げ難きとである。それは結局に於て『貿易統制』それ自體に內在する矛盾から出發するものが、實際問題としてその矛盾を可及的克服すべき手段として種々な對策が提唱されてをる。卽ち最近東京商工會議所の調査せる輸出統制の改善強化策として左の諸點が擧げられてをる。

一、輸出統制の前提として生產業者と輸出業者の連絡協調を密にすると、殊に工業組合と輸出組合との連絡を計ること。

二、統制規定の決定及びその運用については愼重であるべきこと。

三、非組合員を取締ること、このため輸出組合に(一)第九條を發布するか、(二)强制檢查權を附與するか(三)

同業者を强制加入せしむること。
四、植民地にも統制を實施すること。
五、統制は全國的に行ふを必要とするも、全國的單一組合の設立を强制せざること。
六、可及的商品別組合を避けて地域的組合とし、組合員をして多數の組合に加入するの煩と費用とを省かしむること。
七、輸出統制實施の場合、その目的として單に輸出にのみ偏せず、輸入統制を併せ考慮すべきこと。
八、各種組合法の單一合理化を計ること。
九、輸出統制の指導原理の確立に努むること。

右の如く、我が貿易統制の現狀には幾多の改善强化すべき點が發見される。その孰れもが極めて急務なるにも不拘、今日なほ遲々として進捗せざるのは、要するにこの主務官廳たる商工當局に確たる貿易對策のなきこと、更に遡つて云へば我が貿易政策及び統制經濟に關して一貫せる指導精神を把握してをらぬことに歸着するもと云へよう。が、差當り最も必要と思考されるのは、前記の如く生産者たる工業組合との連絡問題、統制規定たる第九條の發動問題等であるが、今後の新なる問題として特に取り上げられねばならぬのは輸出入組合法、(若くは貿易組合法)の制定であらう。

今日、各國の貿易政策の主流が從來の自主的な關稅工作及びコータシステム一點張りより漸次協調的なコンペンゼーションシステムの採用に移りつゝあることは特に指摘する迄もない。かゝる國に對して輸出販路の維持擴大を計るには、同時にその國からより多く輸入を計らねばならない。この種の目的から、曩に日土兩國間に成立せる日土求償貿易協定に基き、日土貿易組合が組織せられ、以て相互の貿易調整手段に供してをる。またこれと同一の精神から近く對アルゼンチン輸出組合に於ても輸出入統制を開始せんとし、其他過般極端な差別關稅を樹立せるサルバドルに對しても目下同樣の對策が議せられてをる。南阿羊毛の買付プールの如きもまた右と略々同一の原則より出發するものと云へよう。

けれども、單に輸出統制のみにても幾多の矛盾缺陷のため往々にして行惱みの狀態に陷るのが珍しくないのに、それより更に一層複雜にして且つ困難なる輸出入統制を有效に實施せんがためには、この際何等かの强力なる統制策が必要とされねばならないこと。この意味に於て現行輸出組合法の改善强化はもとより、更に一歩を進めて輸出入組合若くは貿易組合の如き制度の新設が望ましい。昭和九年十一月大阪商工會議所の總會に於て『輸出入組合法制定に關する建議』を可決し、更に日本商工會議所も右の提案に基いてその總會に於て之を可決し、以て政府當局に建議せるのも、蓋しかゝる趣旨に據るものである。

### 四、通商外交上に於ける積極的協調主義の濃化

斯如き我が輸出貿易に於ける統制工作の進展は、一面に於て國内産業の統制經濟化傾向に影響さる
る處が尠くないが、根本的には通商外交上に於ける協調主義と相關聯するものと云へよう。蓋し、若し
海外諸國の通商障壁設定に對して、我國もまた自主的に關稅引上、若くは輸入割當の如き報復手段を
執つて之に應戰するならば、輸出統制の如きは必しも第一義的な重要性を有しないであらう。けれど
も、その結果は益々世界市場を狹隘化せしめることは明白だ。通商の自由を最も要とする我が貿易に
とつて極めて不利な局面を招來することになる。かゝる事態を避けんがためには、我が通商外交の根
本方針を協調的なものとせねばならぬ。故に日印、日英、日蘭の各會商の開催にも應じたし、また南
阿、アルゼンチン、トルコ、中南米諸國とは片貿易調整の手段を講じた。卽ちトルコとは昭和九年七
月廿六日日土求償協定の締結に應じ、南阿に對しては羊毛買付プールが組織された。またアルゼンチン
に對しては東西對アルゼンチン輸出組合、其他の中南米諸國に對しては中南米輸出組合を夫々中心と
して近く物資の買付を開始し、以て相互の貿易關係を調整せんと計劃中である。

かように我國としては諸外國の要求に應じ消極的に被我貿易關係の調和に務めてをるが、最近に至
り積極的にこの種の提議をなしつゝあることは極めて注目すべき現象である。既に濠洲に對してはこ
の點に留意しつゝ通商條約締結の交涉を開始し、近くその成立をみる運びとなつてをる。更に加奈
陀、ノルウエーの兩國に對しても同樣交涉中である故、軈てその具體化をみるものと觀測される。

次に近來、英米兩國との通商關係が著しく協調的となり、昨年六月日米通商協議會が設立されたに
次いで、過般バーンビー卿の來訪を機として日英通商評議會の設立をみ、また、近く米國の極東視察
團の來訪を機會に一層この種の氣運が濃化されるものと期待される。

なほ我が對支政策は昨春以來徐々乍ら健實な好轉を示し、既に昨年七月國民政府の關稅改正に當り
その徵候が認められたが、更に來る三月の關稅改正に當りても同樣の效果あるものと期待される。要
するに、本年の我が通商工作は、新市場に對しては中南米輸出入組合、南阿羊毛買付プールの如き調整
手段にて消極的乍らその維持を計ると共に、一方舊市場に對しては前記の如き積極的な諸工作により
極力その伸展を計ることにならう。たとへ新市場に對する進出が是迄の如き飛躍的な增加率が期待さ
れないとしても、本年の我が貿易が大觀して懸念するに及ばぬ一つの理由は蓋しこゝにありと考へら
れる。

### 五、通商行政の統一强化論と貿易省設置案の檢討

結局、國際通商戰の現段階に於て日本の現に採りつゝある方策は次の如く要約される。卽ち(一)大藏當局は、通商擁護法の制定あるに不拘、關稅引上、輸入禁止等の如き報復的手段を行ふことなく(二)外務當局は協調外交の建前から被我の貿易調整に努力しつゝあり、(その內容は日印、日英、日蘭の各會商應諾、トルコとの求償協定締結、及び現在計劃中である對中南米諸國との同樣の試み、等の如き消極的態度より、日滿、日加、等の貿易調整提議の如き積極的なものへ轉化しつゝあるが)(三)商工當局は右の協調外交方針と相關聯して輸出組合による貿易統制に努めつゝある。右の諸點を通じて認められるゝ我が通商外交の一般的傾向は、根本的には飽迄自由通商主義を以て進み、その困難なる場合に於ては求償主義、統制主義等を加味して諸外國の排他的貿易政策とのフリクションを可及的最小限度に止めんとするにあると云へよう。かゝる方針は、貿易の本質よりみてもまた現段階に於ける日本貿易の指導原理としても最も妥當なものと云へよう。けれども、それに必要な各通商行政機關の連絡に遺憾な點も尠くない。卽ち現在通商行政機關は大藏、外務、商工の三省の外、拓務、遞信の各省にまで一部分置せられてをる。この整理統一を計り、併せて通商行政機關の强化を目的として、最近貿易省或は外局としての大貿易局、若くは大通商局の設置論が擡頭しつゝある。その具體案は官民各方面で頻りに考慮されてをるが、大體し於て(一)外務省通商局、商工省貿易局、遞信省管船局の各所管事務、大藏省主稅局所管中關稅定率法中改正及び關稅率の變更に關する事務、拓務省所管移植民及海外拓殖事業の指導奬勵に關する事務等、對外通商經濟一切の事務を所管せしむるため一省を新設するとの案(二)外國に於ける帝國通商航海及企業の保護に關する事項、貿易の助長、奬勵及統制に關する事務、關稅定率法の改正及關稅率の調査に關する事務、等を掌る外務商工兩大臣の共管する海外貿易局を設置する案との二案に分れる。

斯如き通商外交機關の統一强化策は、貿易の本質であり就中現段階に於ける我が貿易の指導原理たるべき自由通商の精神よりみるならば、必しも必要とは云へないだらう。また實際問題として、現在の諸外國の排他的貿易政策に對し求償主義、統制主義を加味して難局を突破し、以て貿易の伸展を計り自由通商の實を擧げうる限りに於ては、通商行政機關は現狀を以て充分足りると云へよう。卽ち、通商難局に當面する每にその相手國の政治經濟情勢に對應して夫々這當なる求償統制主義を以て之が解決に當ればよいからである。要するに、我が貿易の現狀よりみるとき、該案の實現はさ程必要とは思はれない。

#### 第五節　外國貿易及び國際收支の狀態

けれども、問題は斯の如き貿易情勢を何時迄持續し得るかの點である。恐らく各國の貿易政策は今後益々排地的若くはブロック經濟的方向を辿ることにならう。とすれば、我國としても是迄の如き消極的な協調主義、乃至は統制主義のみを以て充分之に對抗することは一層困難となるだらう。通商難局を打破し局面を有利に導くためには、時に通商擁護法の如き强力なる報復的手段を選らぶ必要をみるに至るであらう。また今後世界經濟の動向が益々ブロック經濟的な方向を辿るものと考へれば、我が貿易機構も從來の自由貿易的基礎の上より漸次日滿支若くは其他のブロック經濟的基礎の上に再編成する必要をみるに至ることもまた明白だ。而てこれがためには內外の政治經濟情勢に卽した新なる貿易政策が樹立せられねばならない。かゝる見地よりすれば、通商行政機關の統一强化、及びそれによる新貿易政策の確立は極めて望ましいことゝ云はねばならない。外務當局の通商外交方針が、從來の消極的態度より最近の日濠、日加條約締結提議にみらるゝ如き積極的方針に向ひつゝあることは、この種の通商機關統一强化案の實現性を漸次有力化するものとみらるゝ。而て、一方かゝる貿易に對する國家的統制は、國內產業に於けるその進展と相關聯してもまた不可避的な問題であらう。

## 六、一月入超激增の原因と上半期貿易の見透

最後に昭和十年の貿易情勢について一言するに、一月早々巨額の入超に見舞はれたことは周知の如くである。無論、僅か一ト月丈けのことであるから敢て驚くにも及ばぬが、然し何分貿易悲觀論の相當有力な際とて、一應その原因を明にし、併せて上半期貿易の依然樂觀的なる根據を附言して置きたいと思ふ。

本年一月の入超が六千八百萬圓の巨額に達し、前年同期に比し五千一百五十萬圓の激增を來したのは、要するに輸出產業用及び軍需工業用の原料品が、爲替先安及び景氣好轉を期待して、多少思惑的に輸入されたからである。卽ち輸入の內容を商品別に眺めると、その金額に於てもまたその增加率に於ても、殆んど全く棉花（對前年同月六千一百六十六萬圓、十六割增）と鐵（一千四十萬圓、十割）で占めてをることが判る。かように輸入增加の內容を吟味すれば必しもその懸念すべき性質のものでないことが判る。殊にこの間輸出が依然相當の增加率を維持してをることを思へば猶更である。卽ち輸出增加率の停頓が一部では可成り懸念せられてゐたにも不拘、全體として三割七分の著增を續け、またその內容をみても生絲、（一割八分）綿織物（三割五分）人絹織物（六割二分）、絹織物（一割三分）小麥粉（七割）等各有力商品が軒並み激增を遂げてをる。以上の諸事情を考察すれば、貿易悲觀は尙早と云へよう。

結局本年の貿易が具體的に見てどう云ふ結果になるかと云ふに、先づ上半期丈けに就いてみると大體次の如く豫想される。卽ち輸出入主要品に付き夫々個別的に檢討を行ひ、その結果を綜合した處によると、輸出十億七千七百萬圓、(對前年同期七千三百萬圓、七%三增)輸入十二億九千五百萬圓(一億三千九百萬圓、一二%〇增)、差引入超二億一千八百萬圓となる見込だ。無論今後の內外經濟情勢の變化でこれがどう變るか判つたものではないが、然し右の推計は我が貿易の實情に關して最も權威ある方面の調査に成るもの故、相當信賴するに足るものと考へる。

とすれば、輸出入とも昨年に比し更に一段の伸展をつゞくることは略々確實とみてよい。尤も、輸出の增加以上に輸入の增加する傾向にあるため、この限りバランスが前年同期に比し六千三百萬圓の惡化を來すのは免れない。然し乍ら、輸出入總額が上半期丈けで前年に比し更に二億圓以上も增加すれば、之に伴ひ運賃收入、保險收入、海外勞務及事業收入等貿易外收入もまた相當の增加を來すものと考へられる故、國際貸借が昨年より特に惡化するとは考へられない。

## 第六節　事業界の動向

最近の事業界の情勢は依然として良好であり、又見透の點に於ても少からず惠まれてゐる。就中、重工業部門に於ける發展は殊に顯著である。軍需註文は議會に於ける軍部兩相の數度に亘る聲明によつて、少くも昭和十一年度迄減る事のない事が明らかにされてゐるので、前途は未だ樂觀的だ。これに反して纖維工業部門に於ては毛織業は既に前期から原料高製品安が見られて行惱んでゐたが、最近亦紡績、人絹兩事業に供給過剩の事實が現はれて來た。唯蠶絲業のみは今迄惡かつたのと反對にその前途が頗る明るくなつた。以下主要事業に對し一瞥を與へる。

### 一、產業構成の變移

最近事業規模の擴張新規計畫の多き事は第三節に述べた通りだが、更にこれを日銀調査の製造工業細別表によれば、製造工業中、最も躍進的增加を續けてゐるものは、時局關係の化學工業、製織業、窯業等であり、一方瓦斯、製絲等に至つては却て前年よりも減退してゐる。之によつて我景氣の凹凸

が如何なるものであるかゞ窺はれるであらうが、更に興味あることは、之によつて我産業構成に轉換期が來ようとしてゐる點である。卽ち生絲に代つて産業界の王座に就いた紡績も既に飽和點に達しかけ、今度はこの紡績に代らんとして新に重工業、其他精密工業、化學工業等が進出してゐる。

而して以上の如き旺盛なる新資本の增加も純然たる獨立の新投資のみではなく、既設會社の投資の形に於てなされたものが少くない。卽ち鐵、機械等の重工業乃至化學工業等の新部門の急激なる發展は、一方に於て既に老衰期に入つたか若くは停滯せる舊産業方面の企業家を此方面に進出せしめ多角經營に走らしめたのであつた。例へば原料の自給を始め、紡績業の人絹兼營乃至は紡績、人絹その他のステープル・フアイバーへの進出、一般機械製作から自動車製造へと經營の多角化には著しいものがある。然し此多角經營も資本力ある場合に始めて可能で、如何に利潤追求を急いだからとて有力なるを得ない。紡績は多角化の元祖の如く云はれたが、これは大紡績に限られ、中小紡は全く除外されてゐる。多角化進出の餘力がないからである。而してこの傾向は、現在の凹凸景氣が訂正されざる限り、その發展は約束されてゐるものゝ如くである。殊に最近一般會社の成績が向上し、その社内保留が一般に增加する傾向にあることは此多角經營の進出力を著しく强めつゝあるものと云へよう。自然なほ多くの新規資本計畫が見られるであらうが、その方向はさてどんなものであらうか。この點は我が國が、自給經濟をどの程度まで發展せしめようとするかによつて大體決定さるべきものである。卽ち若しも日本が出來得る限り從來の輸入商品を日滿ブロックで自給自足せんとする立前ならば、現在、原料、製品の大部分を海外に仰いでゐる如き、製造工業、化學工業、纖維工業或は天然産業等は新規資本を多く要求するであらう。從つてその進展如何によつては我が産業界の構成分野には相當著しい變化が起るものと見られる。

## 二、軍事豫算膨脹と事業界

昭和十年度に於ける陸、海兩省の軍事費は、陸軍省四億九千百萬圓、海軍省五億三千萬圓合計十億二千百萬圓に上り、災害豫算を控除せる總豫算額二十一億二千萬圓の四割八分を占め、空前の軍事豫算たることを示してゐる。之を次頁の最近數年間の數字に比較するに、明年度の軍事費が如何に驚くべき膨大な額であるかゞ窺はれるであらう。いま假に昭和六年度を常態とすれば明年度に於ける我軍事費は、二倍半餘の巨額に及ぶ大膨脹である。而してこの十億を超ゆる軍事費のうち、果してその幾割が民間の軍需工業に振り撒かれ、所謂軍需インフレを形成するかは興味ある問題である。尤もその性質上詳細な數字を知ることは困難であるが、陸海軍が直接民間工場に對し軍需品註文として支拂ふ

以外に、陸軍造兵廠、千住製絨所、海軍工廠、火藥工廠等に於て使用する諸原料代を含めると、軍部から直接、間接軍需工業關係會社に撒布される額は一般に軍事豫算の四割乃至五割に及ぶものと推測せられる。とすれば、昭和十年度に於ては五億圓に上る巨額が、造船、機械製作、化學工業、鐵鋼業等の軍需工業關係會社に流入する譯である。

(一)　軍事豫算額比較　(百萬圓)

| | 陸軍 | 海軍 | 合計 | 總豫算 | 上合同割% |
|---|---|---|---|---|---|
| 六年度 | 194 | 212 | 406 | 1,334 | 30.4 |
| 七年度 | 390 | 306 | 696 | 1,850 | 37.6 |
| 八年度 | 448 | 404 | 852 | 2,129 | 39.9 |
| 九年度 | 449 | 487 | 936 | 2,143 | 43.6 |
| 十年度 | 491 | 530 | 1,021 | 2,121 | 48.1 |

而して以上の各關係事業中、此流入によつて最も潤ふものは、恐らく民間に於ける各造船會社であらう。造船會社は、現在各社とも造船事業の外造機方面にも手を延ばしてゐるので、海軍關係の註文のみならず、陸軍豫算の膨脹によつて陸軍關係の陸上諸機械の註文も殖えるからである。然し最も影響を持つものは、云ふまでもなく、海軍豫算の膨脹である。明年度海軍豫算の內容は、大體次の如くであるが、其合計は五億三千萬圓に上り、嘗て我國未曾有の大海軍費と稱せられた原內閣の八八艦隊計畫の四億八千萬圓を遙に超ゆる空前の大豫算であるから、造船會社が何れも有卦に入つてゐるのも尤もなことである。

このうち最も造船會社を刺戟するものは新規要求額の一部と補助艦艇建造費年度割分とであらう。

(二)　十年度海軍豫算內容　(千円)

| | |
|---|---|
| 既定經費 | 400,000 |
| 內譯 | |
| 基本豫算 | 228,600 |
| 補助艦艇建造費年度割 | 156,400 |
| 航空隊增設費年度割 | 15,000 |
| 新規要求承認額 | 130,000 |
| 合計 | 530,200 |

(三)　補助艦艇建造費年度割額(百萬圓)

| 年度 | |
|---|---|
| 九年度 | 121 |
| 九十年度 | 156 |
| 十一年度 | 156 |
| 十二年度 | 157 |
| 合計 | 590 |

新規要求額中の主なるものは、艦船建造費、艦船整備費、水陸設備費、新艦船維持費、軍需品整備費航空維持費、爲替差損その他で、此一部が造船會社の手に移るのである。補助艦艇建造費年度割の昭和十年度分は第一次補充計畫分五千五百萬圓、第二次分一億百萬圓合計一億五千六百萬圓で、九年度に比し三千六百萬圓の增加である。

この過半は海軍工廠に渡る筈であるが、實際は能力の關係上、その一部は更に民間工場に下請けさせる筈であるから、恐らく右の六割乃至七割は民間造船業を賑はすことにならう。假に年度割の六割としても民間造船會社に撒かれる額は九千餘萬圓である。此外前記新規要求額の一部と陸軍からの註文を考慮する時は、明年度軍事豫算の內恐らく一億數千萬圓は民間造船會社の浦賀、石川島、三菱、大阪鐵工その他に散布されるものと見られる。

勿論單價引下で、採算は若干低下するであらうが、それにしてもこれだけの資金が流入する造船會社の活況は想像に餘りあるものがあらう。

## 三、生糸需給は改善された

農林省は昭和九年度の繭に關する二つの重要な基本資料を發表した。其の一つは同年度繭實收高の統計であり、もう一つは重要繭集散地に就て調査せる繭價及掛目の統計である。先づ繭收穫高の方から見るに、春蠶夏秋蠶を合せた總産額は約八千七百二十萬貫であつて、前年に比すれば一割三分八厘の減少であつた。次に、右産繭の主要集散地に於ける價格(上繭)を見るに、春は白繭二圓七十五錢黄繭二圓四十一錢、夏秋は白繭二圓二十九錢、黄繭一圓八十一錢であつたが、それ等の市場で發表された平均掛目から繭の絲量を推算して見るに春蠶白繭十三匁三、同黄繭十二匁六、夏秋蠶白繭十一匁六、同黄繭十匁九であつた。

そこで右の二資料に基いて昭和九年産繭よりの生絲産額を豫想して見るに、總數六十七萬四千俵となる。無論之は玉繭から屑繭までも含んだ總體の計算である。然し實際昭和九年度中に生産さるべき生絲の量はこれだけで決まるものではない。それは繭の繰越關係があるからだ。九年度中に九年産繭の悉くが絲に挽かれると限らないと同時に、前年度から繰越された繭が九年度中に絲に挽かれる。かうした繭の繰越は正確な調査がなく、はつきりしたことは分らないのであるが、八年度には絲價が暴落した結果製絲家は出來るだけ繰延政策を採つたことが想像され、九年度へ繰越された繭は相當に多かつたと一般に推定されて居る。然るに本年度はどうかと云ふに、周知の通り絲價は昂騰し、製絲家は寧ろ原料不足に惱んで居ると言はれる程で、自然端境期に殘される繭は極めて少くなるであらうことが想像される。此の差額がどれ位になるか、正確なことは勿論言へぬが、絲にして五萬俵位ではないかと思はれる。

さうすると前に見た六十七萬四千俵に五萬俵を加へた七十二萬四千俵が、大體昭和九年度中に生産される生絲の量となる。此の中二割乃至三割は國内の直接需要に充てられ、殘餘七割乃至八割が輸出の目的を以て横濱及神戸の市場に出荷される。然らば結局、本年度生絲生産豫想高七十二萬俵程から約二十萬俵を差引いた五十二萬俵が、横濱及び神戸への出荷可能量となる。

次に此の入荷に對して需要は何程に上るかと言ふに、米國消費高、米國以外への輸出高、内地積戻高の各々を、十二月迄の實數と最近の狀況とから推して吾々は前頁表の如き數字を得た。

(四)　昭和九年度生絲需給豫想

| | 千俵 |
|---|---|
| 新産繭よりの供給推定 | 670 |
| 前年繰越繭よりの供給推定 | 50 |
| 内地直接消費推定 | 200 |
| 差引横神入荷可能量 | 520 |
| 米國日本絲消費推定 | 470 |
| 米國以外への輸出推定 | 68 |
| 内地積戻高推定 | 42 |
| 需要合計 | 580 |
| 年度末市場在荷の減少 | 60 |

でかうした吾々の豫想に從ふと本年度の需要合計は五十八萬俵となり、供給を超過すること六萬俵に及ぶ。結局之だけ來端境期の市場在荷が減少する外ないのである。

かくの如き生絲需給の改善は、絲價を高め、人氣的に養蠶農家に安心を與へてゐる。

## 四、人絹界の過剰生産到來

人絹の過剰生産は今年に限らず前から問題にされて來たが、現實には

いつも過剰をみずに過して來た。昨九年の如きも從來より一層過剰生産

が重視されて、人絹相場はかなり下落したが、それでも實際の需給には

過剰した跡はみられなかつた。

卽ち九年の生産高は八年に比し四千七百萬封度、五二%を增加し、增

加額に於ても增加率に於ても近年に見られない大增産を實現した。が一

方輸出も大いに增加し、原絲の輸出は八年の八百八十萬封度から九年は

二千三百萬封度と實に十六割の急增を示し、又織物としての輸出も八年

の增加率八%が、九年には三三%になり、九年中の增加高は五千八百萬封度に上つた。斯くて九年中

(五)　最近二ヶ年人絹需給(千封度)

| | | 八年 | 九年 | 比較增減 |
|---|---|---|---|---|
| 生産高 | | 90,429 | 137,755 | (+) 47,326 |
| 輸入高 | | 503 | 68 | (−) 435 |
| | 計 | 90,932 | 137,823 | (+) 46,891 |
| 輸出 | 原絲 | 8,863 | 22,601 | (+) 13,738 |
| 輸出換算 | 織物 | 43,342 | 57,609 | (+) 14,267 |
| | 計 | 52,205 | 80,210 | (+) 28,005 |
| 地内供給高 | 差引 | 38,727 | 57,613 | (+) 18,886 |

に增産された四千七百萬封度の內約六〇%が輸出として捌け、殘り四〇%の千九百萬封度は內地供給增加となつたのだ。尤もこの千九百萬封度が果して九年中に消化し切つたかどうかについては據るべき數字がないが、生産會社にも、機業家にも見る可きストツクの無い所から推して、その大部分は消化されて內地に需要されたものと見てよい。

が、然し乍ら十年中には愈々過剰生産が招來されると思はれる。聯合會加盟會社の擴張計畫による總能力は十年上期末に日產三百十一噸となり、十年下期末には四百十六噸半となる豫定だ。之に新設三社を加へると、上期末は三百二十三噸、下期末には四百二十八噸半に殖える。昨九年末は日產二百四十三噸半であつたから、本年上期中に七十九噸半、下期中に百五噸半、年中を通じて百八十五噸の能力が增加する譯である。右は素より豫定であつて、必らずしもこの通り實現するとは斷定されないが、併し各社の計畫を仔細にみると、その何れもが着々と工事を進めてをる。殊に昨今の如き市價の下落をみると單位當り利益減をカバーすべく、必死となつて增產工事を進めてをる。されば右の計畫は略々豫定の如く行くものと押へて大過なからう。

たゞ、右は期末現在の數字であつて、期中、年中を通じては必らずしもそうはならぬ。今各社の增產工事完成月を考慮した上期と下期の豫想生產高は一億五百萬封度であり、下半期は一億二千七百萬

封度で、年中合計二億三千二百萬封度の巨量となる。九年中の一億三千八百萬封度に比較して九千三百九十七萬封度增と約倍增に近い。

然らば、斯る大量の絲をどうして消化するか、玆に問題がある譯だ。果してどうなるかは素より時日を待つてみなければ判らぬが、然し、多かれ少なかれ過剩を生ずることは殆んど免れぬ情勢にある。而して過剩量が幾許に上るかは、今後の輸出と內地消費の成績如何によつて決まること云ふまでもない。

（六）十年中の人絹需給豫想（千封度）

| | 輸出25%增の場合 | 輸出40%增の場合 |
|---|---|---|
| 高給要高 | 232,000 | 232,000 |
| 供內地需產 | 100,000 | 112,000 |
| 內地剩引 | 132,000 | 120,000 |
| 過內 | 80,000 | 80,000 |
| 生輸差 | 52,000 | 40,000 |

先づ輸出であるが、去る六年から九年までの四ケ年の平均年增加率は四九%五であつた。そこで今年の輸出を引續き相當良く行く場合を豫想して昨年より四〇%增すと見る。それから輸出が可成り惡くなる場合を豫想して、過去四ケ年平均增加率の半分たる二五%增を假定する。この好惡二つの場合に於ける今年の人絹過剩はどの程度になるかと云ふと、あらまし上表の通りになる。今年の內地需要高を八千萬封度と見たのは、昨年の四〇%增と假定した結果である。人絹の內地需要は八年中に於て一二五%、九年中に四八%八を增加したが、種種の事情から考へて今年中に四〇%以上の增加は期待されまいと見られるからである。そうすると輸出四〇%增の場合は今年中の過剩生產が約四千萬封度となり、輸出二五%增の時に於ける過剩は約五千二百萬封度となる。そして前の場合には過剩生產が本年中平均月產額の二ケ月分餘に當り、後の場合には三ケ月分近くの過剩に相當する。二、三ケ月分の生產量に相當する過剩は、これを操短によつて克服する場合で考へると一割七分乃至二割五分の操短率に當る理であるから同事業に對する壓迫力は相當强いわけである。

昭和十年中の人絹需給は大體右の如くに考へられるが、十一年となれば事情は更に好ましくないことにならう。と云ふのは十年下期末の日產能力四百二十八噸半が全年に亙つて働くのみならず、新設會社たる岸和田、太陽、福井等の各社が弗々製品を出すし、又福島、錦華、日淸等新設會社は增產擴張を行ふであらうからである。假にそのことを考慮外に置いて、既設各社合計だけでみてさへ月產二千八百二十萬封度となり、年產では三億三千八百九十八萬封度となる。今十年より更に一億餘萬封度の急增に當り、九年に比しては約三倍の激增である。之では如何に輸出の好調乃至は內地消費の增加を望んでも、相當巨額の過剩は免れぬことにならう。

## 五、紡績業は操短擴張

### 第六節　事業界の動向

綿紡事業の供給過剰も愈々問題化した。昭和九年に於ける綿絲生産高は、三百四十六萬七千梱、月平均二十八萬九千梱で、これに輸入を加へた内地供給高は三百五十二萬一千梱、月平均二十九萬三千梱となる。これを昭和八年度の生産高三百十萬梱、月平均二十五萬八千梱、内地供給高三百十五萬九千梱、月平均二十六萬三千梱に比較すると、生産高に於て四十五萬七千梱、月平均三萬六百梱を增加し、國内供給高に於て三十六萬二千梱、月平均三萬二百梱を增加してゐる。然るに他方輸出—即ち綿織絲の輸出に綿織物、メリヤス、其他綿製品輸出高を絲量に換算したもの丶合計—は、昭和九年度に於て百九十一萬四千梱、月平均十五萬九千梱となり、昭和八年の百五十六萬二千梱、月平均十三萬梱に比して、三十五萬一千梱、月平均二萬九千三百梱を增加してゐるに止つて、生産高の增加程度は輸出高(綿絲及綿製品絲量換算)の增加程度を越えてをり、生産過剰傾向の潜在が見られる。

此の傾向は、昭和九年中の生産高、國内供給高及び輸出高の推移を月別に見れば一層瞭りする。綿絲生産高は十一、二月には三十二萬梱を越え、此の儘で行けば三十三萬梱を越えることも遠くないと思はれた。他方需要の側を見ると、内地需要の數字はこれを明かにし得ないが、大約月平均十三萬梱と押へられる。然し内地需要は、今のところ急激な增加は期待し得ず專ら輸出の增加に賴る有樣だ。ところが昨九年中の輸出は前述の如く月平均十五萬九千梱となり、内地需要と合せて需要は月平均二十九萬梱である。從つて今後の生産が毎月三十二萬梱乃至三十三萬梱となり、輸出が增加せぬとすれば、毎月三萬梱乃至四萬梱が過剰となる。假りに最も樂觀的に考へて、輸出が今十年中に於て九年中の對八年度增加率と同じ程度に增加すると見れば、十年中の月平均輸出は二十萬梱となり、始めて需給の均衡が得られる狀態に在る。

綿絲及び綿布の在荷の狀態から見ても、綿絲の在荷は九年十月以來次第に增加して、九月末の八千八百梱から十二月末の一萬六千六百餘梱となり、十年に入つてからも尙一月末在荷は一萬二千三百梱となつてゐる。綿布の在荷も亦九年九月末の八萬八千二百俵から十二月末には十二萬九千五百俵となり、十年一月末には約十一萬八千俵となつてゐる。

斯くの如く、綿絲需給狀態は生產過剰の不安を胎んでゐたのである。

こゝに於て十年二月一日の紡績聯合會操短委員會は、四月以降六月迄の操短率を、現行四晝夜休業規準一割一分二厘から五分擴張の一割六分二厘とすることに決した。最初大紡績側では操短擴張に反對したが、小紡績側では擴張を猛烈に主張して、結局右の如く五分擴張となつたのだ。小紡績が操短擴張を主張する理由は、言ふ迄もなく中太絲の採算惡化によつて苦痛を感じるからであるが、大紡績は從來の決算に於て充分の保留益を持つてゐるし、安値原棉の手持も豐富で、一期や二期の不況に堪

へ得るのみでなく、輸出を積極的に增加させるためには低絲價を維持することが必要であるとして、操短擴張に反對したのである。が結局、『我々小紡績が潰れても宜しいと考へられるか』といふ小紡績の猛烈な主張の結果、大紡績の讓歩、卽ち、操短擴張となつたわけである。

この五分操短擴張によつて紡績業界には一先づ安定が與へられるものと思ふ。卽ち四―六月の生産高は三十一萬梱見當となり、內地消費十三萬梱を差引き十八萬梱を輸出すればよいことゝなり、九年に比して月二萬梱を增加すれば足りる。輸出の前途は勿論今から豫想するのは早計だが、二萬梱は九年中の輸出月平均十六萬梱に比し一割二、三分の增加率に當るから、此の程度の輸出增加が續けば、需給が釣合ふ譯だ。從つて今次の操短擴張によつて、需給の惡化は一先づチエツクされ、目先き安定したものと思はれる。

然し乍ら、これによつて大紡績對小紡績の利害の背反、言ひ換へれば綿製品輸出に對する兩者の見解の相違は解決されて了つたのではない。綿絲市價の維持乃至引上は輸出を阻み、輸出の積極的增進の爲には綿絲價格を引下げなければならぬ、といふ矛盾は我紡績界の惱みとして依然殘されてゐる。

## 第七節　勞働者階級の狀態

此の九年第四四半期に於ける我が勞働階級の狀態は、決して良化の過程を辿つたものとは言ひ得ない。勿論實收賃銀（日銀調勞働統計）が引續き幾分の上昇を示した事は否定すべくもないが、生計費（東朝調全國生計費指數）の昂騰は、その賃銀（日銀調勞働統計）の上昇を凌駕して居る。之は勞働者の生活の困窮化を物語る注目すべき指標だ。特に、凶作に依る農村の困窮は、延ひて勞働市場への農村子弟の大量蝟集を招來し、勞働賃銀引上げを阻止しつゝあるといふのが現狀だ。全く最近の勞働階級の狀態は生計費の昂騰、勞賃引上げの困難といふ二つの大きなフアクターの狹擊に遭つて、低劣化の傾向を辿りつゝあるものと斷ぜざるを得ない。言ふまでもなき事乍ら、概觀して斯くの如き狀態にあるとは言へ、事業の種類、勞働者の熟練の程度に依つて勿論其の影響は異ふ。以下吾々は、前述の二因素に注意しつゝ最近の勞働者階級の狀態が如何に變化し、且變化しつゝあるかを見る事としよう。

### 一、一路向上の勞働人員指數

昭和七年以來一路向上の過程を辿つてゐる勞働人員指數は依然として其の傾向を變じない。總平均指數に於ては、まだ基準年たる大正十五年を拔かないが、男子指數のみを取つて見れば、十一月のそれは一〇二・六を示し、既に基準年を突破するといふ好調である。就業度の向上は否定すべくもない。とは言へ、之を以て直ちに失業者も大正十五年程度に減じたと見るは當らない。何となれば、人口の增加、要就業年齡人口の增加を考慮に入れねばならぬからだ。恐らく今日の就業狀態ではまだ大正十五年當時に數倍せる失業軍の存在する事は否定出來まい。

更に吾々が進んで事業別に觀察する時、事業に依り異しい班のある事に氣付かざるを得ない。跛行景氣を如實に物語るものであるが、此の景氣の跛行、事業別に依る活況度の相違は、勞働者の狀態に跛行的影響を與へずには置かぬ。第一表にも見ゆる如く、著しく勞働者を吸收しつゝある事業は、主として軍需工業・重工業部面と特殊の輸出產業とである。機械製造業が十一月に一七九・八といふ、素晴しい指數を示してゐるのを筆頭に、輸出產業として海外から、各種の抑壓策が講ぜられつつあると傳へる護謨製品業の一五八・七が著しく目につく、其他器具製造業、金屬品製造業、製藥業等も基準年度を遙に拔いた高い指數を示しつゝある。

が他方繊維工業方面は、基準年度に比べると著しく低位にある。例へば十一月の指數で見て製絲業は六一・三、紡績業は七一・九、織物業は七七・五を示すが如きは、その著例だ。然し此の繊維工業方面の勞働人員指數が低位にある事を以て直ちに我が繊維工業が不振にあると斷づるは早計と言はねばならぬ。たゞ製絲業のそれのみは近來の蠶絲恐慌から見て當然と肯かれるが、他の紡績業、織物業等は間斷なき機械化、合理化の進行で勞働者の必要は日と共に、減少の傾向を辿つてゐる。繊維工業勞働者が農村出身の女子を以て供給されてゐる事は此所で今更ら喋々する要はないが、近來の農村の不況は著しく此の方面への勞働供給を增加しつゝある事は事實だ。從つて之等の工場への就職には嚴重な身體檢査と性能試驗が課せられ、就職後と雖も、能率向上の見込なきものは容赦なく、取換へられると言ふのが現狀だ。之こそ勞働の

（調査日本銀行調）勞働人員指數（大正15年＝100）

| | 十一年八月（A） | 九年九月 | 同十月 | 同十一月（B） | B－A | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 總指數 | 85.2 | 93.5 | 94.1 | 94.9 | (+) | 9.7 |
| 男子 | 91.7 | 100.8 | 101.7 | 102.6 | (+) | 10.9 |
| 女子 | 78.7 | 86.3 | 86.7 | 87.5 | (+) | 8.6 |
| 繊維工業 | 65.9 | 61.6 | 61.5 | 61.3 | (−) | 4.6 |
| 製絲業 | 65.1 | 70.8 | 71.1 | 71.9 | (+) | 6.8 |
| 紡績業 | 72.6 | 77.5 | 77.4 | 77.5 | (+) | 4.9 |
| 織物業 | 94.9 | 109.8 | 109.5 | 110.2 | (+) | 15.3 |
| 整理業 | 85.2 | 90.2 | 90.0 | 89.9 | (+) | 4.7 |
| 機械製造業 | 150.6 | 175.2 | 177.9 | 179.8 | (+) | 29.2 |
| 造船業 | 86.0 | 105.8 | 108.4 | 110.6 | (+) | 24.6 |
| 車輛製造業 | 91.1 | 108.9 | 109.5 | 110.4 | (+) | 19.3 |
| 器具製造業 | 115.7 | 133.2 | 136.1 | 137.4 | (+) | 21.7 |
| 金屬品製造業 | 105.2 | 120.7 | 122.4 | 123.9 | (+) | 18.7 |
| 窯業 | 76.4 | 82.1 | 81.8 | 82.2 | (+) | 5.8 |
| 製紙業 | 78.0 | 80.8 | 81.3 | 81.4 | (+) | 3.4 |
| 製藥業 | 114.1 | 126.9 | 128.4 | 129.4 | (+) | 15.3 |
| 護謨製品業 | 149.3 | 150.6 | 150.0 | 148.7 | (−) | 0.6 |
| 肥料製造業 | 78.8 | 84.8 | 85.5 | 87.5 | (+) | 8.7 |
| 本木工業 | 85.6 | 84.6 | 87.0 | 87.6 | (+) | 2.0 |
| 食物製造業 | 95.3 | 95.8 | 96.2 | 97.2 | (+) | 1.9 |
| 刷製本業 | 74.9 | 75.9 | 76.3 | 79.7 | (+) | 1.8 |

（備考）總指數及男女別指數には製絲を含まず

需給關係の最も不均衡な産業部門に於て常に繰返される慘ましき光景だ。我が繊維工業勞働者は農村の極度の不況と、合理化、機械化の二方面より挾撃され萎縮の過程を驀進しつゝあると言ひ得よう。

吾々は曩に軍需工業・重工業部面と或種の輸出産業部面が著大なる勞働者軍の吸收をなした事を見た。勞働の需給關係は此の方面に於ては確かに好ましき狀態にある如くに見られる。然し乍ら、些細に之を檢討する時は、之等の部面の勞働の需給狀態も、一般的に良好であるとは決して言へない。重工業部面の勞働者の需要は主として熟練工であつて、未熟練工は決して歡迎せられてゐるものではない。今日之等重工業部面が最も希望し、其の獲得に最も苦心しつゝあるは熟練工である。如何に最近熟練工が不足してゐるかは日本工學工業庶務課長宗義夫氏の熟練機械工に關する座談會に於ける談話が最もよく之を物語るであらう。

**宗氏**……私の方も先程來お話のありました樣に、七年の春過から、づつと忙しくなりまして、方々に御願ひしまして、職工を募集しましたが、初めの間は五百、六百といふ樣な澤山の人が押寄せて參りました。是等を試驗して入れまして相當優良な人を多數入れることが出來たのでありますが、日が經つに伴れ漸次質が落ちて參りまして、此所一年半ばかりといふものは、例へば、ミーリング工が十人欲しいと思つて方々に賴んで募集致しましても、十人か二十人位しか來ない。どうかすると一週間も二週間も經つても一人も技術試驗のみならず、人物考査にも合格する人が來ないといふ樣な狀態でありまして、ここ約一年位は旋盤工初め有ゆる職手に於て優良な技術を持つものは一名も得られないといふ樣な狀態になつて參りました。（雜誌「職業紹介」昭和九年八月號熟練機械工に關する座談會）

斯くの如く一方に熟練工の拂底を極めつゝある時、他方數多くの不熟練工が、同樣の就業規則に服し、同樣な工場內の仕事に從事しつゝあるにも拘らず臨時工として過酷な取扱を受けつゝある事を見逃す譯にはゆかぬ。重工業方面に新に就業せる過半數が臨時工としてゞある事は殆ど疑ふ餘地がない樣に思はれる。內務省社會局は臨時工としての不當取扱に就て、去る八年末に各地方長官に取締方を通牒したが、其の實は殆ど擧がつてゐない樣に思はれる。最近各府縣に對し、臨時工に關する調査を命令したと言ふから、具體的な數字として近く其の結果が發表される事と思ふ。然し今はたゞ、左の人夫名義臨時工制度座談會の、日本蓄音器の從業員日下德丸氏の談話に依つて其の一班を窺つて全貌を推す事にしよう。

**日下**……私の工場では、昭和五年四百人中臨時工が八十人位居りました。これをこのまゝおくことは松岡（駒吉）さんのいふ樣に賃銀低下を默認することになる。……吾々の支部では會社に交涉して昭和七年までには臨時工を全部廢する樣にしたが、最近になつて又臨時工が猛烈に採用されて來て、仕上、旋盤等の技術工には都會勞働者が十人から二十人ばかり救はれたが、他は全部農村から採用した。昭和八年八月臨時工は二十一名であつたのが、昭和九年九月には三百三十二名となつてゐます。之は悉く農村出と言つてよい。賃銀はほんの申

譯的なものでお話になりません。（十年一月號、勞働經濟）

農村の不況が續く限り、勞働市場は、之等不況の切拔策として都市に職を求めて蝟集する農村出身勞働者の爲に、著しい失衡狀態に陷るばかりではなく、彼等の非組織的な、動物的生活維持の爲の極端なる就職競爭は、さなきだに向上の見る可きものなき我が勞働者階級の狀態を、更に一層の惡化へと導びきつゝある事は否定すべくもない。次に吾等は賃銀の趨勢に付て概觀する事としよう。

## 二、勞働賃銀に於ける著しい不均勢

勞働人員指數は、基準年度を拔くものも少くなかつたが、賃銀指數はそれに引きかへ基準年度を越すものは一つもない。更に定額賃銀指數に至つては、月を追ふて低下の一途を辿るといふ悲しむ可き現象をさへ呈してゐる。

### （A）賃銀の推移

**（一）定額賃銀指數**　いま定額賃銀の推移を事業別に觀察するに、前年同期と比較して著しい低下を示したものは車輛製造業、機械製造業、製藥業等を擧げる事が出來る。之等は、勞働人員指數の著しく向上せる事業である事は前述の如くであるが、之は新傭勞働者の賃銀が極めて低廉なる結果であつて、算術平均を以て算出せる指數が著しく下向するは當然と言はねばならぬ。從つて指數の低下を以て直ちに之等の產業部門に於ける賃銀の切下げが行はれつつあると斷ずるは當らない。中には熟練工として相ひ次いで賃銀の引上げを受けつつある者も決して少數に止まらないからだ。

總指數が、十一月に於て八二・三を示してゐる所から見れば、基準年度と如何に著しい相違があるかに氣付かづにはゐられまい。而も今後も農村の不況の激化と共に、飢餓線を彷徨する農村出身者が雪崩を打つて押し寄せ樣とする現狀からすれば新傭勞働者の賃銀が益々低下すべき方向にある事は否定出來ない樣に思はれる。現に東京朝日は東北出身勞働者が如何に苛酷な取扱を受けつゝあるかに就て次の如く報じてゐ

（二）定額賃銀指數（日本銀行調）（大正15年＝100）

| | 八年十一月（A） | 九年九月 | 同十月 | 同十一月（B） | B－A |
|---|---|---|---|---|---|
| 總指數 | 84.0 | 82.6 | 82.6 | 82.3 | (−) 1.7 |
| 男 | 85.1 | 83.7 | 83.6 | 83.3 | (−) 1.8 |
| 女 | 78.9 | 77.8 | 77.8 | 77.7 | (−) 1.2 |
| 製絲業 | 61.0 | 61.1 | 61.2 | 61.7 | (+) 0.7 |
| 紡績業 | 69.5 | 67.3 | 67.8 | 68.3 | (−) 1.2 |
| 織物業 | 71.3 | 72.8 | 72.9 | 73.2 | (+) 1.9 |
| 染色整理業 | 84.2 | 83.1 | 83.2 | 83.3 | (−) 0.9 |
| 組物編物業 | 75.2 | 72.9 | 73.2 | 73.8 | (−) 1.4 |
| 機械製造業 | 83.9 | 80.2 | 80.1 | 79.7 | (−) 4.2 |
| 船舶製造業 | 90.9 | 89.3 | 89.4 | 89.2 | (−) 1.7 |
| 車輛製造業 | 84.6 | 79.5 | 79.4 | 79.1 | (−) 5.6 |
| 器具製造業 | 84.3 | 80.6 | 80.5 | 80.1 | (−) 3.2 |
| 金屬品製造業 | 87.2 | 86.6 | 86.5 | 85.6 | (−) 1.6 |
| 窯業 | 85.6 | 84.1 | 84.2 | 83.7 | (−) 1.9 |
| 製紙業 | 89.7 | 88.5 | 88.3 | 87.1 | (−) 2.6 |
| 製藥業 | 91.9 | 88.8 | 88.5 | 87.9 | (−) 4.0 |
| 護謨製品業 | 82.4 | 82.1 | 82.2 | 82.4 | — |
| 人造肥料業 | 98.9 | 98.5 | 98.7 | 98.5 | (−) 0.4 |
| 飲食物工業 | 92.8 | 91.0 | 90.6 | 89.7 | (−) 3.1 |
| 印刷製本業 | 82.5 | 80.5 | 80.4 | 80.3 | (−) 2.2 |
| 製材家具工業 | 76.7 | 77.3 | 77.5 | 76.7 | — |

（備考）總指數及男女別指數には製絲を含まず

る。之はほんの一例に過ぎない。が、之こそは新傭勞働者の賃銀上向を阻止するブレイキだ。

**凶作地を出て稼ぐ青年に生地獄**……深刻な凶作から賣られ行く東北娘の身賣防止に關係當局は甘萬圓をもつて救濟に努力してゐるが今度は勞働職場に身を賣つた凶作地の青年が過重勞働を强要され遂に瀕死の淵から救援を求めるといふ新問題が突發した。娘が身體まで賣らうといふ凶作地で現金が摑めればどんな職場でもと青年が勞働條件の契約などはほとんど頓着せずに出稼ぎに飛び出すのは無理もないがこれがため虐使されてゐる。關東地方の某地に建設中の某作業場に昨年の秋東北六縣から三百五十七名の青年が土方として雇はれて來たが此青年達はいづれも十圓乃至三十圓を前借してゐた、しかしこの工事場は朝の五時から夕方の五時まで十二時間の過激な勞働を强要され、しかも危險な作業が多いので勞働の過重から病氣になるものが少くない。その上日給の一圓三十錢もその大部分は飯場等に取られるので實家への送金どころか借金が出來る有樣に昨年暮頃から最近まで二百名近くの青年は遂に工事場から脫走した。飯場で脫走したものがあれば脫走者の前借金は同じ飯場の土工が分擔させられるので百圓以上の借金は忽ち出來るといふ有樣。

青森縣上北郡浦野館村上野から十四名の青年がここにゐたが村に救ひを求めて來たので同村の青年團長米內山義一郎氏が救援に赴いたところ工事監督等から袋叩きにされ東京地方職業紹介事務局に救ひを求めて來た、同事務局では工事場と强談判に及び右十四名を救ひ出し京濱地方の職場に斡旋した、これは單なる一例でかうした事實は他にも澤山あるだらうと見られてゐる。（東京朝日一〇・一・二三）

**（二）實收賃銀**　定額賃銀が一路下向を辿つてゐるにも拘らず、實收賃銀は上昇を續けてゐる。實收賃銀は定額賃銀を基礎とするものであるから、他の事狀にして變化なしとすれば、定額賃銀指數の下向につれて低下しなければならぬものである。然るにそれが依然として向上を續けてゐるのは何故であるか。之は增給が、諸手當、又は割增金の形を以て行はれ、本給を增加させない結果であらう。不況期に於ける賃銀引下げ難を知悉する企業家としては、又當然の處置と言はねばならぬ。

然し乍ら、右と並行して、更に考慮に入れねばならぬ問題は熟練工の不足である。或種の作業は如何にするも熟練工を以てしなければばなし得ないものがある。注文が殺倒し、納期に迫られゝば、勞働時間の延長を、如何にしても行はざるを得ない。其所で時間の延長に對しては多額の增割金が與へられると言ふ譯で、實收賃銀は極度

（三）實收賃銀指數（大正15年＝100）（日本銀行調）

| | 十年八月（A） | 十一年九月 | 同十月 | 十一月（B） | B－A |
|---|---|---|---|---|---|
| 指數 | 89.5 | 90.0 | 91.1 | 92.4 | (+) 2.9 |
| 男子業 | 95.0 | 94.9 | 96.1 | 97.8 | (+) 2.8 |
| 女子業 | 68.5 | 67.2 | 67.6 | 67.8 | (−) 0.7 |
| 絲紡業 | 60.7 | 64.0 | 61.7 | 62.9 | (+) 2.2 |
| 織物業 | 62.6 | 60.9 | 61.4 | 61.6 | (−) 1.0 |
| 染色整理業 | 66.5 | 66.5 | 66.8 | 67.4 | (+) 0.9 |
| 組物業 | 83.3 | 81.6 | 82.6 | 81.8 | (−) 1.5 |
| 機械器具製造業 | 71.3 | 65.7 | 66.5 | 66.9 | (−) 4.4 |
| 船舶製造業 | 98.8 | 95.2 | 96.0 | 98.1 | (−) 0.7 |
| 車輛製造業 | 97.5 | 96.5 | 97.6 | 101.3 | (+) 3.8 |
| 具製造業 | 90.4 | 84.6 | 83.9 | 84.8 | (−) 5.6 |
| 金屬製品製造業 | 88.2 | 83.8 | 83.9 | 85.4 | (−) 2.8 |
| 窯業 | 96.2 | 96.7 | 98.6 | 100.1 | (+) 3.9 |
| 製紙業 | 84.0 | 80.1 | 81.4 | 82.0 | (−) 2.0 |
| 製藥品業 | 91.8 | 91.3 | 91.4 | 91.0 | (+) 0.8 |
| 製肥料業 | 79.0 | 78.1 | 77.5 | 78.6 | (−) 0.4 |
| 製粉業 | 86.9 | 87.8 | 88.4 | 87.0 | (+) 0.1 |
| 製造食品業 | 93.9 | 92.5 | 94.0 | 94.9 | (+) 1.0 |
| 印刷業 | 91.4 | 91.9 | 92.2 | 92.3 | (+) 0.9 |
| 製本業 | 91.8 | 89.3 | 89.2 | 92.4 | (+) 0.6 |
| 護謨製品製造業 | 72.4 | 72.8 | 74.0 | 76.2 | (+) 3.8 |

に增加するといふ現象を呈する。熟練工の割增金が如何に多額なものであるかは、次の新聞記事に依つても十分窺ひ得るであらう、世に勞働貴族なる語が、之等熟練工に當てられつゝあるのも宜なるかなと肯かれる。

**熟練工の奪ひ合ひ**＝機械工業の會社などはしきりに「熟練工」を探してゐるが、もうどんなに探しまはつても熟練工は全くゐないといつてゐる程、熟練工が引つ張りだこになつてゐる、軍需インフレの波にのつて如何な小さい個人工場でも、どんどん增築增築といふ擴張振りである、その中でも精密機械を取扱つてゐる關係から一番職工の給料のいゝといはれる日本光學工業會社をのぞいてみる、茶褐色の職工服を着た庶務課長さんの話給料がいゝといふのは特殊技能の職工が多いといふ關係からです、そんな關係から八時間制の勞働時間も引延ばされ大抵十四、五時間は働く、この夜勤手當は最初の一時間は給料の八分ノ一で、三時間目には四分ノ一になる、十時過からは一時間毎に八分ノ一だけそれに遞增してゆく……從つて本給の二倍から三倍近くになるといふ譯です。（東京朝日）

## （B）生計費は著騰

賃銀の上昇程度には著しい班があるのであるが、最近の生計費は著騰して、不熟練勞働者（失業者は無論だが）の生活を著しく脅威しつゝある。朝日新聞調査の全國生計費指數に依れば、總指數は十二月末に於て一七九を示し、前年同期の一六九に比べて眞に一〇點（六%九）の昂騰である。實收賃銀

（四）　全國生計費指數（朝日新聞社調）（大正3年7月＝100）

| | 八年十月 | 同十一月 | 同十二月 | 十年九月 | 同十一月 | 同十二月 | 九年前年同期 | 十二月の對增減率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | % |
| 總數費 | 169 | 170 | 169 | 180 | 180 | 179 | (+) | 5.9 |
| 食費 | 142 | 144 | 142 | 163 | 162 | 161 | (+) | 13.4 |
| 居費 | 235 | 235 | 234 | 234 | 234 | 234 | (−) | 0.4 |
| 熱費 | 175 | 181 | 184 | 184 | 185 | 185 | (+) | 5.7 |
| 服費 | 144 | 144 | 143 | 149 | 148 | 147 | (+) | 2.1 |
| 化費 | 179 | 179 | 179 | 181 | 181 | 181 | (+) | 1.1 |

指數は、二・九（三二%）の上昇を示したに過ぎないのだから、明かに勞働階級の生活は苦しくなつた。右の生計費の昂騰を內容的に見れば主として飮食物の著騰にある事が知られ得る。全く凶作の爲である。凶作は一方に於ては、生計費の昂騰を招來すると共に、他方農村よりの飢餓的勞働の大量造出をなし、勞働市場に於ける賃銀下向を助長しつゝある。此の一年間は特種事態の發生せざる限り、勞働者の狀態は良化されないであらう。

## 三、勞働時間延長は中小企業に甚し

軍需工業方面の勞働時間の延長が盛行されてゐる事は今さら言ふまでもあるまい。日銀の勞働統計に現はれたる平均勞働時間は次表の如く、前年同期に比してさして延長されてゐるとは見えない。勿論、斯種の統計に正確を期するは木に依つて魚を求めるにも等しく、實際の勞働時間は十數時間であるにも拘らず報告は十時間とすると言ふが如きは恐らく枚擧に遑あるまい。事實模範工場として表彰された東洋紡王子工場では、他の事件で

取調べられてゐた一女工の口から、はしなくも、一日十五時間といふ極端なる長時間勞働が强制されてゐる事が發覺した。然も會社側では、此の保護職工に對する法定勞働時間以外の勞働に對しては、現金給付を行ひ、帳簿面では全然勞働時間の延長を行つてゐない如く裝つてゐたといふ有樣だ。この樣な事實は、隨所に見出されるであらう。

右の如き大工場は、法律を以て取締る事が出來るのであるが、職工十人以下の小工場に於ては、工場法は適用されず、如何に長時間勞働を强制するも、法的には何等の制裁を受けないのである。而も最近、家內工業的小企業が繁忙を極めてゐる現狀からしては、此の方面には特に大いなる注意が向けられる必要がある。

小企業は如何にも其所に働く勞働者は少數であるが、それが國內隨所に散在してゐて、實際勞働者の數は合計すれば恐らく數十萬には達しよう。之等の工場は主として、大工場の下受けをなし、納期は嚴重に守らねばならぬ上に、繁閑の度合が常に一定せず、或時期には晝夜兼行でも尙ほ手が足らぬと言ふ狀態であるかと思へば、他の時期にはさ程でもない。而も下受け價格が極端に安いため、勞働者の增加は困難である。斯くて著しい勞働の强化が必然的に行はれざるを得ない狀態にある。內務省社會局では此の不合理な狀態を調整する爲、小企業者間に適當なる方策を取る可く慫慂しつゝあるが、最近小企業家の結合に依つて、問屋からの隷屬を脫し、使用勞働者の勞働條件適正化を企圖する運動が結實した。それは、濱松市附近に存在する遠州捺染整理工業組合盛興社第三部を構成する內地向小幅物整理工場（工場數三七、職工數約五百）である。斯業は織物問屋より工賃請負にて注文を受け作業するものであるが、內地向織物の漸減に依つて問屋側よりの重壓は益々加はり、同業者間の注文爭奪と相俟つて、極端な採算無視の惡條件で引受け、切迫せる納期の爲晝夜兼行で作業せざるを得ざる狀態であつた。勞働者の受ける待遇が良い筈がない。賃銀は切下げ得られるだけ切下げられ、而もそれすら滿足に支拂へぬといふのが現實であつた。斯くの如きが堪へ得られるものでない。勞働條件適正化の申合せが企業者側からなされたのは決して怪しむに足らぬ。今同申合せの主要部分を摘記すれば左の如し。

一、就業時間ハ一日ニ付十一時間トシ如何ナル繁忙ナル場合ト雖延長セザルコト
一、就業時間ノ嚴守ニ依リ職工ノ賃銀收入ニ影響セシメザルコト
其レカ爲メニハ整理工賃ヲ問屋側ニ對シ交涉シ全力ヲ擧ゲテ協定工賃ヲ實行スル事。

## (五)　事業別勞働時間（日本銀行調）

（單位時間）

| | 八年十月 | 九年七月 | 同八月 | 同九月 | 同十月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 纖維及染色工業 | 9.50 | 9.51 | 9.51 | 9.53 | 9.53 |
| 機械及器具工業 | 9.58 | 10.01 | 9.59 | 10.02 | 10.07 |
| 化學工業 | 9.44 | 9.47 | 9.45 | 9.46 | 9.44 |
| 飮食物工業 | 9.26 | 9.32 | 9.30 | 9.34 | 9.32 |
| 雜工業 | 9.39 | 9.35 | 9.36 | 9.42 | 9.44 |
| 平均 | 9.47 | 9.49 | 9.48 | 9.51 | 9.52 |

一、問屋トノ協定工賃ハ今後如何ニ不況ノ場合ト雖モ絶對ニ歩引ヲ爲サヾルコト若シ窃カニ歩引ヲ爲ス者ハ嚴テ職工ノ就業時間ヲ案ルカ然ラスンハ職工ノ賃銀支拂ヲ完全ニ行ハサル等結局勞働ノ搾取ニ陷ル他ナキヲ以テ嚴重自重スルコト。（社會局勞働時報九年九月號）

## 四、勞働爭議は增加に轉ず

勞働爭議は、件數に於てかなりの增加を示してゐる。卽ち十、十一月合計に於て八年のそれは二三七件であつたに對し、九年は二七六件と三十九件を增してゐる。にも拘らず、參加人員は一萬七千百九十二人から、一萬五千二百五十四人へと一千九百三十八人を減じ、爭議一件當りの參加人員は七十二人から、五十五人に減じた事になる。爭議の小企業への移行を思はせるものがある。

事業別に見た爭議件數は、化學工業を筆頭に、機械器具工業、雜工業の順になるが、前年同期に比して著しい增加を示せるものとしては、化學工業の三十三件增、機械器具工業の一六件增等がある。

さて、然らば右の爭議の要求せるものは何であつたか。吾々は次に要求事項別に之を見る事が必要である。要求事項中、顯著に增加せるものは、賃銀增額要求の六十件增である。八年、十、十一兩月の合計が、七十四件であつたのに對し、九年のそれは、實に百三十四件といふ驚く可き增加を示してゐる。爭議件數中に占める賃銀增額要求の割合は殆ど五割に當る。最近の勞働爭議が、如何に多く賃銀增額要求に端を發してゐるかゞ窺はれる。其他の事項は、「賃銀算定支給方法變更又は反對」の十二件增、賃銀支拂要求の十件增等が擧げられるが、之等は曩の賃銀增額要求に比すれば、實に僅少なものと言はねばならぬ。

（六）十、十一月勞働爭議業態別統計（社會局勞働部）

| | 九年 | | 八年 | | 增減 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 參加件數 | 二七六 | | 二三七 | (十) | 三九 | |
| 參加人員 | 一五、二五四 | | 一七、一九二 | (一) | 一、九三八 | |
| 機械器具製造業 | 三八 | (十) | 二二 | (十) | 一六 | |
| 化學工業 | 六六 | (十) | 三三 | (十) | 三三 | |
| 染色工業 | 二九 | (一) | 三五 | (一) | 六 | |
| 飮食物工業 | 九 | (一) | 一一 | (一) | 二 | |
| 雜工業 | 三三 | | 四一 | (一) | 八 | |
| 鑛業 | 八 | | 八 | | | |
| 瓦斯電氣事業 | 四 | (十) | 三 | (十) | 一 | |
| 運輸業 | 二九 | (十) | 二五 | (十) | 四 | |
| 土木建築業 | 三 | (一) | 二四 | (一) | 一 | |
| 通信業 | | | | | | |
| 其他 | 三七 | (十) | 二五 | (十) | 二 | |

以上に依つて次の如く推論する事は必ずしも不當ではあるまい。卽ち、最近の勞働爭議は小規模であるが、それは、一つには小企業への移行の爲でもあるが同時に、他方大企業に於ける爭議も、勞働者內部に於ける、熟練の程度に依る支給額の顯著なる差違から生ずる利害の不一致、從つて爭議は薄給な、臨時工的勞働者の部分的爭議となりつゝある爲でもある。從つて其の爭議の結果は、勞働者側に有利に解決されないと言ふ事も容易に想像される所だ。何となれば、小企業は、今日では主として、大企業の下受けをしてゐる者が多く、大企業の提出する諸條件は決して小企業者には有利ではなく、從つて小企業者は勞働者を薄給を以て酷使せざるを得ない狀態にあるからだ。斯くの

如き狀態に於て、賃銀增額の要求をなしても決して有利な解決が得られるとは思はれない。又臨時工が其の待遇の改善を要求した所で、農村に於ける潜在的勞働豫備軍の壓迫の過重してゐる現狀からしては其の改善はなか〳〵困難である。斯くて、彼等は、假令爭議を起しても滿足な解決を與へられないのが通例である。

今後も、生計費昂騰の苦痛から賃銀增額要求は引續いで起るであらう。而も其の解決は以上の諸理由に依つて勞働者に有利なものとはならないであらう事も容易に想像される。凶作に依る農村の疲弊は、そこが著大なる潜在的失業者の貯水池を形成してゐる現狀からしては、勞働者階級の狀態を惡化させずにはをかぬ。農村の困窮が續く限り、我が勞働階級の狀態の全體的良化は望まれないと言つても敢て過言ではあるまい。

（七）十、十一月勞働爭議要求事項別件數（社會局勞働部調）

| | 八年 | 九年 | 增減 |
|---|---|---|---|
| 賃銀增額要求 | 七四 | 一三四 | (+) 六〇 |
| 賃銀減額反對 | 一〇 | 一二 | (+) 二 |
| 賃銀算定支給方法變更又は反對 | 八 | 二〇 | (+) 一二 |
| 勞働時間短縮 | 三 | — | (−) 三 |
| 公休日の設定 | — | 一 | (+) 一 |
| 作業方法規則の變更又は反對 | 四 | 七 | (+) 三 |
| 工場設備其他福利增進の施設 | 二 | 一 | (−) 一 |
| 解雇退職手當の確立又は增額 | 三四 | 二九 | (−) 五 |
| 組合の自由確認 | 二 | 一 | (−) 一 |
| 監督者の排斥 | 一〇 | 六 | (−) 四 |
| 賃銀支拂 | 二五 | 一五 | (−) 一〇 |
| 休業反對 | 八 | 二 | (−) 六 |
| 休業手當の支給又は增額 | 三 | 一 | (−) 二 |
| 解雇反對又は解雇者の復職 | 三七 | 二八 | (−) 九 |
| 雜 | 一八 | 一八 | — |
| 計 | 二三七 | 二七六 | (+) 三九 |

# 第八節　東北凶作の原因とその對策

一九三四年の秋、我國農村を全面的に襲つた凶作恐慌、そしてそのために一層の窮乏に追ひやられた農村の窮迫狀態は、ジヤーナリズムによつて、人道主義的感傷にまで發展せしめられ、街頭義金募集風景の戲畫化となつてその頂點に達した。

だが、この凶作恐慌も、その原因が呪はれたる不可抗的な天の災害に歸せしめられた、恰もそれを裏書きするが如く、一九三五年の朗らかなる天候と共に、遠い過去の夢として忘れ去られたかに見える。吾々が前輯に於て、いち早く凶作の全樣相を報道したにも拘らず、こゝに再び凶作の原因——特に對象を東北地方の凶作に限定する——を檢討せんとする所以である。

然し吾々は、その前にまづ、其の後の農村の一般情勢を、簡單にでも述べなければならない。

## （一）農村の一般情勢

### A　米の實收高と米價

まづ九年産米收穫高は、作付反別の減少もあるが前年收穫高に比して一割七分二厘の減收である。反當り收穫高は前年より二割六分九厘、前五ヶ年平均收穫高より一割六分の減少に當る（第一、第二表參照）。

（一）九年産米實收高　增　減（△は減）

| | 實收高 | 第二回豫想收穫高に比し | 前年收穫高に比し | 前五箇年平均收穫高に比し |
|---|---|---|---|---|
| 總數 | 五一、八三九、六二九 | △一〇九三、四八九 | △二八、九八九、四八八 | △一〇、七三、九一三 |
| 北海道 | 一、七四、八九六 | △二、九六六 | △一、四四二、三五六 | 三一九、二二五 |
| ◇東北區 | | | | |
| 青森 | 五九八、四一三 | 三、〇九三 △ | 八三〇、九五七 △ | 五一七、九四三 |
| 岩手 | 五一四、八五〇 | 五〇、七七〇 △ | 八一三、九三八 △ | 六一七、〇五八 |
| 宮城 | 一、一四二、九三三 | 一、八一八 △ | 一、〇三三、九七八 △ | 七〇八、三七五 |
| 秋田 | 一、五三、八三三 | 七、四三八 △ | 六九九、〇七九 △ | 五三三、八三九 |
| 山形 | 一、二九、二四〇 | 一三九、五一〇 △ | 一、一七一、一六七 △ | 九五九、一二五 |
| 福島 | 一、二六一、三八六 | 五六、七〇六 △ | 一、〇一九、三七八 △ | 六三三、八九九 |
| ◇關東區 | | | | |
| 茨城 | 一、九二五、〇六〇 | 九、〇三〇 △ | 一四〇、四八九 △ | 七二、四二三 |
| 栃木 | 一、一六五、三三三 △ | 九七、九六七 △ | 五二六、一八六 △ | 三四九、〇六五 |
| 群馬 | 五七七、三〇三 △ | 六一、三八七 △ | 三六〇、六五八 △ | 二四六、〇五二 |
| 埼玉 | 一、一六六、七六四 △ | 二七、六六六 △ | 二九一、七一九 △ | 二三一、七三 |
| 千葉 | 一、九一〇、三一四 △ | 七七、七八四 △ | 一一、八七三 △ | 一〇五、四〇八 |
| 東京 | 一七七、五二〇 △ | 四、一五〇 △ | 四三、〇五一 △ | 七三、四二〇 |
| 神奈川 | 四三五、九〇一 △ | 二五、八四九 △ | 八八、四九二 △ | 八四、三三三 |
| ◇北陸區 | | | | |
| 新潟 | 二、七二八、七五九 △ | 七七、三九一 △ | 一、四七八、一六九 △ | 八〇一、四八九 |
| 富山 | 一、四八六、一九九 △ | 三〇、九三一 △ | 四二八、八八六 △ | 三〇、一〇四 |
| 石川 | 一、〇五一、五九四 | 三五、八〇四 △ | 二三三、八四八 △ | 六三、〇四四 |
| 福井 | 九一六、九四二 | 七、九六二 △ | 二一〇、三七〇 △ | 七九、〇一七 |
| ◇東山區 | | | | |
| 山梨 | 三七九、六五五 | 一〇、六四五 △ | 八七、八〇三 △ | 四九、二三五 |
| 長野 | 一、二七五、一四〇 △ | 一三、四九〇 △ | 四七九、四六九 △ | 二二、九二九 |
| 岐阜 | 一、一〇七、五〇二 △ | 八、〇四八 △ | 三七九、四六二 △ | 二一〇、八一三 |
| ◇東海區 | | | | |
| 靜岡 | 一、二〇七、二〇二 | 一九、九三三 △ | 二九四、八七四 △ | 二三一、五四九 |
| 愛知 | 一、六〇七、二〇〇 △ | 五六、四六〇 △ | 七四一、八六九 △ | 五三、三五一 |
| 三重 | 一、二三一、五四三 | 六、四三三 △ | 三九四、〇九一 △ | 二三〇、九六五 |
| ◇近畿區 | | | | |
| 滋賀 | 一、三五三、七九一 | 八〇、九五一 △ | 三〇〇、七四七 △ | 一三九、〇一四 |
| 京都 | 七九〇、九四七 | 五六、六六七 △ | 一二五、九一五 △ | 四九、〇四〇 |
| 大阪 | 九一八、五〇一 | 五二、一三一 △ | 二九〇、二九七 △ | 一九六、一二〇 |
| 兵庫 | 二、〇九三、〇八二 | 七二、六一三 △ | 四三一、〇一八 △ | 二四六、一七四 |
| 奈良 | 七三一、五六〇 | 一五、九五〇 △ | 一〇一、〇四三 △ | 四〇、〇八八 |
| 和歌山 | 五六九、四五三 | 三〇、三四三 △ | 一四六、七四五 △ | 八六、〇六七 |
| ◇中國區 | | | | |
| 鳥取 | 五七九、〇六六 | 二、二一六 △ | 一七〇、六六五 △ | 一三、七一〇 |
| 島根 | 九九七、七六三 | 一八、八一三 △ | 一七九、三四〇 △ | 七八、〇五八 |
| 岡山 | 一、六六二、三七六 | 一二一、二〇六 △ | 三四八、三八五 △ | 一四九、二六七 |
| 廣島 | 一、四四八、五九八 | 五五、〇七八 △ | 五三、五四一 | 九八、〇七九 |
| 山口 | 一、三四〇、八五一 | 二八、三三一 △ | 二三一、五二〇 △ | 一五四、一〇一 |
| ◇四國區 | | | | |
| 德島 | 四二六、一九二 | 六、六三二 △ | 二〇〇、八八七 △ | 一三二、〇八七 |
| 香川 | 七六一、九八九 | 三七、七九九 △ | 三〇三、〇九六 △ | 一四五、五五一 |
| 愛媛 | 六四一、八六三 | 九四、一三三 △ | 四六四、七七一 △ | 三四二、八七七 |
| 高知 | 六五六、八三〇 | 二五、四五〇 △ | 一〇九、二四七 △ | 一六、六五四 |
| ◇九州區 | | | | |
| 福岡 | 二、一三、二三〇 | 一六一、六八〇 △ | 五六五、〇二四 △ | 二七一、六四三 |
| 佐賀 | 一、三八七、一六〇 | 一三五、九五〇 △ | 一二四、〇〇一 | 一〇二、一三〇 |
| 長崎 | 五九六、一二九 | 六三、五九九 △ | 一〇七、四〇六 | 一、九〇四 |
| 熊本 | 一、五八〇、二五〇 | 一一六、五一〇 △ | 四一三、八三三 △ | 一七〇、〇七五 |
| 大分 | 一、〇九一、六三三 | 六五、九一二 △ | 三五二、五九〇 △ | 一〇七、〇三二 |
| 宮崎 | 七四二、〇三〇 | 四九、四九〇 △ | 二六四、三三七 △ | 一三九、三〇〇 |
| 鹿兒島 | 九〇八、九四一 | 七三、九九一 △ | 五四九、八三六 △ | 一六、七九三 |
| 沖繩 | 一一三、九三五 △ | 八七五 | 一三、九〇七 | 三八、九九八 |

（二）最近五ヶ年間作付反別及び反當り收穫高

| | 作付反別 | 反當り收穫高（石） |
|---|---|---|
| 昭和四年 | 三三、一〇六、〇四一反 | 一・八六 |
| 昭和五年 | 三三、三九三、二一六 | 二・〇六 |
| 昭和六年 | 三三、四八七、一九五 | 一・七〇 |
| 昭和七年 | 三三、五七〇、〇九四 | 一・八五 |
| 昭和八年 | 三一、七三二、〇三三 | 二・二三 |
| 自昭和四年至昭和八年五ヶ年平均 | 三三、二五七、七一六 | 一・九四 |
| 昭和九年 | 三一、七二八、七三九 | 一・六三 |

農村がかくの如き凶作下にあるので、民間米の供給不足を見越して、政府は去る十二月十七日に、高値警戒の—そして下値無警戒の—公定値を發表した（第三表）。

が、この表で注意されねばならないのは、生産費が高くなつてゐること、そして平均値が生産費以下に落ちてゐるといふことである。農村は平均値で賣れば一石八十錢の赤字となる——前年のそれが

三圓五十八錢の黒字となつてゐるのと對比せよ——。而も昨今深川中米相場は二十九圓二十錢見當で生産費と僅か五十錢そこ〳〵の開きしか維持してゐない狀態である。更に、庭先相場は深川正米標準相場より一圓五、六十錢方低いといふことを忘れてはならない。

假令、政府の米價政策によつて生産費割れが實現しないとしても、また米價の釣上げが行はれるとしても、賣るべき米を所有しない——こゝで飯米は平年でも四月には無くなつてしまふのだが、今年は舊正月までもつまいといはれる東北農村を想起する——半農奴的零細農民にとつては、唯それが「豐年飢饉」と呼ばれないだけのことである。

(三)　公定米價と諸係數

| | 八年産米 | 九年産米 | 差 | |
|---|---|---|---|---|
| 最高値(1) | 三〇・五〇 | 三一・五〇 | 一・〇〇 | (+) |
| 最低値(2) | 三三・三〇 | 二四・三〇 | 一・〇〇 | (+) |
| 平均値(3) | 二六・九〇 | 二七・九〇 | 一・〇〇 | (+) |
| 生産費(4) | 三三・三三 | 二八・七〇 | 五・三八 | (+) |
| (1)と(2)との差 | 七・二〇 | 七・二〇 | — | |
| (1)と(4)の差 | 七・一八 | 二・八〇 | 四・三八 | (−) |
| (2)と(4)の差 | (−) 〇・〇三 | (−) 四・二〇 | 四・一八 | (+) |
| (3)と(4)の差 | (−) 三・五八 | (+) 〇・八〇 | 二・七八 | (+) |

について見る(第四表)。

九年度の牧繭高合計は前年より一割三分八厘を減じ、就中夏秋蠶の減收は最も甚だしく大正十四年以來の最低である。繭價額に於ける減少は、九年の繭安によつて、數量に於けるよりも一層甚しい。

(四)　最年繭生産數量及價額

| | | 春蠶繭 | 夏秋蠶繭 | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 數量 | | 千貫 | 千貫 | 千貫 | |
| | 昭和五年 | 五六、一〇三 | 三〇、三六〇 | 一〇六、四六三 | |
| | 同　六年 | 五三、六六七 | 四四、四〇五 | 九七、〇七二 | |
| | 同　七年 | 四六、三九一 | 四三、一五八 | 八九、五五〇 | |
| | 同　八年 | 五〇、一〇三 | 五一、一四四 | 一〇一、二四七 | |
| | 同　九年 | 四八、三九〇 | 三八、八〇九 | 八七、一九九 | |
| 價額 | | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | 昭和五年 | 二一〇、三六八 | 九三、八四三 | 三〇四、二一二 | |
| | 同　六年 | 一五四、八三三 | 一二〇、七二三 | 二七五、五五七 | |
| | 同　七年 | 一一一、八九八 | 一八四、八九三 | 二九六、七九一 | |
| | 同　八年 | 二九八、八八八 | 二〇一、七二五 | 五〇〇、六一三 | |
| | 同　九年 | 一一七、三四〇 | 八六、七九一 | 二〇四、一三一 | |
| 上白繭相場 | | 円 | 円 | 円 | |
| | 昭和五年 | 四・〇〇 | 二・〇四 | 三・一〇 | |
| | 同　六年 | 三・〇八 | 二・九六 | 三・〇三 | |
| | 同　七年 | 二・五四 | 四・七〇 | 三・五四 | |
| | 同　八年 | 六・二五 | 四・二七 | 五・三八 | |
| | 同　九年 | 二・七五 | 二・三〇 | 二・五三 | |

(備考)　繭相場は昭和八年迄農林統計、九年は農林省調全國主要集散地の相場に依る。

九年度の牧繭高の減少の一原因として蠶掃立の手控へがある——。第六表の桑園整理がこれを物語つ



それは前年に比して約三億圓の減額といふだけでなく實に恐慌が底をついた昭和六年に比しても七千百餘萬圓を減じてゐる。

而もそれは養蠶農家の犧牲——缺損續き——に於て繼行・維持されてきたのである。試みに、完全とは言へないが——我國に於ける繭生産費の調査は甚だ不完全なものしかない——繭の生産費とその賣値との統計をとつて比較して見れば、第五表の如く、昭和五年の春蠶以來黒字を出したのは、たゞ八年の春蠶があるのみである。

かくて、繭價安に際しては、極力現金收入の減少を防がんとして生産額の增大に努めてきた農家も、遂に全體的には養蠶業の縮少に向はざるを得なくなつた——

（五）繭の生産費及其賣値との差

| | 春蠶繭 生産費 | 春蠶繭 賣値との差 | 夏秋蠶繭 生産費 | 夏秋蠶繭 賣値との差 |
|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 昭和四年 | 六・九九 | 〇・五七 | 六・二五 | 〇・二六 |
| 同　五年 | 五・六五 | (一)一・六五 | 四・三七 | (一)二・三三 |
| 同　六年 | 三・七八 | (一)〇・七〇 | 三・四五 | (一)〇・四九 |
| 同　七年 | 四・三二 | (一)一・七八 | 五・六〇 | (一)〇・九〇 |
| 同　八年 | 三・六八 | 二・五六 | 四・〇五 | (一)〇・二一 |
| 同　九年 | 三・六八 | (一)〇・九三 | 四・〇五 | (一)一・七五 |

（備考）生産費は昭和六年以前蠶絲業同業組合中央會調査、昭和七年農林省養蠶經營調査成績、昭和八年帝國農會調査に依る。但し九年は前年と同様と見做した。(一)は損失勘定。

の生産增が生じはしないか、また生絲需要はどうか等、前途に對する問題はかなり多い筈だ。假令、それらの諸條件を一應背後に押しやり繭價の騰貴が實現するとしても、生計補充的副業としての養蠶すらなし得ない窮迫零細貧農にとつては、それは對岸に咲いた桃の花の價値もないであらう。

尤も、九年秋以來絲價の回復が見え、從つて乾繭相場も九年の生繭相場に比すれば著しく昂騰してきてはゐる（東洋經濟新報、昭和十年二月二日號、五一頁參照）これは養蠶恐慌に喘ぐ農村にとつて一縷の光明を與へるかに見える。

（六）桑園反別の變化（單位町）

| | 全國桑園反別 | 政府補助に依る整理反別 | 計 |
|---|---|---|---|
| 昭和三年 | 六〇九、〇九一 | — | |
| 同　四年 | 六三五、六七三 | — | |
| 同　五年 | 七一四、一七五 | — | |
| 同　六年 | 六八二、七七三 | — | |
| 同　七年 | 六五二、五一四 | 一五、七五八 | |
| 同　八年 | 六四〇、〇八六 | 九、一〇六 | |
| 同　九年 | — | 三〇、〇〇〇 | |
| 同　十年 | — | 三〇、〇〇〇 | |
| 同十一年 | — | 三〇、〇〇〇 | |

が、これとても繭高を見越して

## （二）東北凶作の原因とその對策

扨、次に慘禍最も甚だしいと傳へられた東北地方に於ける凶作についてその基本的原因を引出してみやう。

### 一、二つの見解

（A）自然的原因―「太陽黑點說」等＝全國的凶作の原因として擧げられたものがそうであつた如く、東北地方に於ける凶作も、その俗流的見解に從へば、自然的・地理的原因にのみ歸せられてゐた。この「凶作天災說」の最も典型的なものとして、超社會的な「太陽黑點說」が、相も變らず最も科學的な理論であるかの如き粉飾を凝らして現はれる。

「太陽黑點說」に從へば、東北地方は作物殊に稻作の溫度に對する氣象的限界點にあるといふ。故にその限界的溫度が、黑點數の最多最少及びその附近の年に於て、平年と異る氣壓狀態によつて變化せられる傾向が强いために、凶作となり易いとする（註一）。而もそれを圖表化し、凶作型にはまつてゐると理論づける（註二）。それは一見まことしやかに受取られる。更に自然的原因を說くものは、東北地方に於ける潮流の關係――北からの寒流が南からの暖流を沖の方に押しやつて海岸地方の氣溫を低下

させたとか、或は寒流が東北地方に特有な、所謂「やませ」といふ北東風を起すとか——從つてまた氣溫・氣壓・地勢等々を凶作の原因として擧げる（註三）。

だが然し、これらの見解は、何故東北農村が自然的災害を契機として凶作にさらされねばならぬかといふこと、また、生産力の發展によつて自然災害は最小限度に喰ひとめられるのだが、その生産力の發展を阻止してゐるところの基本的な社會的諸條件は何かといふ點にふれない。そして、半封建的土地所有制＝半農奴的零細農制を再出強化せしめつゝあるところの、日本資本主義機構の基本的・特質的矛盾と、その矛盾の對極をなしてゐる東北地方の經濟機構の特殊性—所謂「東北型」（註四）については全然盲である。

「太陽黑點說」に次いで俗流的に優れたものに技術的見解がある。この見解はまたかなり廣汎である。それに從へば、東北地方に於ける農家の農業知識が一般に遲れてゐることから生ずる農業技術發達の低度、從つて氣候・風土その他の地理的環境に對する適應手段が合理化されてゐないことを擧げる（註五）。そこでは冷害に強い「陸羽一三二號」といふ品種が問題となる。だがその「陸羽一三二號」も山間地方には適合しないので、今次の凶作は山間部に於て殊に激しい結果となつた。かくて「なほ山間部に於て安全で且つ平年に於て相當の收量を擧ぐべき優良品種の育成が、今日の所では充分に進捗してゐ

ない」（註六）といふ悲觀的結論—農業技術の未發達—に到達することゝなる。

これらの見解は、東北地方に於て何故農業知識が遲れ、耕種・栽培上の缺陷を改良し得ないのか、また、農業技術の發達を阻むやうな社會的制度があるのではいか、といふことを究明しやうとはしない。山間部には不適當な—むしろ無理な—「陸羽一三二號」が、尙且つ山地に栽培されたのは、貧農の窮乏が彼等を徒らなる眼前の多收穫に追ひやつたために外ならない。假令、彼等に農業知識が普及・向上したとしても、彼等は優良品種の種籾を購入する資金すらもたない貧農なのだ。

從つて、かくの如き氣溫・地勢・氣壓・潮流・風（ヤマセといふ北東風）・溫度等の自然的・地理的原因、或は品種の選擇・育苗・挿秧・分蘗・除草・施肥・灌漑・排水・等の農業技術に凶作の原因を置くところの見解が、提起する對策の意味とその行衞は自ら明かである。次に、それらの諸對策について簡單な內在的批判を行ふであらう。

（註一）日本農業年報第二輯、一二二—一四二頁。（改造社版）

（註二）山川均、「東北飢饉農村を見る」、（改造、昭和九年十二月號）。尤も、同論文は凶作の原因が自然的災禍の一色で塗りつぶされてゐるが、然し大部分は社會經濟的現象ではないかと疑問符で結ばれてある。が、この機械的な社會的原因說の誤謬は我國に於ける農業の資本主義化の單純・機械的な理解に基因する。故に、其後發表された改造新年號、「凶作と日本農村」に於ても、依然凶作は自然的原因に歸せられて

ゐる。

（註三）前掲、農業年報。築地宣雄、「農業と氣象との關係」（「帝國農會報」昭和九年十二月號所收）。前掲、山川氏論文。

（註四）山田盛太郎、「明治維新に於ける農業上の諸變革」（岩波、日本資本主義發達史講座、第七輯所收）

（註五）寺尾博、「技術的に見たる東北地方の凶作」（前掲、帝國農會報所收）。那須浩、「凶作農村を見て想ふこと」（中央公論、昭和九年十二月號）。今關常次郎、「東北地方における凶作の克服」（文化農報、昭和十年一月號所收）。山口弘道、「東北地方の凶作について」（前掲、帝國農會報）等、すべてこの見解に據つてゐるものといはれる。其他、錦織英夫、「東北農村恐慌論」（經濟往來、昭和九年十二月號）等の散文的なかきものは無數といつてよい。これについて、山崎農相の語つたところを想起すれば尚更效果的である。（本年報、第十八輯、五五頁、及び東朝九・一〇・一九紙參照）

（註六）寺尾、前掲論文。

（B）諸對策とその內在的批判

（イ）**東北凶作地に對する政府所有米穀臨時交付法案**（本年報、第十八輯、九三、四頁參照）

まづこの法案の第一條によれば「昭和九年產米の收穫高が平年作の五割に達せず、且つ冬季における匡救土木事業の施行困難なるもの」と米の交付される資格が限定されてある。而もそれは勿論無償ではない。青森沖渡し七圓十四錢で、代金は昭和十年二月末日までに皆濟されねばならぬ。そして、轉賣等の違約をなしたる場合は一俵五圓の罰金が課せられるのである。昭和六年の凶作の際の拂下げ米に對する代金の內、僅かに七十三錢すら未納してゐる貧農にとつては、この政府米交付を受けることは借金の上塗りに外ならない。それは債務農奴化への拍車としての意味をのみもつてゐる。

（ロ）**東北振興審議會の創設とその審議項目**（前掲年報）

これは全部で八項目よりなつてゐるが、いづれも從來政府の農村對策として言ひ古されたものばかりである。唯、第五項「陸海軍においては、軍器製作關係の輕工業を東北地に振向く―」といふ一項目だけは目新らしく映じないこともない。がその前に、東北農村に於ける娘の「身賣り」は、決して彼等が所謂人道的な觀念に鈍いためではなく、東北に於ける工業の未發達が「女工になる」といふことに考え及ぼさせないためである（これは無論他地方との比較的な意味に於てゞある）といふことを想ひ起さねばなるまい。卽ち、東北地方に何故工業が發達しないかといふ理由―半封建的生產關係を再生產しつゝある半封建的土地所有制―が考へられねばならない。

（ハ）**農林省東北凶作防止對策**（前掲年報）

その後農林省によつて具體化された對策は、（A）農事試驗場の設立、（B）試作地による耕種改善の試驗研究、（C）適良種子配給助成施設等で、凶作防止に關する施設として、防風林造成、溜池築設、排水路の掘鑿等土地改良事業の助成、氣象豫報等が擧げられてゐる。

また農林省山林局の官有林に關する救濟案は、

(A)　國有林野の農耕地借地料の輕減。(B)薪炭材の廉價拂下げ。
(C)　匡救事業の施行繰上げ。(D)　國有林の東北に於ける收益四百萬圓に對し現在の交付金十六萬八千圓は少額に失するをもつてこれが相當額の增額。
(E)　簡易委託林制度の擴張(受託管理人は山林の下草を刈ることができる)。

である。後者の農林省山林局の救濟案は多少問題の根本的解決に近附いてはゐるが、然し國有林の解放については一言隻句も見出し得ない。

### (二)　鄕倉建設案

東北地方に對する御下賜金の使途につき內務省は十一月七日夕刻內相官邸で關係首腦部會議を開き、協議の結果、東北六縣の町村に鄕會を設けて同地方町村の更生振興を計ることに決定したので、その具體案を急速に成案することゝなつた。

因に鄕倉は籾を貯藏して端境期に小作人に貸出し、小作人は收穫期に及んで籾をもつて返濟し、その際籾によつて若干の利子を支拂ふものであるから、貧農に對する金融機關になる。現に青森縣において鄕倉の奬勵をなし東北六縣では約八百の鄕倉を有するが、東北六縣の町村は約千五百あるので、御下賜金により東北においては鄕倉を缺く町村を皆無ならしめて貧農の更生を計らうといふのである。

これは卽ち、鄕倉をして凶作に備へしめる一方、貧農の金融機關たらしめ、凶作に當つては飯米の無償支給をなさんとするのである。吾々はこゝで德川時代に於ける鄕倉制度(改造社全集、本庄榮次郎、「日本社會經濟史」參照)を想起せざるを得ない。尤もそれは德川純封建制下の鄕倉制度—特に義倉、社倉—がそのまゝなる貌をもつて復活したものではない。だが、この鄕倉制度が何れも「凶作」を旣に與へられたものとして前提してゐるところに、共通な封建的性格を見出さない譯には行かない。

地方分權的孤立性と交通の未發達、從つて一地方に於ける凶作の備へは一地方に於てなさねばならなかつた、といふ意義の下に企てられたところの、この封建的一制度—鄕倉—が、今日の獨占資本主義段階に於て復活・再現するといふ、一見奇異に感ぜざるを得ないこの現象も、日本資本主義が半封建的生產關係の上にたつてゐるといふ特殊性を知れば明白に理會し得るところである。そして附帶的に、一方で腐る程米があり、持て餘してゐる米があるのに、何故、今頃、殊更らしく、鄕倉建設が問題化するのかといふことには故意なる疑問符を附して置こう。

最後に、この鄕倉制度による貯穀は、半封建的土地所有制に於ける「二層の從屬規定」(山田、前揭書)によつて强制的・外延的に商品化されたる米穀の價格釣上として意味をもつであらう。而もまたそれは米價政策を繞つての地主層と商業・高利貸資本—彼等は屢々一體ですらある—との對立的矛盾によつて無力化せしめられるであらう。卽ち、これら一連の諸對策によつて農民に與へられるものは、

月の世界への約束手形以外のものでは決してない。

以上吾々は極めて概括的ではあるが、東北地方の凶作原因に對する俗流的見解と、それに立脚した諸種の對策—その內在的批判をも含めて—について述べた。次に吾々はそれへの客觀的批判を企圖して東北地方の經濟機構の特殊性—「東北型」（山田盛太郎）——について論じ、それと凶作との相互規定的關係を闡明するであらう。

## 二、東北型と凶作との相互規定的關係

東北地方の凶作をも含めた日本農村に於ける一般的凶作現象が、單なる自然的契機によつてすらもその破滅的形態をとらざるを得なかつたのは、半封建的生産様式の制約下にある農村が、資本主義の侵入によつて不斷に窮乏化せしめられ、從つてきた農民が借金奴隷にまで轉化せしめられつゝある、それ程の窮迫狀態—農村の永久飢饉—にあつたがためである。卽ち、凶作現象は根本的には日本資本主義の機構的矛盾に基因するものであり、東北地方のみが決してそれから例外的であつた譯ではない。

然るにも拘らず、東北地方に於て、凶作が殆んど半永久的であり、全く破滅化せしめられるのは何故であるか。それは言ふまでもなく、東北地方が、日本資本主義の不均衡的發展の典型的結果として、未發達な、最も弱い環をなしてゐること—「東北型」—に歸因する。以下「東北型」の諸特徵を抽出してそれの凶作との相互規定關係を究明し、最後にその優れたる文獻を擧げて稿を終ることゝする。

半封建的生産様式の制約下にある日本農村から、所謂「東北型」なる名稱を以て特質づけられる所以のものは、日本農業に於ける他の型、所謂「近畿型」と呼ばれるものと類型的に對蹠的であるからである—これは半農奴制的寄生的大農場組織を特徵とする「北海道型」と、植民地的「朝鮮・臺灣型」との四つの型を以て、日本農業の類型的分類を構成する—。「東北型」にあつては、隷農的定雇—「名子」及び半隷農的「刈分小作人」を含めての—をもつ半農奴主的農耕が行はれ、再生産が農村內で營まれ、半農奴制が再出强化せられ、土地が半農奴主的大地主に集中せられる傾向をもつに對し、「近畿型」にあつては、半農奴的小作料に寄食する高利貸的寄生地主的農耕が行はれ、再生産が農村と都市との連關に於て營まれ、その過程に於て農業の分解—土地の細分が行はれ、高利貸的寄生地主に歸屬せしめられる傾向をもつ。更に、耕作規模について見れば、東北では耕作規模が比較的大規模で、零細化の速度もさして急角度でないが、近畿ではそれがより零細的であるのみならず、その速度がより急速である。土地所有權の移動も、東北では半農奴主的巨大地主による收奪の結果、巨大所有の增加と零細所有の增加との二重の傾向があるのに反して、近畿では高利貸的寄生地主による收奪の結果、土地所有零細

化が一般的傾向である。

**(A)　隷農的名子制及び半隷農的刈分小作制**

名子・作り子・被管等の名稱を以つて呼ばれる封建的隷從に基く徭役勞働の生産性の低いことは、「田打を賦役でさせると一日の功程五畝だが、請負でさせると一段をやる」(註)と語つた九戸郡晴山村地主の言葉で明白であらう。このやうな粗雜な賦役の下では、僅かの氣候的異常が不作を生み出すのである。而も始めから地味の劣惡な瘦地か下田・下畑しか與えられない名子地—名子の與えられるもの—に凶作が生じやすいのは當然である。

(註)　木村修三、「舊南部藩の莊園類似の制度」(「農業經濟研究」第三卷、第二號)參照。

刈分小作制度—それは地主がその手作經濟を漸次縮少するやうになり、「名子」の徭役を必要とする程度が減ずるに從つて生じた—の下にあつては、假令、刈分小作人が、品種の改良・耕種栽培・施肥等に努力して增收を圖つたとしても、增收されたものが割合によつて地主に小作料として支拂はれるとするなれば、結局、費用をかけただけ小作人にとつては損失である—他方に於てそれは地主の利益となるといふ矛盾を含んでゐる—こゝに一切の農業技術の發展を阻止する制度的障碍がある。

而もこの徭役勞働制が、「名子」及び「刈分小作人」を地主の田の分蘖・挿秧・除草等に繰出すために、彼等自身の土地—名子地・刈分小作地—の稻作のための農時を逸し、灌水・排水もなし得ず、徒らなる粗放に放置されざるを得なくなる。寒冷對策のあつて爲し得ない理由である。

**(B)　畑地の面積の田の面積に對する割合の大なること**

この畑は「近畿型」に於ける蔬菜・園藝の有利な農產物とは異つて、稗・粟の如きものより作付せられない不利な畑である。從つて、經濟的に有利な米作—米價政策による極端な價格變動の抑止、といふ安定性があり、必需品といふ强味があり、蔬菜、花卉、果實栽培や養蠶ほど、栽培のための金錢や勞力支出が多くない——への轉換が必至となり、而も米穀の外延的商品化と農村の窮乏化によつてそれが無理を通じてまで强行された。この畑の田への無理な轉換は、米作に不適な山間部にまで行はれ、今次の最も甚だしい凶作の犧牲とさえなつてしまつた。

**(C)　山林原野の收奪**

明治六年の「地租改正」による官民有區分、明治四十年以後の部落有林野の整理統一に從つて、漸次編成替へされた山林原野は、現在東北六縣に於ては、その林野面積の內、四割九分は國有化せられ、一割七分が公有林となり、御料林が二分、殘りの三割二分が私有となつてゐる。而も、その林野の所有が編成替へされたばかりでなく、林野の使用採取權も禁止され、拂下げ、貸下代を支拂はねば採取

が不可能となつてしまつた。

この林野の收奪が、東北地方の凶作にもつ關係は極めて重大である。まづ、これは牧畜・飼畜の衰退を惹き起こし、役畜肥耕の貧弱さが、稻に冷害に對する抵抗力を附與するための深耕を不可能ならしめる。それは特に耕作規模が大きくなければ最低の生活資料さえ得られなく、從つてまた必然的に耕作規模の大なる東北地方に於ては決定的な意味をもつ。

牛馬は單に耕作手段として重要なばかりでなく、他方に於て、速效性と地力維持との二要素を兼有する「厩肥」—それは又不良の氣候には却つて良作を來すを以て安全の肥料といはれる—を供給する。而も經濟的に金肥の使用を困難ならしめられる農家にあつては、この「厩肥」は金肥節約のための二重の重要性をもつてゐる。

更に林野の收去、林野への共同入會の禁止は、貧農から生計補充的副業としての炭燒き—凶作時には農民の唯一の現金收入源泉である—を遮絶し、最後の「救荒食物」たる栗の實さへも拾へなくする。

**(D)　耕作規模の比較的大なること**

この耕作規模の大なることが牛馬耕を必要とし、それを得られないがための東北地方に於ける凶作については既に述べた。が、こゝで更に注意さるべきは、五十町步以上の耕地を所有する大地主數は北海道を除けば(全國第一は新潟)、秋田が全國第二位、宮城が第三、山形が第四、青森が第五、(茨城が第七位)福島が第八、岩手が第十位を占めてゐるといふことである。而して、こうした巨大土地集中傾向こそ、農業生產力の發展を阻止し、農業技術の改良を妨げるところの隷農的名子制、半隷農的刈分小作制を再出强化する基礎なのである。

**(E)　農民の生活條件の惡化—その破滅化**

東北型農業再生產の過程に於ける農村の不斷の窮乏化は、農民の生活條件の惡化—その破滅化となる。いま東北區に於ける死亡率と乳兒死亡率とを見れば、それは全國第一の高率を占めてゐる。

死亡率　(千分比)

| 種別／年／縣別 | 東北六縣 | | | | | 全國 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 秋田 | 青森 | 宮城 | 岩手 | 山形 | 福島 | |
| 昭和七年 | 二〇・四八 | 二一・四二 | 一七・二七 | 二〇・八五 | 一九・三六 | 一七・九八 | 一七・七三 |

特に乳兒死亡率に於てはそれが著しい。

內閣統計局編、昭和七年人口動態統計によれば、〇才—四才の死亡率は、全國の千人中三四八・五人に對し、青森は五二九・五、岩手が四六五・三、秋田が四四三・四を占め、東北六縣平均では千人中四五〇・二人となつてゐる。

(本年報、第八輯、八三頁參照)。

かくの如く、死亡率の高いのは、東北農村に衞生知識が遲れてゐるとか、或は醫療施設が不充分で

あるためばかりではない。衞生知識があり、醫療施設が備はつてゐても、それを利用することが出來ない程窮乏してゐるためである。特に乳兒死亡率の高いことは、母體の不健康を物語り、育兒にすら充分な手を盡し得ない程農村が窮迫してゐることを示してゐる。この生活條件の惡化—殊に直接生産者自身の榮養不良—が勞働力の弱耗を呼び、耕作不充分からの凶作を招來する。

以上吾々は、東北地方の經濟機構の特殊性—「東北型」—を抽出し、それが如何に凶作と密接な關係を有するかを、極く簡單に檢討したのであるが、こうした「東北型」經濟機構が、單に凶作を惹起し易い條件を具備してゐるといふだけでは尙不充分である。この凶作を通じて「東北型」特質が再生產され强化されるといふことが强調されなければならない。卽ち凶作—零細農の借金—その返濟不能—地主による土地の收奪・兼併—借金農奴への轉化—隷農的名子制・半隷農的刈分小作制の再出强化—從つて「東北型」の再出强化がこれである。吾々はこゝに、「東北型」と凶作の相互規定的關係を見る。(註)

(註)　平野義太郎「東北地方の凶作」(「經濟評論」昭和十年二月號)。山田盛太郎「明治維新に於ける農業上の諸變革」前揭。山田勝次郎「農業に於ける資本主義の發達」前揭。以上、「東北型」を實證的に分析した興味ある研究。河本勝男「凶荒對策としての貯穀制度」(「經濟評論」昭和十年一月號)。小林良正「日本における徭役勞働とその意義」(「同誌」昭和九年九月創刊號)。「東北凶作被害狀況に關する一資料」(「同誌」昭和九年十二月號)。

## 第九節　日滿兩國の石油政策と其の波紋

日滿兩國の石油政策は、昭和九年春以來幾多の示唆に富める諸問題を提起して來た。卽ち、我國の石油業法並に滿洲國の石油專賣制を繞つて、英、米、和三ヶ國政府の抗議、滿洲國への原油不賣、近東バーレン島よりの原油供給、上海石油會議等々の諸問題が、矢繼早に報道され、喧しく論議された。

以下、此の問題に就き若干の檢討を行はうと思ふが、吾々は先づ第一に軍需品としての石油の重要性(註一)を瞭り認識して置かねばならぬ。第二に、現在に於ては、石油が商品であり、しかも世界的な產油過剩懸念が濃厚である事(註二)を考慮して置く必要がある。

(註一)　『石油を支配するものは世界を支配する』と云はれ、『石油の一滴は血の一滴』とさへ云はれた。後者の言葉は一九一八年三月佛蘭西軍が最後の、そして最重要の攻擊を將になさんとする時、揮發油の缺乏に驚愕したフオツシュ元帥に依つて叫ばれたものであり、それはクレマンソー氏の有名なウイルソン大統領への「石油要請電報」となつたものだ。航空機、自動車、タンク、飛行機等々に取つて石油が最重要な原動力たる事に就いては之以上述べる要もあるまい。

(註二)　英、米、佛、蘇の石油當業者が、曾つて紐育(一九三二年五月)に、巴里(一九三二年七月、十二月)に、世界石油會議を開き產油制限を協議した。米國はN・R・Aに基づいて石油業規綱を制定し徹底的な產油制限

を敢行して居る。東洋經濟新報、九年一月廿日號、「混沌狀態を脫した米國石油界、」同じく五月十九日號「世界石油界は小康維持」參照。

以上二つの事を先づ考慮に容れて、日本及び滿洲國の石油事情―それを主に數字をして語らせようと思ふ。此の事は、日滿兩國政府が何故あの樣な石油政策を採らなければならなかつたかと云ふ事に、よき理解を與へるであらうから。

## 一、石油資源の貧弱な日滿兩國

### (A)　需要增と產油過少

日本の石油消費高は、過去數十年間、增嵩の一途を辿つて來た。第一表に見られる樣に、金解禁後の財界の最惡期（昭和六年）に於ても、四億八千萬ガロンと前年に比し一割五分を增加し、八年には五億七千四百萬ガロンに達して居る（此の中には軍部の需要を含んで居ない）。一方、產油高は五年の百八十萬石を最近年に於ける最高として以下累年減少して居る。

(一)　日本內地產油高と消費高

（百萬ガロン）

| | 產油高 | 對前年增減率 % | 消費高 | 對前年增減率 % |
|---|---|---|---|---|
| 4年 | 85.1 (+) | 4.2 | 382.8 | (+) 23.0 |
| 5年 | 86.1 (+) | 1.2 | 414.3 | (+) 8.2 |
| 6年 | 82.6 (−) | 4.1 | 480.7 | (+) 16.0 |
| 7年 | 68.4 (−) | 17.2 | 561.4 | (+) 16.8 |
| 8年 | 58.7 (−) | 14.2 | 573.7 | (+) 2.2 |

（備考）　日石調べ

### (B)　九割强は外油に依存

從つて、內地需要の外油への依存は實に九割を突破すると云ふ狀態であ

(二)　石油需給統計

（昭和八年）

| | 數量 千箱 | 對供給合高割 % |
|---|---|---|
| 精製高 | 27,535 | 41.2 |
| 內國產原油 | 5,318 | 8.0 |
| 輸入原油Ⓐ | 22,217 | 33.3 |
| 製品輸入高Ⓑ | 39,957 | 59.8 |
| 製品輸出高 | 722 | 1.1 |
| 差引供給高 | 66,770 | 100.0 |
| 對前年增加率（%） | 2.3 | |
| ⒶⒷ計 | 62,174 | 93.1 |

（備考）　日本石油調。一函＝9.5ガロン

る。今、八年の數字を見ると、總供給高六千百七十萬函に對し國產原油の精製高は僅かに五百三十萬函（八%）を占むるに過ぎず、輸入原油からの精製高二千二百二十萬函（三三%）と製品輸入高三千九百九十萬函（五九%八）を合せる六千二百萬函に達し、內地需要の九三%强が外油に依存して居る事が解る。

更に、其の外油供給の內容を見て置いた方がいゝ。今、八年に於ける輸入外油の種類別及び供給國別を見ると、原油並に重油が精油精製高）（B）（製品輸入高）計六千二百萬函＝五億八千九百萬ガロンが、略々夫れに近い數字と見られぬ事はない。

それは、兎に角として、各種油の供給國別を見ると、原油及び重油は米國が輸入總量の約五五%を占め、蘭領東印度並に英領ボルネオが一七%、蘇聯邦が一四%となつて居る。之に對し、揮發油は蘭印が四八%、米國は四〇%となつて居る。燈油は米國五〇%、蘭印三九%、機械油は米國九一%で、

(三)　日本內地輸入外油供給國別表（昭和九年）

| | 原油及重油 揮發油 | | | | 燈油 | | | | 機械油 | | | | 合計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 實額 百万ガロン | 對總計割合 % | 實額 百万ガロン | 對總計割合 % | 實額 百万ガロン | 對總計割合 % | 實額 百万ガロン | 對總計割合 % | 實額 百万ガロン | 對總計割合 % | 實額 百万ガロン | 對總計割合 % | 實額 百万ガロン | 對總計割合 % | 實額 百万ガロン | 對總計割合 % |
| 合衆國 | 三三六・七 | 五四・九 | 四九・〇 | 四〇・一 | 七・六 | 五〇・〇 | 一・六 | 一〇・五 | 五・七 | 九〇・九 | 〇・六 | 九・一 | 三九九・〇 | 五二・七 | 一六・八 | 一〇・四 |
| 蘭領東印度 | 六三・八 | 一〇・三 | 五八・七 | 四八・〇 | 五・九 | 三八・八 | 一五・二 | 一〇〇・〇 | | | | | 一二七・四 | 一六・八 | 七五六・七 | 一〇〇・〇 |
| 英領ボルネオ | 四三・二 | 六・九 | 一・四 | 一・二 | 〇・一 | 〇・七 | | | | | | | 四三・八 | 五・八 | | |
| 蘇聯邦 | 八七・三 | 一四・三 | 五・三 | 四・三 | | | | | | | | | 九三・〇 | 一二・三 | | |
| 滿洲國 | 一四・九 | 二・四 | — | — | | | | | | | | | 一四・九 | 二・〇 | | |
| 其他 | 六九・一 | 一一・三 | 七・八 | 六・四 | | | | | | | | | 七八・六 | 一〇・四 | | |
| 計 | 六一三・〇 | 一〇〇・〇 | 一三・二 | 一〇〇・〇 | | | | | | | | | 七五六・七 | 一〇〇・〇 | | |

各種油合計では、米國五三%、蘭印及英領ボルネオ二二%、蘇聯邦一二%の順になつて居る。とまれ、日本の石油需要は英、米、和蘭、蘇聯邦の四ケ國—其の代表ロイアル・ダツチ・シエル(英和資本)の子會社たるライジングサン、スタンダード・ヴアキユーム(米國資本)—に依存して居ると云ふ事だ。

(C)　滿洲國の石油資源

滿洲に於ける石油資源は、未だ未踏の地も多く、從つて今尙ほ原油を採掘し得る礦區がありや否やに就いては一般に多大の疑問を持たれて居る樣である。たゞ石炭系の油頁岩があるとだけは確かであるが、九年三月、設立(發表は十月卅日)された滿洲石油株式會社は、滿洲國內の油脈地の探礦採掘を主眼とすると云はれるが、勿論、同會社の主目的は外にある。此の事については改めて述べることにするが、とにかく滿洲も亦石油資源に乏しく其の需要の九割以上が外油に依存して居ることは明白である。外油の滿洲に於ける販賣網及び其の現有勢力は第四表の如くである。夫れに依ると、スタンダード(米國)が輸入油の三五%、全滿代理店數三百五十で第一位を占め、アジア石油(ライジングサンの姉妹會社)が二五%、七〇店で之に次ぎ、テキサス、ソ聯邦、日本の順になつて居る。以上に依つて、大體、日滿兩國の石油事情を知り得たと思ふ。そこで次に日滿兩國の石油政策に就いて若干の檢討を試みることにする。

(四)　滿洲に於ける外油現有勢力

| | 輸入油割合 % | 代理店數 |
|---|---|---|
| スタンダード | 35 | 350 |
| アジア | 25 | 70 |
| テキサス | 20 | 60 |
| ソ聯邦 | 10 | 30 |
| 日本 | 10 | — |

備考　石油時報九年十二月號64頁

## 二、日滿兩國の石油政策

(A)　石油業法の意義と役割

石油業法は第六十五議會を通過し、九年七月から施行されたものだが、之に就いては既に第十六輯で一應紹介して置いた(註)が、今、其の要點を指摘すると、

第一に石油事業の許可制を規定して居る。卽ち『石油精製業又は石油輸入業を營まんとするものは、

政府の許可を得るを要する』(第一條)外、『精製業者または輸入業者は命令の定むる所に依つて事業計畫を定め政府の許可を受く可し』(第二條)と云ふのである。法文上では明らかでないが、之に依り、『石油輸入の調整、事業亂立の防止、供給量の確保を圖り、以て我國石油事業の統制ある確立を期し』(石油業委員會に於ける岩切政務次官の說明)て居り、其のためには內外各社への輸入、販賣數量の割當を政府が決定する事をも含んで居る。

第二に、『石油業者は揮發油、重油、原油に就き過去一ケ年間に輸入したる數量の半數を常時保有する』(第五條要旨)事を規定すると同時に、『その所有する石油を政府が命令の定むる所に依り時價を標準として購入せんとする時は拒む事を得ず』(第六條)と定めてある。此の石油保有義務と政府の石油買上權の確保は云ふ迄もなく全く國防上の意圖に出たに外ならぬ。更に、『販賣價格の變更、石油供給の確保其の他石油の需給を調節するため必要な事を命じ得る』(第七條)權利をも有つて居るのだ。第一の許可制と相俟つて、石油業が如何に完全なる統制管理下に置かれたかゞ解るであらう。

(註)　本年報第十六輯、第三部、第四節、第六十五議會の成果＝二二一頁。

所謂、事業の免許制度は、公益事業ならとにかく、一般的事業としては、蠶絲業の免許制とゝもに例外的なものだ。既に、石油業は重要產業統制法に依り統制產業の一として指定されて居り、それに依り一ケ月の販賣函數十萬函以上の會社は制約を受けることになつて居る。だから、ライジングサン、スタンダード、日石、小倉、三菱、三井、松方日蘇の內外石油七會社が直接に業法の支配下に置かれて居るわけだ。尙ほ、保有義務は、輸入される揮發油、原油、重油の三種に適用されるもので國產石油は除外される。こゝにも內油側に有利、外油側に不利な點が見出される。そして、割當に對する業法第一回の發動は八月末商工省に依る九年下期末の揮發油販賣數量の割當通告となつて現はれた。

(一)　揮發油各社割當(千函)

| | 九年下期 | 九年上期 | 增減比較割合% |
|---|---|---|---|
| ライジングサン | 3,960 | 3,850 | (+) 2.9 |
| スタンダード | 2,640 | 2,630 | (+) 0.4 |
| 松方石油 | 660 | — | — |
| 日本石油 | 3,532 | 1,865 | (+) 23.3 |
| 小倉石油 | 1,848 | 1,260 | (+) 46.7 |
| 三菱石油 | 1,320 | 825 | (+) 60.0 |

それに依ると、上期に比し、日石は(二三%三)、小倉は(四六%)、三菱は(六〇%)を增加したに對し、ライ社は三%弱、スタンダード・ヴアキユームは〇%四と云ふ數字を示して居る。之に依り內油側の休止設備を合理的に活動せしめ、以て內地資本を擁護せんとしたのだ。が、俄然、外油側の不平は爆發し、スタンダード東京支社長の歸國となり、駐日英、米兩國大使の我外務省への抗議にまで發展した。之に對し、我政府當局が如何なる態度を採つたか、いや採らねばならなかつたか。此の事に就いては後述することにして、次に滿洲國の石油專賣制を紹介して置かう。

## 第九節　日滿兩國の石油政策と其の波紋

### (B)　滿洲國の石油政策

滿洲國の石油專賣法が、參議府の諮詢を經て發表されたのは九年十一月十三日、また、滿洲石油會社の組織內容が、滿洲國政府財政部當局に依つて發表されたのは同年十月卅日だつた。が、夫れの制定乃至設立は三月であつた。先づ、專賣法の內容から見て行かう。

### (1) 滿洲國政府の聲明と石油專賣法

滿洲國政府當局の聲明——

滿洲國に於ては從來石油に對して何等の國策をも樹立するところなく全く自然のまゝに放任し顧るところがなかつた。卽ち石油資源の探査は勿論需要供給の調節についても何等特別の方策を立てたることなく無爲に過し來れるがため國民生活の安定上、將亦文化發展の上に著しき障碍を與へつゝある現狀である。玆に於て政府は石油國策を劃策し、石油資源の開發竝にその製造に對して積極的に保護助長の方策を講ずると共に、石油は之れを政府の專賣とし、供給方面に對し適正なる國家統制を加へ、其の價格についても漸次現在の狀態を合理的に改善し、以て國民生活上に與へつゝある不利不便を除去し文化の發展、國運の伸長を策することゝなつた次第である。故に國內消費に必要なる石油の供給は從來通り之れを外國に仰ぐは勿論、政府の石油專賣下についても可及的現在の販賣組織と既存營業者の利益を尊重して制度の樹立と運用に遺憾なきを期してゐる次第である。

以上は、滿洲國に於ける門戶開放、機會均等問題に關し、英、米、蘭三國が日滿兩國政府に爲した抗議に對し、滿洲國政府が十月卅日財政部當局の談話の形式で發表した聲明書である。尙ほ、次に滿洲國石油專賣法の要綱を示す。

## 滿洲國石油專賣法

第一條　本法に於て石油と稱するは揮發油、燈油、輕重油、ベンゾール竝に代用燃料油とす
　前項の代用燃料油の範圍は勅令を以て之れを定む

第二條　石油類は政府の專賣とす

第三條　石油類の製造輸入及び輸出は政府の許可を受けたる者に非ざれば之れを行ふことを得ず

第四條　政府の許可を受けて製造又は輸入したる石油類は政府に於て之れを購入す

第五條　石油類の賣捌は政府の指定したる石油類賣捌人をして之れを行はしむ
　但し特別の事由ある時は政府は自ら之れを需要者に賣下ぐることを妨げず石油類の賣捌及び石油賣捌人に關し必要ある事項は財政部大臣之れを定む

第六條　政府必要ありと認むる時は石油類の貯藏を命ずることを得

第七條　石油類賣捌人に對し一定の數量を指定し石油類の貯藏を命ずることを得
　石油類以外の鑛物性油の製造又は輸出は政府の許可を受けたる者に非ざれば之れを行ふことを得ず

第八條　政府必要ありと認むる時は石油類又は前條の油類の取扱を爲すものに對して報告を命じ又は設備の改善其の他の事項を命ずることを得

第九條　當該官吏必要ありと認むる時は石油類又は第七條の油類の製造所、貯藏所、賣捌店舖其の他の場所に立至り石油類、第七條の油類、帳簿書類其の他の物件を檢查し又は諸般の調查を爲すことを得

第十條　當該官吏本法又は本法に基きて發する命令に關する犯罪ありと思料したる時は關係人を訊問し搜索を行ひ罪證となるべき物件を押收することを得

第十一條　第三條若しくは第七條の許可を受けたるもの又は石油類賣捌人に指定せられたる者にして本法若くは本法に基きて發する命令又は之れに基きて爲す處分に違反したる時は政府は其の許可若くは指定を

取消し又は一定期間其の業務の停止を命ずることを得

之に依つて見ると、石油の製造、輸出の許可制と同時に、其の專賣制を規定して居るが、此の外に專賣法第六條に於いては、『保有義務を命じ得る』事も規定して居る。尙ほ、こゝに注意せねばならぬは、滿洲石油會社の創立である。之の組織内容に關し、十月卅日、滿洲國政府は次の如く發表した。

**(ロ) 滿洲石油會社組織内容**

滿洲國政府は去る三月國内消費に充てるため外國から石油を輸入、精製することを目的とする半官半民の滿洲石油會社を設立した。同社は大連近郊甘井子に製油工場を建設中である。會社は滿洲國法人で其の内容左の如し。

一、資本金　日本貨幣五百萬圓
一、株　數　十萬株、一株五十圓
　四分の一拂込み、但し康德元年中全額拂込の豫定
一、出資割當　滿洲國政府百萬圓△日石五十萬圓△三井五十萬圓△三菱五十萬圓△小倉五十萬圓
一、社長橋本圭三郎、專務理事佐藤健三、常務理事由利元吉

## 三、英米和の三ケ國の抗議

以上が、日滿兩國の石油政策の概要だが、之に對する英、米、和三ケ國の抗議は相當執拗に行はれた樣である。最初、それは日本の石油業法に對して爲されたものであつた。業法の施行に對して彼等が憂へた點は、販賣、數量の割當問題と貯油義務の負擔過重問題であつた。之等に就き、ライ社、スタ社の首腦部は屢〻商工省當局を訪問して、其の實施せんとする具體案に就き說明を求め、反省を求めたが、政府は强硬に突ぱねた樣だ。が、滿洲國の石油專賣法の制定、滿洲石油會社の設立を知るに至つて彼等の態度は益〻硬化してしまつた。七月、英、米、和三ケ國の駐日大使は、之に關して非公式覺書をもつて我が外務省に抗議を提出した。之に對し外務省は八月三日大要次の如く答へた。其の巧みな外交辭令の中に、吾々は興味あるいくつかの暗示が與へられる事を感ずる。

『滿洲石油會社の設立及び滿洲國官憲の石油計畫に關する滿洲國政府の方針に就ては帝國政府の關知しない所であり、從つて帝國政府としては之れに關し何等說明をなす地位に在らざる』旨を述べ、尙ほ『最近得た情報』として次の如く述べた。

『滿洲國に於ては本年二月二十一日公布せられた特別法に基き滿洲國法人たる滿洲石油會社が設立せられたが右法規は同會社に何等獨占權を賦與して居らず、又その株式所有者に關しても右法規及び會社定款は何等國籍による制限を規定して居らぬ。……情報によれば右法案の趣旨は石油販賣を政府の獨占としての統制の目的を達しようとするものであつて、石油の製造、輸出入迄政府が獨占しようとするものではない。又同法案は前記石油會社に對し石油の製造輸出入其他に關し何等獨占權を與ふるが如き規定は含んで居らぬとい

ふことである。尙情報によれば、滿洲國側の計畫に於ては政府が販賣すべき石油の全部を滿洲石油會社製品を以て獨占せしむるといふが如きことは考慮して居らぬ模様である。

南滿洲鐵道會社が滿洲石油會社に出資して居ること、及び同石油會社が工場を關東州に設置したことは事實であるが、此の點に關し何等日本側に於て既存條約牴觸の問題を生ずるものとは認められぬ。

以上の諸事情に鑑み、帝國政府としては日本資本家の滿洲國法人たる石油會社に對する出資を阻止し、又は滿洲國當局に對し石油に關する或種の統制の實施を中止することを說得することは出來ぬが、一方滿洲國政府に於ては、石油の輸入及び販賣に關し現在同國內に在る外商の利益を出來得る限り考慮するの用意ある趣であるから兩國利害關係者に於て直接滿洲國側と折衝せらるゝこと然るべしと思考する。』

が、其の後も、九ケ國條約、滿洲國の建國宣言等を基礎に、英、米兩國政府は第二次、第三次の抗議を行つた。

之等の抗議に拘はらず、滿洲國は、專賣制の實施を發表した。が、最初豫想せられた様に、政府は石油の製造輸出入まで獨占しようと云ふのでなく、滿洲石油會社に製油、輸入の獨占權を與へることを規定しては居らず、また政府の販賣すべき石油の全部を同社に獨占せしめるが如き規定は無かつた。が、それは表面的には滿洲國への原油不賣となつて現れた。一方、八月廿八日、日本政府は九年下期の揮發油販賣數量割當—それは前述の如く內油側に著るしく有利だつたを發表した—兩者の紛爭は、恐らく、此の頃が、最も白熱化した頃だつたらう。

## 四、妥協成立と其の背後にあるもの

然しながら、斯様な紛議も、其の後、何時の間にやら治まつた。勿論、問題の根本的解決が見られたと云ふのではないが、兎に角、一應、兩者の妥協・諒解は成り立つたかに見ゆる。吾々は、こゝに、其の背後にあるものを窺ふ事にしよう。

### (A)　石油國家管理の妥當性

第一に考へられる事は、日滿兩國に依つて採り上げられた石油政策は、必ずしも兩國が始めて試みたものでは無く、歐洲各國—特に佛蘭西、西班牙は其の代表的なものだ—が既に實行して居る所である。しかも國內に石油資源を有せざる國に於いては、斯様な政策を採らざるを得ないと云ふ點である。即ち、佛蘭西は一九一八年石油業法—其の後改革が加へられた—を制定し、西班牙は一九二八年石油の專賣制を實行して居る。そして、日滿兩國の石油政策—石油業法及び石油專賣法—は、兩國の夫れから採つたものなのだ。

佛蘭西の石油業法　國內に石油資源を有せず、(註一)歐洲大戰で苦き經驗を嘗めた佛蘭西は、石油の國家管理に就いては世界各國の先驅をなしたものと云つてよからう。同國の石油政策は、大體、一、

輸入統制、二、販賣統制、三、製油所統制、四、石油關稅、五、海外石油資源の獲得、六、代用燃料の研究の六項に歸着し得るが、今、日本の石油業法と關聯のある點だけを簡單に指摘するに止めて置こう。

歐洲大戰中、一九一八年三月、佛蘭西政府は石油製品の輸入を獨占する石油及び揮發油監督委員會を作る事に依つて輸入專賣制度を創設した。監督委員會は其の輸入した石油を十社組合（カルテル）に賣るのである。之は其の後、一九二一年五月に制定された輸入免許制、國防の爲めの保有制度（前年度輸入量の四分の一に當る數量の常時保有）に代つたが、更に一九二六年四月には石油製品の輸入專賣の原則を設けた。また、政府は輸入免許會社に對しては其資本系統の內外を問はず、技術、營業及管理者中に佛蘭西人を雇ふ事をも命じて居る。（註一）

（註一）元來、佛蘭西は國內に石油資源を有して居らない。一九一九年の媾和條約に依りアルサス油田を獨逸から取り戻した外、翌一九二〇年には英吉利との間にサンシモ協約を結んで、イラック石油會社の全株式の二三・七五％を所有し原料油供給の方途を立てた。が尙ほ佛國の國產原油の產出は一ケ年僅か六十萬バレル內外で、頁岩油工業に依る原油代用品產出高五十萬バレルを加へても、それは百萬バレル內外に過ぎない。之に對し同國の消費高は一九三三年に於いて三千九百萬バレルに達して居る。

（註二）日石調査課編「フランスの石油業法と其の效果」＝參照。

**西班牙の石油專賣**　次に西班牙の石油專賣だが、同國の石油業は一九二八年其の專賣が實施された。元來、同國も產油資源を持たず、其の上製油業も云ふ可き程のものを持つて居らなかつたので市場は主として英蘭系のロイヤル・ダッチ・シエル及び米國ニュージヤシー・スタンダードの二大石油會社の蹂躙に委ねられて居つた。が一九二七年石油專賣權は入札に依つて同國銀行團の手に落ち、資本金一億九千五百萬ペセタス（內政府投資四千五百萬ペセタス）を以て創立された石油專賣會社が此の任に當つて居る。其の時、發布された勅令は專賣の目的と共に抱負を大要次の如く述べて居る。（註一）

一、西班牙石油市場を外國人の手から西班牙人の手中に握る事。

二、專賣に依つて各種の合理化を圖り經費を節約し必要な擴張は積極的に行ひ、消費者に低廉な石油を供給すると同時に專賣事業の收益を增加する事。

三、原油輸入に依る製油工業の發達を圖る。

そして全收入から凡ての支出を控除し收益を算出し、國家へは政府納入金及び配當金を納付する事になつて居るが、その方法は、會社は每年全賣上金の四％のプレミアム及資本金總額（政府の持株を含む）に對する年五％の支拂保證附利息を受ける。其の收益が資本金總額の八％を越す場合には、其の增加率に應じて變化する特定割合を以て一般株主及び政府に分配される。

一九三一年に成立した新革命政府は更に官營化を强め專賣會社の經營機關を左の四機關とし、（註二）更に次の樣な規定を設けた。

卽ち、現在の政府の出資金は一九四八年末迄に民間所有株全部を額面を以て漸次購入し、其の買上げが實現するまで、株主は年五%の配當並びに純益一億ペセタス迄は一%、二億五千萬ペセタス迄は

一九三一年損益計算　千ペセタス

| | |
|---|---|
| 石油輸入額 | 一七六、〇六八 |
| 石油賣上額 | 四四八、三三六 |
| 差引純益 | 二一〇、三七八 |
| 內政府納入金 | 一六四、四三三 |
| *國庫收入 | 二三、七五二 |
| 會社手取 | 一八、四八六 |

（備考）*は持株配當金と納入金との計。

〇・七五%、三億ペセタス迄〇・五%の歩合を受けると云ふのである。が、こゝで注目せられる事は政府及び會社の利益の莫大な事だ。上表は一九三一年會社の收支決算だが、滿洲石油會社も今後相當の利益を擧げ得る事は疑ひない。（註三）が、とにかく斯樣に外國に例の無い政策では無いし、此の點、日本も强味だし、英、米側も解らぬ事はないのである。少なくとも、日滿兩國があゝした法律を制定して石油業の國家管理を行はねばならぬ狀態に置かれて居る事は解つて居る筈だ。問題は、法の施行に當つて、外油側の利益がどの程度に補償され得るかにかゝつて居る、そして、この點に、兩者妥協の餘地が見出されるわけだが、尙ほそこには、兩者とも互讓せざるを得ぬ事情が橫たわつて居る。

（註一）「日石調スペイン石油專賣法と其の實績」

（註二）一、政府側重役三名、株主側二名から成る新重役會。
二、重役會の議決に對して投票權を有する大藏大臣指命の政府代表者一名。
三、政府代表者を議長とし株主代表者十名から成る顧問委員會。
四、株主總會。

（註三）滿洲石油の製油能力は、滿洲に於ける石油需要年額約十萬噸の半額五萬噸で、之が原油は月額五千噸と見られて居る。

尙ほ、『十年度の滿洲國政府にによる石油專賣高は二千萬ガロン見當とみられ、滿洲石油會社製品一千三百萬ガロン、撫順のセールオイル二百萬ガロン、輸入石油七百萬ガロン、合計二千二百萬ガロンをこれに充てることになつてゐる、而してこれによる關稅收入は三百九十萬圓、專賣益金は四百五十萬圓の多額に上るものと豫想されてゐる。』＝滿洲日報九年十二月十一日＝

### （B）　日滿及び英・米の立場

第一に、日本及び滿洲國としては、最初は强く突張ねたものゝ、そこには石油需要の九割以上が外油に依存して居ると云ふ大きな弱味がある。之は決定的な事實だ。從つて、原油不賣が其の致命傷に値する脅威たることも明白である。が、一方、英、米、和三ケ國は、世界的な產油過剩懸念が頗る濃厚だと云ふ事情に脅やかされて居る。曾つて、ライ社の支配人マルカム氏が、東京に於ける特約店會議（九年三月）で、石油業法を非難した揚句『時と場合に依つては我々は原油を賣らないまでだ……』と豪語したと云はれるが、世界的な產油過剩と云ふ事實は、日本を此の脅威から救つてくれる。現に滿洲國への原油不賣問題は、延いて日本への原油不賣に迄發展する可能性を持つものとして可成

り差し迫つた議論も出た様だが、結果に於いて滿洲國は必要なだけの原油を米國から購入して製油を行つて居る。卽ち、滿洲國が入札の形式に依る原油の註文を發したのは、スタンダード・ヴアキユーム、テキサス、アジア石油（ロイアル・ダツチ・シエルの子會社だからライ社とは姉妹會社）等を筆頭に約十社に對してゞあつた。其の結果は、周知の如く其の大部分は見積書を提出しなかつた。此の事は表面的には明らかに不賣を實行した貌である。が、間もなく滿洲國は、淺野物産の手を通じて米國のリオグラント社から必要なだけの原油を購入して製油を行つたのである。しかも、同社はスタンダード系と云ふ。これで損をしたのは英、和蘭系のライヂングサンである。前記各社が實際に不賣を申し合せたか否かは瞭り解らぬが、若しやつたとしたらさうだ。兎に角、不賣に對する外油側の足並は一寸揃ひ相もない。

斯様な事情を考慮すると、日本の立場は一見強く見える。が、と云つて、外油側の不賣が百%に不可能な事だとは斷定出來ない。若し、英・米・並に蘇聯邦の各政府が決意したら—其の時は戰爭だが—出來るのである。とにかく、現在、兩者に斯様な弱味がある以上、そこには妥協の餘地は充分ある。その一端が、商工省に依る七年度石油販賣割當數量の結果に現はれ、また今後、油價の引上げとなつて現はれるであらう。

**十年度石油販賣割當**　九年十二月廿七日、商工省に依つて發表された石油の販賣割當數量を見ると、業法の建前たる國內製油主義——內地石油資本の擁護——を强化しつゝある事實が認められる。

（一）十年度石油販賣割當量（千竏）

| | 精製業者 | 輸入業者 |
|---|---|---|
| 揮發油 | 五八三・〇 | 五六七・〇 |
| 燈油 | 八三・五 | 五六・五 |
| 輕油 | 一九一・〇 | 九・〇 |
| 機械油 | 二五二・五 | 三七・五 |
| 重油 | 二〇三・〇 | 一、〇六七・〇 |
| 計 | 一、三三・〇 | 一、七三七・〇 |

（備考）重油の精製業者の分には、精製業者の直接輸入量二萬竏を含む。

| | 計 | 同上割合 精製% | 輸入% |
|---|---|---|---|
| 揮發油 | 一、一五〇・〇 | 五〇・七 | 四九・三 |
| 燈油 | 一四〇・〇 | 五九・六 | 四〇・四 |
| 輕油 | 二〇〇・〇 | 九五・五 | 四・五 |
| 機械油 | 二九〇・〇 | 八七・一 | 一二・九 |
| 重油 | 一、二七〇・〇 | 一六・〇 | 八四・〇 |
| 計 | 三、〇五〇・〇 | 四二・〇 | 五七・〇 |

が、尙ほ、そこには外油則に對する政府當局の讓歩の跡が窺はれる。卽ち業法實施後、最初に行はれた昨年下半期の割當には、自然增加分の大半は內油側に振り向けられた。が三五年度に於いては、揮發油の九年度販賣實績を百萬キロリツトル、之に自然增見積を一五%に當る十五萬キロとし、其のうち十萬五千キロを內油側の日石、三菱、小倉三社に割當て、殘り四萬五千キロをライ社、スタンダード社、松方日ソの三社に振り向けた。外油側に對する政府の讓歩を意味する事は明白である。そして此の事は、外油側の不滿を相當緩和せしめたこと、思ふ。

（場相末月・り當函）價　油　種　各　(2)

| | 8年1月 | 9年1月 | 9年6月 | 10年1月 |
|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 揮發油（赤　印） | 5,60 | 4,50 | 4,00 | 5,00 |
| 揮發油（白　蠟） | 5,50 | 4,50 | 4,50 | 4,50 |
| 輕石油（二號發動機） | 3,70 | 3,10 | 2,80 | 3,00 |
| モビール油 | 10,00 | 8,00 | 8,00 | 8,00 |
| 機械油（Cマシン） | 4,80 | 3,90 | 4,00 | 3,90 |

**商工省の油價引上許容**　尙ほ、業法に對する外油側の不平は貯油義務の負擔過重問題だが、之は內油側にとつても大きな打擊だ。此の點も商工省は何等かの緩和手段を採ると思ふ。保有義務が全く國防を主眼とするものである以上、其の負擔は國家で補償すべしと云ふのが、當業者の意見である。商工省もそれに贊意を表して設備費、油購入費、（普通各社のストツクは二三ケ月分だが、それが六ケ月分に增加するのだ）等に對する金利位補償しようと、十年度に豫算に計上にしたのだが、削除されてしまつた。結局、油價引上げに依つて、夫れは消費者に轉嫁される危險性が强い。

舊臘十二月廿八日、商工省は日石、三菱、小倉の國產三社に對し揮發油ガロン當り三錢五厘の値上げを許可したが、其の時の商工當局の言に、『保有義務については追つて考慮する』と云ふのがある。そして、外油側三社も新建値を以て販賣して居る事實は、昨夏、業法實施と同時に自然的崩壞の貌を呈した內外六社協定が、其の復活への第一步を進めたものと云へよう。更に、外油側は昨年九月までに商工省に提出すべき「十年度の事業計畫案」を出し遲つてゐたが、十二月初旬、遂に提出するに至つた。

## 五、今後の見透し

斯様なわけで、昨春來續けられた石油紛爭も、とにかく一應落ちついた貌である。が、それは、全く一應落ちついたのであつて問題は尙ほ依然として殘つて居る。石油業法竝に滿洲國石油專賣法の實際の運用方法如何に依つては再び抗議が、否、それよりも、國際情勢の變化如何に依つては、今度見られたものより一層腹の据つた强いものが提起されるかも知れぬと云ふ懸念は充分ある。こゝに、日本の石油國策の一層の强行が必然性を持つて來る。其の要點は、(一)國內資源の開發、(二)海外資源の獲得、(三)代用燃料の生產にかゝつて居る。斯うは云つても、國內資源を開發してどれだけの油が出るか、現狀から推す限り想像するに餘りある。海外資源の獲得も、日本に殘された有望な油域は見出されず、僅かに北樺太石油田があるのみだ。其の八年度產油高十九萬二千瓲、ソ聯石油トラストよりの購入高十二萬五千瓲を加へて三十一萬三千瓲を搬出したが、內地需要の約一割に過ぎない。鑛區は比較的有望らしいが、勿論、內地需要を滿し得るなどと云ふ程のものでは無い。氣候極寒、ために試掘採掘に多大の經費がかゝる。（註一）

斯くて、代用燃料の生產が最前面に押し出されて來る。之に付いては木炭、ベンゾール、アルコー

ル、油頁岩、石炭低溫乾溜等の研究が行はれて居るが、未だ頼むに足らない。たゞ、滿鐵で經營して居る撫順の油頁岩工場と、朝鮮窒素の北鮮永安工場で行つて居る石炭の低溫乾溜（註二）とが——兩者とも國家から多大の援助を受けて居る——稍〻成果を擧げて居るに過ぎない。が、結局、頼み得るものは石炭の低溫乾溜と液化であらう。石油國策は今後此の點に集中されるだらうが、それにしても日本が液體燃料の自給自足を確立し得るの日は果して何時か。

（註一）　北樺太石油株式會社は、大正十五年の日蘇利權契約（北京條約議定書）に基づき、北樺太油田開發の爲に設立されたもの。現社長中里重次氏（海軍中將）支配人小泉孝二郎氏（海軍少將）。採掘期限四十五ケ年、試掘期限十一ケ年であり、試掘の方は昭和十一年末で切れる。期限延長の交渉が數年來熱心に續けられて居る所以だ。尙ほ、當社の油は九割以上が海軍に納入される。東洋經濟新報九年三月三日號「轉換期に立つ北樺太石油」同十月廿日號「注目すべき北樺太石油の轉向」＝參照。

（註二）　本輯第二部、第二節「朝鮮工業躍進の樣相」一〇二頁參照。

## 第十節　混迷の中に推移する政治及び社會情勢

五・一五事件以來、萎微沈滯を極めた政黨は、軍事的フアツショ——テロリズム——の下火になり行くとゝもに、漸く本來の面目を取り戻すかに見えたが、第六十五議會に於ける政黨對反政黨勢力の曝露戰は、再び其の絶好の機會を逸し去つてしまつた（註）。そこに、吾々は、軍事的フアツショに代る官僚的フアツショの擡頭を見た。齋藤內閣崩壞のあとを受けて岡田內閣が成立したが、夫れが組閣の當初に於ける後藤內相、河田內閣書記官長の活躍振りは、正しく前述の事情を物語る。

が、所謂官僚ブロックの一人として臺閣に列した藤井前藏相が病にたふれ、高橋是清子が之に代つてから官僚的勢力は、漸次其の影を潛め、岡田內閣のイニシアテイブは全く高橋、床次、町田、山崎氏等の政黨出身閣僚の手に握られてしまつたかに見える。しかし、斯う云つたからとて、政黨の面目回復乃至勢力擡頭を買ひ被つてはならない。議會に於いて支持する多數黨を有せざる岡田內閣が依然變態的且つ弱體內閣である事に變りないが、同時に絕對多數を擁する政友會も、また與黨氣分を謳歌して居る民政黨も、ともに解散が恐さに無氣力振りを示して居る。正に、三すくみの貌だ。

目下開會中の第六十七通常議會が、如何なる推移を示すか、今の所瞭りした事は云へないが、結局三、すくみで押し通してしまふのではないか。政黨及び反政黨勢力の曝露戰、更に各々の陣營に於ける抗爭は、尙ほ暫らくの間我國の政治情勢を混迷と不安動搖を以て特質づけて行く事だらう。

（註）本年報、第十六輯、第三部、第四節、第六十五議會の成果＝一九五頁

## 一、岡田內閣の改造と官僚群の後退

後藤、河田を盟主とする官僚ブロックによつて造り上げられた岡田內閣は、まづ在滿機構改革問題で危く死線を越え、遺憾なくその弱體振りを曝露したが、藤井藏相の企圖せる臨時利得稅問題では全くデツドロツクに乘り上げて、通常議會の切り抜けすら疑はれるに至つた。

然るに思ひがけずも、病弱の藤井藏相は遂に十一月二十六日、病に倒れ辭表を提出するに至つた。病床に萬斛の涙を呑んで橫はる藤井氏の胸中は察するに難くないが、現內閣に於ける藤井藏相の存在は決して芳しいものではなかつた。從て若し健康で臨時議會に臨むとしても、議會では軈て滿身創痍結局は同じ運命に倒れたであらう。早い出世をうらやまれた藤井藏相も在職七ケ月、議會に顏も出さず案外儚い存在で閣內から去つた。後任に就ては岡田首相は高橋翁の出馬に懇請これ努め、遂に翁を引張り出し、岡田內閣の補强工作に成功したのである。

然し我々は、高橋翁の出馬を弱體內閣のホルモン强壯劑と見る外に、一の新しき意義を感ずるものである。初め岡田內閣の成立當時に於ては、「新官僚派內閣」の別名を受け、後藤內相、河田書記官長が岡田首相を擁して采配を振るかに見られた。然るに、河田書記官長は組閣後幾許ならずして病氣辭任し後藤內相の存在は影を薄くし、何時の間にか町田、床次兩老及內田鐵相が內閣の指導的勢力を形成するに至つた。殊に昭和十年度豫算編成閣議に於ける內田鐵相の活躍は豫算編成難を克服して一般の賞讃を博したものであつた。そこに更に、藤井藏相に代つて、政界の長老高橋藏相が加はつたのである組閣當時の岡田內閣とは首相こそ同じであれ、その指導的勢力は全く新官僚派を離れ、政黨政治家の手に移るに至つた。かくて官僚ブロックは崩れ、內閣の面目は一新せられたのである。高橋翁出馬の我政界に齎らした最も大なる意義はこの官僚群の退潮と岡田內閣に於ける指導勢力の變化とである。

かくして岡田內閣は兎も角蘇生したが、最も困惑したのは政友會であつた。政友會は來る議會に於て徹底的に藤井財政を糺彈するに決してゐたのだが、藤井藏相の辭任で攻擊の的を失つた譯である。高橋翁の就任は政友會から見れば誠に遺憾だが、現內閣の補强策としては最上のものであつた。それにしても、只管高橋翁の威望に縋らんとしてゐる岡田首相の態度も自信なき政治家の醜態を曝露せる

ものと云はねばならぬが、更に不可解なるは高橋翁の心事である。大藏省事件が前内閣を退かせしめた事實上の理由とすれば、當の責任者たる高橋翁が同じ年の中に、しかも疑獄の結着を見ざる間に再びのこ〳〵出て來ることは、爲政者の政治的道徳律からは許されざる態度である。

振り上げた拳のやり場に窮した政友會は、遂に藏相に離黨を懇請したが容れられず、止むなく別離の形式で除名處分を聲明した。

## 二、臨時議會の召集

岡田内閣の初舞臺である第六十六議會は十一月二十八日召集せられた。此臨時議會は九州四國の旱害、北陸の水害、東北の冷害竝に關西風水害等による全國的な被害救濟に對する應急對策を主眼としたものである。實をいへば、此の臨時議會は、既に齋藤内閣當時の第六十五議會に於て、救農政策の徹底が强調せられた結果、この召集が漠然ながら豫約せられてゐたのであつた。即ち第六十五議會以來の議院の要望が臨時議會召集の有力な基調をなしてゐたのである。一方岡田内閣は旱害・冷害等が漸次世の注目を引くようになつてからも、議會召集に就ては寧ろ消極的態度を持續して來たが偶々關西風水害の激甚なるに及んで、終に應急災害施設の不可避なるを自覺するに至つたのである。故に臨時議會を以て政府側の意識では緊急對策に重點を置くに對し、議會の空氣は寧ろ根本的對策を目標とし、此議會に提出せられた災害豫算を以て過渡的手段とするの傾きがあつた。かくの如く、臨時議會に於ける政府、政黨の立場は議題そのものに就てかなりの開きがあつたから、勢ひ議會の論戰は、白熱戰が展開した。尤も政府に黨代表を送り準與黨化せる民政黨と入閣黨員を除名し、高橋翁と別離せる反政府的な政友會とでは、臨時議會に對する根本論旨は同じでも議會鬪爭は自ら別途に出でざるを得なかつた。政民聯携委員が「兩黨自我の立場を離れて、相携へて國難打開に盡す」と申し合はせて見ても、現實の具體的態度はそう易々と一致せず、政友會の論難に迫力あり、民政黨のそれに精彩乏しかつたのは當然である。而してその論點を要約すれば大體次の諸點に盡きる。

一、官僚政治の打破　　二、救農政策の不足　　三、豫算の跛行狀態
四、在滿機關改革問題　　五、人權蹂躙問題

例へば十一月三十日の衆議院本會議に於ける政友會代表山本悌二郎氏の質問演說は政友會の反政府氣分を最もよく示したものと云へよう。

私は先づ憲法政治運用の根本義に就て首相の御所見をお尋ね致さなければならぬ。政黨は憲政運用の重要機關である、議會政治とは絶對不可分の關係にをかれて居ることは今更申す迄もありません。論より證據過去數十

年以來、吾國の政治歴史を見ましても、政黨を基礎とせる内閣の時は勿論、時に所謂中間内閣なるもの、出現せる場合に於ても政黨の協力によらずして圓滿なる政機の運用をなし遂げたる例は未だ曾て一回もないのであります。然るに、岡田首相が大命を拜して内閣組織に着手なされた時の事情は、その反對に政黨を無視したる跡歴然たるものがある。即ち岡田首相は實際上官僚中心の獨裁政治を行はんとするのが眞意であつて、唯擧國一致の體面を裝ふ必要と議會に於ける多少の便宜を得んが爲政黨の一角を道伴れとして内閣を組織したのであります。…現に高橋藏相を迎へる時はどうでありましたか、政友會が現内閣に閣僚は勿論政務官さへ送る事を嚴禁してゐる事は先刻御承知の筈である。然るに不拘、黨に對して一言の挨拶もなく、突然黨員たる高橋氏に直接入閣を勸誘した事は、これでも政黨尊重の誠意あると申されませうか。…次に私は總理大臣の統制上の責任に就て御尋ね致し度い。在滿機構問題に關し、軍部、關東廳は勿論、總理大臣の兼任する拓務省までが渦中に投じ、見苦しき鬪爭を開始したるに不拘、政府は之を如何ともする能はず數旬に亘つて傍觀するのみなりしは抑々何たる事でありますか、國家の最高政策に關し政府も主務大臣もそつち除けにして關係の諸官省、軍人、官吏が相抗爭するはまだしも、更に上司に向て所信を强要するが如き、これで國家の統制がとれますか。…來る通常議會に提案すべき豫算案に關し、軍部當局と財政當局との間に幾多の折衝ありたる後…各省の新規要求は大削減を蒙り、特に農村對策の豫算計畫も大半は成立しなかつたやうに聞き及んでゐる。…岡田首相は何故に軍事國防の豫算計畫を認めて農村對策の豫算を閑却せられたるや。今日の場合に於て國防軍事費の增大に藉口して農村對策を犧牲にするが如きは國策と財政の統制を誤るものではないか。云々

準與黨である民政黨の富田幸次郎氏すら、馬上天下を定むる事は出來るが、馬上天下を治むる事は出來ずとして、政府の跛行豫算を攻擊したことは、輿論の趨向が奈邊にあるかを語るものである。一年前に果してかくの如き大膽なる軍事豫算の批判がなし得たであらうか。誠に時代意識の變遷には驚くべきものがある。

人權蹂躙問題に就ては、貴衆兩院に於て帝人事件の一群の關係辯護士から、法律ファッショとして論難せられたが、特に貴族院では岩田宙造博士が、司法部が法律を無視し破壞するの事實あるは遺憾であるとして、帝人問題に關する司法部の處置を追求し、滿場を傾聽させた(東朝十二月一日)。乍然、此貴衆兩院に於ける質問者は凡て帝人事件の關係辯護士であり、執念深く同一論旨を繰り返へしたことは樂屋落ちの非難を起した。また此種の事件は『無產運動者關係事犯に於てはありふれた問題である。これに比して程度の輕きものである。偶々財界有力者、大藏省高等官特權階級が事に坐するに至つて災害議會の勞頭この爲に起つ如きは特權階級の御都合主義の自己暴露である』には違ひなからう(社會大衆黨議員團聲明)。然し、だからと云つて、法律ファッショが許さるべきものではなからう。特權階級の間で問題になつたとは云ふもの、それはかゝる問題を取り上ぐべき好機會であらねばならぬ。

## 三、政友會自らの爆彈に傷つく

第十節　混迷の中に推移する政治及び社會情勢

臨時議會はかくの如く、政民聯携を反映し、議場に活氣漲り久し振りに「議會は在る」かの觀を與へた。然るに圖に乘つた政友會は、岡田內閣與し易しとして、十二月五日豫算總會に東武氏より爆彈的動議(註)を提出したゝめ、災害豫算の議事は一時停頓してしまつた。が、政友會は政府が强腰に出るや、周章狼狽して、岡田首相の

「昨日の東武君の動議に關しこゝに政府の所信を申上げます、政府は災害對策匡救事業等に關しては固より深甚の考慮を拂つて居る次第でありまして、現に要求し又は要求せんとする豫算を以てそれに處せんことを期してゐるのであります。もつとも今後實情に卽し眞に必要なる施設に關し考慮することにおいては吝ならざるものであります。而して現に審議せられつゝある昭和九年度追加豫算案は最も急を要するものなるにつき速に審議を進められんことを望みます」云云。

の抽象的答辯に滿足して、數字的提示を求むる氣魄なく、閣議の解散決意に抗する勇斷もなく、「政府に誠意あるものと認め」て引下つたことは、政友會自ら投げた爆彈で傷つき、その犧牲に於て岡田內閣の弱體を補强するに役立つた。此の愚劇の結果、政友會の面目は臺無しになつてしまつた。卽ち、政友會は、岡田首相の答辯に誠意を認めたと云ふが、首相は政友會の動議そのものに對しては、全く白紙の狀態を留保して居るのである。

(註)　本輯第四節第一八五頁參照。

## 災害救濟費

| | 總額 | 支出年度割 九年度追加 | 十年度 | 十一年度以降 |
|---|---|---|---|---|
| 總額 | 二六、〇七六 | 一二、七一二 | 三八、九五〇 | 五〇、八六一 |
| 內務省 | 七〇、六九一 | 三七、三七九 | 二〇、五〇〇 | 八、〇〇〇 |
| 昭和九年度 | 六六、一〇五 | 二五、一六八 | 一、二三〇 | 二〇、一七二 |
| 同十年度 | 七九、二七九 | 一〇、九九四 | 七〇〇 | 九、五九四 |
| 同十一年度以降 | | 二七、七八七 | 一三、三四〇 | — |
| 各省所管別內譯 | | 一、六三六 | 八六五 | — |
| 內務省 | | 一八、七四六 | 二、三一三 | 一三、〇四九 |
| 災害土木費補助 | | 二、六〇六 | 九八三 | 七〇 |
| 治水事業費 | | 五、五〇〇 | 三、五〇〇 | — |
| 大阪港復興修築費補助 | | 五五五 | 五五五 | — |
| 農村その他應急土木事業費 | | 三八〇 | 二六二 | — |
| 鄉倉奬勵費 | | 一六、五八八 | 二、〇六八 | 九、七九五 |
| 其他 | | 一三、九四五 | 八、八七九 | 八、〇〇〇 |
| 大藏省 | | 二、三一三 | 三、三八三 | 一三、〇四九 |
| 陸軍省 | | 九八三 | 一、五五三 | 七〇 |
| 海軍省 | | 五五五 | 二、〇〇〇 | — |
| 司法省 | | 三八〇 | 二六二 | — |
| 文部省 | | 一六、五八八 | 四、七二五 | 九、七九五 |
| 風水害罹災市町村立小學校復舊建築費借入金元利補給 | | 八、三七一 | 一九 | 一二三 |
| 災害地方其他市町村立尋常小學校費臨時補助 | | 三、〇〇〇 | — | 三、〇〇〇 |
| 災害地方其他學齡兒童就學臨時奬勵費 | | 九三五 | 五四九 | 三八六 |
| 其他 | | 四、三三六 | 一、五〇〇 | 一、二二五 |
| 農林省 | | 六八、二七二 | 二四、〇二三 | 二五、六四九 |
| 風水害等復舊施設費 | | 三七、〇三六 | 八、三一五 | 一〇、三三七 |
| 災害地方諸施設費 | | 二一、五八五 | 一一、一七九 | 一〇、一九〇 |
| 養蠶地方諸施設費 | | 九、六五〇 | 四、五二八 | 五、一二一 |
| 商工省 | | 三五〇 | 二五一 | 九八 |
| 遞信省 | | 一一一 | 九六 | 一四 |
| 計 | | 二一六、〇七六 | 七〇、六九一 | 六六、一〇五 |

前表に於ける昭和十年度計上額を既定額及び新規增加額に區分すれば左表の如し

| 所管別 | 既定 | 新規增加 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 內務省 | 一五、六一二 | 一六、三三三 | 三一、九四五 |
| 大藏省 | 一、四六一 | 九二 | 一、五五三 |
| 陸軍省 | 二、〇〇〇 | — | 二、〇〇〇 |
| 司法省 | 一一七 | — | 一一七 |
| 文部省 | 一、〇七六 | 三、六四九 | 四、七二五 |
| 農林省 | 一六、四四九 | 九、二〇〇 | 二五、六四九 |
| 商工省 | — | 九八 | 九八 |
| 遞信省 | 一四 | — | 一四 |
| 計 | 三六、七三一 | 二九、三七三 | 六六、一〇五 |

かくして政友會の陰謀によつて折角醸成しかけた政民聯携も、岡田內閣の改造に始まつた政黨に對する希望の黎明も、一夜にして儚なく消え去つたのである。

### 四、臨時議會の成果

政友會の屈服によつて、兎も角臨時議會の目的であつた緊急の災害豫算は通過した。

卽ち、追加豫算總額は、二億一千六百萬圓となつて居るが、これだけが三ケ年間に亙つて支出されると云ふのである。卽ち、以上のうち九年度に支出されるものは、七千七十萬圓で、十年度分は六千六百萬圓である。そして、殘り七千九百萬圓が十一年度以降に支出される。斯樣な追加支出を加へても、尙ほ陸海軍事費の增大に比すれば思ひ半ばに過ぐるであらう。（註）

（註）本輯第三部第四節十年度豫算の分析＝第一八六―七頁參照

### 五、內閣審議會が生れるまで

臨時議會が近づくと共に、政府部內からは頻りに國策審議會の設置が放送された。始めは衰運を喚く岡田內閣に於ける新官僚派が、自己の立場を盛り返へす爲の御用ブレーントラストの思ひつきが此



國策審議會であつた。然るに何時の間にか、此斡旋役は政黨出身の町田、床次兩氏となり、既にその構成は非公式ながら、內閣審議會の名によつて世間に發表せられ、いまはその實施を俟つまでに至つてをる。發表せられた所によれば、機關の組織は內閣審議會と其調査機關である內閣調査局の二つに分たれ、審議會長は內閣總理大臣を充て、委員は十五名以內とし、調査局は專任長官を置き、其下に調査委員を置かうとする樣である。

果して如何なるものが出來上るか、今後の推移を見なければならぬが、一般は之を以て岡田內閣の補强工作であるとし、屋上屋を架して責任を他に轉稼するものとして反對するものが多い。然し若しこれが國策檢討に眞の創造力を發揮し、「政策の發見」に役立つものならば、現在一應所期の目的を達し得るものと云へよう。思ふに、いまや世界を通じて政治の大勢は、議決權の犧牲に於て執行權を强化しつゝある。ために文化劣るか、四圍の刺戟餘りに强い國々は獨裁制に墮し、然らざる國に於ては議會の容認を過度に制限し、執行部の權限を擴張し、若くは擴大せんとしつゝある。我國の如きはその後者に屬し、岡田內閣が出現したのも、新官僚派の橫暴が叫ばれるのもその一例に過ぎない。議會政治の危機が叫ばれる所以だ。かくの如く、三權分立の衡平が破れ、不當に執行權の勢力が增大しようとする場合には、その亂用を防ぎ、政治の公正を期せしめる爲には之が牽制機關を必要とする。玆

に國策審議會存在の一理由がある。

とまれ政府が此本旨を體し、正しい意味に於ける國策審議會を設け得るならば、それは確に政治に一新紀元を劃するものであつて、明日に於ける政治の動向を興味深く示唆するものである。然しながら、現在まで放送された顏觸れによつて窺ふと、一國の轉機に對して國家新生の經綸を把持するものとは斷じて見ることが出來ない。卽ち岡田內閣は衷心國家の恒久策建設に專念するものでなくして、之を以て單に弱體內閣の緩衝地帶とするの傾向が強い。若しも此審議會が政客の粗笨の頭腦陳列と、「政略の滿足」以上に出でないならば、そこに何等創造的價値を發見し得ざるのみならず、寧ろ眞面目な政治の發達を毒する弊害を恐れねばならぬ。然もかゝる危險は充分にある。若しも岡田內閣が柄にもなき政治的火遊びに耽るならば岡田內閣の運命も知れたものである。

# 日本經濟年報　附錄

一、重要統計表……二
一、昭和九年第四四半期日誌……三五
一、第十八輯(昭和九年第三四半期)索引……三九
一、第一部參考資料……四五

# 重要統計表目次


**景氣指標**（第三部第一節參照）

番號 | | 附錄頁
(一) 本邦事業活動指數 | 四
(二) 鐵道貨物發送噸數 | 四
(三) 國有鐵道運輸成績 | 五
(四) 手形交換高及不渡手形高 | 五
(五) 全國營業倉庫在荷及入出庫 | 五
(六) 東京卸賣物價指數 | 六
(七) 東京株價指數 | 六

**世界經濟**（同 第二節參照）

生產・物價・株價

(八) 主要國生產指數 | 七
(九) 米國產業諸指數 | 七
(一〇) 主要國株價指數 | 七
(一一) 英米株式相場 | 七
(一二) 各國卸賣物價指數 | 八
(一三) 英國卸賣物價指數 | 八
(一四) 米國卸賣物價指數 | 八
(一五) 英國金物價指數 | 九
(一六) 主要國物價比較 | 九

**金融・財政**（同 第三、四節參照）

番號 | | 附錄頁
(一四) 國庫歲入歲出現計 | 一六
(一五) 日本銀行營業週報 | 一七
(一六) 全國銀行預金貸出現在高 | 一八
(一七) 全國銀行有價證券、預ケ金及現金在高 | 一九
(一八) 東京及大阪市中金利表 | 一九
(一九) 公社債發行並現在高 | 二〇
(二〇) 外貨邦債月末現在高 | 二〇
(二一) 公社債及株式利廻 | 二〇
(二二) 銀行會社計畫資本 | 二一
(二三) 公社債及株式拂込金調 | 二一
(二四) 大藏省預金部資金及運用表 | 二四

**爲替・貿易**（同 第一、五節參照）

(二五) 東京市場爲替相場 | 二二
(二六) 帝國外國貿易月報 | 二二
(二七) 帝國金銀輸出入月報 | 二二
(二八) 本邦對支及對滿貿易月別概算表 | 二三
(二九) 本邦輸出入重要品別表 | 二三

**事業及商品**（同 六節參照）

(三〇) 主要事業の生產制限率一覽 | 二五
(三一) 橫濱及神戶生絲集散 | 二六
(三二) 米國生絲集散調 | 二六
(三三) 人造絹絲需給 | 二六
(三四) 綿絲需給表 | 二六
(三五) 綿布集散調 | 二七
(三六) 綿織物集散調 | 二七
(三七) 全國米穀集散調 | 二七
(三八) 各種商品相場 | 二八

**勞働者狀態**（同 第七節參照）

(三九) 全國生計費指數 | 三〇
(四〇) 東京小賣物價指數 | 三〇
(四一) 勞働人員及賃銀統計 | 三〇
(四二) 職工の作業時間、休憩時間及作業日數 | 三一
(四三) 職工一日平均賃銀諸手當賞與 | 三一
(四四) 職業紹介成績 | 三一
(四五) 工場職工異動調 | 三二
(四六) 鑛山勞働者異動調 | 三二
(四七) 解雇職工歸趨調 | 三三
(四八) 勞働爭議統計 | 三三
(四九) 本邦失業狀況推定概要 | 三四
(五〇) 各國失業統計 | 三四

**農民狀態**（同 第八節參照）

(五一) 小作爭議統計 | 三五

## (1) 本邦事業活動指數 (東洋經濟調) (ノーマル=100) *印暫定數

| 年月 | 鐵道貨物發送噸數 | 電力消費量 | 石炭消費高 | 原油供給高 | 綿絲生產高 | 輸出絹檢查高 | 羊毛輸入高 | 洋紙販賣高 | セメント消費高 | 鋼材供給高 | 總平均(加重式) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 4 | 95.8 | 77.5 | 119.8 | 96.1 | 107.9 | 138.7 | 124.3 | 70.6 | 101.7 | 120.6 | 101.8 |
| 5 | 94.4 | 82.2 | 118.5 | 100.9 | 107.0 | 132.5 | 120.3 | 72.0 | 101.8 | 114.2 | 101.5 |
| 6 | 93.0 | 85.8 | 117.3 | 102.6 | 108.3 | 129.6 | 98.5 | 77.0 | 98.5 | 140.8 | 103.8 |
| 7 | 92.9 | 88.3 | 118.8 | 105.3 | 110.8 | 125.2 | 76.4 | 78.3 | 96.3 | 117.2 | 103.1 |
| 8 | 94.7 | 89.6 | 119.9 | 102.6 | 115.0 | 120.0 | 69.2 | 81.5 | 93.0 | 131.3 | 105.5 |
| 9 | 96.3 | 89.0 | 119.7 | 99.2 | 116.5 | 117.1 | 53.0 | 80.8 | 95.0 | 120.9 | 105.3 |
| 10 | 98.6 | 88.4 | 118.4 | 99.3 | 117.3 | 122.0 | 52.6 | 78.5 | 100.5 | 120.3 | 104.9 |
| 11 | 98.8 | 86.9 | 119.2 | 105.4 | 117.0 | 123.4 | 52.8 | 75.6 | 101.8 | 122.9 | 105.0 |
| 12 | 101.4 | 122.2 | 85.9 | 116.1 | 118.2 | 123.8 | 56.2 | 77.4 | 103.8 | .. | * 107.7 |
| 8. 12 | 95.7 | 110.8 | 82.1 | 89.3 | 105.9 | 113.7 | 96.3 | 81.6 | 107.4 | 105.2 | 98.7 |

## (2) 鐵道貨物發送噸數 (鐵道省調) (單位噸)

| 年月 | 總貨物 | 米 | 麥 | 木材 | 木炭 | 石材 | 砂利 | 石炭 | 鐵及鋼 | 肥料 | 綿絲綿織物 | セメント |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 4 | 6,209,875 | 198,447 | 19,089 | 589,957 | 100,002 | 41,052 | 165,381 | 1,994,198 | 69,553 | 431,655 | 48,371 | 101,460 |
| 5 | 6,366,980 | 153,860 | 20,012 | 585,547 | 86,663 | 45,086 | 367,513 | 1,959,429 | 84,943 | 388,370 | 53,910 | 108,018 |
| 6 | 5,873,814 | 157,851 | 24,925 | 539,552 | 59,534 | 37,740 | 353,615 | 1,825,370 | 84,084 | 239,590 | 50,001 | 92,794 |
| 7 | 5,813,143 | 217,829 | 113,822 | 567,583 | 63,466 | 38,415 | 322,254 | 1,740,729 | 78,885 | 161,679 | 45,972 | 107,651 |
| 8 | 5,856,970 | 239,905 | 166,535 | 575,597 | 83,234 | 40,626 | 284,513 | 1,663,023 | 81,069 | 97,592 | 50,364 | 111,990 |
| 9 | 5,865,289 | 249,734 | 82,716 | 562,588 | 87,596 | 36,182 | 237,467 | 1,789,992 | 76,593 | 114,809 | 48,436 | 112,726 |
| 10 | 6,776,857 | 321,394 | 52,102 | 605,072 | 115,960 | 40,501 | 218,110 | 1,966,764 | 85,874 | 217,362 | 56,017 | 124,722 |
| 11 | 6,652,744 | 301,258 | 34,404 | 597,222 | 104,449 | 43,503 | 229,375 | 1,988,199 | 81,613 | 159,810 | 52,958 | 114,386 |
| 12 | 7,219,270 | 393,020 | 33,395 | 626,364 | 135,588 | 47,658 | 223,725 | 2,152,874 | 92,634 | 166,155 | 51,288 | 107,588 |
| 8. 12 | 6,784,018 | 602,683 | 26,911 | 492,641 | 126,704 | 39,303 | 182,134 | 2,142,293 | 59,739 | 152,227 | 46,608 | 82,358 |
| 1-12累計 9 | 74,934,357 | 3,343,216 | 618,158 | 6,903,860 | 1,153,957 | 489,487 | 2,961,095 | 23,139,195 | 909,581 | 2,943,977 | 589,427 | 1,237,492 |
| 1-12累計 8 | 67,952,775 | 2,923,860 | 526,397 | 5,886,046 | 1,034,424 | 494,505 | 2,770,089 | 21,251,480 | 704,222 | 2,660,695 | 527,914 | 1,199,141 |

## (3) 國有鐵道運輸成績

| 年月 | 旅客人員 | 貨物噸數 | 旅客收入 | 貨物收入 |
|---|---|---|---|---|
| | 千人 | 千噸 | 千円 | 千円 |
| 9. 7 | 66,274 | 5,119 | 20,601 | 15,596 |
| 8 | 67,114 | 5,219 | 25,507 | 16,318 |
| 9 | 76,816 | 5,256 | 20,971 | 16,837 |
| 10 | 78,358 | 6,149 | 24,225 | 20,104 |
| 11 | 67,359 | 5,974 | 21,768 | 19,241 |
| 12 | 67,393 | 6,488 | 21,874 | 21,095 |
| 8. 12 | 60,433 | 6,187 | 20,170 | 19,402 |
| 7. 12 | 54,797 | 5,606 | 18,468 | 18,018 |
| 1-12累計 9 | 691,983 | 50,697 | 211,972 | 160,291 |
| 1-12累計 8 | 648,736 | 46,619 | 196,320 | 144,050 |

## (4) 手形交換高及不渡手形高 (東京手形交換所調)

| 年月 | 手形交換高 東京 金額 | 東京 一日平均 | 大阪 金額 | 大阪 一日平均 | 全國 枚數 | 全國 金額 | 全國 一日平均 | 不渡手形 全國 枚數 | 不渡手形 全國 金額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千枚 | 千円 | 千円 | 枚 | 円 |
| 9. 7 | 1,988,806 | 76,493 | 1,983,951 | 76,306 | 3,210 | 5,162,349 | 199,002 | 375 | 219,128 |
| 8 | 2,211,515 | 81,908 | 2,022,623 | 74,912 | 3,038 | 5,487,094 | 203,255 | 348 | 129,733 |
| 9 | 2,027,714 | 79,428 | 1,709,469 | 71,228 | 2,796 | 4,833,493 | 201,456 | 321 | 118,529 |
| 10 | 1,897,885 | 72,996 | 1,684,995 | 64,807 | 3,138 | 4,785,391 | 184,303 | 358 | 119,981 |
| 11 | 1,952,038 | 81,335 | 1,806,735 | 75,281 | 3,155 | 4,986,876 | 208,671 | 315 | 151,739 |
| 12 | 2,426,029 | 97,042 | 2,243,126 | 89,725 | 3,853 | 6,094,211 | 243,776 | 387 | 115,587 |
| 8. 12 | 2,500,067 | 100,003 | 2,261,575 | 90,463 | 3,760 | 6,084,748 | 243,471 | 422 | 174,287 |
| 7. 12 | 3,305,445 | 122,424 | 1,913,327 | 78,864 | 3,801 | 6,565,628 | 243,255 | 553 | 173,844 |
| 1-12累計 9 | 25,338,571 | 1,008,124 | 24,418,896 | 978,255 | 37,230 | 64,194,422 | 2,572,504 | 4,154 | 1,596,669 |
| 1-12累計 8 | 31,549,888 | 1,265,924 | 22,175,226 | 889,295 | 36,785 | 66,771,199 | 2,680,315 | 4,787 | 1,616,516 |

## (5) 全國營業倉庫在荷及入出庫 (日本倉庫協會調)

| 年月 | 全國在荷 個數 | 全國在荷 金額 | 六大都市出入個數 入庫 | 六大都市出入個數 出庫 | 六大都市出入個數 在荷 | 六大都市出入金額 入庫 | 六大都市出入金額 出庫 | 六大都市出入金額 在荷 | 東京出入金額 入庫 | 東京出入金額 出庫 | 東京出入金額 在荷 | 大阪出入金額 入庫 | 大阪出入金額 出庫 | 大阪出入金額 在荷 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 千個 | 千円 | 千個 | 千個 | 千個 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 9. 6 | 40,208 | 775,847 | 3,817 | 4,562 | 29,579 | 161,202 | 156,675 | 666,006 | 14,161 | 18,886 | 84,969 | 49,776 | 41,332 | 189,241 |
| 7 | 38,979 | 778,819 | 4,483 | 4,947 | 29,115 | 178,934 | 171,053 | 673,857 | 19,817 | 19,751 | 85,034 | 49,877 | 47,316 | 191,803 |
| 8 | 37,503 | 757,330 | 4,275 | 5,172 | 28,218 | 171,414 | 191,209 | 654,091 | 17,781 | 21,490 | 81,325 | 44,508 | 54,312 | 181,999 |
| 9 | 35,332 | 712,122 | 3,636 | 5,033 | 26,821 | 142,421 | 178,770 | 617,745 | 15,927 | 23,402 | 73 850 | 37,497 | 51,753 | 167,744 |
| 10 | 32,036 | 664,519 | 4,059 | 7,270 | 23,611 | 171,918 | 216,981 | 572,682 | 14,868 | 21,815 | 66,903 | 44,853 | 74,668 | 137,929 |
| 11 | 30,859 | 630,889 | 4,159 | 5,588 | 22,182 | 147,541 | 182,246 | 537,977 | 15,641 | 20,349 | 62,194 | 39,169 | 46,751 | 130,346 |
| 12 | 33,017 | 661,809 | 6,305 | 5,364 | 23,123 | 197,495 | 175,237 | 560,235 | 24,085 | 21,866 | 64,413 | 55,463 | 42,078 | 143,731 |
| 8. 12 | 28,893 | 585,086 | 8,852 | 4,884 | 21,013 | 208,639 | 158,346 | 506,874 | 24,262 | 19,558 | 63,034 | 55,770 | 37,751 | 138,851 |
| 7. 12 | 23,125 | 485,987 | 4,568 | 4,389 | 16,619 | 196,701 | 182,120 | 408,077 | 20,739 | 19,493 | 57,855 | 33,899 | 33,537 | 96,757 |

## (6) 東京卸賣物價指數 (東洋經濟調) (大正2年1月=100)

| 月末 | 穀物 | 其他食料品 | 纖物及同原料 | 金屬 | 雜品 燃料 | 雜品 建築材料 | 雜品 工業用品 | 雜品 肥料 | 雜品 印刷料紙 | 雜品 雜品平均 | 總平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 4 | 145.4 | 171.0 | 153.8 | 130.3 | 172.9 | 197.5 | 316.1 | 97.6 | 161.3 | 209.0 | 161.9 |
| 5 | 145.5 | 170.7 | 158.7 | 130.6 | 172.9 | 197.0 | 309.4 | 99.7 | 161.3 | 207.3 | 162.6 |
| 6 | 142.0 | 169.9 | 159.6 | 130.4 | 174.0 | 196.4 | 326.5 | 96.2 | 161.3 | 211.5 | 162.7 |
| 7 | 141.8 | 169.1 | 158.1 | 131.0 | 179.9 | 210.8 | 338.0 | 96.7 | 161.3 | 220.7 | 164.1 |
| 8 | 151.0 | 170.8 | 159.9 | 136.9 | 179.9 | 212.6 | 348.6 | 98.3 | 161.3 | 224.3 | 168.6 |
| 9 | 156.2 | 174.4 | 156.6 | 143.4 | 181.1 | 248.9 | 343.8 | 104.5 | 161.3 | 235.7 | 173.3 |
| 10 | 156.6 | 176.5 | 152.3 | 140.7 | 181.7 | 220.4 | 330.7 | 102.2 | 161.3 | 222.9 | 169.8 |
| 11 | 154.7 | 177.5 | 152.9 | 151.0 | 181.7 | 208.5 | 313.2 | 99.7 | 161.3 | 214.0 | 170.0 |
| 12 | 156.6 | 180.2 | 152.5 | 153.6 | 187.0 | 208.6 | 317.6 | 101.3 | 161.3 | 216.7 | 171.9 |
| 8. 12 | 138.9 | 167.1 | 150.2 | 125.1 | 174.3 | 197.3 | 276.4 | 96.3 | 161.3 | 198.2 | 155.9 |
| 7. 12 | 150.7 | 159.8 | 172.2 | 124.8 | 169.3 | 208.0 | 255.1 | 101.2 | 149.2 | 185.9 | 158.7 |

## (7) 東京株價指數 (東洋經濟調) (大正2年平均=100)

| 年月 | 平均 | 銀行 | 信託 | 保險 | 取引所 | 海運 | 造船 | 電鐵 | 電力 | 鑛業 | 紡績 | 毛織 | 製痲 | 製紙 | 製粉 | 製糖 | 麥酒 | 洋灰 | 肥料 | 土地建物 | 雜 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9.4 | 107.9 | 66.5 | 109.4 | 92.7 | 87.9 | 48.1 | 70.5 | 128.9 | 101.6 | 169.4 | 183.5 | 167.5 | 25.9 | 176.0 | 108.0 | 118.5 | 259.3 | 63.9 | 42.8 | 78.4 | 59.0 |
| 5 | 108.6 | 67.5 | 107.6 | 95.3 | 86.8 | 46.1 | 69.6 | 129.3 | 102.0 | 177.0 | 187.2 | 174.1 | 26.1 | 176.7 | 107.6 | 116.2 | 254.0 | 63.0 | 43.7 | 77.4 | 64.5 |
| 6 | 107.1 | 67.4 | 105.0 | 99.4 | 77.6 | 46.0 | 80.7 | 123.9 | 99.4 | 173.6 | 183.3 | 167.8 | 26.3 | 168.9 | 106.1 | 114.1 | 252.4 | 62.9 | 42.1 | 75.1 | 64.5 |
| 7 | 104.8 | 64.8 | 104.0 | 96.8 | 78.7 | 44.8 | 85.9 | 126.3 | 96.1 | 172.4 | 185.0 | 147.8 | 26.5 | 171.9 | 106.1 | 109.3 | 249.1 | 59.1 | 39.6 | 69.5 | 61.5 |
| 8 | 104.7 | 64.8 | 102.6 | 97.0 | 79.9 | 43.7 | 84.3 | 126.6 | 97.6 | 174.4 | 190.1 | 135.9 | 26.5 | 170.4 | 107.9 | 116.7 | 246.0 | 60.2 | 39.9 | 68.8 | 60.5 |
| 9 | 101.0 | 63.1 | 100.4 | 95.5 | 76.3 | 43.2 | 77.1 | 124.9 | 93.6 | 165.6 | 187.7 | 120.0 | 25.1 | 164.5 | 105.4 | 113.0 | 240.8 | 60.3 | 36.7 | 67.4 | 60.2 |
| 10 | 99.3 | 62.8 | 99.4 | 94.0 | 74.1 | 43.2 | 72.5 | 121.1 | 92.0 | 160.6 | 186.3 | 112.6 | 23.7 | 164.5 | 105.8 | 109.3 | 242.1 | 57.9 | 35.7 | 67.4 | 60.2 |
| 11 | 99.3 | 62.9 | 99.2 | 92.3 | 76.4 | 43.3 | 73.7 | 120.6 | 95.1 | 157.8 | 186.9 | 114.8 | 23.3 | 165.8 | 103.0 | 110.0 | 242.5 | 55.0 | 35.2 | 66.7 | 61.8 |
| 12 | 97.8 | 63.8 | 97.6 | 92.6 | 74.6 | 44.4 | 76.3 | 120.1 | 95.1 | 156.3 | 179.3 | 106.1 | 23.5 | 159.2 | 99.8 | 110.4 | 245.5 | 53.2 | 34.3 | 65.1 | 58.8 |
| 8.12 | 103.3 | 61.2 | 95.5 | 95.5 | 88.7 | 43.2 | 84.8 | 115.0 | 85.0 | 160.4 | 177.8 | 176.0 | 25.9 | 160.2 | 107.4 | 108.9 | 256.2 | 71.1 | 33.0 | 72.9 | 46.4 |
| 7.12 | 100.3 | 61.2 | 105.7 | 110.2 | 108.9 | 42.3 | 66.7 | 112.8 | 77.2 | 114.8 | 191.0 | 135.2 | 14.8 | 164.2 | 124.0 | 127.4 | 220.5 | 74.0 | 35.9 | 68.4 | 50.7 |

## (8) 主要國生產指數 (*印=季節變動除去)

| 年月 | 國際聯盟調 (1928年=100) *米國 | 英國 | *加奈陀 | 佛國 | 獨逸 | 聯邦準備局調(×印概數) 米國 (1923-25=100) *總指數 | *製造品 | *鑛業品 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 4 | 76.6 | | 77.6 | 81.1 | 86.1 | 85 | 85 | 90 |
| 5 | 77.5 | | 84.8 | 79.5 | 88.1 | 86 | 86 | 89 |
| 6 | 75.5 | 104.6 | 80.8 | 78.0 | 89.4 | 83 | 83 | 87 |
| 7 | 68.5 | | 81.2 | 76.4 | 88.8 | 76 | 74 | 85 |
| 8 | 65.8 | | 84.7 | 76.4 | 86.7 | 73 | 72 | 80 |
| 9 | 64.0 | 99.8 | 82.8 | 74.8 | 86.0 | 71 | 69 | 82 |
| 10 | 65.8 | | 80.9 | 74.0 | 86.3 | 74 | 73 | 81 |
| 8. 10 | 68.5 | 91.7 | 74.2 | 85.0 | 91.9 | 76 | 76 | 81 |
| 7. 10 | 59.5 | 82.7 | 59.8 | 74.8 | 60.8 | 67 | 65 | 74 |

## (9) 米國産業諸指數

(1923-25年平均=100) (聯邦準備局調)

| 年月 | 建築契約許可 | 工場從業者數 | 工場賃銀支拂 | 鐵道貨物積込 | 百貨店賣上高 | ユーエス スチール 鋼材引渡 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 瓲 |
| 9. 4 | * 32 | * 82 | 67 | * 62 | 77 | 643,009 |
| 5 | * 26 | * 82 | 67 | * 63 | 77 | 745,063 |
| 6 | * 26 | * 81 | 65 | * 64 | 74 | 985,000 |
| 7 | * 27 | * 79 | 60 | * 61 | 72 | 370,000 |
| 8 | * 27 | * 79 | 62 | * 59 | 79 | 378,000 |
| 9 | * 29 | * 74 | 58 | * 59 | 76 | 370,000 |
| 10 | * 31 | * 77 | 61 | * 57 | 74 | 354,000 |
| 8. 10 | * 37 | * 78 | * 59 | * 58 | 70 | 572,897 |
| 7. 10 | * 29 | * 63 | * 45 | * 57 | 69 | .. |

## (10) 主要國株價指數 (國際聯盟月報)

| 年月 | 英國 | 米國 | 白耳義 | 佛國 | 和蘭 |
|---|---|---|---|---|---|
| 基數年 | 1924年 | 1926年 | 1928年 1月 | 1913年 | 1921—25年 |
| 9. 6 | 124 | 81.4 | 27 | 194 | 34 |
| 7 | 124 | 79.7 | 26 | 185 | 34 |
| 8 | 125 | 76.7 | 30 | 179 | 33 |
| 9 | 127 | 75.7 | 29 | 170 | 33 |
| 10 | 128 | 76.4 | 27 | 164 | 32 |
| 11 | 132 | 80.1 | 26 | 158 | 29 |
| 12 | 131 | 80.3 | .. | 163 | 28 |
| 8. 12 | 113 | 78.8 | 30 | 224 | 37 |
| 7. 12 | 91 | 44.8 | 37 | 247 | 35 |

## (11) 英米株式相場 (東洋經濟調)

| 年月 | 紐育株式相場 工業株三十種 最高 | 工業株三十種 最低 | 鐵道株二十種 最高 | 鐵道株二十種 最低 | スチール株 最高 | スチール株 最低 | 倫敦株式相場 工業株三十種 最高 | 工業株三十種 最低 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 弗 | 弗 | 弗 | 弗 | 弗 | 弗 | 磅 | 磅 |
| 9. 6 | 100.40 | 91.40 | 46.30 | 41.70 | 43 1/4 | 37 3/8 | 87.4 | 86.0 |
| 7 | 99.02 | 85.51 | 44.19 | 34.29 | 41 3/8 | 33 1/2 | 87.5 | 84.7 |
| 8 | 95.71 | 87.47 | 38.42 | 33.46 | 36 1/4 | 31 7/8 | 88.2 | 85.0 |
| 9 | 93.65 | 86.69 | 36.62 | 33.19 | 34 7/8 | 29 3/8 | 90.3 | 88.3 |
| 10 | 95.60 | 90.41 | 37.69 | 34.69 | 35 | 31 1/4 | 85.8 | 81.7 |
| 11 | 102.78 | 93.46 | 37.19 | 34.26 | 39 1/8 | 31 1/2 | 94.4 | 89.3 |
| 12 | 104.04 | 99.57 | 37.96 | 35.30 | 39 1/2 | 36 1/8 | 95.0 | 92.3 |
| 8. 12 | 102.92 | 96.30 | 43.09 | 38.11 | 48 5/8 | 44 1/2 | 84.0 | 81.0 |
| 7. 12 | 61.93 | 55.83 | 28.16 | 24.05 | 34 | 25 | 67.6 | 64.6 |

## (12) 各國卸賣物價指數 (國際聯盟統計月報) (1913年=100)

| 年月 | 英國 | 米國 | 佛國 | 伊太利 | 白耳義 | 瑞典 | 諾威 | 丁抹 | 和蘭 | 獨逸 | 波蘭 | 瑞西 | 加奈陀 | 濠洲 | 印度 | 支那 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基數年 | 1913 | 1913 | 1913 | 1913 | 1914 | 1913 | 1913 | 1913 | 1913 | 1913 | 1928 | 1914 | 1913 | 1913 | 1914 | 1926 |
| 1934. 5 | 90.0 | 105.6 | 77.4 | 273 | 67.7 | 113 | 123 | 128 | 77 | 96.2 | 56.0 | 89.0 | 111.1 | 133.8 | 90 | 94.9 |
| 6 | 89.9 | 106.9 | 77.0 | 271 | 68.0 | 114 | 123 | 128 | 76 | 97.2 | 55.8 | 89.0 | 112.6 | 134.5 | 90 | 95.7 |
| 7 | 91.0 | 107.2 | 75.9 | 271 | 67.9 | 114 | 124 | 129 | 76 | 98.9 | 55.9 | 88.9 | 112.5 | 136.3 | 89 | 97.1 |
| 8 | 92.3 | 109.5 | 75.3 | 274 | 68.3 | 114 | 127 | 134 | 78 | 100.1 | 55.8 | 89.8 | 112.9 | 137.9 | 89 | 99.8 |
| 9 | 90.4 | 111.2 | 74.1 | 277 | 67.7 | 114 | 126 | 135 | 77 | 100.4 | 54.9 | 89.1 | 112.5 | 137.2 | 89 | 97.3 |
| 10 | 89.7 | 109.6 | 72.5 | 278 | 67.3 | 114 | 127 | 135 | 77 | 101.0 | 54.4 | 89.6 | 111.5 | 137.2 | .. | 96.1 |
| 11 | 89.0 | .. | 72.3 | .. | 67.2 | .. | 126 | 136 | 76 | 101.2 | .. | .. | .. | .. | .. | 98.3 |
| 1933. 11 | 86.8 | 101.9 | 81.8 | 280 | 69.9 | 110 | 122 | 128 | 76 | 96.0 | 57.6 | 91.0 | 107.7 | 130.0 | 88 | 99.9 |
| 1932. 11 | 85.7 | 91.5 | 83.9 | 302 | 75.9 | 109 | 124 | 120 | 77 | 93.9 | 61.0 | 94.2 | 101.1 | 127.0 | 90 | 106.9 |

## (13) 英國卸賣物價指數 (1927=100)
(エコノミスト社調)

| 年月 | 穀物及肉 | 其他食料品 | 繊維物原料品 | 金屬 | 雜品 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 1 | 66.7 | 57.2 | 57.5 | 77.8 | 68.9 | 65.7 |
| 2 | 65.7 | 59.5 | 57.5 | 78.4 | 68.4 | 65.9 |
| 3 | 63.5 | 60.9 | 46.4 | 72.8 | 59.7 | 60.1 |
| 4 | 66.1 | 58.9 | 55.5 | 79.2 | 67.7 | 65.4 |
| 5 | 57.7 | 59.6 | 53.4 | 78.0 | 68.5 | 65.4 |
| 6 | 68.1 | 59.2 | 53.0 | 76.1 | 69.5 | 65.3 |
| 7 | 73.0 | 58.0 | 53.3 | 76.6 | 69.4 | 66.2 |
| 8 | 76.8 | 59.3 | 53.5 | 76.1 | 69.4 | 67.1 |
| 9 | 74.1 | 57.9 | 51.3 | 76.0 | 69.1 | 65.7 |
| 10 | 70.4 | 58.5 | 51.5 | 76.4 | 69.1 | 65.2 |
| 11 | 68.3 | 59.1 | 51.7 | 75.8 | 68.7 | 64.7 |
| 12 | 69.4 | 60.3 | 53.6 | 75.5 | 69.3 | 65.7 |
| 8. 12 | 64.5 | 56.7 | 53.3 | 77.4 | 68.1 | 63.9 |
| 7. 12 | 63.1 | 60.0 | 48.6 | 73.9 | 61.9 | 61.1 |

## (14) 米國卸賣物價指數 (紐育D&B社每翌月初調)(單位弗)

| 翌月初 | 1932年11月 | 1933年11月 | 1934年8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 穀物 | 0.0562 | 0.0954 | 0.1260 | 0.1247 | 0.1170 | 0.1250 |
| 屠獸 | 0.2140 | 0.2028 | 0.2580 | 0.2428 | 0.2255 | 0.2275 |
| 其他の食料品 | 1.9140 | 2.0404 | 2.5405 | 2.5010 | 2.4538 | 2.4754 |
| 果實 | 0.1976 | 0.2420 | 0.2357 | 0.2334 | 0.2369 | 0.2251 |
| 皮革 | 0.7650 | 0.8538 | 0.6775 | 0.6950 | 0.7050 | 0.7400 |
| 織物及同原料 | 1.6676 | 2.7434 | 2.8076 | 2.8296 | 2.7502 | 2.7301 |
| 金屬 | 0.4158 | 0.7731 | 0.7660 | 0.7658 | 0.7655 | 0.7660 |
| 石炭コークス | 0.0092 | 0.0110 | 0.0115 | 0.0116 | 0.0116 | 0.0116 |
| 油 | 0.3722 | 0.4786 | 0.4998 | 0.5046 | 0.5038 | 0.5162 |
| 塗料 | 0.1020 | 0.1152 | 0.1203 | 0.1210 | 0.1298 | 0.1296 |
| 建築材料 | 0.0972 | 0.1105 | 0.1077 | 0.1046 | 0.1046 | 0.1046 |
| 化學藥及藥劑 | 0.8162 | 0.8206 | 0.8477 | 0.8477 | 0.8477 | 0.8477 |
| 雜品 | 0.2585 | 0.3258 | 0.4795 | 0.4748 | 0.4268 | 0.3925 |
| 合計 | 6.8855 | 8.8126 | 9.4778 | 9.4566 | 9.2791 | 9.2913 |

## (15) 英米物價指數比較
(1931.9.18=100) (エコノミスト調)

| 年月日 | 全商品 | 重要商品 | |
|---|---|---|---|
| | 英國 | 英國 | 米國 |
| 1934. 7.18 | 109.5 | 124.8 | 136.7 |
| 8.29 | 111.1 | 129.1 | 150.6 |
| 9.26 | 108.7 | 125.7 | 149.0 |
| 10.24 | 107.9 | 124.2 | 146.2 |
| 11.21 | 106.7 | 120.5 | 149.0 |
| 12.19 | 108.7 | 123.4 | 153.1 |
| 1933. 12.13 | 105.3 | 114.8 | 117.0 |
| 1932. 12.28 | 101.2 | 109.3 | 76.9 |

## (16) 主要國物價比較

| 年月 | 我社調 大正2年1月=100 東京卸(我社) | 米國卸(ブ翌月初社) | 英國卸(エ社) | 弗換算物價 日本 | 弗換算物價 英國 | 日銀調 大正3年7月=100 東京卸(日銀) | 紐育卸(ブ翌月社) | 倫敦卸(エ社) | 巴里(統計局) | 東京小賣 | 上海卸賣物價 1926=100 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 7 | 164.1 | 98.6 | 97.6 | 97.5 | 101.1 | 138.4 | 107.0 | 100.0 | 361 | 147.3 | 97.1 |
| 8 | 168.6 | 100.2 | 98.9 | 99.4 | 103.0 | 140.7 | 108.8 | 101.3 | 363 | 148.0 | 99.8 |
| 9 | 173.3 | 100.0 | 96.9 | 100.8 | 99.4 | 142.5 | 108.6 | 99.2 | 360 | 149.4 | 97.3 |
| 10 | 169.8 | 98.1 | 96.1 | 98.6 | 97.7 | 144.6 | 106.5 | 98.5 | 352 | 150.1 | 96.1 |
| 11 | 170.0 | 98.2 | 94.9 | 99.1 | 97.3 | 144.0 | 106.7 | 97.2 | 349 | 149.3 | 98.3 |
| 12 | 172.1 | 100.4 | 96.9 | 98.8 | 98.5 | 144.0 | 109.0 | 99.2 | 344 | 149.9 | 99.0 |
| 8. 12 | 155.9 | 93.4 | 94.2 | 95.8 | 99.2 | 139.6 | 101.4 | 96.5 | 389 | 148.7 | 98.4 |
| 7. 12 | 160.7 | 71.8 | 90.1 | 66.1 | 60.7 | 146.8 | 78.0 | 92.3 | 390 | 146.0 | 107.5 |

## (17) 各國中央銀行割引歩合

| 國名 | 前回の改定 改定前割引歩合 | 改定年月日 | 割引歩合 | 最近の改定 改定年月日 | 現行率 |
|---|---|---|---|---|---|
| | % | | % | | % |
| 日本銀行 (國債擔保) | 5.475 | 1932. 8.18 | 4.745 | 1933. 7. 3 | 4.02 |
| 紐育準備銀行 | 2.50 | 1933.10.19 | 2.00 | 1934. 2. 1 | 1.50 |
| 英蘭銀行 | 3.00 | 1932. 5.12 | 2.50 | 1932. 6.30 | 2.00 |
| 佛蘭西銀行 | 2.50 | 1934. 2. 8 | 3.00 | 1934. 5.31 | 2.50 |
| 獨逸帝國銀行 | 5.50 | 1932. 4.28 | 5.00 | 1932. 9.22 | 4.00 |
| 白耳義國立銀行 | 3.50 | 1934. 4.26 | 3.00 | 1934. 8.28 | 2.50 |
| 和蘭銀行 | 3.50 | 1933. 8.15 | 3.00 | 1933. 9.18 | 2.50 |
| 伊太利銀行 | 3.50 | 1933.12.22 | 3.00 | 1934.11.26 | 4.00 |
| 瑞西銀行 | 3.00 | 1930. 7. 1 | 2.50 | 1931. 1.22 | 2.00 |
| 瑞典銀行 | 3.50 | 1933. 6. 1 | 3.00 | 1933.12. 1 | 2.50 |
| 丁抹國立銀行 | 3.50 | 1933. 6. 1 | 3.00 | 1933.12. 1 | 2.50 |

## (18) 英米市場金利

| 年月 | 倫敦商手(3ケ月)割引率 最高 | 最低 | 紐育一流(90日)引受手形 最高 | 最低 | 紐育コール利率 最高 | 最低 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | % | % | % | % | % |
| 1934. 5 | 0 15/16 | 0 15/16 | 0 1/4 | 0 1/4 | 1 | 1 |
| 6 | 0 15/16 | 0 7/8 | 0 1/4 | 0 1/4 | 1 | 1 |
| 7 | 0 15/16 | 0 13/16 | 0 1/4 | 0 1/4 | 1 | 1 |
| 8 | 0 13/16 | 0 13/16 | 0 1/4 | 0 1/4 | 1 | 1 |
| 9 | 0 13/16 | 0 11/16 | 0 1/4 | 0 1/4 | 1 | 1 |
| 10 | 0 7/8 | 0 9/16 | 0 1/4 | 0 3/16 | 1 | 1 |
| 11 | 0 9/16 | 0 3/8 | 0 3/16 | 0 3/16 | 1 | 1 |
| 12 | 0 3/8 | 0 9/16 | 0 3/16 | 0 3/16 | 1 | 1 |
| 1933. 12 | 1 3/8 | 0 7/8 | 0 5/8 | 0 1/2 | 1 | 1 |
| 1932. 12 | 5 13/16 | 5 5/8 | 3 | 3 | 3 1/8 | 2 1/2 |

## (19) 英蘭銀行主要勘定 (單位 千磅)

| 年月日 | 兌換券流通高 | 兌換券發行高 | 正貨準備 | 正貨準備率(%) | 預金 政府 | 預金 銀行 | 預金 其他 | 貸出 政府證券 | 貸出 貼現及貸付 | 貸出 其他證券 | 貸出 計 | 預金準備 | 預金準備率(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1934. 4.25 | 373,704 | 451,170 | 192,091 | 36 1/2 | 15,829 | 99,505 | 36,956 | 75,694 | 5,282 | 10,621 | 91,597 | 78,387 | 51 13/32 |
| 5.30 | 378,111 | 451,333 | 192,688 | 36 13/32 | 14,015 | 99,408 | 36,069 | 76,895 | 5,649 | 10,755 | 93,299 | 73,977 | 49 19/64 |
| 6.27 | 381,690 | 451,460 | 192,144 | 35 9/32 | 17,630 | 96,309 | 36,517 | 81,006 | 6,080 | 10,904 | 98,000 | 70,454 | 46 1/16 |
| 7.25 | 383,949 | 451,580 | 192,154 | 35 5/64 | 10,939 | 104,788 | 36,093 | 83,467 | 7,532 | 10,746 | 101,745 | 68,205 | 44 23/32 |
| 8.29 | 379,284 | 451,762 | 192,336 | 36 5/32 | 33,991 | 83,747 | 35,216 | 83,185 | 5,615 | 9,344 | 98,144 | 73,052 | 47 1/16 |
| 9.26 | 377,028 | 451,886 | 192,525 | 36 1/16 | 37,858 | 82,040 | 36,768 | 81,634 | 7,203 | 10,598 | 99,435 | 75,498 | 48 3/32 |
| 10.31 | 378,369 | 452,001 | 192,650 | 36 | 16,894 | 100,419 | 39,812 | 80,894 | 8,901 | 10,748 | 100,543 | 74,280 | 47 3/16 |
| 11.28 | 379,687 | 452,113 | 192,681 | 36 | 27,693 | 89,126 | 38,134 | 80,361 | 9,156 | 10,272 | 99,789 | 72,994 | 47 3/16 |
| 12.26 | 405,164 | 452,273 | 192,789 | 35 21/32 | 9,878 | 89,140 | 36,405 | 87,541 | 7,579 | 10,667 | 105,787 | 47,625 | 35 13/32 |
| 1933.12.27 | 391,982 | 450,726 | 191,687 | 34 45/64 | 22,156 | 101,216 | 36,545 | 88,037 | 16,756 | 13,395 | 118,188 | 59,705 | 37 19/64 |
| 1932.12.28 | 371,193 | 394,788 | 120,594 | 23 13/16 | 8,865 | 102,410 | 33,760 | 102,372 | 18,509 | 17,738 | 138,619 | 24,401 | 16 13/16 |

## (20) 米國聯邦準備銀行週報 (單位百萬弗) *印金準備

| 年月日 | 政府金證券 | 現金準備 | 手形割引高 合計 | 手形割引高 (內)證券 | 手形割引高 政府擔保 | 一般市場取引 買入手形 | 一般市場取引 政府證券所有高 | 手形及證券合計 | 聯邦準備券流通高 | 聯邦準備銀行券流通 | 預金 株主銀行勘定準備 | 預金 政府預金 | 預金 其他共計 | 對預金及聯邦準備券準備 總準備率(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1934. 7.25 | 4,898 | 235 | 21 | 4 | | 5 | 2,432 | 2,459 | 3,060 | 34 | 4,020 | 48 | 4,288 | 69.9 |
| 8.29 | 5,005 | 236 | 21 | 4 | | 5 | 2,432 | 2,459 | 3,103 | 32 | 4,127 | 30 | 4,361 | 70.2 |
| 9.26 | 4,980 | 237 | 20 | 5 | | 6 | 2,430 | 2,459 | 3,135 | 30 | 3,970 | 155 | 4,310 | 70.1 |
| 10.31 | 4,989 | 223 | 11 | 5 | | 6 | 2,430 | 2,453 | 3,161 | 29 | 4,006 | 92 | 4,262 | 70.2 |
| 11.28 | 5,328 | 220 | 12 | 7 | | 6 | 2,430 | 2,460 | 3,188 | 28 | 4,108 | 86 | 4,354 | 70.6 |
| 12.26 | 5,355 | 214 | 9 | 5 | | 6 | 2,430 | 2,459 | 3,261 | 27 | 3,961 | 168 | 4,317 | 70.7 |
| 1933.12.27 | 3,569 | 209 | 111 | 37 | | 111 | 2,432 | 2,543 | 3,081 | 210 | 2,675 | 30 | 2,829 | 63.9 |
| 1932.12.28 | 3,149 | 84 | 269 | 78 | | 33 | 1,851 | 2,157 | 2,735 | .. | 2,482 | 42 | 2,563 | 62.7 |

## (21) 佛蘭西銀行主要勘定 (單位 百萬法)

| 年月日 | 金準備 | 外國爲替 | 國內手形 | 證券擔保貸付 | 流通證券 | 紙幣流通高 | 預金 政府 | 預金 其他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1934. 4.27 | 75,756 | 1,066 | 5,707 | 3,016 | 5,973 | 81,502 | 2,024 | 14,199 |
| 5.25 | 77,466 | 1,094 | 5,011 | 3,060 | 5,950 | 79,992 | 2,996 | 15,681 |
| 6.29 | 79,548 | 1,157 | 4,386 | 3,076 | 5,929 | 82,058 | 3,291 | 15,188 |
| 7.27 | 80,252 | 1,155 | 4,248 | 3,054 | 5,913 | 80,809 | 3,515 | 16,547 |
| 8.31 | 82,037 | 1,082 | 3,116 | 3,140 | 5,913 | 81,732 | 3,884 | 16,880 |
| 9.28 | 82,281 | 962 | 4,146 | 3,134 | 5,898 | 81,479 | 3,674 | 17,673 |
| 10.26 | 82,476 | 931 | 3,996 | 3,101 | 5,898 | 79,467 | 5,287 | 17,966 |
| 11.30 | 82,097 | 960 | 3,068 | 3,228 | 5,898 | 81,879 | 4,829 | 15,522 |
| 1933.11.24 | 77,822 | 1,250 | 4,092 | 2,814 | 6,186 | 80,368 | 2,956 | 15,016 |
| 1932.11.25 | 83,342 | 4,853 | 3,266 | 2,500 | 6,621 | 81,536 | 2,931 | 22,969 |

## (22) 獨逸ライヒスバンク主要勘定 (單位百萬ライヒスマーク)

| 年月日 | 金準備 | 爲替準備 | 手形 | 證券擔保貸付 | 證券 | 紙幣流通高 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1934. 4.30 | 205 | 7 | 3,140 | 140 | 639 | 3,640 |
| 5.31 | 130 | 6 | 3,174 | 125 | 643 | 3,635 |
| 6.30 | 70 | 7 | 3,392 | 171 | 685 | 3,777 |
| 7.31 | 75 | 3 | 3,408 | 109 | 713 | 3,768 |
| 8.31 | 75 | 4 | 3,540 | 128 | 737 | 3,824 |
| 9.29 | 75 | 4 | 3,811 | 148 | 755 | 3,919 |
| 10.31 | 83 | 4 | 3,726 | 91 | 750 | 3,823 |
| 11.30 | 79 | 4 | 3,848 | 119 | 752 | 3,810 |
| 1933.11.30 | 405 | 3 | 3,001 | 163 | 518 | 3,542 |
| 1932.11.30 | 827 | 110 | 2,731 | 207 | 395 | 3,531 |

## (23) 各國金準備額 (聯邦準備局調) (單位百萬弗)

| 年月 | 總計(50國) | 米國 | 南米(10國) | 東洋及濠洲(7國) 合計 | 東洋及濠洲(7國) 日本 | 亞弗利加 | 歐洲(27國) 合計 | 佛國 | 英國 | 獨逸 | 伊太利 | 白耳義 | 和蘭 | 西班牙 | 露西亞 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1934. 3 | × 20,724 | × 7,694 | × 590 | × 778 | × 359 | × 218 | ×11,313 | × 4,947 | ×1,574 | × 96 | × 613 | × 635 | × 535 | × 739 | × 706 |
| 4 | × 20,820 | × 7,757 | × 591 | × 781 | × 362 | × 220 | ×11,340 | × 5,023 | ×1,575 | × 83 | × 609 | × 636 | × 539 | × 739 | × 706 |
| 5 | × 20,957 | × 7,779 | × 594 | × 803 | × 382 | × 226 | ×11,426 | × 5,136 | ×1,577 | × 52 | × 594 | × 635 | × 551 | × 739 | × 706 |
| 6 | × 21,166 | × 7,856 | × 593 | × 804 | × 384 | × 233 | ×11,548 | × 5,274 | ×1,578 | × 28 | × 576 | × 625 | × 573 | × 739 | × 716 |
| 7 | × 21,304 | × 7,931 | × 599 | × 806 | × 386 | × 244 | ×11,592 | × 5,321 | ×1,579 | × 30 | × 567 | × 618 | × 588 | × 740 | × 716 |
| 8 | × 21,489 | × 7,978 | × 605 | × 807 | × 387 | × 220 | ×11,747 | × 5,439 | ×1,580 | × 30 | × 565 | × 623 | × 588 | × 740 | × 716 |
| 9 | × 21,530 | × 7,978 | × 604 | × 803 | × 388 | × 226 | ×11,787 | × 5,455 | ×1,581 | × 30 | × 554 | × 626 | × 588 | × 740 | × 716 |
| 10 | × 21,585 | × 8,002 | × 599 | × 795 | × 390 | × 245 | ×11,813 | × 5,468 | ×1,582 | × 33 | × 541 | × 609 | × 601 | × 740 | × 716 |
| 11 | .. | × 8,132 | .. | .. | .. | .. | .. | × 5,443 | ×1,583 | × 32 | × 520 | × 589 | × 582 | × 740 | × .. |
| 1933. 10 | 12,057 | 4,011 | 352 | 453 | 212 | 123 | 7,040 | 3,176 | 927 | 94 | 371 | 377 | 359 | 436 | 416 |
| 1932. 10 | 11,897 | 4,045 | 345 | 522 | 212 | 76 | 6,826 | 3,254 | 583 | 192 | 307 | 361 | 415 | 436 | 368 |

(備考) (23)表の×印は新平價にて換算せるものなり。 純金一オンスに付舊貨20.67弗、新貨35弗。

## (24) 各國金産額調 (單位千弗)

| 年月 | 推定世界生産額 | 亞弗利加 南亞 | 亞弗利加 其他 | 加奈陀 | 米國 | 墨西哥 | コロンビヤ | 濠洲 | 日本 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1934. 5 | × 78,081 | 31,324 | × 3,572 | × 9,090 | × 8,505 | × 2,431 | × 991 | × 2,460 | × 1,268 |
| 6 | × 76,034 | × 30,138 | × 3,541 | × 8,495 | × 8,260 | × 1,941 | × 1,003 | × 2,722 | × 1,310 |
| 7 | × 77,392 | × 30,733 | × 3,608 | × 8,593 | × 8,750 | × 1,861 | × 1,037 | × 2,579 | × 1,351 |
| 8 | × 78,232 | × 31,015 | × 3,649 | × 9,270 | × 8,365 | × 2,078 | × 1,148 | × 2,619 | × 1,413 |
| 9 | × 77,242 | × 29,951 | × 3,677 | × 8,546 | × 9,940 | × 1,400 | × 940 | × 2,625 | × 1,495 |
| 10 | × 80,122 | × 30,994 | × 3,834 | × 9,278 | ×10,360 | × 1,820 | × 1,143 | × 2,625 | × 1,400 |
| 1933. 10 | 45,532 | 18,822 | 2,012 | 5,048 | 5,209 | 1,501 | 700 | 1,436 | 825 |
| 1932. 10 | 41,332 | 20,157 | 1,992 | 5,231 | 1,091 | 455 | 1,216 | 727 | 547 |
| 1-10 34 | ×765,623 | ×305,767 | × 35,788 | ×85,871 | ×84,105 | ×18,693 | ×10,292 | ×25,247 | ×13,504 |
| 累計 33 | 425,950 | 190,892 | 19,440 | 50,827 | 41,970 | 10,959 | 4,968 | 13,751 | 5,786 |

## (25) 各國金移動調 (單位千弗)

| 年月 | 米國 入超 | 英國 入超 | 佛國 入超 | 獨逸 入超 |
|---|---|---|---|---|
| 1934. 5 | × 33,583 | × 37,986 | × 30,915 | ×出29,040 |
| 6 | × 63,705 | × 53,056 | × 6,437 | ×出20,312 |
| 7 | × 52,346 | × 30,991 | ×出 2,895 | × 4,469 |
| 8 | × 37,225 | × 26,005 | ×出15,105 | × 5,328 |
| 9 | ×出18,670 | × 23,488 | × 964 | × 62 |
| 10 | × 10,837 | × 49,999 | × 22,710 | × 7,872 |
| 1933. 10 | 出 32,351 | 63,918 | 26,233 | 5,845 |
| 1932. 10 | 100,859 | 29,582 | 25,494 | 出 3,293 |
| 1-10 34 | 920,914 | 638,042 | 出379,093 | 出 95,078 |
| 累計 33 | 163,544 | 518,841 | 342,706 | 出 97,657 |

## (26) 主要國金塊相場

| 年月 | 日本 政府買入 一瓦に付 | 日本 東京小賣 一匁に付 | 英國 倫敦(市場) 一弓に付 | 米國 紐育(復興買) 一弓に付 | 支那 上海(市場) 一條に付 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 磅志片 | 弗 | 弗 |
| 9. 6 | 2.95 | 11.60 | 6.17. 9 | 35.00 | 1,006.3 |
| 7 | 2.95 | 11.79 | 6.17.11 | 35.00 | 986.9 |
| 8 | 2.95 | 12.35 | 6.18. 7 | 35.00 | 957.9 |
| 9 | 2.95 | 12.50 | 7. 0.10 | 35.00 | 943.3 |
| 10 | 2.95 | 12.38 | 7. 1. 8 | 35.00 | 958.0 |
| 11 | 2.95 | 11.85 | 6.19. 5 | 35.00 | 991.2 |
| 12 | 2.95 | 11.92 | 7. 0. 7 | 35.00 | 981.3 |
| 8. 12 | 2.65 | 11.03 | 6. 6. 2 5/8 | 34.03 | 699.4 |
| 7. 12 | 2.52 | .... | 6. 6. 4 1/2 | .... | 808.8 |

## (27) 主要國銀塊相場 (月中平均)

| 年月 | 倫敦現物 一オンスに付 | 紐育現物 一オンスに付 | 孟買現物 一トーラに付 | 日本水曜會建値(一瓩) |
|---|---|---|---|---|
| | 片 | 仙 | 留比 | 円 |
| 9. 6 | 19.980 | 45.163 | .... | 47.478 |
| 7 | 20.512 | 46.320 | .... | 49.078 |
| 8 | 21.377 | 48.986 | .... | 50.606 |
| 9 | 21.887 | 49.484 | 60.375 | 51.728 |
| 10 | 23.581 | 52.375 | 64.493 | 56.718 |
| 11 | 24.257 | 54.255 | 66.288 | 58.794 |
| 12 | 24.403 | 54.390 | 66.046 | 59.187 |
| 8. 12 | 18.674 | 43.550 | .... | 43.780 |
| 7. 12 | 17.109 | 25.009 | .... | 73.195 |

(備考) (24)(25)表の×印は新平價により換算せるもの。

## (28) 紐育市場爲替相場 (米國聯邦準備局調)(月中平均)

| (單位) | ポンド | フラン | ライヒスマルク | ルーピー | ペルガ | ペセタ | リラ | ドル | フローリン | クローネ | ドル | エン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平價 | 823.95 | 6.64 | 40.33 | 61.80 | 23.53 | 32.68 | 8.91 | 169.31 | 68.06 | 45.38 | 57.45 | 84.396 |
| 國名 | 英吉利 | 佛蘭西 | 獨逸 | 印度 | 白耳義 | 西班牙 | 伊太利 | 加奈陀 | 和蘭 | 瑞典 | 香港 | 日本 |
| | 仙 | 仙 | 仙 | 仙 | 仙 | 仙 | 仙 | 仙 | 仙 | 仙 | 仙 | 弗 |
| 1934. 7 | 504.0705 | 6.5939 | 38.4938 | 37.8774 | 23.3606 | 13.3076 | 8.5750 | 101.2034 | 67.7586 | 25.9615 | 37.6231 | 29.8434 |
| 8 | 506.5076 | 6.6592 | 39.4786 | 38.0616 | 23.7056 | 13.8002 | 8.6632 | 102.3779 | 68.3808 | 26.1182 | 38.6140 | 29.9933 |
| 9 | 499.4056 | 6.6714 | 40.2760 | 37.5481 | 23.7332 | 13.8269 | 8.6794 | 102.9387 | 68.5744 | 25.7483 | 39.3324 | 29.7693 |
| 10 | 494.0809 | 6.6247 | 40.4507 | 37.1426 | 23.4579 | 13.7272 | 8.6056 | 102.1226 | 68.0869 | 25.4756 | 40.4695 | 28.6843 |
| 11 | 498.9022 | 6.5886 | 40.2054 | 37.4866 | 23.3212 | 13.6532 | 8.5386 | 102.4719 | 67.5988 | 25.7220 | 41.2418 | 29.0554 |
| 1933. 11 | 514.9737 | 6.2678 | 38.2361 | 38.3408 | 22.3176 | 13.1129 | 8.4331 | 101.1829 | 64.5642 | 26.5491 | 36.6896 | 30.3618 |
| 1932. 11 | 327.5267 | 3.9190 | 23.7536 | 24.7830 | 13.8723 | 8.1730 | 5.1124 | 87.3000 | 40.1774 | 17.4314 | 22.4062 | 20.6218 |

## (29) 倫敦市場爲替相場 (電信賣)

| 平價 | 8.24弗 | | .... | | 124.213法 | | 20.429馬 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年月 | 對米 | | 對支 | | 巴里 | | 伯林 | |
| | 最高 | 最低 | 最高 | 最低 | 最高 | 最低 | 最高 | 最低 |
| | 弗 | 弗 | 志片 | 志片 | 法 | 法 | 馬 | 馬 |
| 9. 6 | 5.07 1/8 | 5.03 | 1/-4 5/8 | 1/-3 5/8 | 76.94 | 76.13 | 13.44 | 12.82 |
| 7 | 5.06 1/4 | 5.03 5/8 | 1/-4 9/16 | 1/-4 1/4 | 76.75 | 76.31 | 13.27 | 12.88 |
| 8 | 5.10 3/8 | 4.98 7/8 | 1/-5 3/8 | 1/-4 3/16 | 76.38 | 74.50 | 12.99 | 12.50 |
| 9 | 5.01 5/8 | 4.96 1/4 | 1/-6 | 1/-5 1/8 | 75.06 | 74.56 | 12.58 | 12.25 |
| 10 | 4.98 3/4 | 4.90 3/8 | 1/-7 1/4 | 1/-4 | 75.56 | 73.75 | 12.39 | 12.08 |
| 11 | 5.00 1/2 | 4.97 7/8 | 1/-5 1/2 | 1/-4 1/8 | 76.00 | 75.50 | 12.44 | 12.37 |
| 12 | 4.97 1/2 | 4.93 1/2 | 1/-5 3/8 | 1/-4 5/8 | 75.38 | 74.69 | 12.38 | 12.25 |
| 8. 12 | 5.18 3/4 3/8 | 5.03 3/8 1/8 | 1/-4 1/4 | 1/-3 3/16 | 84.50 | 83.19 | 13.85 | 13.64 |
| 7. 12 | 3.33 3/8 | 3.18 1/2 | 1/-9 5/16 | 1/-7 3/4 | 85.50 | 81.37 | 14.01 | 13.36 |

## (30) 上海市場爲替相場

| 年月 | .... 對英 最高 | .... 對英 最低 | .... 對米 最高 | .... 對米 最低 | .... 對日平均 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 志片 | 志片 | 弗 | 弗 | 円 |
| 9. 6 | 1/-4 5/16 | 1/-3 7/16 | 34 7/8 | 32 | 110.5 |
| 7 | 1/-4 3/8 | 1/-4 1/16 | 34 7/16 | 33 1/16 | 113.5 |
| 8 | 1/-4 1/16 | 1/-4 1/8 | 35 7/16 | 33 7/8 | 116.3 |
| 9 | 1/-5 1/16 | 1/-4 15/16 | 36 5/8 | 35 3/8 | 119.6 |
| 10 | 1/-6 1/2 | 1/-3 5/8 | 37 3/8 | 32 3/8 | 125.2 |
| 11 | 1/-4 1/16 | 1/-3 7/8 | 34 3/4 | 33 | 115.0 |
| 12 | 1/-4 15/16 | 1/-4 1/4 | 34 7/8 | 33 3/4 | 118.7 |
| 8. 12 | 1/-4 | 1/-3 3/8 | 34 1/8 | 32 3/16 | 108.5 |
| 7. 12 | 1/-9 5/16 | 1/-7 1/2 | 28 3/8 | 27 1/16 | 75.0 |

## (31) 各國貿易月表（國際聯盟調）　＊印9月迄

| 年月 | 獨逸 千ライヒスマーク | 墺太利 千シリング | 白耳義 千フラン | 丁抹 千クローネ | 西班牙 千ペセタ | 米國 千ドル | 佛國 千フラン | 伊太利 千リラ | 和蘭 千グルデン | 英國 千ポンド | 露西亞 千ルーブル | 瑞典 千クローネ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **輸入** | | | | | | | | | | | | |
| 1934. 3 | 392,900 | 1,00570 | 1,318,000 | 96,620 | 86,480 | 153,030 | 2,291,000 | 676,000 | 94,370 | 56,290 | 18,040 | 100,080 |
| 4 | 393,500 | 96,080 | 1,160,000 | 91,300 | 63,460 | 141,140 | 2,035,000 | 639,800 | 86,130 | 51,310 | 17,930 | 109,070 |
| 5 | 379,600 | 98,630 | 1,149,000 | 110,770 | 72,410 | 146,870 | 1,959,000 | 621,100 | 86,760 | 56,940 | 23,110 | 110,220 |
| 6 | 377,100 | 94,040 | 1,101,000 | 93,310 | 77,920 | 135,050 | 1,964,000 | 812,600 | 89,110 | 56,860 | 20,070 | 103,350 |
| 7 | 362,800 | 84,920 | 1,038,000 | 102,070 | 55,220 | 124,120 | 1,714,000 | 487,500 | 86,230 | 53,900 | 18,440 | 99,310 |
| 8 | 342,500 | 84,590 | 1,081,000 | 111,360 | 63,340 | 117,290 | 1,672,000 | 516,700 | 89,170 | 56,730 | 21,870 | 113,050 |
| 9 | 352,200 | 95,560 | 1,112,000 | 132,070 | 59,670 | 149,750 | 1,653,000 | 563,800 | 77,750 | 54,490 | 20,220 | 109,720 |
| 10 | 349,500 | 106,500 | 1,327,000 | 126,160 | 68,090 | 137,860 | 1,795,000 | 630,700 | 87,960 | 64,990 | .... | 128,650 |
| 11 | 345,800 | 108,800 | 1,150,000 | 118,360 | 79,260 | 151,000 | 1,793,000 | 608,000 | 73,000 | 60,680 | .... | 128,310 |
| 1933. 11 | 351,400 | 115,260 | 1,221,000 | 114,940 | 64,230 | 125,270 | 2,289,000 | 577,900 | 109,080 | 60,120 | ＊ 27,180 | 109,340 |
| 1932. 11 | 393,400 | 107,370 | 1,367,000 | 93,590 | 86,670 | 105,330 | 2,538,000 | 585,300 | 105,550 | 57,510 | ＊ 46,330 | 109,470 |
| 1-11 累計 34 | 4,054,800 | 1,046,600 | 12,832,000 | 1,172,430 | 763,690 | 1,509,860 | 21,242,000 | 6,889,200 | 952,290 | 624,930 | ＊171,120 | 1,190,080 |
| 1-11 累計 33 | 3,829,300 | 1,034,090 | 13.645,000 | 1,108,460 | 745,130 | 1,305,840 | 26,128,000 | 6,702,900 | 1,101,470 | 567,420 | ＊268,940 | 992,950 |
| **輸出** | | | | | | | | | | | | |
| 1934. 3 | 401,100 | 79,010 | 1,339,000 | 91,400 | 57,040 | 187,500 | 1,489,000 | 456,500 | 60,730 | 33,070 | 29,680 | 83,080 |
| 4 | 315,800 | 71,560 | 1,145,000 | 93,990 | 57,700 | 176,500 | 1,470,000 | 406,700 | 54,320 | 30,100 | 27,700 | 92,410 |
| 5 | 337,400 | 67,300 | 1,073,000 | 99,020 | 63,110 | 157,170 | 1,365,000 | 435,600 | 57,110 | 32,760 | 31,730 | 112,260 |
| 6 | 338,800 | 72,050 | 1,139,000 | 94,550 | 46,870 | 167,960 | 1,451,000 | 540,700 | 59,470 | 32,120 | 37,420 | 125,290 |
| 7 | 321,300 | 65,560 | 1,060,000 | 94,220 | 37,970 | 159,240 | 1,351,000 | 369,000 | 58,120 | 33,230 | 40,900 | 109,170 |
| 8 | 333,900 | 71,210 | 1,032,000 | 98,030 | 34,020 | 169,830 | 1,391,000 | 410,500 | 68,850 | 32,090 | 44,280 | 116,360 |
| 9 | 350,300 | 79,190 | 1,100,000 | 112,390 | 38,250 | 189,240 | 1,518,000 | 385,000 | 68,700 | 33,960 | 35,410 | 125,590 |
| 10 | 365,900 | 80,060 | 1,214,000 | 98,950 | 50,020 | 203,620 | 1,565,000 | 449,900 | 59,700 | 36,750 | .... | 114,650 |
| 11 | 355,700 | 78,750 | 1,177,000 | 102,540 | 51,190 | 195,000 | 1,619,000 | 427,800 | 56,000 | 36,130 | .... | 120,510 |
| 1933. 11 | 394,300 | 74,820 | 1,243,000 | 96,900 | 52,770 | 181,290 | 1,683,000 | 478,300 | 63,220 | 34,440 | ＊ 51,880 | 113,800 |
| 1932. 11 | 475,200 | 67,530 | 1,198,000 | 85,490 | 61,680 | 136,400 | 1,729,000 | 597,700 | 69,550 | 31,090 | ＊ 51,840 | 92,730 |
| 1-11 累計 34 | 3,813,300 | 782,900 | 12,600,000 | 1,050,690 | 528,650 | 1,112,860 | 16,244,000 | 4,699,600 | 651,260 | 361,880 | ＊302,030 | 1,155,140 |
| 1-11 累計 33 | 4,447,500 | 703,480 | 12,882,000 | 1,454,980 | 578,840 | 1,050,680 | 16,864,000 | 5,472,500 | 673,290 | 336,960 | ＊356,330 | 972,110 |

## (32) 英國貿易月表（英國貿易月報）（單位千磅）　×印概數

| 年月 | 貨物 輸入 | 貨物 輸出(內國) | 貨物 再輸出 | 貨物 輸出計 | 貨物 入超 | 金 輸出 | 金 輸入 | 金 入超 | 銀 輸出 | 銀 輸入 | 銀 入超 | 金銀 入超 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1934. 6 | 61,173 | 32,120 | 4,316 | 36,436 | 24,737 | 7,398 | 17,270 | 9,872 | 957 | 653 | 出 304 | 9,568 |
| 7 | 58,026 | 33,230 | 4,129 | 37,358 | 20,668 | 6,392 | 12,110 | 5,718 | 119 | 1,066 | 947 | 6,665 |
| 8 | 60,027 | 32,090 | 3,302 | 35,392 | 24,635 | 6,981 | 11,677 | 4,696 | 3,425 | 1,833 | 出 1,592 | 3,104 |
| 9 | 57,738 | 33,957 | 3,250 | 37,207 | 20,531 | 2,726 | 7,415 | 4,689 | 2,235 | 1,519 | 出 716 | 3,973 |
| 10 | 68,994 | 36,749 | 4,001 | 40,749 | 28,245 | 1,648 | 10,761 | 9,113 | 1,122 | 7,033 | 5,911 | 15,024 |
| 11 | 64,687 | 36,125 | 4,008 | 40,134 | 24,553 | 5,024 | 14,823 | 9,799 | 1,329 | 4,370 | 3,041 | 12,840 |
| 12 | × 63,263 | × 34,300 | × 3,606 | × 37,906 | 25,357 | × 5,248 | × 16,100 | × 10,852 | × 1,174 | × 1,650 | × 476 | × 11,328 |
| 1933. 11 | 63,729 | 34,434 | 3,619 | 38,054 | 25,675 | 2,270 | 26,294 | 24,024 | 883 | 780 | 出 103 | 23,921 |
| 1932. 11 | 61,516 | 31,094 | 4,060 | 35,154 | 26,362 | 5,825 | 9,786 | 3,961 | 754 | 844 | 90 | 4,051 |
| 1-11 累計 1934 | 672,692 | 361,864 | 47,719 | 409,583 | 263,109 | 123,464 | 251,880 | 128,416 | 11,374 | 20,627 | 9,253 | 137,669 |
| 1-11 累計 1933 | 611,354 | 337,479 | 45,038 | 382,517 | 229,337 | 59,854 | 228,205 | 168,351 | 4,491 | 9,650 | 5,15[illegible] | 173,510 |

## (33) 米國貿易月表（米國貿易月報）（單位千弗）　×印概數

| 年月 | 貨物 輸入 | 貨物 輸出 | 貨物 出超 | 金 輸入 | 金 輸出 | 銀 輸入 | 銀 輸出 | 金銀 入超 | 輸出國別 對歐洲 | 輸出國別 其他 | 輸入國別 對歐洲 | 輸入國別 其他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1934. 6月 | 136,082 | 170,574 | 34,492 | 70,291 | 6,586 | 5,431 | 2,404 | 66,732 | 67,618 | 102,956 | 35,323 | 100,259 |
| 7 〃 | 127,342 | 161,787 | 34,445 | 53,330 | 114 | 1,590 | 1,789 | 53,017 | 61,814 | 99,972 | 37,440 | 89,902 |
| 8 〃 | 119,515 | 171,965 | 52,450 | 51,781 | 14,556 | 21,926 | 1,741 | 57,410 | 68,728 | 103,237 | 34,747 | 84,768 |
| 9 〃 | 131,665 | 191,690 | 60,031 | 3,585 | 22,255 | 20,831 | 1,424 | 737 | 86,912 | 104,772 | 39,162 | 92,497 |
| 10 〃 | 129,629 | 206,352 | 76,723 | 13,010 | 2,173 | 14,425 | 1,162 | 24,100 | 95,100 | 111,252 | 38,656 | 90,973 |
| 11 〃 | × 151,000 | × 195,000 | × 44,000 | ×121,199 | × 310 | ×15,011 | × 1,698 | ×134,202 | .... | .... | .... | .... |
| 12 〃 | × 132,000 | × 171,000 | × 39,000 | ×92,249 | × 140 | × 8,711 | × 1,014 | × 99,806 | .... | .... | .... | .... |
| 1933. 10 〃 | 150,867 | 193,069 | 42,202 | 1,696 | 34,046 | 4,106 | 2,281 | 出 30,525 | 108,596 | 84,473 | 51,908 | 98,959 |
| 1932. 10 〃 | 105,499 | 153,090 | 47,591 | 20,674 | 61 | 1,305 | 1,316 | 20,602 | 85,007 | 68,453 | 37,654 | 68,706 |
| 1-10 累計 1934 | 1,371,871 | 1,767,697 | 395,826 | 973,223 | 52,309 | 79,004 | 13,840 | 986,078 | 791,721 | 975,976 | 402,951 | 968,920 |
| 1-10 累計 1933 | 1,187,499 | 1,298,099 | 110,600 | 189,336 | 352,880 | 51,165 | 17,987 | 出130,366 | 652,707 | 545,392 | 376,320 | 811,179 |

## (34) 國庫歲入歲出現計 (大藏省調) (單位千圓)

| 歲入科目 | 9年度 9年11月 | 8年度 8年11月 | 比較增(△)印減 |
|---|---|---|---|
| **經常部** | **512,567** | **599,883** | **△ 87,316** |
| 租稅 | 399,983 | 356,672 | 43,261 |
| 所得稅 | 77,443 | 60,827 | 16,616 |
| 地租 | 22,601 | 22,599 | 2 |
| 營業收益稅 | 23,578 | 18,465 | 5,113 |
| 資本利子稅 | 9,245 | 8,935 | 310 |
| 相續稅 | 5,846 | 5,674 | 172 |
| 鑛業稅 | 473 | 354 | 119 |
| 酒稅 | 113,496 | 108,074 | 10,422 |
| 清凉飲料稅 | 2,920 | 2,660 | 260 |
| 砂糖消費稅 | 36,626 | 39,922 | △ 3,296 |
| 織物消費稅 | 17,179 | 14,518 | 2,661 |
| 取引所稅 | 8,717 | 8,877 | △ 160 |
| 關稅 | 80,330 | 64,413 | 15,917 |
| 噸稅 | 1,527 | 1,344 | 183 |
| 營業稅 | 1 | 9 | △ 8 |
| 印紙收入 | 44,144 | 39,412 | 4,739 |
| 官業官有財產收入 | 31,324 | 181,240 | △149,916 |
| 森林收入 | 14,622 | 14,079 | 545 |
| 官有物貸下 | 478 | 465 | 13 |
| 配當金收入 | 13,725 | 9,459 | 4,266 |
| 刑務所收入 | 2,399 | 2,519 | △ 120 |
| 其他 | 99 | 154,718 | △154,619 |
| 日銀納付金 | 28,212 | 15,275 | 12,937 |
| 雜收入 | 8,904 | 7,284 | 1,620 |
| 懲罰及沒收金 | 1,505 | 1,373 | 132 |
| 稅關雜收入 | 809 | 665 | 144 |
| 恩給法納金 | 1,217 | 1,189 | 28 |
| 其他 | 5,373 | 4,057 | 1,316 |
| 特別會計より繰入 | — | — | — |
| **臨時部** | **307,023** | **407,025** | **△100,002** |
| 官有物拂下代 | 3,996 | 2,742 | 1,254 |
| 地所拂下代 | 59 | 20 | 39 |
| 物品拂下代 | 2,789 | 2,641 | 148 |
| 家畜拂下代 | 84 | 81 | 3 |
| 其他 | 1,064 | — | 1,064 |
| 雜收入 | 9,008 | 12,118 | △ 3,110 |
| 震災手形善處後理法貸付金償還金 | 6,320 | 9,737 | △ 3,417 |
| 其他 | 2,688 | 2,381 | 307 |
| 公共團體工事費納付金 | 1,205 | 2,258 | △ 1,053 |
| 公共團體工事費分擔金 | 2,764 | 3,812 | △ 1,048 |
| 保險會社納付金 | 2,226 | 2,269 | △ 43 |
| 公債金 | 197,000 | 288,500 | △ 91,500 |
| 借入金 | — | — | — |
| 特別會計殘繰入 | 13,123 | — | 13,123 |
| 前年剩餘金繰入 | 77,097 | 95,135 | △ 18,038 |
| 其他 | 205 | 192 | 13 |
| 歲入總計 | 819,590 | 1,006,908 | △187,318 |

| 歲出科目 | 9年度 9年11月 | 8年度 8年11月 | 比較增(△)印減 |
|---|---|---|---|
| **經常部** | **633,862** | **716,708** | **△ 82,846** |
| 皇室費 | 3,375 | 3,375 | 0 |
| 外務省 | 10,877 | 11,189 | △ 312 |
| 內務省 | 32,932 | 32,432 | 500 |
| 大藏省 | 157,205 | 174,913 | △ 17,708 |
| 陸軍省 | 86,862 | 88,289 | △ 1,427 |
| 海軍省 | 104,175 | 110,956 | △ 6,781 |
| 司法省 | 18,450 | 18,451 | △ 1 |
| 文部省 | 80,555 | 80,221 | 334 |
| 農林省 | 16,487 | 15,517 | 970 |
| 商工省 | 2,538 | 2,388 | 150 |
| 遞信省 | 118,777 | 177,360 | △ 58,583 |
| 拓務省 | 1,625 | 1,618 | 7 |
| **臨時部** | **381,661** | **429,118** | **△ 47,457** |
| 外務省 | 11,176 | 8,037 | 3,139 |
| 內務省 | 45,670 | 53,303 | △ 7,633 |
| 大藏省 | 9,242 | 7,711 | 1,531 |
| 陸軍省 | 117,878 | 127,718 | △ 9,840 |
| 海軍省 | 122,069 | 114,870 | 7,199 |
| 司法省 | 1,085 | 781 | 304 |
| 文部省 | 13,830 | 14,084 | △ 254 |
| 農林省 | 37,019 | 58,957 | △ 21,938 |
| 商工省 | 2,032 | 2,805 | △ 773 |
| 遞信省 | 9,286 | 20,540 | △ 11,254 |
| 拓務省 | 12,374 | 20,312 | △ 7,938 |
| 歲出總計 | 1,015,522 | 1,145,826 | △130,304 |

## (35) 日本銀行營業週報 (單位千圓)

| 年月日 | 發行兌換銀行券 | 政府預金 | 內政府當座預金 | 一般預金 | 現金及地金 | 內金貨及金地金 | 割引手形 | 貸付金 | 外國爲替貸金 | 公債 | 代理店勘定 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8. 1.28 | 1,226,972 | 352,181 | 212,674 | 71,262 | 459,660 | 425,069 | 662,000 | 27,571 | 92,213 | 522,783 | 94,855 |
| 2.25 | 1,095,165 | 316,099 | 171,874 | 108,378 | 462,510 | 425,069 | 650,800 | 27,291 | 29,999 | 446,130 | 109,941 |
| 3.25 | 1,072,462 | 391,009 | 245,818 | 100,042 | 466,470 | 425,070 | 651,356 | 27,239 | 29,970 | 437,749 | 105,750 |
| 9. 1.27 | 1,260,551 | 342,945 | 191,844 | 89,881 | 458,085 | 425,070 | 604,619 | 26,981 | 108,172 | 601,678 | 101,142 |
| 2.24 | 1,188,094 | 383,929 | 223,017 | 71,434 | 458,846 | 425,071 | 602,197 | 27,667 | 119,496 | 528,211 | 112,314 |
| 3.31 | 1,270,600 | 397,353 | 252,705 | 100,066 | 464,701 | 425,071 | 674,651 | 26,949 | 135,777 | 586,616 | 83,605 |
| 4.28 | 1,271,719 | 254,068 | 101,921 | 75,511 | 470,881 | 428,622 | 622,110 | 27,663 | 101,154 | 493,935 | 102,206 |
| 5.26 | 1,134,921 | 320,553 | 205,529 | 71,376 | 498,087 | 452,325 | 592,414 | 27,361 | 67,811 | 491,100 | 88,244 |
| 6.30 | 1,294,505 | 185,366 | 67,384 | 122,791 | 503,092 | 455,505 | 577,238 | 26,929 | 125,142 | 498,219 | 79,923 |
| 7.28 | 1,186,272 | 323,956 | 194,387 | 75,311 | 504,629 | 456,888 | 602,609 | 27,962 | 117,023 | 466,279 | 102,965 |
| 8.25 | 1,172,023 | 419,388 | 281,230 | 75,973 | 500,655 | 458,182 | 678,912 | 27,270 | 128,982 | 440,663 | 116,204 |
| 9.29 | 1,223,467 | 315,095 | 173,274 | 93,065 | 508,733 | 460,029 | 706,478 | 27,143 | 133,275 | 343,658 | 106,598 |
| 9.10.6 | 1,148,290 | 314,319 | 172,517 | 72,762 | 511,080 | 460,671 | 626,750 | 28,271 | 129,195 | 342,594 | 100,653 |
| 13 | 1,123,520 | 286,490 | 164,540 | 58,721 | 513,470 | 461,226 | 601,522 | 27,512 | 102,221 | 330,774 | 83,257 |
| 20 | 1,130,192 | 273,727 | 151,550 | 62,235 | 515,415 | 461,377 | 602,418 | 27,697 | 110,806 | 318,775 | 88,856 |
| 27 | 1,204,057 | 229,376 | 107,431 | 66,940 | 514,035 | 461,874 | 602,492 | 28,532 | 110,601 | 358,124 | 87,390 |
| 11.3 | 1,224,621 | 246,891 | 131,326 | 64,136 | 514,123 | 462,338 | 645,328 | 28,588 | 141,458 | 357,139 | 79,834 |
| 10 | 1,114,418 | 305,210 | 189,860 | 61,866 | 514,595 | 462,977 | 594,411 | 26,921 | 130,639 | 343,730 | 71,033 |
| 17 | 1,102,190 | 309,718 | 191,979 | 61,655 | 515,055 | 463,366 | 589,871 | 26,909 | 131,655 | 325,608 | 76,708 |
| 24 | 1,185,676 | 258,198 | 141,271 | 53,273 | 514,526 | 463,838 | 592,427 | 29,012 | 134,786 | 322,505 | 89,314 |
| 12.1 | 1,312,079 | 452,648 | 344,999 | 89,474 | 514,442 | 464,504 | 653,138 | 27,014 | 159,230 | 619,637 | 70,404 |
| 8 | 1,205,139 | 431,368 | 328,365 | 68,486 | 509,932 | 465,038 | 591,667 | 26,964 | 103,674 | 599,153 | 71,065 |
| 15 | 1,255,164 | 380,624 | 281,547 | 74,839 | 505,543 | 465,342 | 593,956 | 27,107 | 99,662 | 592,760 | 75,239 |
| 22 | 1,399,583 | 326,535 | 234,461 | 84,193 | 496,533 | 465,716 | 649,411 | 27,668 | 155,267 | 588,795 | 86,068 |
| 29 | 1,668,801 | 248,893 | 136,904 | 92,499 | 494,008 | 466,339 | 771,960 | 27,772 | 165,398 | 647,336 | 91,051 |

## (36) 全國銀行預金貸出現在高 (大藏省調) (單位千圓)

| 年月末 | 普通銀行 預金 當座預金 | 特別當座 | 通知預金 | 定期預金 | 合計(其他共) | 普通銀行 貸出 證書貸付 | 手形貸付 | 當座貸越 | 割引手形 | 合計 | コールローン |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 5 | 1,099,113 | 1,852,806 | 581,223 | 5,184,034 | 9,064,524 | 876,873 | 3,536,574 | 766,829 | 645,472 | 5,825,748 | 487,803 |
| 6 | 1,103,404 | 1,870,563 | 615,742 | 5,230,363 | 9,144,061 | 866,995 | 3,520,332 | 754,156 | 674,596 | 5,816,079 | 453,177 |
| 7 | 1,084,420 | 1,831,849 | 559,874 | 5,246,749 | 9,105,668 | 841,901 | 3,502,312 | 745,966 | 684,261 | 5,774,440 | 422,538 |
| 8 | 1,083,462 | 1,816,903 | 556,077 | 5,279,111 | 9,034,150 | 840,620 | 3,518,973 | 743,113 | 686,873 | 5,789,579 | 327,982 |
| 9 | 938,137 | 1,782,313 | 582,158 | 5,320,301 | 8,943,780 | 832,858 | 3,459,997 | 757,042 | 694,517 | 5,744,414 | 358,885 |
| 10 | 1,020,727 | 1,769,789 | 556,708 | 5,355,432 | 9,025,794 | 833,830 | 3,472,975 | 763,162 | 730,391 | 5,800,358 | 365,636 |
| 11 | 1,090,055 | 1,781,471 | 544,609 | 5,378,536 | 9,132,487 | 838,091 | 3,484,383 | 780,652 | 726,610 | 5,829,736 | 429,462 |
| 12 | 1,237,522 | 1,814,476 | 570,286 | 5,417,479 | 9,353,692 | 826,109 | 3,561,895 | 720,088 | 763,737 | 5,871,829 | 367,173 |
| 8. 12 | 1,128,202 | 1,773,056 | 548,963 | 4,965,120 | 8,727,313 | 930,630 | 3,618,232 | 768,060 | 715,154 | 5,932,076 | 311,994 |
| 7. 12 | 1,012,193 | 1,687,199 | 476,998 | 4,639,851 | 8,131,567 | 973,910 | 3,787,254 | 774,760 | 640,052 | 6,175,976 | 318,127 |

| 年月末 | 特別銀行(日銀を含む) 預金 當座預金 | 特別當座 | 通知預金 | 定期預金 | 日銀政預 | 合計(其他共) | 貸出合計 | コールローン | 貯蓄銀行 普通及び据置貯金 | 定期積金 | 預金合計 | 貸出合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 5 | 149,728 | 156,376 | 51,127 | 594,471 | 288,800 | 1,349,286 | 3,565,223 | 69,023 | 1,193,606 | 629,521 | 1,840,455 | 323,873 |
| 6 | 188,273 | 154,222 | 34,138 | 604,830 | 185,366 | 1,262,910 | 3,494,648 | 65,629 | 1,191,055 | 634,204 | 1,843,046 | 310,313 |
| 7 | 138,036 | 153,945 | 43,427 | 600,177 | 339,262 | 1,371,396 | 3,573,794 | 38,274 | 1,188,927 | 642,856 | 1,850,405 | 310,593 |
| 8 | 144,336 | 152,035 | 48,861 | 604,374 | 441,886 | 1,512,696 | 3,677,879 | 40,291 | 1,184,215 | 651,626 | 1,853,775 | 307,350 |
| 9 | 161,100 | 151,943 | 50,250 | 604,697 | 315,095 | 1,374,627 | 3,590,798 | 44,155 | 1,182,678 | 656,413 | 1,858,553 | 316,971 |
| 10 | 142,568 | 148,121 | 51,241 | 602,556 | 222,526 | 1,271,938 | 3,560,523 | 68,290 | 1,180,342 | 660,305 | 1,859,835 | 322,512 |
| 11 | 158,208 | 147,275 | 57,185 | 602,385 | 467,086 | 1,525,184 | 3,576,358 | 76,654 | 1,180,714 | 662,298 | 1,861,880 | 324,123 |
| 12 | 178,382 | 146,983 | 35,057 | 608,894 | 233,084 | 1,304,754 | 3,614,499 | 64,072 | 1,195,367 | 667,439 | 1,881,238 | 335,183 |
| 8. 12 | 185,902 | 146,161 | 42,883 | 584,397 | 254,380 | 1,331,112 | 3,712,390 | 59,924 | 1,167,296 | 649,935 | 1,825,258 | 249,959 |
| 7. 12 | 166,786 | 134,115 | 33,351 | 541,975 | 270,660 | 1,345,760 | 3,853,678 | 62,885 | 1,019,577 | 655,911 | 1,687,248 | 405,704 |

## (37) 全國銀行有價證券、預ケ金及現金在高 (大藏省調) (單位千圓)

| 年月末 | 特別銀行(日銀ヲ含ム) 國債 | 地方債 | 社債株式 | 有價證券合計 | 預ケ金 | 現金 | 普通銀行 國債 | 地方債 | 社債株式 | 有價證券合計 | 預ケ金 | 現金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 4 | 773,676 | 32,639 | 140,360 | 1,070,786 | 119,295 | 303,424 | 1,916,656 | 310,611 | 1,475,066 | 3,738,522 | 363,838 | 588,904 |
| 5 | 783,066 | 29,842 | 132,037 | 1,071,775 | 117,833 | 297,885 | 2,015,488 | 329,346 | 1,510,733 | 3,892,190 | 357,810 | 459,517 |
| 6 | 807,340 | 28,318 | 131,189 | 1,089,709 | 130,467 | 298,238 | 2,034,147 | 328,813 | 1,504,796 | 3,904,190 | 412,444 | 504,860 |
| 7 | 779,321 | 27,532 | 142,199 | 1,081,297 | 117,952 | 297,879 | 2,146,416 | 319,591 | 1,511,861 | 4,014,046 | 369,888 | 469,650 |
| 8 | 739,092 | 26,658 | 145,085 | 1,043,080 | 119,733 | 293,850 | 2,151,507 | 327,336 | 1,526,989 | 4,046,268 | 355,221 | 454,228 |
| 9 | 665,078 | 27,251 | 145,609 | 979,232 | 122,018 | 301,383 | 2,155,211 | 325,953 | 1,546,069 | 4,067,792 | 355,142 | 333,771 |
| 10 | 660,116 | 26,893 | 143,325 | 971,628 | 111,727 | 301,047 | 2,143,565 | 313,976 | 1,540,353 | 4,038,073 | 323,601 | 440,415 |
| 11 | 929,350 | 26,905 | 148,413 | 1,245,961 | 115,641 | 305,771 | 2,079,299 | 312,343 | 1,525,551 | 3,957,451 | 322,117 | 495,991 |
| 12 | 973,962 | 27,219 | 146,601 | 1,289,315 | 120,381 | 281,987 | 2,017,064 | 307,753 | 1,509,231 | 3,972,118 | 359,921 | 735,900 |
| 8. 12 | 962,930 | 34,400 | 142,800 | 1,253,226 | 128,851 | 283,083 | 1,567,770 | 282,544 | 1,418,704 | 3,304,792 | 355,896 | 599,300 |
| 7. 12 | 849,220 | 43,650 | 172,887 | 1,168,733 | 161,546 | 291,437 | 1,188,783 | 279,210 | 1,406,909 | 2,895,632 | 320,709 | 537,321 |

## (37) 全國銀行有價證券、預ケ金及現金在高(續)

| 年月末 | 貯蓄銀行 國債 | 地方債 | 社債株式 | 預ケ金 | 現金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9. 4 | 883,321 | 56,871 | 395,596 | 275,105 | 21,173 |
| 5 | 886,841 | 56,229 | 397,016 | 252,946 | 12,182 |
| 6 | 892,476 | 54,151 | 400,582 | 255,610 | 28,076 |
| 7 | 912,921 | 54,163 | 405,164 | 236,221 | 12,903 |
| 8 | 925,103 | 51,290 | 407,526 | 230,720 | 12,073 |
| 9 | 930,881 | 49,692 | 411,141 | 234,958 | 21,805 |
| 10 | 927,975 | 47,872 | 417,775 | 230,248 | 18,935 |
| 11 | 932,519 | 47,872 | 414,356 | 225,256 | 20,204 |
| 12 | 934,533 | 46,500 | 410,402 | 233,340 | 26,503 |
| 8. 12 | 862,142 | 62,552 | 395,220 | 217,507 | 26,977 |
| 7. 12 | 696,045 | 57,199 | 402,595 | 183,035 | 28,157 |

## (38) 東京及大阪市中金利表 (月中平均)(東洋經濟調)(錢)

| 年月 | コール翌日物 東京 | 大阪 | 一流紡績手形 東京 | 大阪 | 商業手形普通物 東京 | 大阪 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 4 | 0.68 | 0.70 | 1.03 | 0.96 | 1.33 | 1.45 |
| 5 | 0.68 | 0.67 | 1.03 | 0.98 | 1.33 | 1.45 |
| 6 | 0.68 | 0.67 | 1.03 | 0.97 | 1.33 | 1.45 |
| 7 | 0.71 | 0.71 | 1.03 | 0.97 | 1.33 | 1.45 |
| 8 | 0.76 | 0.75 | 1.04 | 1.01 | 1.33 | 1.45 |
| 9 | 0.71 | 0.71 | 1.05 | 1.03 | 1.33 | 1.45 |
| 10 | 0.70 | 0.70 | 1.05 | 1.03 | 1.33 | 1.45 |
| 11 | 0.70 | 0.71 | 1.05 | 1.05 | 1.33 | 1.45 |
| 12 | 0.75 | 0.72 | 1.05 | 1.00 | 1.33 | 1.45 |
| 8. 12 | 0.71 | 0.69 | 1.05 | 1.05 | 1.34 | 1.45 |
| 7. 12 | 0.83 | 0.91 | 1.15 | 1.02 | 1.50 | 1.45 |

## (39) 公社債發行並現在高 (日銀調) (單位千圓)

| 年月 | 國債 (內債) 發行高 | 國債 (內債) 月末現在 | 大藏省證券 發行高 | 大藏省證券 月末現在 | 米穀證券 發行高 | 米穀證券 月末現在 | 地方債 (內債) 發行高 | 地方債 (內債) 月末現在 | 銀行債 (內債) 發行高 | 銀行債 (內債) 月末現在 | 會社債 (內債) 發行高 | 會社債 (內債) 月末現在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 8 | 39 | 6,932,060 | 60,000 | 60,000 | 70,000 | 579,946 | 87,049 | 2,039,383 | 14,266 | 2,006,808 | 107,800 | 2,853,629 |
| 9 | 4,698 | 6,926,758 | — | — | 80,000 | 559,946 | 20,225 | 2,025,678 | 14,037 | 1,994,509 | 89,800 | 2,883,939 |
| 10 | 1,475 | 6,928,234 | — | — | 68,000 | 539,946 | 32,217 | 2,023,814 | 20,935 | 1,989,070 | 1,000 | 2,838,978 |
| 11 | 304,792 | 7,233,026 | — | — | 105,000 | 517,946 | 8,342 | 2,024,780 | 63,300 | 1,982,698 | 41,075 | 2,855,242 |
| 12 | 9,582 | 7,242,609 | — | — | 91,307 | 509,254 | 24,029 | 2,016,186 | 13,862 | 1,962,758 | 13,000 | 2,835,205 |
| 8. 12 | 12,165 | 6,400,060 | — | — | 96,670 | 311,093 | 81,954 | 1,901,327 | 26,493 | 2,139,554 | 46,050 | 2,592,683 |
| 7. 12 | 26,976 | 5,150,452 | 300,000 | 340,000 | 69,676 | 111,362 | 54,190 | 1,649,628 | 39,727 | 2,264,000 | 50,000 | 2,656,429 |
| 1-12 累計 9 | 942,643 | | 170,000 | | 1,372,807 | | 752,701 | | 343,593 | | 1,468,928 | |
| 1-12 累計 8 | 1,257,214 | | 1,070,000 | | 738,094 | | 847,868 | | 674,594 | | 918,224 | |

## (40) 外貨邦債月末現在高 (日銀調) (單位百萬圓)

| 年月 | 國債 | 地方債 | 銀行債及會社債 |
|---|---|---|---|
| 9. 6 | 1,415 | 226 | 380 |
| 7 | 1,413 | 226 | 379 |
| 8 | 1,408 | 226 | 378 |
| 9 | 1,408 | 224 | 365 |
| 10 | 1,408 | 224 | 365 |
| 11 | 1,408 | 224 | 365 |
| 12 | 1,408 | 224 | 365 |
| 8. 12 | 1,421 | 229 | 403 |
| 7. 12 | 1,399 | 234 | 471 |

## (41) 公社債及株式利廻 (勸銀調) (單位%)

| 月初 | 公社債 國債 | 地方債 | 勸業債 | 農工債 | 銀行債 | 社債 | 平均 | 株式 銀行 | 産業 | 平均 | 平均配當率 | 平均相場(圓) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 6 | 4.442 | 4.928 | 4.934 | 5.104 | 4.974 | 5.436 | 4.970 | 4.820 | 4.640 | 4.680 | 8.650 | 87.38 |
| 7 | 4.431 | 4.915 | 4.813 | 5.104 | 4.955 | 5.368 | 4.931 | 4.840 | 4.730 | 4.760 | 8.760 | 86.15 |
| 8 | 4.533 | 4.912 | 4.812 | 5.104 | 4.953 | 5.338 | 4.942 | 5.330 | 4.850 | 4.960 | 8.880 | 85.09 |
| 9 | 4.594 | 4.910 | 4.812 | 5.104 | 4.951 | 5.290 | 4.944 | 5.330 | 4.840 | 4.950 | 8.880 | 85.31 |
| 10 | 4.579 | 4.868 | 4.654 | 5.107 | 4.949 | 5.286 | 4.907 | 5.430 | 4.950 | 5.050 | 8.890 | 83.91 |
| 11 | 4.587 | 4.917 | 4.639 | 5.106 | 4.969 | 5.312 | 4.922 | 5.440 | 5.210 | 5.260 | 8.910 | 80.99 |
| 12 | 4.589 | 4.878 | 4.623 | 5.106 | 4.785 | 5.277 | 4.876 | 5.380 | 5.040 | 5.120 | 8.870 | 83.34 |
| 8. 12 | 4.657 | 5.145 | 4.946 | 5.230 | 5.066 | 5.641 | 5.114 | 5.840 | 5.080 | 5.240 | 8.720 | 80.97 |
| 7. 12 | 5.004 | 5.741 | 5.744 | 6.106 | 5.973 | 6.438 | 5.834 | 6.180 | 4.810 | 5.100 | 7.990 | 76.82 |

## (42) 銀行會社計畫資本 (日銀調) (單位千圓)

| | 新設及増資 昭和9年10月 | 11月 | 12月 | 昭和8年12月 | 昭和7年12月 | 1—12月累計 9年 | 8年 | 社債 昭和9年10月 | 11月 | 12月 | 昭和8年12月 | 昭和7年12月 | 1—12月累計 9年 | 8年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 金融及保險 | — | 600 | — | 200 | 3,500 | 1,000 | 49,500 | — | — | — | — | — | — | 125 |
| 倉庫業 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 2,000 | — | — | 2,000 |
| 運輸業 | 10,990 | 3,000 | 22,490 | 950 | 1,200 | 72,720 | 400,693 | — | 15,000 | 33,000 | — | 20,000 | 150,250 | 33,830 |
| 鐵道軌道 | 5,300 | — | 20,910 | — | — | 56,990 | 390,000 | — | 15,000 | 33,000 | — | 20,000 | 149,700 | 33,830 |
| 海運業 | — | 3,000 | 1,400 | 950 | 1,000 | 9,125 | 6,088 | — | — | — | — | — | 500 | — |
| 鑛業 | 3,500 | 16,350 | 1,600 | 2,600 | — | 177,270 | 47,700 | — | — | — | — | — | 450 | — |
| 電氣業 | 5,000 | 70,000 | 11,455 | — | — | 176,595 | 45,618 | — | — | — | — | — | 36,400 | 4,500 |
| 製造工業 | 45,160 | 29,915 | 53,474 | 20,022 | 32,275 | 508,208 | 360,119 | 2,100 | 5,000 | 11,000 | — | — | 41,600 | 8,000 |
| 瓦斯業 | — | — | — | — | — | 1,000 | 3,900 | — | — | — | — | — | 950 | — |
| 紡績業 | — | 500 | 19,254 | — | — | 56,678 | 57,200 | — | — | 10,000 | — | — | 14,500 | 8,000 |
| 製織業 | 3,500 | 200 | 800 | 5,822 | — | 31,185 | 17,522 | — | — | — | — | — | — | — |
| 化學工業 | 17,300 | 10,460 | 10,500 | 1,650 | 23,200 | 185,860 | 169,870 | — | 5,000 | — | — | — | 18,050 | — |
| 水產業 | — | — | 2,000 | — | 3,500 | 18,400 | 4,190 | — | — | — | — | — | — | — |
| 農林業 | — | — | 300 | — | 9,450 | 4,200 | 1,300 | — | — | — | — | — | — | — |
| 商業其他 | 8,370 | 8,325 | 16,345 | 20,100 | — | 134,309 | 165,094 | — | — | 3,000 | — | 3,000 | 11,100 | 13,000 |
| 合計 | 73,020 | 128,190 | 107,664 | 43,872 | 49,925 | 1,091,702 | 1,074,293 | 2,100 | 20,000 | 47,000 | 2,000 | 23,000 | 239,750 | 61,455 |

## (43) 公社債及株式拂込金調 (勸銀調) (單位千圓)

| 種別 | 昭和9年5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 昭和8年12月 | 昭和7年12月 | 1—12月累計 9年 | 8年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 國債 | 234,619 | 147,052 | 257,091 | 29,226 | — | 67,067 | 350,076 | 85,812 | 87,704 | 300,124 | 1,717,808 | 2,728,343 |
| 地方債 | 120,933 | 38,371 | 22,351 | 81,324 | 17,462 | 32,560 | 6,564 | 49,969 | 73,141 | 39,760 | 710,916 | 743,372 |
| 銀行債 | 14,000 | 19,848 | 1,000 | 13,281 | 10,490 | 14,829 | 57,097 | 12,000 | 60 | 3,391 | 263,237 | 576,849 |
| 會社債 | 163,410 | 168,723 | 75,740 | 105,453 | 89,797 | 1,000 | 40,500 | 11,900 | 55,790 | 44,615 | 1,458,913 | 911,158 |
| 株式 | 53,728 | 67,082 | 38,681 | 49,696 | 56,834 | 67,592 | 73,258 | 48,657 | 54,279 | 7,561 | 577,868 | 448,834 |
| 合計 | 586,691 | 441,076 | 394,864 | 278,979 | 174,583 | 183,048 | 527,496 | 208,338 | 270,974 | 395,450 | 4,728,742 | 5,408,555 |

## (44) 東京市場爲替相場 (期近賣)

| 平價 | 100圓に付 49.846弗 | 1圓に付 2.0582志 |
|---|---|---|
| 年月 | 對紐育 平均 | 對倫敦 平均 |
| | 弗 | 志片 |
| 9. 7 | 29.138 | 1.02.673 |
| 8 | 30.007 | 1.02.215 |
| 9 | 29.781 | 1.02.298 |
| 10 | 28.688 | 1.01.960 |
| 11 | 29.060 | 1.01.985 |
| 12 | 28.805 | 1.01.997 |
| 8. 12 | 30.755 | 1.02.550 |
| 7. 12 | 20.297 | 1.03.192 |

## (45) 帝國外國貿易月報 (單位千圓)

| 年月 | 內地及樺太 輸出 | 內地及樺太 輸入 | 內地及樺太 入超 | 朝鮮 輸出 | 朝鮮 輸入 | 臺灣 輸出 | 臺灣 輸入 | 總計(含南洋) 輸出 | 總計(含南洋) 輸入 | 總計(含南洋) 入超 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 7 | 179,260 | 169,534 | 出 9,729 | 4,538 | 4,848 | 2,415 | 3,373 | 186,705 | 177,780 | 8,925 |
| 8 | 209,608 | 182,940 | 出 26,668 | 5,186 | 5,288 | 1,799 | 2,855 | 216,664 | 191,144 | 25,559 |
| 9 | 171,103 | 155,986 | 出 15,117 | 6,102 | 4,661 | 2,797 | 1,804 | 180,004 | 162,480 | 17,524 |
| 10 | 201,495 | 177,466 | 出 24,029 | 6,558 | 5,831 | 2,490 | 2,963 | 210,555 | 186,285 | 出 24,271 |
| 11 | 197,355 | 185,093 | 出 12,656 | 5,122 | 7,789 | 2,595 | 3,284 | 205,096 | 196,198 | 出 8,898 |
| 12 | 209,119 | 252,572 | 43,453 | 4,320 | 8,413 | 2,785 | 4,097 | 216,228 | 265,113 | 48,884 |
| 8. 12 | 172,282 | 185,228 | 12,946 | 5,520 | 6,361 | 2,440 | 3,303 | 180,245 | 194,930 | 14,685 |
| 7. 12 | 172,713 | 160,688 | 出 12,025 | 2,679 | 5,783 | 1,547 | 4,391 | 176,943 | 170,844 | 出 6,099 |
| 1-12 累計 9 | 2,171,925 | 2,282,531 | 110,606 | 57,674 | 79,527 | 26,518 | 38,031 | 2,258,081 | 2,400,424 | 142,343 |
| 1-12 累計 8 | 1,861,046 | 1,917,220 | 56,174 | 52,773 | 64,368 | 17,666 | 35,477 | 1,932,069 | 2,017,504 | 85,435 |

## (46) 帝國金銀輸出入月報 (大藏省調) (單位千圓)

| 年月 | 內地、樺太、朝鮮及臺灣總計 輸出 金 | 輸出 銀 | 輸入 金 | 輸入 銀 | 入超 金 | 入超 銀 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 7 | — | 969 | — | 10 | — | 出 959 |
| 8 | 1 | 959 | — | 26 | 1 | 出 935 |
| 9 | — | 1,350 | — | 24 | — | 出 1,326 |
| 10 | — | 1,567 | — | 25 | — | 出 1,542 |
| 11 | — | 1,635 | — | 182 | — | 出 1,453 |
| 12 | — | 3,437 | — | 213 | — | 出 3,224 |
| 8. 12 | — | 1,046 | — | 3 | — | 出 1,043 |
| 7. 12 | 13,527 | 1,221 | 3 | (340) | 出 13,524 | 出 1,221 |
| 1-12 累計 9 | 1 | 13,942 | — | 854 | 出 1 | 出 13,088 |
| 1-12 累計 8 | 20,925 | 7,709 | 7 | 160 | 出 20,918 | 出 7,549 |

## (47) 本邦對支及對滿貿易月別概算表 (六港分) (單位千圓)

| 年月 | 滿洲國 輸出 | 滿洲國 輸入 | 關東洲 輸出 | 關東洲 輸入 | 中華民國 輸出 | 中華民國 輸入 | 合計(含香港) 輸出 | 合計(含香港) 輸入 | 合計(含香港) 出超 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 7 | 7,967 | 8,761 | 28,275 | 2,466 | 9,444 | 8,876 | 48,040 | 20,214 | 27,826 |
| 8 | 10,704 | 7,996 | 30,766 | 2,420 | 11,341 | 8,832 | 55,931 | 19,304 | 36,627 |
| 9 | 9,308 | 7,325 | 23,706 | 1,938 | 9,473 | 7,412 | 44,907 | 16,779 | 28,128 |
| 10 | 15,427 | 9,663 | 27,659 | 2,516 | 12,777 | 10,524 | 59,569 | 22,748 | 36,821 |
| 11 | 12,882 | 13,604 | 26,084 | 2,628 | 11,002 | 11,853 | 54,152 | 28,218 | 25,934 |
| 12 | 8,071 | 19,624 | 25,857 | 3,151 | 11,484 | 12,352 | 49,979 | 35,147 | 14,832 |
| 8. 12 | 5,326 | 15,330 | 21,566 | 2,259 | 9,787 | 13,923 | 39,221 | 31,622 | 7,599 |
| 7. 12 | 5,100 | 12,085 | 15,101 | 3,794 | 11,278 | 12,943 | 34,020 | 29,036 | 4,984 |
| 1-12 累計 9 | 107,152 | 164,193 | 295,869 | 27,238 | 117,061 | 119,559 | 553,578 | 312,470 | 241,108 |
| 1-12 累計 8 | 82,071 | 147,898 | 221,068 | 20,161 | 108,253 | 113,357 | 434,811 | 283,509 | 151,302 |

## (48) 本邦輸出入重要品別表 (單位千圓)

| 品目 | 9年 10月 | 9年 11月 | 9年 12月 | 8年 12月 | 1—12月累計 9年 | 1—12月累計 8年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 輸出計 | 201,495 | 197,355 | 209,119 | 172,282 | 2,171,925 | 1,861,046 |
| 米及籾 | 246 | 246 | 213 | 133 | 8,420 | 2,124 |
| 小麥粉 | 3,264 | 3,288 | 3,993 | 3,045 | 28,452 | 34,955 |
| 製茶 | 1,364 | 597 | 726 | 894 | 9,557 | 8,450 |
| 精糖 | 1,283 | 1,302 | 940 | 425 | 13,532 | 14,909 |
| 水產物 | 2,211 | 1,929 | 2,040 | 1,046 | 16,473 | 10,302 |
| 罐罎詰食物 | 4,517 | 3,062 | 3,481 | 3,302 | 50,304 | 46,984 |
| 綿織絲 | 2,214 | 2,572 | 2,389 | 1,458 | 23,485 | 15,712 |
| 屑絲及眞綿 | 162 | 81 | 134 | 244 | 1,822 | 1,304 |
| 生絲 | 24,575 | 22,002 | 25,836 | 23,643 | 286,794 | 390,901 |
| 綿織物 | 43,977 | 46,714 | 47,146 | 36,332 | 492,351 | 383,215 |
| 絹織物 | 6,900 | 6,395 | 7,270 | 5,977 | 77,488 | 63,545 |
| 人絹織物 | 11,560 | 11,507 | 12,362 | 8,999 | 113,484 | 77,382 |
| メリヤス製品 | 3,384 | 3,592 | 4,490 | 4,710 | 44,172 | 40,271 |
| 帽子 | 1,516 | 1,616 | 1,967 | 2,104 | 17,860 | 13,927 |
| 紙類 | 1,943 | 1,867 | 2,094 | 2,203 | 20,650 | 17,687 |
| 石炭 | 707 | 989 | 741 | 1,218 | 10,376 | 14,158 |
| 陶磁器 | 4,528 | 3,454 | 4,299 | 3,993 | 41,877 | 35,634 |
| 硝子及同製品 | 1,799 | 1,830 | 2,246 | 1,826 | 19,454 | 15,327 |
| 鐵製品 | 2,846 | 2,934 | 3,129 | 3,133 | 35,277 | 26,897 |
| 機械類 | 5,726 | 4,975 | 6,020 | 2,957 | 57,777 | 25,857 |
| 木材 | 2,196 | 1,806 | 2,082 | 1,935 | 23,915 | 18,638 |
| 製帽用眞田 | 1,145 | 791 | 932 | 990 | 8,125 | 7,205 |
| 翫具 | 2,833 | 2,720 | 2,896 | 2,777 | 30,386 | 26,375 |
| 其他 | 70,599 | 71,086 | 71,693 | 58,939 | 739,894 | 569,287 |

| 品目 | 9年 10月 | 9年 11月 | 9年 12月 | 8年 12月 | 1—12月累計 9年 | 1—12月累計 8年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 輸入計 | 177,466 | 185,093 | 252,572 | 185,228 | 2,282,531 | 1,917,220 |
| 米及籾 | 327 | 0 | 0 | — | 661 | 11,521 |
| 小麥 | 3,705 | 3,770 | 5,217 | 2,350 | 40,741 | 44,384 |
| 豆類 | 2,689 | 5,033 | 7,770 | 5,044 | 51,968 | 50,345 |
| 砂糖 | 1,359 | 833 | 698 | 333 | 9,679 | 12,794 |
| 原油及重油 | 8,404 | 7,718 | 8,933 | 4,795 | 82,482 | 68,347 |
| 生ゴム | 7,523 | 5,658 | 4,047 | 3,763 | 57,338 | 29,685 |
| 硫酸アンモニウム | — | 24 | — | 721 | 13,807 | 9,421 |
| 棉花 | 43,474 | 46,248 | 91,581 | 55,926 | 731,425 | 604,847 |
| 麻類 | 2,009 | 3,820 | 2,636 | 1,728 | 24,309 | 19,761 |
| 羊毛 | 9,013 | 16,581 | 17,152 | 32,423 | 186,455 | 164,192 |
| 毛織絲 | 171 | 159 | 73 | 988 | 1,708 | 3,021 |
| 毛織物及毛綿織物 | 181 | 81 | 88 | 97 | 5,199 | 7,213 |
| 石炭 | 3,801 | 4,642 | 5,689 | 4,095 | 47,193 | 36,657 |
| 鑛 | 2,741 | 2,355 | 2,771 | 1,655 | 27,806 | 22,172 |
| 鐵 | 17,153 | 14,985 | 22,862 | 9,645 | 171,563 | 136,641 |
| 自動車及同部分品 | 2,566 | 2,177 | 3,563 | 1,320 | 32,302 | 13,871 |
| 機械類 | 1,464 | 8,814 | 8,399 | 7,113 | 98,022 | 72,658 |
| 木材 | 5,069 | 4,044 | 5,136 | 3,537 | 40,183 | 40,584 |
| 皺 | 1,014 | 784 | 679 | 706 | 8,885 | 6,054 |
| 油粕 | 1,578 | 2,089 | 2,502 | 3,407 | 42,052 | 41,181 |
| 其他 | 63,223 | 55,278 | 62,776 | 45,582 | 608,753 | 521,871 |

## (49) 大藏省預金部資金及運用表（大藏省調）（單位百萬圓）

| | 9年4月末 | 5月末 | 6月末 | 7月末 | 8月末 | 9月末 | 10月末 | 11月末 | 12月末 | 8年12月末 | 7年12月末 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **資金之部** | | | | | | | | | | | |
| 郵便及振替貯金 | 2,925.0 | 3,004.4 | 3,015.7 | 3,053.0 | 3,033.7 | 3,048.0 | 3,055.9 | 3,043.4 | 3,034.0 | 2,881.2 | 2,781.1 |
| 復興貯蓄債券 賣却代預金 | 77.0 | 76.9 | 76.8 | 76.8 | 76.7 | 76.6 | 76.6 | 76.5 | 76.4 | 77.2 | 78.0 |
| 各特別會計其他預金 | 779.1 | 487.9 | 474.6 | 493.8 | 504.0 | 497.9 | 487.5 | 574.0 | 418.4 | 415.0 | 312.7 |
| 預金部積立金 | 348.6 | 348.6 | 392.9 | 392.9 | 392.9 | 392.9 | 392.9 | 392.9 | 392.9 | 348.6 | 279.2 |
| 計(其他共) | 4,030.0 | 4,125.5 | 4,022.9 | 4,073.9 | 4,078.3 | 4,136.6 | 4,136.0 | 4,213.4 | 4,068.5 | 3,862.2 | 3,633.4 |
| **運用之部** | | | | | | | | | | | |
| 國債證券 | 1,646.5 | 1,584.6 | 1,564.9 | 1,555.3 | 1,565.1 | 1,568.6 | 1,568.7 | 1,618.0 | 1,614.3 | 1,348.3 | 1,093.3 |
| 地方債證券 | 871.9 | 891.1 | 884.0 | 884.3 | 888.8 | 885.3 | 883.9 | 890.9 | 892.4 | 824.0 | 734.6 |
| 勸業債券 | 395.1 | 395.1 | 405.7 | 405.1 | 402.0 | 400.9 | 386.7 | 384.9 | 383.4 | 397.8 | 422.4 |
| 興業債券 | 49.5 | 49.3 | 48.7 | 48.6 | 47.0 | 47.2 | 48.0 | 47.7 | 47.3 | 50.3 | 50.6 |
| 其他債券 | 434.2 | 444.5 | 462.9 | 464.0 | 462.7 | 458.5 | 448.6 | 457.8 | 461.2 | 430.5 | 402.4 |
| 支那政府債券 | 11.1 | 11.1 | 11.1 | 11.1 | 11.1 | 11.1 | 11.1 | 11.1 | 11.1 | 11.1 | 11.1 |
| 四分利付支那債券保證書 | 17.6 | 17.6 | 16.7 | 16.7 | 16.7 | 16.7 | 16.7 | 16.7 | 15.9 | 17.6 | 19.3 |
| 英國大藏省證券 | 3.2 | 2.9 | 3.2 | 3.2 | 1.0 | — | — | — | — | 5.7 | — |
| 貸付金 | 438.5 | 462.1 | 468.5 | 460.7 | 451.7 | 457.3 | 455.4 | 446.2 | 470.9 | 530.5 | 668.2 |
| 在外預金 | 2.7 | 1.9 | 2.1 | 2.3 | 1.7 | 2.0 | (235千円) | (799千円) | (683千円) | 5.2 | 68.1 |
| 內地預金 | 35.5 | 60.4 | 70.2 | 135.2 | 140.8 | 198.8 | 224.2 | 245.7 | 75.9 | 134.4 | 43.9 |
| 計(其他共) | 4,030.0 | 4,125.5 | 4,022.9 | 4,073.9 | 4,078.3 | 4,136.6 | 4,136.0 | 4,213.4 | 4,068.5 | 3,862.2 | 3,633.4 |
| 郵便貯金現在高(百萬圓) | 2,843 | 2,923 | 2,936 | 2,971 | 2,959 | 2,975 | 2,976 | 2,965 | 2,950 | 2,801 | 2,704 |
| 同上預人員現在數(千人) | 41,765 | 42,178 | 42,271 | 42,371 | 42,475 | 42,627 | 42,747 | 42,907 | 42,970 | 40,876 | 39,375 |

## (50) 主要事業の生産制限率一覽 (%)(東洋經濟調)(禁無斷轉載)

| 年月 | 紡績 | 絹紡 | ラミー | 人絹 | 晒粉 | 石灰窒素 | 過燐酸石灰 | 硫酸 | 洋紙 | 更紙 | 和紙 | 板紙 | 洋灰 | 鐵鋼 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7. 1 | 31.4 | 25.6 | 30 | 25 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 100.0 | 57.0 | 38 |
| 2 | 31.4 | 25.6 | 30 | 25 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 55.0 | 57.0 | 38 |
| 3 | 31.4 | 25.6 | 30 | 25 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 49.0 | 52.0 | 38 |
| 4 | 31.4 | 25.6 | 30 | 25 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 47.5 | 50.0 | 38 |
| 5 | 31.4 | 25.6 | 30 | 25 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 47.5 | 50.0 | 45 |
| 6 | 31.4 | 18.0 | 30 | 25 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 47.5 | 53.5 | 45 |
| 7 | 31.4 | 18.0 | 30 | 25 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 47.5 | 56.0 | 45 |
| 8 | 31.4 | 18.0 | 30 | 25 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 47.5 | 56.0 | 50 |
| 9 | 31.4 | 18.0 | 30 | 25 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 47.5 | 57.5 | 50 |
| 10 | 36.4 | 18.0 | 30 | 15 | 55 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 47.5 | 57.5 | 50 |
| 11 | 36.4 | 18.0 | 30 | 10 | 35 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 47.5 | 57.5 | 50 |
| 12 | 36.4 | 18.0 | 30 | 全廢 | 35 | 40 | 50 | 50 | 55 | 10 | 30 | 50.0 | 55.0 | 40 |
| 8. 1 | 27.6 | 18.0 | 30 | 〃 | 30 | 40 | 25 | 25 | 55 | 全廢 | 30 | 45.0 | 55.0 | 40 |
| 2 | 27.6 | 18.0 | 30 | 〃 | 30 | 40 | 25 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 45.0 | 55.0 | 40 |
| 3 | 27.6 | 28.0 | 30 | 〃 | 30 | 40 | 25 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 45.0 | 46.7 | 40 |
| 4 | 27.6 | 28.0 | 30 | 〃 | 40 | 40 | 25 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 50.0 | 46.7 | 40 |
| 5 | 27.6 | 28.0 | 30 | 〃 | 45 | 40 | 25 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 60.0 | 36.7 | 40 |
| 6 | 27.6 | 27.8 | 30 | 〃 | 55 | 40 | 25 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 50.0 | 40 |
| 7 | 27.6 | 33.0 | 30 | 〃 | 50 | 40 | 25 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 50.0 | 40 |
| 8 | 27.6 | 33.0 | 30 | 〃 | 45 | 40 | 46 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 50.0 | 40 |
| 9 | 27.6 | 33.0 | 30 | 〃 | 45 | 40 | 46 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 44.0 | 40 |
| 10 | 27.6 | 33.0 | 30 | 〃 | 45 | 40 | 46 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 50.0 | 40 |
| 11 | 27.6 | 33.0 | 30 | 〃 | 40 | 40 | 46 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 50.0 | 40 |
| 12 | 27.6 | 33.0 | 30 | 〃 | 45 | 40 | 46 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 52.0 | 40 |
| 9. 1 | 27.6 | 33.0 | 30 | 毛絲 | 50 | 40 | 46 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 52.0 | 40 |
| 2 | 27.6 | 33.0 | 30 | | 55 | 40 | 46 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 52.0 | 40 |
| 3 | 27.6 | 33.0 | 30 | | 55 | 40 | 46 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 52.0 | 40 |
| 4 | 27.6 | 33.0 | 30 | | 55 | 40 | 46 | 25 | 55 | 〃 | 30 | 55.0 | 52.0 | 40 |
| 5 | 27.6 | 33.0 | 30 | 9 | 48 | 40 | 46 | 25 | 51 | 〃 | 30 | 55.0 | 52.0 | 40 |
| 6 | 27.6 | 33.0 | 30 | 9 | 45 | 40 | 46 | 25 | 51 | 〃 | 30 | 55.0 | 57.0 | 40 |
| 7 | 22.6 | 33.0 | 30 | 9 | 48 | 40 | 46 | 25 | 51 | 〃 | 30 | 55.0 | 57.0 | 40 |
| 8 | 22.6 | 33.0 | 30 | 全廢 | 52 | 40 | 46 | 25 | 51 | 〃 | 30 | 43.0 | 57.0 | 40 |
| 9 | 22.6 | 33.0 | 30 | 〃 | 48 | 40 | 46 | 25 | 51 | 〃 | 30 | 36.0 | 57.0 | 40 |
| 10 | 18.8 | 33.0 | 30 | 40 | 40 | 40 | 46 | 25 | 46 | 〃 | 30 | 36.0 | 57.0 | 40 |
| 11 | 18.8 | 33.0 | 30 | 40 | 40 | 40 | 46 | 25 | 44 | 〃 | 30 | 36.0 | 57.0 | 40 |
| 12 | 18.8 | 33.0 | 30 | 40 | 45 | 40 | 46 | 25 | 43 | 〃 | 30 | 36.0 | 57.0 | 40 |
| 10. 1 | 18.8 | 33.0 | 30 | 30 | 50 | 40 | 46 | 25 | 41 | 〃 | 30 | 30.0 | 57.0 | 40 |
| 2 | 18.8 | 33.0 | 30 | 30 | 60 | 40 | 46 | 25 | 41 | 〃 | 30 | 30.0 | 57.0 | 40 |
| 3 | 18.8 | 33.0 | 30 | 30 | .. | 40 | 46 | 25 | .. | .. | .. | 30.0 | 57.0 | .. |
| 4 | 23.8 | 33.0 | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | 57.0 | .. |
| 5 | 23.8 | 33.0 | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | 57.0 | .. |
| 6 | 23.8 | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. |

（備考）鐵鋼は6年9月以降過燐酸は8年8月以降基準を異にす。絹紡は賣絲。毛絲は9年より開始。各月は其月10日に終る一ケ月間。

## (51) 横濱及神戸生絲集散（單位俵）

| 年月 | 月末在荷 | 入荷高 | 賣行高 | 內地行 |
|---|---|---|---|---|
| 9. 6 | 22,916½ | 36,473 | 37,400½ | 4,901 |
| 7 | 28,267 | 54,563½ | 45,606 | 3,607 |
| 8 | 28,458 | 59,019 | 55,065½ | 3,762½ |
| 9 | 28,936 | 48,792 | 44,969 | 3,345 |
| 10 | 28,408½ | 54,251½ | 49,973 | 4,806 |
| 11 | 29,888 | 45,398½ | 40,304½ | 3,614½ |
| 12 | 31,408½ | 48,388½ | 44,095 | 2,773 |
| 8. 12 | 34,793 | 46,400½ | 34,473 | 8,001 |
| 7. 12 | 27,817 | 55,207½ | 43,762 | 6,304 |
| 6月以降累計 9 | | 346,886 | 317,413½ | 26,809 |
| 6月以降累計 8 | | 371,350½ | 325,936 | 23,902 |

## (52) 米國生絲集散調（單位俵）

| 年月 | 總額 月末在荷 | 總額 輸入高 | 總額 消費高 | 日本絲 月末在荷 | 日本絲 輸入高 | 日本絲 消費高 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 6 | 59,048 | 39,241 | 33,069 | 51,300 | 30,217 | 32,162 |
| 7 | 66,268 | 28,673 | 32,021 | 59,769 | 37,887 | 29,418 |
| 8 | 58,694 | 50,550 | 36,247 | 52,940 | 28,078 | 34,907 |
| 9 | 76,645 | 76,645 | 32,599 | 71,399 | 49,858 | 31,399 |
| 10 | 66,479 | 38,940 | 49,106 | 62,205 | 38,493 | 47,687 |
| 11 | 76,502 | 47,571 | 37,548 | 72,700 | 47,023 | 36,528 |
| 12 | 65,934 | 30,373 | 40,941 | 62,050 | 28,908 | 39,558 |
| 8. 12 | 96,786 | 32,623 | 26,959 | 87,048 | 31,856 | 25,903 |
| 7. 12 | 62,837 | 45,453 | 40,548 | 54,012 | 41,579 | 36,996 |
| 6月以降累計 9 | | 266,405 | 261,531 | | 260,464 | 251,659 |
| 6月以降累計 8 | | 319,224 | 262,563 | | 289,783 | 238,648 |

## (53) 人造絹絲需給（函）

| 年月 | 生產 | 輸入 | 輸出 | 內地推定供給 |
|---|---|---|---|---|
| 9. 6 | 120,852 | 113 | 11,797 | 109,168 |
| 7 | 118,723 | 77 | 17,145 | 101,655 |
| 8 | 124,268 | 57 | 22,494 | 101,831 |
| 9 | 118,166 | 28 | 9,621 | 108,573 |
| 10 | 122,649 | 35 | 22,078 | 100,606 |
| 11 | 122,807 | 117 | 21,722 | 101,202 |
| 12 | 127,663 | 74 | 15,443 | 112,294 |
| 8. 12 | 91,435 | 57 | 8,985 | 82,507 |
| 7. 12 | 61,516 | 1,492 | 2,464 | 60,544 |
| 1-12累計 9 | 1,377,952 | 677 | 223,905 | 1,154,724 |
| 1-12累計 8 | 904,285 | 5,118 | 89,287 | 820,116 |

## (54) 綿絲需給表（紡績聯合會調）（單位梱）

| 年月 | 生產高 | 輸入高 | 輸出高 | 紡績會社自家消費 | 月末在荷 阪神 | 月末在荷 東京 | 月末在荷 名古屋 | 推定市場供給量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 6 | 286,026 | 12,752 | 5,375 | 80,025 | 15,355 | 756½ | 788½ | 203,659 |
| 7 | 282,541 | 8,947 | 5,855 | 78,068 | 10,831½ | 1,108½ | 360 | 212,165 |
| 8 | 290,212 | 3,661 | 4,452½ | 81,235 | 7,695½ | 1,133 | 674½ | 210,983 |
| 9 | 287,563 | 2,505½ | 3,577½ | 78,068 | 5,906½ | 2,529½ | 390½ | 209,189½ |
| 10 | 303,171 | 4,858 | 5,386 | 80,714 | 7,449½ | 2,131 | 458 | 225,778 |
| 11 | 322,402 | 2,821 | 7,175 | 85,358 | 11,654½ | 1,727½ | 694 | 228,652½ |
| 12 | 320,199½ | 3,634 | 6,366 | 85,633 | 13,323 | 2,300 | 1,051½ | 229,236 |
| 8. 12 | 280,912 | 7,520 | 3,928 | 79,735 | 6,018½ | 2,688 | 221 | 202,350½ |
| 7. 12 | 242,490 | 4,248 | 5,539 | 73,310 | 11,990½ | 6,409½ | 2,901 | 174,759 |
| 1-12累計 9 | 3,472,272½ | 57,389 | 66,645 | 962,393 | | | | 2,484,949 |
| 1-12累計 8 | 3,099,856½ | 58,964 | 48,093 | 905,750 | | | | 2,216,852 |

## (55) 綿布集散調（紡績聯合會調）

| 年月 | 生產高 | 輸出高 生地綿布 | 輸出高 加工綿布 | 輸出高 晒綿布 | 輸出高 合計 | 月末在荷 阪神 | 月末在荷 東京 | 月末在荷 名古屋 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 千平方碼 | 千平方碼 | 千平方碼 | 千平方碼 | 千平方碼 | 俵 | 俵 | 俵 |
| 9. 8 | 150,549 | 78,286 | 123,896 | 34,455 | 236,637 | 93,242 | 3,028 | 13,378 |
| 9 | 148,501 | 62,992 | 85,888 | 26,557 | 175,436 | 73,474 | 3,298 | 11,444 |
| 10 | 150,415 | 52,636 | 121,311 | 34,945 | 208,891 | 86,794 | 4,669 | 11,670 |
| 11 | 158,905 | 58,334 | 125,734 | 47,307 | 231,375 | 96,687 | 5,152 | 13,799 |
| 12 | 159,679 | 76,714 | 117,892 | 51,138 | 245,744 | 108,289 | 5,953 | 15,309 |
| 8. 12 | 144,480 | 38,353 | 98,217 | 49,225 | 185,795 | 101,959 | 12,252 | 10,406 |
| 7. 12 | 138,210 | 70,123 | 99,205 | 41,314 | 210,642 | 50,404 | 2,671 | 1,393 |
| 1-12累計 9 | 1,793,846 | 766,790 | 1,292,184 | 509,220 | 2,568,192 | | | |
| 1-12累計 8 | 1,673,879 | 607,731 | 1,014,961 | 463,692 | 2,086,384 | | | |

## (56) 綿織物集散調

| 年月 | 產額（商工省調） 廣幅物 | 產額 小幅物 | 產額 特殊織物 | 產額 合計 | 輸出高（大藏省） |
|---|---|---|---|---|---|
| | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 9. 8 | 65,034 | 7,196 | 3,676 | 75,906 | 47,344 |
| 9 | 65,998 | 6,972 | 3,606 | 76,575 | 34,406 |
| 10 | 65,844 | 6,970 | 3,783 | 76,597 | 43,977 |
| 11 | 67,148 | 6,378 | 4,136 | 77,661 | 46,714 |
| 12 | 66,886 | 7,304 | 3,962 | 78,152 | 47,146 |
| 8. 12 | 53,055 | 6,929 | 4,372 | 64,356 | 36,345 |
| 7. 12 | 51,368 | 8,248 | 4,106 | 63,722 | 35,259 |
| 1-12累計 9 | 743,944 | 85,073 | 45,671 | 874,688 | 492,351 |
| 1-12累計 8 | 610,887 | 87,165 | 44,699 | 742,753 | 383,216 |

## (57) 全國米穀集散調（農林省調）（單位石）

| 年月 | 米穀輸移入高 外國米 | 朝鮮米 | 臺灣米 | 合計 | 管外移出高 | 全國營業倉庫在米 內地米 | 朝鮮米 | 臺灣米 | 外米 | 總計 | 政府所有米月末殘高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | 千石 |
| 9. 7 | 4 | 298,694 | 1,114,619 | 1,413,313 | 966,305 | 7,769,724 | 830,462 | 153,363 | 150,403 | 8,903,952 | 16,415 |
| 8 | 8 | 536,692 | 856,455 | 1,393,155 | 831,503 | 7,539,363 | 736,069 | 216,814 | 48,020 | 8,540,266 | 13,556 |
| 9 | 5 | 709,661 | 663,036 | 1,372,702 | 724,895 | 7,120,503 | 596,851 | 124,527 | 46,415 | 7,888,296 | 12,512 |
| 10 | 20,097 | 520,756 | 273,897 | 814,750 | 1,007,183 | 6,330,900 | 383,485 | 47,228 | 25,512 | 6,787,125 | 11,325 |
| 11 | 4 | 1,078,447 | 438,800 | 1,517,251 | 1,150,138 | 5,688,762 | 477,066 | 38,408 | 25,710 | 6,229,946 | 10,409 |
| 12 | — | 1,295,871 | 638,010 | 1,933,881 | .... | .... | .... | .... | .... | .... | 10,192 |
| 8. 11 | 124,999 | 812,530 | 382,788 | 1,320,317 | 1,367,327 | 2,149,690 | 162,010 | 144,297 | 831,129 | 3,287,126 | 2,960 |
| 7. 11 | 73,253 | 774,152 | 501,338 | 1,348,743 | 1,543,428 | 2,182,676 | 188,981 | 67,311 | 991,970 | 3,430,938 | 3,161 |
| 1-11累計 9 | 46,237 | 8,067,461 | 4,654,318 | 12,768,015 | 13,302,602 | | | | | | |
| 1-11累計 8 | 927,994 | 6,299,941 | 3,329,682 | 10,557,618 | 11,411,990 | | | | | | |

## (58) 各種商品相場

| 年月 | 東京期米 先限 平均 | 東京期米 先限 最高 | 東京期米 先限 最低 | 深川正米 中米値段 平均 | 深川正米 中米値段 最高 | 深川正米 中米値段 最低 | 大阪棉花 先限 平均 | 大阪棉花 先限 最高 | 大阪棉花 先限 最低 | 米棉(紐育) 清算先物 最高 | 米棉(紐育) 清算先物 最低 | 米棉(紐育) 現物 最高 | 米棉(紐育) 現物 最低 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 仙 | 仙 | 仙 | 仙 |
| 9. 6 | 26.67 | 27.37 | 25.76 | 25.09 | 25.90 | 24.20 | 63.53 | 65.45 | 59.50 | 12.87 | 12.23 | 12.45 | 11 80 |
| 7 | 26.84 | 27.98 | 26.40 | 25.92 | 27 00 | 25.70 | 66.44 | 69.05 | 62.50 | 13.58 | 12 42 | 13 35 | 12.10 |
| 8 | 27.21 | 28.17 | 26.46 | 27.51 | 28.20 | 26.80 | 68.79 | 71.45 | 67.60 | 14.21 | 13 36 | 13.95 | 13.10 |
| 9 | 26.68 | 28.58 | 25.90 | 28.45 | 29.90 | 27.40 | 67.51 | 68.95 | 65.95 | 13.57 | 12.63 | 13.40 | 12.55 |
| 10 | 29.06 | 30.12 | 28.38 | 30.30 | 31.10 | 29.50 | 67.59 | 68.30 | 66.55 | 11.64 | 11.82 | 12 65 | 12.25 |
| 11 | 30.21 | 30.74 | 29.70 | 29.87 | 30.40 | 29.20 | 66.80 | 68.95 | 65.10 | 12.95 | 11.98 | 12.85 | 12.25 |
| 12 | 30.49 | 31.06 | 30.01 | 29.18 | 29.70 | 28.70 | 68.31 | 69.10 | 67.55 | 12.67 | 12.06 | 12.85 | 12.65 |
| 8. 12 | 23.67 | 24.19 | 23.10 | 21.98 | 22.50 | 21.60 | 51.62 | 52.60 | 50.70 | 10.79 | 10.43 | 10.35 | 10.00 |
| 7. 12 | 25.27 | 26.25 | 24.37 | 22.84 | 24.00 | 20.40 | 50.81 | 53.00 | 48.55 | 6.57 | 6.01 | 6.20 | 5.70 |

## (58) 各種商品相場 (續) ×印グランドWX

| 年月 | 大阪三品綿絲 先限 平均 | 大阪三品綿絲 先限 最高 | 大阪三品綿絲 先限 最低 | 横濱生絲 清算先物 平均 | 横濱生絲 清算先物 最高 | 横濱生絲 清算先物 最低 | 横濱生絲 白十四中D格 平均 | 横濱生絲 白十四中D格 最高 | 横濱生絲 白十四中D格 最低 | 紐育生絲 現物(ベストXトラ) 最高 | 紐育生絲 現物(ベストXトラ) 最低 | 紐育生絲 先限(引値) 最高 | 紐育生絲 先限(引値) 最低 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 弗 | 弗 | 弗 | 弗 |
| 9. 6 | 210.13 | 215.50 | 204.40 | 501.0 | 529.0 | 476.0 | 490 | 515 | 465 | 1 40 | 1.32 | 1.27 | 1.16 |
| 7 | 214.10 | 220.20 | 204.90 | 481.0 | 500.0 | 454.0 | 476 | 490 | 455 | 1.35 | 1.27 | 1.20½ | 1.13½ |
| 8 | 219.88 | 227.80 | 214.80 | 475.0 | 502.0 | 456.0 | 469 | 490 | 450 | 1.37 | 1.27 | 1.16½ | 1.10½ |
| 9 | 210.84 | 217.00 | 205.00 | 470.0 | 506.0 | 451.0 | 471 | 500 | 445 | × 1.43 | × 1.32 | 1.15½ | 1.10½ |
| 10 | 208.51 | 212.80 | 201.60 | 516.2 | 540.0 | 492.0 | 511 | 535 | 490 | × 1.46 | × 1.41 | 1.19 | 1.14 |
| 11 | 202.65 | 211.30 | 196.00 | 564.0 | 607.0 | 525.0 | 549 | 590 | 515 | × 1.59 | × 1.43 | 1.26½ | 1.17½ |
| 12 | 212.79 | 215.90 | 207.10 | 609.0 | 629.0 | 585.0 | 594 | 635 | 580 | × 1.69 | × 1.57 | 1.34 | 1.27½ |
| 8. 12 | 189.95 | 194.90 | 184.10 | 574.0 | 611.0 | 538.0 | 559 | 590 | 540 | 1.50 | 1.37 | 1.41 | 1.32 |
| 7. 12 | 194.01 | 203.00 | 185.50 | 944.0 | 990.0 | 865.0 | 922 | 970 | 860 | 1.62 | 1.42 | 1.47 | 1.32 |

## (58) 各種商品相場 (續)

| 年月 | 大阪砂糖 清算先物 平均 | 大阪砂糖 清算先物 最高 | 大阪砂糖 清算先物 最低 | 東京砂糖 精糖(No.2) 最高 | 東京砂糖 精糖(No.2) 最低 | 神戸豆粕 清算先物 平均 | 神戸豆粕 清算先物 最高 | 神戸豆粕 清算先物 最低 | 大連豆粕 三月先物 最高 | 大連豆粕 三月先物 最低 | 倫敦護謨 シート現物 最高 | 倫敦護謨 シート現物 最低 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 錢円 | 錢円 | 片 | 片 |
| 9. 6 | 11.06 | 11.40 | 10.73 | 19.85 | 18.68 | — | — | — | 1.200 | 1.120 | 6 7/8 | 6 1/8 |
| 7 | 11.37 | 11.60 | 11.24 | 21.20 | 19.90 | — | — | — | 1.270 | 1.080 | 7 3/16 | 6 15/16 |
| 8 | 11.80 | 12.20 | 11.32 | 22.05 | 20.25 | 3.420 | 3.580 | 3.290 | 1.355 | 1.225 | 7 5/8 | 7 1/8 |
| 9 | 12.28 | 12.60 | 12.06 | 22.75 | 21.30 | 3.460 | 3.600 | 3.360 | 1.280 | 1.220 | 7 5/8 | 7 3/16 |
| 10 | 12.00 | 12.00 | 12.00 | 22.75 | 21.30 | 3.470 | 3.470 | 3.470 | 1.250 | 1.120 | 7 1/8 | 6 3/8 |
| 11 | 9.98 | 10.29 | 9.86 | 21.90 | 21.60 | 3.665 | 3.700 | 3.630 | 1.355 | 1.180 | 6 9/16 | 6 3/16 |
| 12 | 10.07 | 10.11 | 10.01 | 22.10 | 21.35 | 3.695 | 3.720 | 3.690 | 1.435 | 1.330 | 6 3/8 | 6 3/16 |
| 8. 12 | 11.10 | 11.22 | 11.05 | 19.25 | 18.80 | — | — | — | 1.195 | 1.140 | 4 11/32 | 4 1/32 |
| 7. 12 | 13.13 | 13.40 | 12.85 | 23.10 | 22.60 | — | — | — | 1.810 | 1.650 | 2 7/8 | 2 13/32 |

## (58) 各種商品相場 (續)

| 年月 | 人造絹絲 東京現物(帶人150D) 最高 | 人造絹絲 東京現物(帶人150D) 最低 | 人造絹絲 東京長期先限 最高 | 人造絹絲 東京長期先限 最低 | 羊毛相場(70s) 濠洲毛洗上 最高 | 羊毛相場(70s) 濠洲毛洗上 最低 | 羊毛相場(70s) トップ 最高 | 羊毛相場(70s) トップ 最低 | シカゴ小麥 先物 最高 | シカゴ小麥 先物 最低 | 東京製粉 先物 最高 | 東京製粉 先物 最低 | 紐育電銅 先物 最高 | 紐育電銅 先物 最低 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 片 | 片 | 片 | 片 | 弗 | 弗 | 円 | 円 | 仙 | 仙 |
| 9. 6 | 98 | 95 | 97.70 | 92.30 | 34 | 32 | 43 | 40 | 1.04 1/2 | 0.91 3/8 | 3.29 | 3.10 | 9 | 8 1/2 |
| 7 | 98 | 94 | 96.50 | 91.30 | 33 | 31 | 41 | 40 | 1.03 7/8 | 0.89 1/8 | 3.11 | 2.92 | 9 | 9 |
| 8 | 96 | 94 | 95.00 | 91.00 | 31 | 28 | 40 | 37 | 1.16 1/4 | 1.04 1/2 | 3.35 | 2.93 | 9 | 9 |
| 9 | 94 | 89 | 92.90 | 82.00 | 26 | 23 | 37 | 34 | 1.08 3/8 | 1.03 1/8 | 3.39 | 3.22 | 9 | 9 |
| 10 | 95 | 92 | 89.40 | 83.60 | 23 | 23 | 32 | 32 | 1.08 3/8 | 1.03 1/2 | 3.50 | 3.37 | 9 | 9 |
| 11 | 91 | 88 | 83.90 | 78.90 | 23 | 23 | 43 | 33 | 0.95 1/4 | 0.89 | 3.39 | 3.22 | 9 | 9 |
| 12 | 91 | 87 | 83.70 | 81.70 | 23 | 22 | 33 | 32 | 0.97 1/8 | 0.92 1/8 | 3.35 | 3.26 | 9 | 9 |
| 8. 12 | 112 | 90 | 104.40 | 88.00 | 23 | 33 | 40 | 40 | 0.86 | 0.79 1/4 | 3.46 | 3.30 | 8 3/8 | 8 |
| 7. 12 | 230 | 175 | — | — | 21 | 21 | 30 | 30 | 0.50 | 0.43 3/8 | 3.84 | 3.48 | 5 | 5 |

## (59) 全國生計費指數 (朝日新聞調) 大正3年7月＝100

| 年月 | 類別指數 飲食費 | 住居費 | 光熱費 | 被服費 | 文化費 | 總指數 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 6 | 148 | 234 | 178 | 148 | 180 | 172 |
| 7 | 151 | 234 | 176 | 148 | 180 | 174 |
| 8 | 157 | 234 | 176 | 149 | 180 | 176 |
| 9 | 156 | 234 | 180 | 150 | 181 | 176 |
| 10 | 163 | 234 | 184 | 149 | 181 | 180 |
| 11 | 162 | 234 | 185 | 148 | 181 | 180 |
| 12 | 161 | 234 | 185 | 147 | 181 | 179 |
| 8. 12 | 142 | 234 | 184 | 143 | 179 | 169 |
| 7. 12 | 143 | 240 | 163 | 137 | 179 | 168 |

## (60) 東京小賣物價指數 (日本銀行調) (大正3年7月＝100)

| 年月 (15日調) | 食料品 | 燃料燈火 | 服飾用品 | 其他 | 總平均 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9. 6 | 162 | 183 | 109 | 147 | 148 |
| 7 | 161 | 183 | 109 | 147 | 147 |
| 8 | 162 | 183 | 108 | 148 | 148 |
| 9 | 163 | 187 | 111 | 149 | 149 |
| 10 | 164 | 187 | 111 | 149 | 150 |
| 11 | 164 | 185 | 108 | 149 | 149 |
| 12 | 166 | 185 | 108 | 149 | 150 |
| 8. 12 | 164 | 188 | 107 | 147 | 149 |
| 7. 12 | 166 | 170 | 103 | 143 | 146 |

## (61) 勞働人員及賃銀統計 (日銀調) (昭和1年＝100)

| 年月 | 勞働人員 總計 實數 | 指數 | 男 實數 | 指數 | 女 實數 | 指數 | 定額賃金 總計 指數 | 男 實數 | 指數 | 女 實數 | 指數 | 實收賃金 總計 指數 | 男 實數 | 指數 | 女 實數 | 指數 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 千人 | | 千人 | | 千人 | | | 錢 | | 錢 | | | 錢 | | 錢 | |
| 9. 3 | 974,635 | 87.8 | 466,469 | 94.8 | 508,166 | 80.9 | 83.5 | 135.8 | 84.6 | 68.4 | 78.5 | 94.0 | 221.9 | 98.6 | 69.7 | 67.6 |
| 4 | 1,004,935 | 90.5 | 475,729 | 96.7 | 529,206 | 84.3 | 83.0 | 134.9 | 84.2 | 67.9 | 77.9 | 90.7 | 217.0 | 96.4 | 69.1 | 66.9 |
| 5 | 1,010,133 | 91.0 | 479,778 | 97.4 | 530,355 | 84.7 | 82.8 | 134.6 | 83.9 | 67.9 | 77.8 | 90.7 | 215.9 | 95.8 | 68.9 | 66.5 |
| 6 | 1,011,912 | 91.2 | 484,676 | 98.1 | 527,236 | 84.6 | 82.7 | 134.4 | 83.8 | 67.8 | 77.7 | 90.5 | 215.7 | 95.7 | 69.4 | 66.9 |
| 7 | 1,020,024 | 91.6 | 489,741 | 98.9 | 530,283 | 84.4 | 82.8 | 134.6 | 83.9 | 68.0 | 77.9 | 89.6 | 213.4 | 94.7 | 69.3 | 66.5 |
| 8 | 1,028,680 | 92.1 | 495,741 | 99.8 | 532,916 | 84.7 | 82.7 | 134.5 | 83.8 | 67.9 | 77.8 | 89.7 | 213.1 | 94.5 | 69.7 | 67.0 |
| 9 | 1,041,189 | 93.5 | 501,048 | 100.8 | 540,141 | 86.3 | 82.6 | 134.3 | 83.7 | 68.0 | 77.8 | 90.0 | 213.8 | 94.9 | 70.4 | 67.2 |
| 10 | 1,050,013 | 94.1 | 506,801 | 101.7 | 543,212 | 86.7 | 82.6 | 134.3 | 83.6 | 68.0 | 77.8 | 91.1 | 216.5 | 96.1 | 70.2 | 67.6 |
| 11 | 1,066,180 | 94.9 | 517,128 | 102.6 | 549,052 | 87.5 | 82.3 | 133.8 | 83.3 | 67.9 | 77.7 | 92.4 | 220.5 | 97.8 | 70.8 | 67.8 |
| 8. 11 | 922,331 | 85.2 | 425,986 | 91.7 | 496,345 | 78.9 | 84.0 | 136.7 | 85.1 | 68.9 | 78.9 | 89.5 | 213.3 | 95.0 | 70.4 | 68.5 |
| 7. 11 | 821,588 | 76.4 | 366,016 | 80.8 | 455,572 | 72.1 | 86.8 | 140.5 | 87.6 | 71.3 | 81.9 | 88.7 | 211.8 | 94.6 | 71.4 | 70.0 |

## (62) 職工の作業時間、休憩時間及作業日數 (內閣統計局調)

| 年月 | 總數乃至平均 工場 | 作業時間 | 內休憩時間 | 作業日數 | 紡織工業 工場 | 作業時間 | 內休憩時間 | 作業日數 | 金屬工業 工場 | 作業時間 | 內休憩時間 | 作業日數 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 時 分 | 時 分 | 日 | | 時 分 | 時 分 | 日 | | 時 分 | 時 分 | 日 |
| 8年中平均 | 953 | 10.01 | 0.57 | 26.9 | 270 | 10.27 | 0.54 | 26.8 | 77 | 9.54 | 0.50 | 26.7 |
| 9. 3 | 959 | 10.09 | 0.56 | 26.6 | 270 | 10.25 | 0.53 | 26.7 | 77 | 9.59 | 0.52 | 26.5 |
| 4 | 960 | 10.12 | 0.57 | 27.1 | 272 | 10.27 | 0.53 | 27.5 | 76 | 9.58 | 0.51 | 27.1 |
| 5 | 954 | 10.10 | 0.57 | 27.4 | 273 | 10.24 | 0.53 | 27.3 | 76 | 9.54 | 0.51 | 27.2 |
| 6 | 954 | 10.13 | 0.57 | 27.2 | 273 | 10.25 | 0.53 | 27.0 | 77 | 9.57 | 0.52 | 27.3 |
| 7 | 957 | 10.13 | 0.58 | 27.3 | 274 | 10.27 | 0.55 | 27.4 | 77 | 9.58 | 0.52 | 27.0 |
| 8 | 955 | 10.11 | 0.57 | 27.4 | 272 | 10.26 | 0.55 | 27.5 | 77 | 9.54 | 0.52 | 27.3 |
| 9 | 952 | 10.12 | 0.56 | 27.1 | 271 | 10.27 | 0.53 | 27.4 | 77 | 9.55 | 0.50 | 27.2 |
| 8. 9 | 960 | 10.12 | 0.57 | 27.2 | 273 | 10.29 | 0.54 | 27.3 | 76 | 9.56 | 0.51 | 27.2 |
| 7. 9 | 732 | 10.00 | 0.55 | 27.0 | 195 | 10.21 | 0.52 | 27.3 | 67 | 9.42 | 0.49 | 27.0 |

## (63) 職工一日平均賃銀諸手當賞與 (內閣統計局調)

| 年月 | 總平均 | 窯業土石加工業 | 金屬工業 | 機械器具製造業 | 化學工業 | 紡織工業 | 紙工業印刷業 | 木竹草蔓製加工業 | 食料品製造業 | 瓦斯電氣水道業 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 錢 | 錢 | 錢 | 錢 | 錢 | 錢 | 錢 | 錢 | 錢 | 錢 |
| 9. 3 | 195.0 | 175.2 | 306.7 | 276.6 | 183.9 | 78.3 | 186.3 | 140.1 | 158.9 | 245.5 |
| 4 | 188.3 | 172.6 | 307.8 | 261.8 | 182.2 | 77.1 | 187.9 | 139.0 | 162.6 | 235.9 |
| 5 | 186.4 | 168.7 | 301.8 | 258.1 | 182.3 | 76.7 | 181.1 | 137.9 | 154.5 | 246.5 |
| 6 | 187.2 | 169.9 | 301.2 | 261.1 | 184.7 | 77.9 | 180.0 | 139.7 | 156.8 | 245.7 |
| 7 | 184.7 | 168.3 | 295.9 | 259.4 | 178.1 | 76.6 | 178.6 | 138.1 | 155.5 | 246.0 |
| 8 | 184.8 | 168.0 | 296.2 | 255.3 | 177.2 | 76.8 | 183.5 | 137.8 | 154.8 | 247.4 |
| 9 | 185.2 | 168.0 | 297.0 | 259.1 | 180.6 | 77.4 | 180.3 | 138.4 | 158.1 | 250.6 |
| 8. 9 | 184.5 | 175.1 | 295.0 | 261.9 | 178.5 | 78.4 | 186.3 | 145.6 | 155.2 | 247.3 |
| 7. 9 | 185.7 | 173.5 | 283.6 | 279.1 | 189.3 | 82.0 | 188.2 | 161.4 | ‥ | 228.3 |

## (64) 職業紹介成績 (中央職業紹介事務局調)

| 年月 | 公營及營利職業紹介所計 求人數 | 求職者數 | 就職者數 |
|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 |
| 9. 6 | 273,969 | 254,347 | 86,427 |
| 7 | 259,191 | 232,793 | 86,771 |
| 8 | 277,944 | 230,623 | 85,321 |
| 9 | 302,687 | 265,735 | 97,970 |
| 10 | 327,129 | 287,396 | 106,501 |
| 8. 10 | 285,573 | 279,583 | 95,896 |
| 7. 10 | 202,830 | 195,367 | 92,835 |
| 1-10 累計 9 | 3,153,257 | 2,657,901 | 980,324 |
| 1-10 累計 8 | 2,185,436 | 1,773,143 | 975,380 |

## (65) 工場職工異動調（常時職工五十人以上を使用する工場に付社會局の調査せるもの）

| 年月 | 解雇 工場數 | 解雇 男工 | 解雇 女工 | 解雇 職工數計 | 雇入 工場數 | 雇入 男工 | 雇入 女工 | 雇入 職工數計 | 月末現在 工場數 | 月末現在 男工 | 月末現在 女工 | 月末現在 職工數計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 人 | 人 | 人 | | 人 | 人 | 人 | | 人 | 人 | 人 |
| 9. 2 | 3,446 | 12,013 | 35,465 | 47,478 | 3,287 | 19,845 | 48,841 | 68,686 | 5,435 | 496,609 | 696,806 | 1,193,415 |
| 3 | 3,415 | 14,547 | 26,755 | 41,302 | 3,471 | 21,241 | 49,285 | 70,526 | 5,466 | 501,817 | 719,102 | 1,220,919 |
| 4 | 3,537 | 13,504 | 29,105 | 42,609 | 3,586 | 51,436 | 49,327 | 100,763 | 5,445 | 542,267 | 741,291 | 1,283,558 |
| 5 | 3,586 | 12,830 | 29,620 | 42,450 | 3,327 | 20,391 | 27,775 | 48,166 | 5,455 | 551,493 | 741,489 | 1,292,982 |
| 6 | 3,427 | 13,141 | 27,200 | 40,341 | 3,456 | 21,134 | 25,857 | 46,991 | 5,506 | 562,212 | 739,566 | 1,301,778 |
| 7 | 3,566 | 12,063 | 25,872 | 37,935 | 3,629 | 21,408 | 41,642 | 63,050 | 5,691 | 572,013 | 756,595 | 1,328,608 |
| 8 | 3,770 | 12,086 | 28,077 | 40,157 | 3,487 | 18,875 | 30,273 | 49,148 | 5,715 | 579,452 | 758,933 | 1,338,385 |
| 8. 8 | 3,154 | 8,505 | 23,519 | 32,024 | 2,989 | 13,243 | 25,172 | 38,415 | 5,438 | 454,032 | 720,446 | 1,174,478 |
| 7. 8 | 2,837 | 6,338 | 23,102 | 29,440 | 2,656 | 8,459 | 32,487 | 40,946 | 5,191 | 391,093 | 665,405 | 1,056,498 |

## (66) 鑛山勞働者異動調

| 年月 | 解雇 | 雇入 | 月末現在 | 月末現在鑛山數 |
|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | |
| 9. 2 | 10,133 | 11,005 | 210,871 | 358 |
| 3 | 12,176 | 13,396 | 212,836 | 362 |
| 4 | 12,431 | 12,698 | 213,475 | 371 |
| 5 | 13,041 | 12,723 | 213,032 | 371 |
| 6 | 11,347 | 11,383 | 213,589 | 374 |
| 7 | 11,244 | 11,691 | 214,424 | 375 |
| 8 | 11,377 | 11,515 | 214,766 | 379 |
| 8. 8 | 10,489 | 13,987 | 187,601 | 320 |
| 7. 8 | 7,129 | 4,916 | 169,267 | 283 |

## (67) 解雇職工歸趨調（社會局調）

| 年月 | 同種工業に轉職 | 他種工業に轉職 | 歸農せる者 | 其他 | 未就業者 | 不詳 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 9. 2 | 10,477 | 3,555 | 18,152 | 6,629 | 3,149 | 5,516 | 47,478 |
| 3 | 8,803 | 3,424 | 14,606 | 5,178 | 2,966 | 6,325 | 41,302 |
| 4 | 9,525 | 3,813 | 17,153 | 4,915 | 2,115 | 5,088 | 42,609 |
| 5 | 8,477 | 3,201 | 16,941 | 5,539 | 2,213 | 6,079 | 42,450 |
| 6 | 9,578 | 3,217 | 14,837 | 4,986 | 2,406 | 5,317 | 40,341 |
| 7 | 9,053 | 3,969 | 11,696 | 5,677 | 2,146 | 5,394 | 37,935 |
| 8 | 9,972 | 3,856 | 13,288 | 5,158 | 1,960 | 5,923 | 40,157 |
| 8. 8 | 6,207 | 2,400 | 12,152 | 4,335 | 2,052 | 4,878 | 32,024 |
| 7. 8 | 6,888 | 2,357 | 10,513 | 3,378 | 1,681 | 4,623 | 29,440 |

## (68) 勞働爭議統計（內務省社會局調）

| 年月 | 參加人員（單位人） | 爭議總件數（單位件） | 業態別爭議件數（單位件）機械器具製造工業 | 化學工業 | 染織工業 | 飲食物製造工業 | 雜工業 | 鑛業 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 9 | 30,272 | 157 | 23 | 45 | 16 | 4 | 10 | 7 |
| 10 | 9,657 | 171 | 26 | 52 | 8 | 7 | 22 | 3 |
| 11 | 5,597 | 105 | 12 | 14 | 21 | 2 | 11 | 5 |
| 8. 11 | 10,126 | 113 | 13 | 17 | 17 | 3 | 16 | 6 |
| 1-11 累計 9 | 103,312 | 1,546 | 215 | 279 | 199 | 58 | 170 | 72 |
| 1-11 累計 8 | 97,573 | 1,508 | 201 | 234 | 202 | 48 | 192 | 42 |

| 年月 | 業態別爭議件數（續）瓦斯電氣業 | 運輸業 | 土木建築業 | 通信業及其他 | 要求事項別爭議件數（單位件）賃金增額 | 賃金減額反對 | 賃金支給方法變更反對 | 勞働時間短縮 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 9 | — | 22 | 10 | 20 | 78 | 4 | 8 | 3 |
| 10 | 2 | 15 | 15 | 21 | 98 | 1 | 13 | — |
| 11 | 2 | 14 | 8 | 16 | 36 | 11 | 7 | — |
| 8. 11 | 1 | 9 | 13 | 18 | 36 | 5 | 3 | — |
| 1-11 累計 9 | 16 | 164 | 152 | 221 | 521 | 62 | 97 | 27 |
| 1-11 累計 8 | 13 | 168 | 158 | 250 | 476 | 88 | 83 | 23 |

| 年月 | 要求事項別爭議件數（續）公休日設定 | 解雇手當確定增額 | 監督者の排斥 | 賃金支拂 | 休業反對 | 休業手當支給增額 | 解雇反對復職 | 其他雜 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 9 | 1 | 14 | 5 | 2 | 2 | 3 | 25 | 11 |
| 10 | — | 16 | 3 | 10 | 1 | 1 | 14 | 14 |
| 11 | 1 | 13 | 3 | 5 | 1 | — | 14 | 14 |
| 8. 11 | — | 13 | 6 | 14 | 4 | 1 | 19 | 12 |
| 1-11 累計 9 | 3 | 215 | 35 | 143 | 28 | 16 | 249 | 150 |
| 1-11 累計 8 | 4 | 196 | 39 | 151 | 36 | 25 | 251 | 136 |

## (69) 小作爭議統計（內務省社會局調）

| 年月 | 關係地主・小作人（單位人）地主 | 小作人 | 關係耕地面積（單位町）田 | 畑 | 計 其他共 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9. 8 | 117 | 987 | 434 | 187 | 623 |
| 9 | 327 | 977 | 607 | 121 | 503 |
| 10 | 1,043 | 3,907 | 3,125 | 350 | 3,636 |
| 8. 10 | 464 | 1,822 | 827 | 899 | 2,215 |
| 1-10 累計 9年 | 6,176 | 21,819 | 12,121 | 2,206 | 15,449 |
| 1-10 累計 8年 | 6,235 | 21,777 | 11,325 | 2,828 | 14,872 |

| 年月 | 爭議總件數（單位件） | 要求事項別爭議件數（單位件）小作料一時減額 | 小作料一時免除 | 小作料永久減額 | 小作料增額反對 | 納米格下諸制限緩和 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 8 | 45 | 6 | — | 2 | 1 | — |
| 9 | 86 | 13 | — | 5 | 4 | 1 |
| 10 | 160 | 69 | — | 4 | 3 | 3 |
| 8. 10 | 123 | 30 | 1 | 5 | 1 | — |
| 1-10 累計 9年 | 2,274 | 403 | 15 | 88 | 96 | 8 |
| 1-10 累計 8年 | 2,050 | 608 | 25 | 55 | 29 | 12 |

| 年月 | 要求事項別爭議件數（續）獎勵米其他給付增額 | 小作人特別支出補償 | 小作契約繼續 | 小作權確認賠償 | 永小作權の獲得 | 其他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9. 8 | — | — | 18 | 2 | — | 17 |
| 9 | 1 | — | 39 | 3 | 1 | 23 |
| 10 | 3 | — | 52 | 5 | — | 36 |
| 8. 10 | — | — | 61 | 7 | 3 | 39 |
| 1-10 累計 9年 | 24 | 17 | 1,373 | 144 | 24 | 321 |
| 1-10 累計 8年 | 17 | 15 | 1,241 | 106 | 28 | 335 |

(70) 本邦失業狀況推定概要　(內務省社會局)

| 年月 | 給料生活者 調査人口 | 給料生活者 失業者 | 給料生活者 失業率 | 勞働者 日 調査人口 | 勞働者 日 失業者 | 勞働者 日 失業率 | 勞働者 其他 調査人口 | 勞働者 其他 失業者 | 勞働者 其他 失業率 | 計 調査人口 | 計 失業者 | 計 失業率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 千人 | 千人 | % | 千人 | 千人 | % | 千人 | 千人 | % | 千人 | 千人 | % |
| 8. 12 | 1,721 | 69 | 4.01 | 1,790 | 183 | 10.24 | 3,899 | 127 | 3.25 | 7,410 | 379 | 5.11 |
| 9. 1 | 1,714 | 69 | 4.00 | 1,787 | 185 | 10.36 | 3,909 | 129 | 3.29 | 7,411 | 382 | 5.16 |
| 2 | 1,722 | 69 | 4.04 | 1,790 | 191 | 10.67 | 3,928 | 130 | 3.30 | 7,441 | 390 | 5.24 |
| 3 | 1,725 | 69 | 3.99 | 1,798 | 191 | 10.60 | 3,930 | 126 | 3.21 | 7,453 | 385 | 5.17 |
| 4 | 1,711 | 69 | 4.01 | 1,783 | 188 | 10.55 | 3,921 | 124 | 3.17 | 7,416 | 381 | 5.14 |
| 5 | 1,726 | 69 | 4.01 | 1,779 | 188 | 10.56 | 3,957 | 126 | 3.18 | 7,462 | 383 | 5.13 |
| 6 | 1,732 | 69 | 4.02 | 1,787 | 185 | 10.35 | 3,952 | 123 | 3.12 | 7,471 | 378 | 5.06 |
| 7 | 1,732 | 69 | 3.98 | 1,781 | 184 | 10.31 | 3,969 | 120 | 3.01 | 7,481 | 372 | 4.97 |
| 8 | 1,734 | 68 | 3.94 | 1,780 | 182 | 10.21 | 3,975 | 118 | 2.96 | 7,489 | 368 | 4.91 |
| 8. 8 | 1,705 | 70 | 4.09 | 1,779 | 196 | 11.02 | 3,836 | 148 | 3.86 | 7,321 | 414 | 5.65 |
| 7. 8 | 1,685 | 82 | 9.88 | 1,723 | 208 | 12.08 | 3,763 | 219 | 5.82 | 7,117 | 509 | 7.10 |

(71) 各國失業統計　(國際聯盟調)

| 年月 | 獨逸 失業登錄數 | 獨逸 失業者數 | 獨逸 失業率 | 英國(強制失業保險加入者) 全體失業 | 英國 全體失業 | 英國 一部失業 | 佛蘭西 求職者數 | 伊太利 失業登錄數 | 米國 失業率 | 墺太利 就職申込者 | 波蘭(登錄者) 全體失業 | 波蘭 全體失業 | 白耳義 全體失業 | 白耳義 失業率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 千人 | % | % | 千人 | % | 千人 | 千人 | 千人 | % | 千人 | 千人 | % | 千人 | % |
| 1934. 4 | 2,609 | 14.1 | 15.4 | 1,814 | 14.0 | 334 | 369 | 996 | 2.4 | 376 | 358 | 16.8 | 188 | 19.4 |
| 5 | 2,529 | 13.7 | 14.9 | 1,752 | 13.5 | 345 | 355 | 941 | 2.5 | 354 | 329 | 15.5 | 170 | 17.5 |
| 6 | 2,481 | 13.4 | 15.6 | 1,673 | 12.9 | 452 | 345 | 831 | 2.8 | 348 | 306 | 14.4 | 165 | 17.1 |
| 7 | 2,426 | 13.1 | 15.3 | 1,663 | 12.8 | 499 | 350 | 887 | 2.8 | 338 | 295 | 13.9 | 168 | 17.4 |
| 8 | 2,398 | 13.0 | 15.2 | 1,673 | 12.9 | 462 | 358 | 867 | 2.5 | 329 | 289 | 13.6 | 165 | 17.1 |
| 9 | 2,282 | 12.3 | 15.2 | 1,722 | 13.3 | 359 | 357 | 887 | 2.4 | 326 | 289 | 13.6 | 173 | 17.9 |
| 10 | 2,268 | 12.3 | .. | 1,776 | 13.7 | 343 | 382 | 905 | 2.5 | 332 | 293 | 13.8 | 173 | 18.0 |
| 1933. 10 | 3,745 | 20.4 | 20.9 | 1,973 | 15.3 | 361 | 261 | 963 | 2.8 | 358 | 215 | 10.1 | 147 | 14.5 |
| 1932. 10 | 5,109 | 27.6 | 42.9 | 2,296 | 17.9 | 515 | 286 | 956 | 3.2 | 370 | 151 | 7.1 | 158 | 17.5 |

# 昭和九年第四四半期日誌

(自十月一日至十二月三十一日)

## 十月

**一日(月)** 西國急進黨系サムペル內閣總辭職。

**二日(火)** 羅馬尼のタタレスク氏に大命再降下す。

**四日(木)** 西國急進黨首領アルハンドロ・レルー氏、組閣完了。

◇リッチバーグ米國產業緊急委員會委員長N・R・Aの產業統制緩和を聲明す。

**五日(金)** 西國左翼勞働組合、新內閣に反對して總罷業を開始。アストウリア州に赤色革命勃發し同地方に戒嚴令宣布。カタロニア地方の獨立宣言傳へらる。

**六日(土)** コンパニース氏カタロニア新共和國大統領に推され、前首相アザナ氏臨時首相に就任。マドリッドは市街戰にて擾亂。

◇アリゾナ州土地問題調停委員會成立。

**七日(日)** 西國政府軍、バルセロナ政廳を砲擊。カタロニア獨立政府降服。コンパニース大統領以下閣僚(內相を除く)は逮捕さる。

**八日(月)** 玖瑪勞働總同盟、玖瑪電氣會社の解雇勞働者復職要求を容れられず總罷業を開始。軍隊出動す。

**九日(火)** ユ國王アレキサンダー一世、マルセイユにて兇變。バルツー佛外相も逝去。歐洲公債類崩落す。

**十一日(木)** ユ國ライバツハ市民の反伊デモ隊、伊太利領事館員に暴行す。

◇ライオンス濠洲新內閣成立。

**十三日(土)** 東京市々電爭議(覺書を作製し)解決。

◇佛內閣の一部改造さる。

◇獨、米獨通商條約の廢棄を通告。

◇桑港爭議調停委員會解決案發表

◇米國務省、獨のドーズ公債利拂七割五分通告に不滿の意を表示

**十四日(日)** 國民政府、銀流出防止の爲め銀輸出稅を一割に引上ぐ。

**十五日(月)** 佛元大統領ポアンカレー氏逝く。

◇祕露、日祕條約廢棄を通告す。

**十六日(火)** 山本軍縮代表着英。

◇獨逸、爲替清算銀行設立を決定。

◇獨內閣書記長官、ヒトラー首相の終身大總統制を發表。

**十七日(水)** 緊急臨時閣議で在滿

機關改革の原案斷行と決定。
**十八日**（木）中國財政部、銀本位維持を聲明。
◇日土通商協定假調印終る。
**十九日**（金）金本位國ブロック國會議ブラツセルに開かる。
**二十日**（土）ユ內閣、大葬儀を終り總辭職す。
**廿一日**（日）ウオーレス米農相、明年度も棉花減反計畫を繼續と言明。
**廿二日**（月）日印通商條約批准交換さる。
◇ユ國の第二次ウヅノヴイツチ內閣成立す。
◇ザラツアル葡內閣、憲法改正問題で總辭職、カルモナ大統領はザ氏に再組閣の大命を發す。
**廿三日**（火）軍縮豫備會議日英第一次會談開かる。（日本側根本方針を說明）
◇蘭印營業制限令、公布實施さる。
**廿四日**（水）海軍々縮豫備會商日米第一次會談開かる。
**廿五日**（木）獨波兩國、大使制を新設す。
◇兒玉秀雄氏拓務大臣に任ぜらる。
**廿六日**（金）米、英、蘭三ケ國は滿洲の石油統制法は九ケ國條約に反すと日滿兩國に抗議す。
**廿七日**（土）ユ內閣、大葬儀を終り總辭職す。
**廿八日**（日）ウオーレス米農相、明年度も棉花減反計畫を繼續と言明。
**廿九日**（月）日印通商條約批准交換さる。
◇ユ國の第二次ウヅノヴイツチ內閣成立す。
◇ザラツアル葡內閣、憲法改正問題で總辭職、カルモナ大統領はザ氏に再組閣の大命を發す。
**三十日**（火）軍縮豫備會議日英第一次會談開かる。（日本側根本方針を說明）
◇蘭印營業制限令、公布實施さる。
**卅一日**（水）海軍々縮豫備會商日

## 十一月

**一日**（木）英獨債務協定調印さる。
**二日**（金）佛國閣議、憲法修正案を可決。
**三日**（土）獨逸國銀、對外長中期債の現金利拂中止を發表。
**四日**（日）英蘇レナ金鑛問題妥協成立す。
**五日**（月）中國外交部駐平特派員辯事所、北支對外折衝機關として開かる。
**六日**（火）米國總選擧々行。上院三分の一、下院全員、洲知事大半の改選。
◇バシヤ埃及內閣、國王病臥後の政務を非難されて總辭職す。
◇西班牙のサンヂカリスト、カタロニア內亂の指導者死刊を前に總罷業を聲明す。
**八日**（木）ヅーメルグ佛國內閣、憲法修正案を繞り意見對立して總辭職す。
**九日**（金）町田氏民政黨總務會々長受諾。
◇フランダン佛內閣成立す。
**十日**（土）中國共產軍首都瑞金陷落す。
**十一日**（日）陸軍特別大演習開始
**十二日**（月）大藏省議で災害豫算一億七千五百萬圓と決定。
◇米國金及び金證券を除く通貨並





びに資本輸出制限令を撤廢す。
**十三日**（火）プロツクヴイユ白國內閣總辭職。
◇白國下院、貨幣價值引下反對を決議す。
**十四日**（水）オウド和蘭藏相、平價切下問題につき聲明を發す。
**十五日**（木）西班牙國會、勞働諸組織の解散並に財產の沒收を決議す。
**十六日**（金）ウルグアイ、爲替管理法を改正す。
**十七日**（土）東北凶作地方へ政府米支給案を米穀顧問會議承認。
**十九日**（月）トイニス白耳義內閣成立す。
**二十日**（火）米國大藏省、九年十二月十五日期限の對米戰債年賦金支拂國に通牒を發す。
**廿一日**（水）印度憲法起草委員會新憲法を發表す。
**廿二日**（木）パラグァイ軍グランチヤコの要塞を占領。
**廿三日**（金）上海匯豐銀行、預金者に支拂猶豫を求む。
◇軍縮豫備會議英米會談開かる。
**廿四日**（土）臨時利得稅閣議で正式決定。
◇中國共產軍、廣西州に侵入激戰。
**廿五日**（日）內務省は災害土木費府縣別割當額決定。
**廿六日**（月）藤井藏相病勢惡化し辭表提出。
◇伊太利銀行、公定割引歩合を三分より四分に引上ぐ。
◇在アリゾナ州邦人に土地所有禁止の判決下る。
**廿七日**（火）廣田外相佛伊兩國大使を招き華府條約共同廢棄を提議す。
◇高橋是清氏大藏大臣に任ぜらる。
**廿八日**（水）第六十六議會開院式擧行さる。
◇高橋藏相、公債低利借替及び一般增稅は行はずと言明。
◇ボリビア大統領サラマンカ氏、對パラグアイ敗戰のため辭職。後任は副大統領テハダ氏に決定
**廿九日**（木）全米聯合商業會議所世界實業會議開催を發表す。
**三十日**（金）カルデナス墨西哥新大統領、就任の宣誓式を擧行す。

## 十二月

**一日**（土）華府條約共同廢棄の提議を佛伊兩國正式拒絕。
◇芬蘭銀行四分半から四分に利下
◇墨西哥カルデナス新內閣成立。
◇蘇蒙通商及び通商決濟條約成立
**二日**（日）藏相、豫算總會で、赤字公債漸減方針は固執せずと言明
◇米國染色工罷業、勞資間に新協定を得て解決す。
**三日**（月）佛國植民地會議、巴里に開催。
◇ザール問題獨佛協定成立す。
**四日**（火）農林省は米半作以下の町村數一千百四十八と發表。

**貿　易**

生絲輸出數量及價額の推移 100
生絲輸出數量及價額 101
洋灰輸出向地方別及出荷比率 185
貿易價額 207
1—10月中旬貿易尻 264
1—10月中旬輸出入表 265

**各產業部門統計**

機械製絲場數及釜數 112
規模別製絲場數及割合 118
本邦洋灰業年產能力限產率比較表 184
近畿工場數と其比重 281
近畿工場の業別比重 282
大阪府の市郡別工場 284
大阪市工場分布（A．B） 285
大阪市推定被害工場別狀況 286

**滿洲國**

鐵道現勢 12
航空路 16
新設會社名 19, 20
主要農產物收穫累年比較 28
主要農產品の市場出廻率 29
滿洲國歲入豫算 31
我國對滿資本輸出高 36
我國對滿重要貿易品表 48
國別貿易百分比 50

**農業統計**

道府縣別米作狀況 59—61
東北六縣區域別被害比較 62
米收穫高、同價額及び米販賣收入想定 64
九年度米穀需給實績 66
九年春蠶及夏秋蠶收繭數量 70, 71
收繭價額表 72
大麥・小麥・裸麥の實收高 73
重要農產物販賣收入 76
乳兒死亡率と原因別死亡の狀態 83
小作爭議發生件數 86
東北六縣の民有地並に固有林野面積 89
我國林野所有別面積割合 90
國有林野犯罪檢擧件數並に人員 92
横濱市場生絲現物相場 98
生絲と他商品價格との比較 99
生絲原價分析表 108
蠶絲業機構の縱斷面圖 114
昭和七年蠶絲業現勢 114
棉作と養蠶交替關係表 121
昭和八年度養蠶農民繭處理狀況 125
特約養蠶組合の發達 127
經營態樣別繭生產費 128
生絲相場に左右される繭相場の下落 129
繭と他商品價格との比較 130
春繭一貫當り農家採算 131
繭收穫高及一戶當り收入額 132
三大農產物販賣收入 215

**產業統制**

臨業產業合理局組織表 144
重要產業統制法指定產業統制概況 149
工業組合指定重要商工產品 152
產業統制一覽表 154
主要新設カルテル一覽表 155
日本製鐵株式會社法案 158, 159
製鐵合同會社別確定評價表 160
大正年間に於ける製紙業の集中過程 168
昭和八年聯合會加盟會社年製造高中王子製紙の占むる割合 169
國內未加盟洋灰會社能力表 186
工業組合品種別設備別補助調 192
工業組合數 192
工業組合事業調 194
最近操短率比較 200




**五日（水）** 衆議院豫算總會にて政友會東武氏災害地救濟の爲九、十兩年度に於て更に一億八千萬圓の支出を計上すべし右に對する明確なる政府の解答あるまで審議休止すべしとの緊急動議を提出。

◇獨逸國銀對英クレヂットを設定

**六日（木）** 佛蘇協定成立す。

◇ソマリーランド駐伊軍、ウアルウアルにてエチオピア軍と衝突す。

**七日（金）** 米國々務省、我が華府條約癈棄阻止を言明す。

◇蘇聯、行政區劃改正案を可決す。

**八日（土）** 貴族院災害豫算案通過。

◇日米電話初通話。

◇蘇聯人民委員會、十年初より食糧配給制撤廢令を公布す。

◇日銀の自四月廿六日至十二月一日間金買入高二九、五七五瓩と發表。

**十日（月）** 外相はユレニエフ露大使に對し北鐵讓渡代金日本政府保證の讓歩案提示。

◇中國第五次中央全體會議開催さる。

**十一日（火）** 選擧運動取締規則公布さる。

**十二日（水）** 秋田衆議院議長政友會脫黨、同時に議長辭任。

**十四日（金）** 中國財政部、銀密輸に武力的防止を嚴命。

◇滿蘇水路協定正式に調印さる。

**十五日（土）** 墺洪政治經濟協定成立す。

**十六日（日）** 米國準銀、二月一日より貯銀、信託の最高利子を三分より二分半へ引下げに決定。

**十七日（月）** 九年度米公定價格決定。最高三十一圓五十錢、最低二十四圓三十錢。

**十八日（火）** 伊太利政府、紙幣及び手形、小切手類の海外搬出を禁止す。

**十九日（水）** 軍縮豫備會商廿日より正式休會と決定。

**二十日（木）** 英國產業聯盟日滿視察團、報告書を發表。

**廿一日（金）** ユーゴースラヴィア新內閣成立。

**廿二日（土）** 在滿機關改革案樞密院本會議で可決。

**廿四日（月）** 第六十七議會召集さる。濱田國松氏衆議院議長に當選。

**廿五日（火）** 十年度一般會計豫算要綱發表。

**廿六日（水）** 南京外交部、劉匪の爲め湖南省北部の居留外人に引揚を要請す。

**廿七日（木）** 帝人疑獄事件豫審決定。（記事解禁）

◇內閣審議會組織要綱閣議で決定

**廿九日（土）** 齋藤駐米大使、ハル米國々務長官に華府條約の廢棄通告を手交す。

**卅一日（月）** 滿支通郵問題解決。新協定は十年一月十日實施。

農村購買力 63—66
農產品の國際的不作 222—229

〔ハ〕

飯米飢饉 80, 81
パンフレツト問題 313—315
—經濟機構の整調 314

〔ヒ〕

ヒンデンブルグ 239

〔フ〕

物價指數(分類別) 202
文化鬪爭 238
分裂的傾向 299—316
プラウダ社說 244, 245
プロサール・モパン會社 34

〔ヘ〕

米作恐慌 57—67
—狀況(道府縣別) 59—61
—第一次豫想收穫 57
—第二次—— 57—61
米穀需給と米價 66, 67
米 國 220, 229—237
—の人絹進出 102

〔ホ〕

北滿環狀線 4—5
北黑線 8
貿 易 206—208, 263—278
—價 額 207
—悲觀論 263—266
—統 制 273—277

〔マ〕

繭恐慌 67—72, 97—140
マニユフアクチユア 108—111, 116—118

滿洲國 1—52
—外資輸入 34—38
—航空路 16
—歲入豫算 31
—新設會社 19
—新設洋灰會社能力 186
—新行政區劃 45
—主要農產物 28
—地質炭 47
—大豆收穫高 29—32
—鐵道建設 4—13

〔ム〕

麥の實收高 73—76
小—增產五ケ年計畫 74
小—凶作 222—226
米國小—收穫高 225

〔モ〕

門戶開放 24
—閉 鎖 2

〔ヤ〕

山崎農相、東北冷害の原因に就て 55
葉峰線 11

〔ユ〕

輸出組合 195, 196
—檢 査 195
—統 制 195, 274—276
—貿 易 206—208
—組合法 150—154
雄羅線 9, 10

〔ヨ〕

養蠶業 67—72
—農 民 107, 108, 128—133
—恐 慌 113—133



—に於ける中農的性質 122
洋灰聯合會 183, 184
—販賣協會 184
—輸出協會 184

〔ラ〕

拉濱線 6, 7
—訥 線 7, 8

〔リ〕

臨時產業合理局 143—145
リフレーション景氣 201—218
臨時利得稅 256—257
燐酸肥料工業組合 180, 181
硫安配給組合 182

〔ル〕

類別生產指數 212

〔レ〕

レーサム 265
レーム 238, 239

〔ロ〕

勞働者階級 289—298
—强 化 109
—人員指數 290
—爭 議 297—298

〔ワ〕

棉作と養蠶交替關係表 121
我社生產指數の作り方 212—214
我國對滿重要貿易品 48

## 重要統計表索引

**一般景氣指標**
生產指數 209
就業人員指數 209
生產總指數 211
類別生產指數 211, 212
株價指數 216
**金融及財政**
各種金融機關の預金高 248
各種預貯金對前年同期增加額 249
國債の增加と其の分布 251
銀行會社計畫資本金額 253
金利及國債 260
東京市場金利 261
**物價及爲替相場**
分類別物價指數 202
卸賣物價指數 203
外國爲替相場指數 205
**世界經濟**
米國四大纖維消費高 103
米國に於ける生絲・人絹・消費高 104
米國市場に於ける日本生絲と人絹の價格比較 105
小麥輸出國と輸入國の收穫高 223
世界主要國コーン收穫高と豫想 226
主要國際農產品相場 227
中國銀輸出入超過額 235
**勞働統計**
製絲工賃銀 109
養蠶勞働者賃銀の低下 131
勞働統計 215
勞働人員指數 290
事業別定額賃銀指數 292
事業別實收賃銀指數 294
實質賃銀指數 296
爭議件數及參加人員 297
1—9月間勞働爭議業態別統計 297
1—9月間要求事項別件數 298

—の業別比重 282

〔ク〕

クラウゼウキツツの戰爭論 314, 315
軍事費 33

〔ケ〕

經濟的アウタルキー 142, 154
缺食兒童 81, 82
憲兵警察 42, 306, 307

〔コ〕

工程隊 14
工業組合 150—154, 191—197
—數 192
—品種別設備別補助 189
—法 150, 154
—の要點 150, 151
—指定重要工產品 151, 152
—改正法 153
小作爭議 85—87
鋼材聯合會 163
礦油精製業聯合會 179
國有林野面積 89—92
國民貯蓄 248—252
國債の分布 251
國產揮發油聯合會 178, 179
懇和會 181

〔サ〕

在滿機構改革問題 37, 39—47, 299—308
陸軍省原案— 301, 302
外務省— 302, 303
拓務省— 304, 305
閣議決定— 306
蠶絲恐慌 97, 106, 113
—業機構 105, 106, 113—117, 133—136
—業の脆弱性 105—107
—業一般對策 138
產業統制の功罪 197—200
三頭政治 300
サルバドル 269, 276
座繰製絲 118

〔シ〕

收繭量 67—72, 132
收穫皆無地 62
春繭 53, 67—72, 111, 129
主要養蠶縣蠶業更生計畫 138
主要國際農產品相場 227
重要產業統制法 145—149
—指定產業 147—149
人絹と生絲の價格差 104
人造肥料聯合會 180
市電爭議 308—311
—整理案の內容 308, 309
條鋼分野協定 162
正量取引 128
食用農產物作付反別 78
昭和石炭株式會社 172—174
就業人員指數(日英米) 209
シユライヘル 238, 239
シルヴアー・メン 230, 231, 234

〔セ〕

政府所有米穀臨時交付法案 93, 94
製絲勞働者 108—111
—工賃銀 109
生計補充的副業 120—123
生產指數(日英米) 209
—總指數 211
—過剩問題 199, 200
製鐵合同問題 157—161
—會社別確定評價表 160
製鐵業奬勵法 157





銑鐵共販會社 164
世界主要國コーン收穫高 226
石炭礦業聯合會 172
セレクション・トラスト會社 34
全國石灰窒素共同販賣組合 182

〔ソ〕

總統制 239
ソ聯邦の國際聯盟加入 242—246

〔タ〕

單一農產經濟 28
—的農業地方 26
對滿投資 35
—資本輸出 35, 36, 49—52
颱風被害 279—288
玉絲製絲 118

〔チ〕

中小工業組合の缺陷 196, 197
中型山型鋼共販組合 163
中板共販組合 164
中華民國 234—237
—銀輸出入 235
賃 銀 291—296
定 額— 292
實 收— 294
實 質— 296

〔ツ〕

通商政策 277, 278
—障 害 266—269
圖寧線 9

〔テ〕

鐵鋼協議會 162
デフレーション恐慌 220
朝峰線 7

〔ト〕

東北凶作 80—96
—六縣區域別被害 62
—小學校高等科閉鎖 82
—振興審議會 95
—凶作防止對策 95, 96
特約組合 125—133
ドルフス暗殺事件 239, 240
統制經濟 147—200
土地問題 86, 87
敦圖線 7
突擊隊 238

〔ナ〕

ナチス「第二革命」 237—239

〔ニ〕

庭先相場 63—65, 75
乳兒死亡率 82—85
日本製鐵株式會社法案 158, 159
—厚板共販組合 163, 164
—製紙聯合會 170
—線材共販組合 164
—丸鋼共販組合 163
日本銀行兌換券發行高 255
日蘭會商 263—278
—の主要經過 270—272

〔ヌ〕

濡れ米拂下 92, 93

〔ネ〕

寧佳線 9

〔ノ〕

農業恐慌 28—30, 53—140
—收 入 76—79

# 日本經濟年報索引

## =第十八輯=

(昭和九年第三四半期)


〔ア〕

アウトサイダー 146, 148, 162—200
赤字財政 249—252, 256—258
悪性インフレ 201, 204, 217, 218
アンチ・カルテル 146, 198

〔イ〕

イー・ゲー染料會社 238

〔エ〕

英米の景氣停頓 220—222
エコノミスト事業活動指數 221
營養的餓死 85

〔オ〕

大阪市工場分布 285
大阪市推定被害工場 286—288
卸賣物價指數(日英米) 203
オーストリヤ・ナチス 240—242

〔カ〕

夏秋蠶 53, 68—72, 112—129
株價指數 216
—低落 215—217
カルテル 141—200
主要新設一覽表 155
鐵鋼— 161—165
麥酒— 165—167
製紙— 167—171
石炭— 171—174
石油— 175—180
燐肥— 180, 181
硫安— 181
石灰窒素— 182
洋灰— 183—187
爲替相場 205
一管理令 235
關東鋼材販賣組合 163

〔キ〕

生絲恐慌 97—107, 117
—相場 98, 129
—總生產高 101
—問屋 115, 119, 135
—輸出 101
—の生產と消費との偏在性 105, 106
機械製絲場數 112
協同組合運動 135—137
銀政策 229—232
—買入法要旨 232
—輸出稅引上令 236
銀行會社計畫資本 253
金本位國 220
金融 247—262
各種—機關の預金高 248
各種—機關の貸出及有價證券 250
金利 260—262
市場— 261
凶作 53—96
逆產令 26
近畿工業の重要性 281—283




**支那に關する九國條約全文**
**四國條約**
**華府條約海軍制限一覽表**
**倫敦條約海軍制限一覽表**

◇支那に關する九國條約

亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國は極東に於ける事態の安定を期し支那の權利利益を擁護し且機會均等の基礎の上に支那と他の列國との間の交通を增進せむとするの政策を採用することを希望し

右の目的を以て條約を締結することに決し之が爲左の如く其の全權委員を任命せり(委員氏名省略)

右各委員は互に其の全權委員狀を示し之が良好妥當なるを認めたる後左の如く協定せり

第一條 支那國以外の締約國は左の通約定す

(一) 支那の主權、獨立竝其の領土的及行政的保全を尊重すること

(二) 支那が自ら有力且安固なる政府を確立維持する爲最完全にして且最障礙なき機會を之に供與すること

(三) 支那の領土を通して一切の國民の商業及工業に對する機會均等主義を有效に樹立維持する爲各盡力すること

(四) 友好國の臣民又は人民の權利を減殺すべき特別の權利又は特權を求むる爲支那に於ける情勢を利用することを及右友好國の安寧に害ある行動を是認することを差控ふること

第二條 締約國は第一條に記載する原則に違背し又は之を害すべき如何なる條約、協定、取極又は了解を

も相互の間に又は各別に若は協同して他の一國又は數國との間に締結せざるべきことを約定す

第三條　一切の國民の商業及工業に對し支那に於ける門戸開放又は機會均等の主義を一層有效に適用するの目的を以て支那國以外の締約國は左を要求せざるべく又各自國民の左を要求することを支持せざるべきことを約定す

（イ）支那の何れかの特定地域に於て商業上又は經濟上の發展に關し自己の利益の爲一般的優越權利を設定するに至ることあるべき取極

（ロ）支那に於て適法なる商業若は工業を營むの權利又は公益企業を其の種類の如何を問はず支那國政府若は地方官憲と共同經營するの權利を他國の國民より奪ふが如き獨占權又は優先權或は其の範圍、期間又は地理的限界の關係上機會均等主義の實際的適用を無效に歸せしむるものと認めらるゝが如き獨占權又は優先權

本條の前記規定は特定の商業上、工業上若は金融業上の企業の經營又は發明及研究の奬勵に必要なるべき財産又は權利の取得を禁ずるものと解釋すべからざるものとす

支那國は本條約の當事國たると否とを問はず一切の外國の政府及國民よりの經濟上の權利及特權に關する出願を處理するに付本條の前記規定に記載する主義に遵由すべきことを約す

第四條　締約國は各自國民相互間の協定にして支那領土の特定地方に於て勢力範圍を創設せむとし又は相互間の獨占的機會を享有することを定めむとするものを支持せざることを約定す

第五條　支那國は支那に於ける全鐵道を通じ如何なる種類の不公平なる差別をも行ひ又は許容せざるべきことを約定す殊に旅客の國籍、其の出發國若は到達國、貨物の原産地若は所有者、其の積出國若は仕向國又は前記の旅客若は貨物が支那鐵道に依り輸送せらるゝ前若は後に於て之を運搬する船舶其の他の輸送機關の國籍若は所有者の如何に依り料金又は便宜



に付直接間接に何等の差別を設けざるべし

支那國以外の締約國は前記鐵道中自國又は自國民が特許條件、特殊協定其の他に基き管理を爲し得る地位に在るものに關し前項と同趣旨の義務を負擔すべし

第六條　支那國以外の締約國は支那國の參加せざる戰爭に於て支那國の中立國としての權利を完全に尊重することを約定し支那國は中立國たる場合に中立の義務を遵守することを聲明す

第七條　締約國は其の何れかの一國が本條約の規定の適用問題を包含し且右適用問題の討議を爲すを望ましと認むる事態發生したるときは何時にても關係締約國間に充分にして且隔意なき交涉を爲すべきことを約定す

第八條　本條約に署名せざる諸國にして署名國の承認したる政府を有し且支那國と條約關係を有するものは本條約に加入すべきことを招請せらるべし右目的の爲合衆國政府は非署名國に必要なる通牒を爲し且其の受領したる回答を締約國に通告すべし別國の加入は合衆國政府が其の通告を受領したる時より效力を生ずべし

第九條　本條約は締約國に依り各自の憲法上の手續に從ひ批准せらるべく且批准書全部の寄託の日より實施せらるべし右の寄託は成るべく速に華盛頓に於て之を行ふべし合衆國政府は批准書寄託の調書の認證謄本を他の締約國に送付すべし

本條約は佛蘭西語及英吉利語の本文を以て共に正文とし合衆國政府の記錄に寄託保存せらるべく其の認證謄本は同政府より他の各締約國に之を送付すべし

右證據として前記各全權委員は本條約に署名す

千九百二十二年二月六日華盛頓市に於て之を作成す

（署名省略）

### ◇太平洋方面に於ける島嶼たる屬地及島嶼たる領地に關する四國條約（要旨）

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國及日本國は一般の平和を確保し並に太平洋に於る其の島嶼たる屬地及島嶼

## 華府條約海軍制限一覧表

| 艦種＼國別 | | 日 | 英 | 米 | 佛 | 伊 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 主力艦 | 合計排水量總噸 | 315,000 (9隻) | 525,000 (15隻) | 525,000 (15隻) | 175,000 (隻數任意) | 175,000 (隻數任意) |
| | 各準排水量基（噸） | 35,000噸ヲ超ユルヲ得ズ | | | | |
| | 備砲 | 口徑16吋(406粍)ヲ超ユルヲ得ズ | | | | |
| 航空母艦 | 合計排水量總（噸） | 81,000 | 135,000 | 135,000 | 60,000 | 60,000 |
| | 各準排水量基（噸） | 10,000噸ヲ超エ27,000噸ヲ超ユルヲ得ズ<br>但シ(1)合計總噸數ノ範圍內ニテ33,000ヲ超エザルモノ2隻ヲ限リ建造スルコトヲ得<br>(2)協約ニヨリ廢棄セラルベキ主力艦ヲ之ニ轉用スルコトヲ得 | | | | |
| | 備砲 | (1)口徑8吋ヲ超ユルヲ得ズ<br>(2)口徑6吋ヲ超ユル備砲アル時ハ5吋ヲ超ユル砲數合計10門以內トス<br>但シ噸數27,000噸以上ノ航空母艦ニ於テハ8門以內トス<br>(3)航空襲防禦用及口徑5吋以下ノ備砲ハ無制限 | | | | |
| 其他ノ補助艦 | 合計排水量總（噸） | 制限ナシ | | | | |
| | 各準排水量基（噸） | 10,000噸ヲ超ユルヲ得ズ | | | | |
| | 備砲 | 口徑8吋ヲ超ユルヲ得ズ | | | | |
| 防備制限條項 | | 日、英、米三國ノ下記太平洋ニ於ケル島嶼タル屬地及領土ノ要塞ニ海軍根據地ノ現狀ヲ維持ス<br>(一)(日)千島諸島、小笠原諸島、奄美大島、琉球諸島、臺灣、澎湖島<br>(二)(英)香港及東經一一〇度以東ノ島嶼(但シ濠洲聯邦及其ノ領土、加奈陀ニ近接セル島嶼及新西蘭ヲ除ク)<br>(三)(米)(イ)合衆國「アラスカ」及巴奈馬運河地帶ノ海岸ニ近接セル島嶼(「アリューシヤン」諸島ヲ包含セズ」)竝ニ(ロ)布哇諸島ヲ除ク以外ノ諸島 | | | | |
| 條約有效期限 | | 昭和1930年12月31日迄トス。但シ上記期日2年前ニ條約廢止ヲ通告セザル限リ本條約ハ廢止ノ通告ヲナシタル日ヨリ2箇年引續イテ有效トス。而シテ一國ガ條約廢止ヲ通告シソノ效力ヲ生ジタル日ヨリ一箇年內ニ會議ヲ開催ス | | | | |





たる領地に關する其權利を維持するの目的を以て之が爲に條約を締結するとに決し左の如く全權委員を任命せり(委員氏名省略)有各委員は互に其全權委任狀を示し之が良好妥當なるを認めたる後左の如く協定せり

第一條　締約國は太平洋に於る其占有島嶼に關する各自の權利を尊重するに同意す締約國の何れかの間に太平洋問題より紛議を生じ前記の權利に關係を及ぼす場合に之を外交的手段に依て滿足に解決する能はず且つ現に締約國間に存する調和的協調に影響を及ぼす恐れある時は締約國は他の締約國をして共同會議を開き以て其全問題を審議解決に附するものとす

第二條　若し前記の權利が第三國の侵略的行動に因り脅威を受くる場合には締約國は此特殊の局面に對應する爲め共同又は別々に執るべき最も有效なる措置に就いて協定を遂ぐる目的を以て充分に且つ隔意なく相互に通告を爲すべきものとす

第三條　本協約は實施の日より十年間效力を有し前記の期限滿了後は締約國の一方が十二箇月の豫告を以て廢棄することを得るものとし此期間を經過するまで效力を繼續するものとす

第四條　本協約は締約國の憲法的手續に從ひて成るべく速に批准し且つ華盛頓に於て行ふべき批准書の寄託に依て其の效力を生ずべし依て一千九百十一年七月十三日倫敦に於て締約せられたる日英協約は本協約の效力發生と同時に消滅するものとす

(留保)亞米利加合衆國はヤップ島の地位及太平洋赤道以北の委任統治諸岸と稱せらるゝものに關する日米間の協約締結を條件として本條約に調印す可し但し此の日米協約に關する交涉は殆んど結了せり且つ亞米利加合衆國の調印は太平洋赤道以南に於ける委任統治諸島と稱せらるゝものに關する留保をも條件とす尙ほ本條約に所謂紛議の中には國際法の原則に基ける純然たる締約各國の國內法所屬の問題を含まざるものとす

千九百二十一年十二十三日華盛頓市に於て之を作す

(署名省略)

郵便はがき

一錢五厘
切手貼用

東京市
日本橋區本石町三丁目二ノ一
東洋經濟新報社
日本經濟年報編輯係
行



## 表一覽一限制軍海約條敎倫

| 艦種 ＼ 國別 | | 日 | 英 | 米 | 佛 | 伊 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 主力艦 | 合計排水量（噸） | 現存艦中1隻廢棄9隻保有 | 5隻廢棄15隻保有 | 3隻廢棄15隻保有 | 1936年迄ニ代艦70,000噸宛ヲ建造シ得 | |
| | | 1936年末迄代換建造延期 | | | | |
| | 各艦基準排水量（噸） | （變更ナシ） | | | | |
| | 備砲 | （變更ナシ） | | | | |
| 航空母艦 | 合計排水量（噸） | （變更ナシ） | | | | |
| | 各艦基準排水量（噸） | 27,000噸ヲ超エルヲ得ズ 10,000噸ヲ超エザル航空母艦ヲモ上段ノ制限噸數內ニ含マシム | | | | |
| | 備砲 | 10,000噸又ハ之ニ達セザル航空母艦ノ備砲ハ口徑6.1吋ヲ超ユルヲ得ズ | | | | |
| 甲巡洋艦級 | 合計排水量 | 108,400（12隻） | （146,800）（15） | （180,800）（15隻） | 協定不成立無制限 | |
| | 基準排水量 | 1,850噸ヲ超ユルモノ（但シ1,850噸ヲ越エザルモ備備砲6.1吋ヲ超ユルモノ） | | | | |
| | 備砲 | 口徑6.1吋ヲ超ユルモノ | | | | |
| 乙巡洋艦級 | 合計排水量 | 100,450 | 192,200 | 143,500 | | |
| | 基準排水量 | 1,850噸ヲ超ユルモノ（但シ1,850噸ヲ超エザルモ備砲5.1吋ヲ超ユルモノ） | | | | |
| | 備砲 | 口徑6.1吋ヲ超ユルヲ得ズ | | | | |
| 驅逐艦 | 合計排水量 | 105,500 | 150,000 | 150,000 | | |
| | 基準排水量 | 1,850噸ヲ超ユルヲ得ズ | | | | |
| | 備砲 | 口徑5.1吋ヲ超ユルヲ得ズ | | | | |
| 潛水艦 | 合計排水量 | 52,700 | 52,700 | 52,700 | 協定不成立 | |
| | 基準排水量 | 2,000噸ヲ超ユルヲ得ズ（各國3隻ヲ限リ2,800噸ヲ超ユルヲ得ズ） | | | | |
| | 備砲 | 口徑5.1吋ヲ超ユルヲ得ズ（上記3隻ニ限リ6.1吋ヲ超ユルヲ得ズ） | | | | |
| 條約有效期限 | | 1936年12月31日 | | | | |
| 條約改訂會議 | | 1935年ニ開催ス | | | | |

（海軍省『參考用圖表』による）

## 日本經濟年報愛讀者カード（19）

| | |
|---|---|
| 芳名 | |
| 御住所 | 御職業 |
| 貴下研究の題目 | |
| 御購買の書店名 | 御購讀開始　第　輯より |
| 御愛讀の新聞雜誌名 | |
| 第十九輯に對する批判 | |
| 第二十輯に對する希望 | |

上記の各欄に御記入御投函下さるやう御願ひ致します。このカードにより時時本社の新刊を御報道申上げたいと存じます。

| | |
|---|---|
| 會議 | 1935年ニ開催ス |

（海軍省『參考用圖表』による）

昭和十年三月四日印刷
昭和十年三月八日發行

日本經濟年報
（第十九輯）

定價壹圓
送料八錢

編輯兼發行者　東京市日本橋區本石町三丁目二ノ一　神原周平

印刷者　東京市牛込區榎町七　堀修造

發行所　東京市日本橋區本石町三丁目二ノ一
東洋經濟新報社
振替東京六五一八番
電話日本橋（八一番、八二番、八三番、一四八七番、二七八五番）

印刷所　大日本印刷株式會社榎町工場

## 既刊輯の内容

# 日本經濟年報

◇每四半期發行・各輯四六判三七〇頁內外◇

定價一圓（送料八錢）

**第十二輯**（八年第一）
- 第一部　世界經濟危機下の米國金融恐慌
- 第二部　國際軍備縮少と列國軍備の動向
- 第三部　各經濟部面の分析と見透

**第十三輯**（八年第二）
- 第一部　世界經濟會議の意義と其經過
- 第二部　通商危機の本質と日本貿易の動向
- 第三部　各經濟部面の分析と見透

**第十四輯**（八年第三）
- 第一部　世界的ブロック運動と日滿統制經濟の將來
- 第二部　轉換後の我國產業の現狀と其前途
- 第三部　各經濟部面の分析と見透

**第十五輯**（八年第四）
- 第一部　焦土外交より脫したる國際日本
- 第二部　農業恐慌の現段階と其對策の歸趨
- 第三部　米國新通貨政策の目標と其展開
- 第四部　各經濟部面の分析と見透

**第十六輯**（九年第一）
- 第一部　我國に於ける新興工業の躍進と其役割
- 第二部　世界注視下に立つ日本勞働階級の狀態
- 第三部　各經濟部面の分析と見透

**第十七輯**（九年第二）
- 第一部　國際通商戰の激化と我が新貿易政策の動向
- 第二部　日本に於ける中間層の分析
- 第三部　各經濟部面の分析と見透

**第十八輯**（九年第三）
- 第一部　滿洲國建設の進展と日本經濟
- 第二部　凶作と繭恐慌下の農村
- 第三部　カルテル・トラスト運動の新段階
- 第四部　各經濟部面の分析と見透

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| キネマ企業 | 有賀長穀著 | 二・〇〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 半世紀財界側面誌 | 西野喜與作著 | 二・〇〇 | 三一 | 東洋経済新報社 | |
| 世界の空中防衛 | 川島清次郎著 | 二・〇〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 空中國防研究 | 川島清次郎著 | 二・〇〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 本邦酒精の将来 | 川北幸壽著 | 二・〇〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 我國の資本家團體 | 森田良雄著 | 二・〇〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 財界盛衰記 | 長谷川光太郎著 | 二・〇〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| ビジネスセンター | 時事新報社経済部編 | 二・〇〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 財づる物語 | 時事新報社経済部編 | 一・八〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 財界膝栗毛 | 報知新聞社編輯局編 | 一・八〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 日本経済の解剖 | 高橋龜吉著 | 二・〇〇 | 一〇 | 大日本雄辯會講談社 | |
| 臺灣糖業と糖業會社 | 小野文英著 | 一・八〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 歴代相傳 | 西野喜與作著 | 一・八〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 本邦人絹工業の將来 | 阿部嘉藏著 | 二・〇〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 商取引の實際と慣習 | 小野文英著 | 二・八〇 | 三一 | 東洋経済新報社 | |
| 貿易五十六年對照表 | 東洋経済新報社編纂 | 二・〇〇 | 三一 | 東洋経済新報社 | |
| 新農業政策の提唱 | 石橋湛山著 | 一・〇〇 | 八一 | 東洋経済新報社 | |
| 現代文化の本質 | 田中王堂著 | 二・〇〇 | 一四 | 東洋経済新報社 | |
| 場戰術百態 | 報知新聞社経済部編 | 一・〇〇 | 八一 | 東洋経済新報社 | |
| 短期新刊一覧 | | ・三〇 | 四四 | | |
| 東株日々高低精表 | | 三・五〇 | 一四 | 東洋経済新報社 | |
| 株式會社年鑑 | | 二・〇〇 | 一四 | 東洋経済新報社 | |
| 勞資共存への途 | 前田一著 | 一・二〇 | 八一 | 東洋経済新報社 | |
| サラリーマン物語（正續編） | 前田一著 | 一・〇〇 | 六一 | 東洋経済新報社 | |
| 職業婦人物語 | 前田一著 | 一・〇〇 | 一〇 | 東洋経済新報社 | |
| 生命保險會社の批判 | 横山雅男著 | 一・〇〇 | 四一 | 東洋経済新報社 | |
| 日本金融論 | 高橋龜吉著 | 三・〇〇 | 二一 | 東洋経済新報社 | |
| 日本經濟年鑑 | 東洋経済新報社編 | 二・〇〇 | 一一 | 東洋経済新報社 | |
| 二月號財界人物表 | 大日本雄辯會講談社編 | ・七五 | 四一 | 東洋経済新報社 | |
| 現代日本貿易研究 | 小島精一著 | 三・〇〇 | 一四 | 東洋経済新報社 | |
| 事業經營效率の研究 | 藤林敬三著 | 三・〇〇 | 一四 | 東洋経済新報社 | |
| 物價十一年の研究 | 水谷平著 | 二・三〇 | 一四 | 東洋経済新報社 | |
| 金本位制の可能性 | 土方成美著 | ・七〇 | 四一 | 東洋経済新報社 | |
| 日本圓五十錢時代の全貌 | 東洋経済新報社編 | ・八〇 | 六一 | 東洋経済新報社 | |
| 株會社十ヶ年みる | 東洋経済新報社編 | 一・五〇 | 一三 | 東洋経済新報社 | |
| 關西二百會社の決算 | 東洋経済新報社編 | 一・五〇 | 八一 | 東洋経済新報社 | |


月刊 第十號 研究 出來 !!
経済新報
二月號 財界人物表
日本貿易年鑑
生命保險會社の批判
サラリーマン物語（正續編）
職業婦人物語
日本二月號 現代文化の本質
日本金融論
株會社十ヶ年みる
關西二百會社の決算
物價十一年の研究
金本位制の可能性
事業經營效率の研究
日本圓五十錢時代の全貌
最近十箇年間の貿易の變遷
一年前と現在の物價の比較
一圓紙幣の購買力
一圓轉換の可能性
一圓紙幣の購買力
一年前と現在の物價の比較
最近十箇年間の貿易の變遷
日本圓五十錢時代の全貌
金本位制の可能性
物價十一年の研究
事業經營效率の研究
日本貿易年鑑
二月號財界人物表
日本金融論
生命保險會社の批判
サラリーマン物語（正續編）
職業婦人物語
勞資共存への途
株式會社年鑑
東株日々高低精表
短期新刊一覧



東洋經濟出版部
東京日本橋區石町三
振替口座東京六一五五番

¥1.00